

令和 5 (2023) 年度

長崎国際大学

学生による授業アンケートに対する

自己点検・評価報告書

後期



自己点検・評価委員会

番号	担当者	科目名称	曜日	時限	履修者数	頁
後期						
人間社会学部国際観光学科						
1	池永 正人	観光政策論	火	3	151	1
2	井上 英也	ホテル管理論	月	2	52	3
3	井上 英也	観光リーダーシップ論	水	2	56	4
4	井上 英也	ホテルビジネス英語	木	1	43	5
5	落合 知子	博物館実習B	木	1	12	6
6	城前 奈美	資産管理とライフプラン	月	5	41	7
7	城前 奈美	観光経済論	木	4	136	8
8	滝 知則	比較文化論	金	5	154	10
9	田中 誠	TOEIC対策B	月	4	50	12
10	中山 忠彦	レクリエーション活動研究	火	4	24	14
11	中山 忠彦	球技C	水	1	37	15
12	安部 直樹(嶋内 麻佐子)	茶道文化ⅡB	水	1	34	16
13	安部 直樹(嶋内 麻佐子)	茶道文化ⅢB	金	2	10	18
14	嶋内 麻佐子	茶道文化ⅠB	月	3	50	20
15	嶋内 麻佐子	茶道文化ⅠB	火	2	115	22
16	嶋内 麻佐子	茶道文化ⅡB	水	1	34	24
17	嶋内 麻佐子	茶道文化ⅣB	水	2	6	26
18	嶋内 麻佐子	茶道文化ⅢB	金	2	10	28
19	落合 和昭	ホテルオペレーション	月	1	90	30
20	落合 和昭	専門演習ⅠB	月	3	8	31
21	乙須 翼	教育原理	月	3	57	32
22	乙須 翼	キャリア開発Ⅰ	木	2	311	33
23	尾場 均	コンピュータ基礎演習ⅠB	火	3	66	34
24	尾場 均	情報処理論	火	5	22	35
25	佐野 香織	専門演習ⅢB	水	3	8	36
26	城本 高輝	テーマパーク論	火	5	128	37
27	竹田 文雄	海外観光資源A	火	1	121	38
28	Thom W. Rawson	英語演習ⅡA	火	3	39	39
29	Thom W. Rawson	英会話	木	1	12	41
30	Thom W. Rawson	English Reading Skills Ⅱ	木	3	28	42
31	Thom W. Rawson	英語演習ⅡB	金	2	27	43
32	森尾 真之	MICE論	木	2	67	45
33	森尾 真之	地域産業の魅力	土	2	139	46
34	森尾 真之	旅行業論	土	4	73	47
35	山内 美穂	日本事情Ⅰ	月	3	55	48
36	井畑 敦子	英語コミュニケーションB	火	1	29	50
37	浦郷 淳	専門演習ⅡB	火	3	8	52
38	浦郷 淳	専門演習ⅠB	木	1	8	53
39	浦郷 淳	教育方法論	木	5	58	54
40	江島 弘晃	武道	月	2	17	55
41	江島 弘晃	専門演習ⅢB	月	4	6	57
42	江島 弘晃	卒業研究	月	その他	6	59
43	江島 弘晃	運動生理学	水	2	135	61
44	江島 弘晃	専門演習ⅠB	金	2	8	63
45	江島 弘晃	専門演習ⅡB	金	3	8	65
46	江島 弘晃	マリンスポーツⅠ	月	その他	6	67
47	江島 弘晃	スポーツ実習B	金	4	31	69
48	川上 知子	進路指導論	水	1	17	71
49	川上 直彦	英語演習ⅡB	金	2	38	72
50	John Patrick Owatari-Dorgan	英語演習ⅡA	火	4	37	73
51	John Patrick Owatari-Dorgan	Practical English ⅡB	火	5	28	74
52	神野 周太郎	スポーツ運動学	月	1	30	75
53	神野 周太郎	保健体育科教育法Ⅲ	水	3	22	76

番号	担当者	科目名称	曜日	時限	履修者数	頁
54	神野 周太郎	保健体育科教育法 I	金	4	37	77
55	末永 貴久	地域スポーツ	火	2	97	78
56	陳 慶光	Japanese Economy	水	3	12	80
57	陳 慶光	スポーツツーリズム	金	1	136	81
58	中島 金太郎	博物館実習B	火	4	11	82
59	中島 金太郎	博物館実習B	水	1	10	83
60	東出 朋	日本語 I	水	2	10	84
61	東出 朋	日本語の研究B	木	3	13	85
62	Brendan Van Deusen	英語演習 II A	月	1	27	86
63	Brendan Van Deusen	English Writing Skills II	月	5	28	87
64	相羽 枝莉子	専門演習 III B	月	4	9	88
65	相羽 枝莉子	スポーツ心理学	月	5	111	89
66	相羽 枝莉子	専門演習 II B	水	2	10	90
67	相羽 枝莉子	専門演習 I B	金	2	10	91
68	相羽 枝莉子	スポーツ実習B	火	3	30	92
人間社会学部社会福祉学科						
69	木村 勝彦	道德教育論	火	1	30	93
70	木村 勝彦	人権と平和	火	3	17	96
71	木村 勝彦	倫理学	木	1	226	98
72	木村 勝彦	ダイバーシティとグローバル市民論	木	4	135	100
73	脇野 幸太郎	社会保障 II	月	2	61	102
74	脇野 幸太郎	貧困に対する支援	火	1	47	103
75	大畠 啓	社会学	木	5	187	104
76	大町 いづみ	卒業研究	月	5	3	105
77	大町 いづみ	介護における医療的ケア II	水	2	12	106
78	大町 いづみ	認知症の理解 II	金	4	31	107
79	坂本 雅俊	ソーシャルワークの理論と方法(社会) II	月	3	57	108
80	坂本 雅俊	保健医療と福祉	木	4	57	109
81	柳 智盛	専門演習B	月	4	5	110
82	柳 智盛	卒業研究	月	5	6	111
83	柳 智盛	ソーシャルワーク実習指導(社会) I	火	1	7	112
84	柳 智盛	ソーシャルワーク実習指導(社会) III	火	5	6	113
85	梅野 潤子	国家試験基礎演習	月	1	59	114
86	梅野 潤子	卒業研究	月	5	5	115
87	梅野 潤子	社会福祉総合演習(福祉専門)	火	6	34	116
88	野田 健	ソーシャルワークの理論と方法(共通) II	火	2	46	117
89	野田 健	ソーシャルワーク演習(社会) IV	木	3	16	119
90	前田 佳宏	専門基礎演習B	水	1	10	121
91	韓 榮芝	地域福祉と包括的支援体制 I	火	1	71	122
92	韓 榮芝	地域福祉と包括的支援体制 II	木	4	48	123
93	韓 榮芝	中国語 I B	金	4	16	125
94	足立 孝子	ソーシャルワーク演習(精神) III	火	1	11	126
95	足立 孝子	現代の精神保健の課題と支援 II	木	3	36	127
96	足立 孝子	精神保健福祉の原理 II	土	5	24	128
97	浦 秀美	生活支援技術 IV B	月	3	9	130
98	浦 秀美	介護概論 I A	水	1	60	133
99	久田 貴幸	専門演習B	月	4	6	136
100	久田 貴幸	卒業研究	月	5	6	137
101	久田 貴幸	介護過程 II B	金	1	11	138
102	久田 貴幸	介護概論 II A	金	3	9	139
103	裴 孝承	社会福祉調査の基礎	木	2	61	140
104	丸山 貴志	精神保健福祉の理論と相談援助の展開 II B	木	2	7	141
105	中村 尚生	ソーシャルワーク実習指導(社会) III	火	5	6	142
106	向 晃佑	心理学	水	3	36	144

番号	担当者	科目名称	曜日	時限	履修者数	頁
健康管理学部健康栄養学科						
107	野村 秀一	食品衛生学	木	1	52	146
108	熊井 まどか	栄養生理学実習	金	2	31	147
109	熊井 まどか	栄養生理学実習	金	4	34	148
110	古賀 貴子	調理学実習Ⅱ	金	2	24	149
111	古賀 貴子	調理学実習Ⅱ	金	4	25	150
112	廣田 昌彦	栄養学応用演習Ⅱ	火	1	7	151
113	廣田 昌彦	栄養と薬	水	3	53	152
114	水江 文香	給食経営管理論Ⅱ	月	2	31	153
115	水江 文香	給食経営管理論Ⅱ	月	4	33	155
116	林 俊介	臨床栄養管理学Ⅱ	金	2	35	157
117	林 俊介	臨床栄養管理学Ⅱ	金	4	29	160
118	松尾 嘉代子	応用栄養学Ⅱ	火	2	35	163
119	松尾 嘉代子	応用栄養学Ⅱ	火	3	33	164
120	山口 留美	臨床栄養管理学Ⅰ	水	3	28	165
121	山口 留美	臨床栄養管理学Ⅰ	木	2	34	166
122	山口 留美	臨床栄養管理実習	金	2	27	167
123	山口 留美	臨床栄養管理実習	金	4	28	168
124	小田 和人	スポーツ栄養学	水	2	15	169
125	小田 和人	スポーツ栄養学	金	2	89	170
126	川内 美樹	生化学	火	1	55	171
127	川野 香織	栄養教育論Ⅰ	月	2	33	173
128	川野 香織	栄養教育論Ⅰ	月	4	29	174
129	高江洲 有沙	学校栄養教育論	金	2	2	175
130	藤井 俊輔	食品学Ⅱ	月	1	67	176
131	宮原 恵子	公衆衛生学Ⅰ	土	2	25	177
132	射場 仁美	微生物学実習	火	4	25	178
133	射場 仁美	微生物学実習	木	4	31	179
134	菊地 優子	基礎化学実習	金	2	25	180
135	菊地 優子	基礎化学実習	土	4	24	181
136	吉永 奈津希	調理学実習Ⅲ	火	2	32	182
137	吉永 奈津希	調理学実習Ⅲ	火	5	30	183
薬学部薬学科						
138	梶島 力	薬剤学	月	4	105	184
139	梶島 力	臨床薬物代謝学	火	2	121	185
140	市川 和洋	薬品物理化学Ⅱ	月	5	117	186
141	市川 和洋	物理学演習	金	1	42	187
142	宇都 拓洋	生薬学Ⅱ	火	3	107	188
143	大磯 茂	医薬品情報論	金	1	115	189
144	大庭 義史	分析化学Ⅰ	金	2	113	190
145	小川 由起子	微生物薬品学	水	2	3	191
146	小川 由起子	薬物治療学Ⅲ	木	1	104	193
147	小川 由起子	病原微生物学	木	2	113	195
148	小川 由起子	公衆衛生学Ⅱ	金	1	98	197
149	岸原 健二	免疫学	月	2	102	199
150	隈 博幸	疾病学Ⅰ	水	1	100	201
151	黒川 健児	細胞生物学	火	1	104	202
152	小島 直人	医薬品化学Ⅱ	月	1	100	203
153	小林 秀光	病原微生物学	木	2	113	204
154	小林 秀光	微生物学	金	2	103	205
155	佐々木 茂貴	生物有機化学	火	2	110	207
156	佐藤 博	地球環境論	月	3	182	208
157	佐藤 博	化粧品学	火	5	96	210
158	佐藤 博	毒性学	金	2	107	211
159	高井 伸彦	放射線化学	火	3	112	212

番号	担当者	科目名称	曜日	時限	履修者数	頁
160	長岡 寛明	公衆衛生学Ⅱ	金	1	98	214
161	西奥 剛	薬理学Ⅱ(末梢-1・前臨床)	火	4	121	215
162	早川 正信	医療統計学	月	3	107	217
163	深澤 昌史	機能形態・生化学演習	土	3	109	218
164	室 高広	医薬品情報論	金	1	115	219
165	山口 拓	薬物治療学Ⅰ	月	2	132	220
166	山口 拓	薬物治療学Ⅲ	水	1	104	222
167	山口 泰史	有機薬化学Ⅰ	月	1	109	224
168	淀 光昭	医薬品化学Ⅱ	月	1	93	226
169	太田 一寿	医療生命倫理	火	2	103	227
170	神谷 誠太郎	製剤学	火	1	112	228
171	神田 紘介	病院薬学	木	1	107	229
172	田中 宏光	医療生命倫理	火	2	103	230
173	田中 宏光	分子細胞生化学演習	水	1	79	231
174	田中 宏光	地域の理解と連携	金	4	276	232
175	出口 雄也	衛生化学Ⅰ	水	2	99	233
176	藤井 佑樹	機能形態学Ⅱ	火	1	107	234
177	藤木 司	専門演習Ⅰ	火	その他	111	235
178	藤本 京子	生化学Ⅰ	木	1	109	236
179	山田 耕平	生物有機化学	火	2	110	237
180	石原 知明	細胞生物学	火	1	105	238
181	榎本 彩乃	物理学演習	金	1	35	240
182	大久保 伸哉	総合実習	木	5	97	241
183	倉岡 卓也	生化学実習	月	4	94	243
184	川崎 達也	臨床薬物代謝学	火	2	122	244
185	末廣 真理恵	病院薬学	木	1	107	246
186	相田 美和	毒性学	金	2	107	247
187	高崎 伸也	臨床検査学	火	3	109	248
188	松下 博昭	コンピュータ基礎演習ⅠB	月	4	103	250
189	縄田 陽子	薬理学Ⅳ(中枢)	月	4	114	251
190	吉田 達貞	物理学演習	金	1	30	252
191	中島 健輔	総合実習	木	5	111	253
192	中村 沙織	機器分析学	月	1	106	254
193	福森 良	コンピュータ基礎演習ⅠB	月	4	103	255
194	大神 正次	専門演習Ⅰ	月	その他	111	256

アクションプランシート

2023年度後期 火3

科目名 観光政策論

教員名 池永 正人

回答者数/履修者数 150/151

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>2022 (令和4) 年度：4.4 (日本人学生4.3 留学生：4.4) → 2023 (令和5) 年度：4.5 (日本人学生4.5 留学生：4.5) 今年度同様に対面授業であった。履修者数は150名(昨年度149名)、単位修得者142(95%) [昨年度 131名(88%)] である。 毎回の授業は、Zoomオンライン授業から対面授業に戻った昨年度同様である。教科書は指定せずに、重要な用語を記入させる穴埋め型のプリントを配布し、パワーポイントを用いて説明した。プリントの説明内容はパワーポイントと同じであり、挿入した地図・統計グラフ・表・写真などは、昨年度の内容を一層分かりやすくするために更新・改良に多くの時間を費やした。その結果、「穴埋めで講義内に書くことで集中力を保つことができ、取り組みやすい環境でできました。」「毎回の授業プリントが見やすく授業中のスクリーンの文字が大きくて見やすく授業もわかりやすかったです。」などの良好な意見をいただいた。 また、毎回の授業終了後はパワーポイントをPDFに変換してマナバに掲載した。このことは、履修者の毎回の課題提出と授業の復習に大いに活用され、授業内容の関心と理解度を高める効果をもたらした。それは、高い単位修得率95%が証明している。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>授業中の私語はなく受講態度で問題になることはなかった。ただし、スマホを見て静かにしている学生もいることは否めない。また、授業の回数を重ねることに欠席者が多くなったので、昨年度同様に授業中2回の小テストを実施した。授業参加を促す一時的な効果はあるが、やはり毎回の授業中に理解度テストを行って成績に加えることが得策と思われる。とはいえ、毎回の授業に確認問題の課題と理解度テストの2種類の採点を行うのは、時間的に容易なことではない。 学習意欲の向上に関しては、「自分の地元は大分ですが、別府の知らない観光の在り方を知れて面白かったです。また、グリーンツーリズムのような、人と人が強く結びつく新たな形態の旅行があることを知り、興味をもちました。」「様々な場所の観光地を知ることができたし、イベントのことなども知ることができて良かったです。」といった意見が出され、授業内容を理解させる効果はあったと認識している。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>2022 (令和4) 年度：4.4 (日本人学生4.4 留学生：4.4) → 2023 (令和5) 年度：4.4 (日本人学生4.4 留学生：4.6) 中身が濃く、しかもわかりやすい授業をするため教材研究に多くの時間を費やし、パワーポイントの説明文・地図・グラフ・写真などは、最新の情報と統計数値に改めた。 とはいえ、「ご自身の写真を使用しての講義は説得感がありますが、使用枚数が多いので講義の時間がギリギリになっていることが気になります。」といった意見があった。これについては昨年度も同様の意見が複数出されていたので、写真の選定作業を行ったが不十分であったようである。さらなる改善が必要である。 成績評価については、上記のとおり授業中に実施した2回の小テストの成績と、毎回宿題として与えた確認問題の解答得点を全体の6割の評価とした。また、最終回の総合テストは4割の評価を行い、専門知識を確実に習得させるように努めた。 なお、授業の最終回に実施している総合テストは、マナバに掲載した問題に解答を入力する方式である。問題用紙に手書きで解答させることで、専門知識の習得を一層高める効果が望めると思う。検討の余地がある。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善</p>	<p>2022 (令和4) 年度：4.5 (日本人学生4.4 留学生：4.6) → 2023 (令和5) 年度：4.5 (日本人学生4.5 留学生：4.7) 上記に2回の小テストと毎回の確認問題の解答は、授業中に学籍番</p>

項目見出し	コメント
<p>策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>号・氏名を伏せた解答一覧表（エクセル）を見せながら説明している。解答はマナバ掲載のパワーポイントのPDFまたは配布プリントに各自が記入した専門用語を見ればわかるが、解答表の提示を希望する意見もあるので、次年度はマナバに解答も掲載することにする。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>授業アンケートには多くの自由意見が述べられている。学生に専門の知識・技能を授ける教員として大事なものは、「正確に、わかりやすく、興味をひく」を常に意識した授業をすることであると認識している。そのためには、時間を割いて十分な教材研究を行い、学生の意見を反映させた授業方法の改善に、引き続き真摯に取り組む所存である。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 月2

科目名 ホテル管理論

教員名 井上 英也

回答者数/履修者数 36/52

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>昨年度の満足度4.5から今年度は4.6に0.1ポイント良化する結果となった。評価ポイントが1と2の学生が減ったことが、全体の平均0.1ポイントを押し上げることとなった。授業から落ちこぼれる学生への目くばせを継続していきたい。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>対象が3年生であるため、ホテル会社の経営、運営を糸口に就職に関わるテーマでのグループ討論、発表などを適時取り入れている。また、長崎におけるIRや新幹線、ホテル開業などのメディアで取り上げられる最新のニュースを取り上げることにより、授業に興味を持たせることに奏功しているのではないかと思う。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>前回と変わらず4.6~4.7であった。学生の理解度合いを注視し、対応することの重要性を感じる。ホテルの管理手法は日進月歩であり、引き続き基礎的なことを固めると共に、より変化への対応を学生が実感できる内容を組み込んでいきたい。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>前回の4.5~4.7から変化がなかった。項目の中での最低点(4.5)の2項目を注視し、更なる改善を図ることとしたい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>ホテル関連科目の総仕上げとして、最新のホテル経営・運営を主題とした授業のため、社会経験のない学生にとっては難易度の高い内容となっている。授業への参加意識が高い学生には、意見表明の場があり、興味を継続させられる一方、理解不足の学生は欠席数が増える傾向にあったと考える。結果、アンケートへの回答率が70%を若干下回ることになり、来年度に改善を試みたい。3年生を対象とした後期の授業であることから、学生の会社研究、仕事探求により役立つ内容に進化し、学生のモチベーション向上に努力したい。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 水2

科目名 観光リーダーシップ論

教員名 井上 英也

回答者数/履修者数 40/56

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>リーダーシップは、社会生活において常に身近な課題であり、その時々々の時代状況や社会環境を反映して変化と進化を続けてきた。多様で変化の激しい現代においては、選ばれた少数のリーダーに集団を委ねるのではなく、誰もが個々の強みを活かしてリーダーになることが求められる。この授業では、リーダーシップの在り方を理解し、将来のキャリア形成において必須となるスキルを獲得することをねらいとして、今期から開講した。評価の結果が4.8であったことは、授業のねらいが学生から一定の評価を得ることができたと感じる。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>リーダーシップを天賦の才能ではなく、誰でも獲得できるスキルであることを繰り返し伝え、学生の共通の意識醸成をした。そして、毎回の授業では、講義とグループワークによって、知識と実践でスキルの獲得を実感できるようにした。最終授業では、ゲストスピーカーから提示された観光に関する課題に対し、各グループで各自が得意分野でリーダーシップを発揮してプレゼンテーションを行った。総括すると、学生の参加意欲が高い授業になったと考える。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>各項目、4.7の結果であった。開講1年目としては上々の評価ではあるが、改善点の気づきも多々あり、来年度に向けて改善したい。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>1項目が4.7、その他の5項目は4.8であった。開講1年目としては高い評価だと思うが、来年度は一層のレベルアップを図りたい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>リーダーシップの考え方は社会環境と共に変化し、変化の激しい現在では、誰もが自らの専門、得意分野においてリーダーとなる覚悟が必要だと言われる。そのため、学生時代にリーダーシップの知識と実践の機会を持ち、発揮する経験が、卒業時の必要条件だと考える。開講1年目に学生からの評価が手応えのある結果となり、来年度以降の弾みとなった。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 木1

科目名 ホテルビジネス英語

教員名 井上 英也

回答者数/履修者数 33/43

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>本授業は、ホテルのスタッフが最低限必要とされる業務での英会話力の取得を目的としている。そのため、ペアワークを多用し会話を実践することに重きを置いている。</p> <p>今年度は昨年度から変わりなく4.7ポイントとなった。実践的に会話を繰り返すことへの学生の興味を維持することは難易度が高いが、テキスト内容を見直し、更なる改善を図りたい。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>準備学修は昨年と変化なく、授業中の態度が4.4から0.1ポイント悪化した。評価2の学生が1名おり、これが影響した。基本的には英会話上級者と英会話中・下級者との組み合わせによるペアワークによる会話の実践を毎授業で行っている。毎回のロールプレイテストや小テストなど、学生のモチベーションを維持し、落ちこぼれを生まないようにも見守りたい。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>昨年度と同程度の、各項目4.4~4.6ポイントの評価であった。英会話の文化的な背景の理解を促す内容として、メディアに取り上げられたニュース、動画などを取り入れたことが、興味度合を向上させることに効果があったと考える。更なる改善を目指したい。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>昨年度と変わらず、4.4-4.7ポイントを維持することができた。しかしながら、評価ポイントには表れていないが、昨年同様、自由記述が減っている。来年度は印象の残る授業運営を行いたい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>この授業を通じて学んだことの効果を学生がアルバイトやインターンなどで感じられることが、学修への更なるモチベーションにつながると考えている。実践的な英会話の取得に留まらず、コミュニケーション力の向上につなげられることを目標に、引き続き、受講者同士の会話の機会を増やし、プログラムを進化させたい。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 木1

科目名 博物館実習B

教員名 落合 知子

回答者数/履修者数 9/12

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>授業の満足度は4.9で高得点である。博物館実習Bは、15名を定員とする少人数制の実習科目であることから、個人指導に近い内容で実践しており、その結果と言える。特に遅刻、欠席が多い学生が数人いたが、単位を取得できるように補講など個別指導をすることにより、単位の取得につなげた。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>博物館実習Bは、国家資格である学芸員資格を取得するための必須科目であることから、受講生全員の目標は明確であり、学習態度は良好である。学習意欲についても同様であるが、当該科目にはTAを配置し、すべての学生の対応ができる体制を整え、4年生の必修科目である博物館実習C（学外実習）につなげる指導を実践した。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>前述の通り、学芸員資格の取得を目指す学生のみ受講である。授業の構成、分かりやすさ、シラバスと授業内容の整合性は5.0であり、授業内容に興味を持つことができたかの結果は4.8で高得点であり、改善すべき点はない。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>話し方の明瞭さ、教科書の使用の適切さ、PPTの適切さは5.0、熱意のある授業、遅刻や私語に対する対応、授業参加への工夫は4.9であり、改善すべき点はない。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>当該科目の受講生は、明確な目標を持つ学生の履修であることから特に問題はないが、1限であることから遅刻する学生が多いことが問題といえる。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 月5

科目名 資産管理とライフプラン

教員名 城前 奈美

回答者数/履修者数 36/41

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>野村証券寄付講座である「資産管理とライフプラン」は、今年度初めて実施された科目であり、後半の授業では「難しい」と漏らす学生もいたが、結果として満足度は4.6と上々の成果であったと考える。自由記述にも、「投資の知識だけでなく、投資のやり方などすごくためになる」、「将来の役に立つ話が多い」、「配布資料が豊富で分かりやすい」といった良好な意見が多数見られた。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>各回の授業の冒頭に、前回の授業内容の小テストをマナバで実施することで、毎回復習を丁寧にする学生が多かった。また、ピー逃げ対策として、マナバの小テストとは別に、出席カードを提出させることによって、出席管理を徹底させることができた。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>Q3は4.4、Q4は4.5、Q5は4.5であり、特に、Q5授業内容の興味関心が、全体平均と比べても良く、自由記述からも見られるように興味関心をもって受講していたことが把握される。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>Q6は4.4、Q7は4.3、Q8は4.6、Q9は4.6、Q10は4.4、Q11は4.3であり、Q8配布プリントの適切さ、Q9PPTなどの使用の適切さが、全体平均と比較して良かった。毎回の配布資料とPPTは同じものであるが、統計グラフや図式などを多用し、内容量が豊富でありながらも見やすいものであった。Q7授業への熱意については、全体平均よりやや低いため、交代で来られる外部講師と共有を図り、改善していく。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>この野村証券による寄付講座は、今年度初の試みとして実施されたものであることから、授業アンケートを実施し、どのような反応であるかを把握した。結果として、学生の関心度合いは高く、また、豊富な資料を伴う授業を受講できていることから、満足度の高い授業であったと言える。この寄付講座は、野村証券のご協力により、次年度も継続して開講されることとなった。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 木4

科目名 観光経済論

教員名 城前 奈美

回答者数/履修者数 106/136

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>今年度2023年度「観光経済論」の満足度評価は4.3、2022年度「地域観光研究A(アジア・オセアニア)」は4.3、2021年度「観光経済論」の満足度評価は4.2、2020年度「地域観光研究A(アジア・オセアニア)」の4.3であり、例年ほぼ変わらない評価であった。ただし、全体平均よりもやや下回っているため、何とか興味あるものに惹きつけられるようにしなければならない。簡単な計算を伴う分析方法を学ぶが、抵抗を示す学生も多く、この分析方法の意義や役割をさらに丁寧に認識させて、計算に対するネガティブな抵抗感を克服するよう努力し満足感を高められるように改善する。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>各回の授業で、課題の作業時間を与え、アクティブラーニングを心掛け、この答え合わせを授業の最後に行うことで、飽きさせないように努めた。 また、ピー逃げ対策として、各課題のマナバでの提出時に、ランダムにキーワードを入れるように指示したところ、教室にいる学生が増えていった。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>Q3は4.4(昨年4.2)、Q4は4.5(昨年4.2)、Q5は4.2(昨年4.3)であり、前年度の「地域観光研究(アジアオセアニア)」と比較し、今年度はQ3とQ4を伸ばすことができた。ただ、Q5の授業の興味関心については、まだ改善の余地がある。観光経済論では、簡単な計算を伴う分析方法を扱うため、この必要性を十分に理解するような説明を心掛け、興味関心をもって前向きに学修するように仕向けたい。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>Q6は4.4(昨年度4.4)、Q7は4.4(昨年度4.4)、Q8は4.4(昨年度4.4)、Q9は4.4(昨年度4.2)、Q10は4.4(昨年度4.2)、Q11は4.3(昨年度4.2)であり、Q9板書の適切さやQ10遅刻や私語への対応、Q11授業参加促進について上昇した。(2)でも記したが、ピー逃げ対策として、課題のマナバでの提出時にキーワードを入力するよう指示し、出席管理システムの二重チェックを行ったことがQ10やQ11の向上につながったと考える。自由記述では、「ピー逃げ対策など面倒なことはしないでほしい。」とか、「ピー逃げ対策の小テストの実施は有効だと思ったが、もう少し時間にゆとりが欲しい。」と言った意見も上がり、改善の余地はあるが、全体的には授業参加を促すようになったと考える。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>この「観光経済論」の第1回目のオリエンテーションでは、とても食いつきが良く、関心を持って履修してもらえ、授業を進めるにつれて、経済波及効果や価格弾力性など、計算やグラフを使用するような段階になっていくと、なかなかついてこられず、諦めてしまって、嫌々ながら授業を受けている学生もいるのだらうと察する。これを克服するためには、専門的知識を学ぶ意義をさらに丁寧に事例に当てはめて説明するなど工夫してモチベーションを高め、練習問題を増やして解けるようになることで満足感を高めていきたい。この後期から、出席管理の徹底を図るべく、出席管理システムとは別に、マナバの小課題提出時にキーワードを加えるように徹底したことが、全体的には</p>

項目見出し	コメント
	Q10遅刻や私語対策、Q11授業参加促進の向上につながったと考える。 。

アクションプランシート

2023年度後期 金5

科目名 比較文化論

教員名 滝 知則

回答者数/履修者数 131/154

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>Q13 R4年度4.0、R5年度4.0、±0.0 授業アンケートの提出率はR4年度の69.1%に対し、R5年度には85.1%となった。マナバで複数回リマインダーを送った効果と考える。次回以降も同様にリマインダーを送り、提出率を確保する。 Q13については前年度と同じ点数であった。Q10とQ11では若干減少した。対策については後述する。他の質問では若干改善した項目がある。授業の内容・方法双方での工夫が評価されたと思いたい。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>①クラスルールの設定と授業冒頭での周知 ルールの内容は、教室後方を空けて着席、脱帽・飲食不可（事前許可のない人）、授業に無関係のスマホとイヤホン不可、私語・居眠り・内職不可などである。これらを授業プリントに記載し、キーワードを板書する。 ②敬意を持って学生に接する 担当教員の年齢に比べると、受講している学生の人たちの方が若いことは事実である。一方でどの学生も、それぞれ自分のおかれている環境を生き抜くために努力を重ねている。この観点から、授業中は敬意を持って学生に接している。 ③グループワーク（プレゼンテーション）時の非言語コミュニケーション グループワークを実施する際、メンバー（6～8人程度）の座り方ならびにプレゼンターの話の聞き方について、次のように指導している。グループごとにまとまって着席した際、椅子の向きを調節し（180度、90度、0度）、メンバー全員の顔がお互いに見えるようにする。プレゼンを聞く人は、プレゼンターに注目する、うなづく、あいづちをうつ、拍手をする。これらのことを、概ね実行してくれている。 ④グループワークの複数回実施 第12回（12/15）の授業で、ウォーリック大学（英国コベントリー市）の日本語学習者との間で、お互いの文化（食事・行事・レジャーと趣味）を紹介するオンライン交流を行った。これに先立ち、この科目の履修者どうしがお互いのことに慣れてもらうことも念頭に、授業で課した課題への回答を共有するグループワークを複数回行った。12/15の交流の準備、ならびに当日の実施をスムーズに、かつ楽しく実施してもらうのに役だったと考える。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>Q3 R4年度3.9、R5年度4.0、+0.1 グループワークの実施、レポートの提出のしかたについて、前回以上に明確に説明することに努めた。</p> <p>Q4 R4年度4.1、R5年度4.1、±0.0 Q5 R4年度4.0、R5年度4.0、±0.0 Q5（授業内容への興味）では5と4が88名（回答者154名に対し57.1%）であった。3は31名（23.7%）である。 「インクルーシブに自分の文化を大切にす文化」（後述）の学修というこの科目のねらいをさらに理解してもらえるように励む。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p>	<p>Q9 R4年度4.1、R5年度4.2、+0.1 板書や機器の使用は適切でしたか</p> <p>授業は配布プリントとスライド（パワーポイント）を併用する。授業の導入部分で、当日学修する内容に関する受講生の考え方の傾向を</p>

項目見出し	コメント
<p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>知るため、レスポンスを使うことがある。 板書は補助的に用いる。殴り書きではなく、丁寧に板書する。板書する項目が2つ以上の場合、時系列などの論理的な順番に配列する。</p> <p>Q10 R4年度4.4、R5年度4.2、増減-0.2 遅刻や私語が授業の妨げにならないように対応していましたか</p> <p>①私語と遅刻はほとんどないので、授業の妨げになることはない。 ②授業中の一時退室が一定の頻度で見られる。スマホに連絡が入ったためのように思われる。2024年度はクラスルール（上述）に、「正当な理由のない授業中の一時退室不可」を追加する。 ③カードリーダーへの登録のみを行い、実際には授業に出席していない事例があるように思われる。2024年度には防止の対策をとる。</p> <p>Q11 R4年度4.2、R5年度4.1、増減-0.1 学生の授業参加を促すような工夫をしていましたか</p> <p>次に述べるように、一定の成果と課題とがある。</p> <p>①グループワーク 3回実施。第12回（12/15）のウォーリック大学との交流プロジェクトの前に実施。所定の課題への回答の共有に加え、上記プロジェクトを行う際、グループのメンバー間でのアイスブレイキングになることを目指した。（再掲）。</p> <p>②インターネットへの接続の課題 ウォーリック大学プロジェクトを、R4年度は4101教室のみで実施した。100人を超える受講生があったため、インターネットの接続に課題が生じた。この反省から、R5年度は4101と2205の二つに分かれて実施した。接続の課題は改善されたようである。</p> <p>③Zoomブレイクアウトルーム（BOR）への振り分けの課題 ウォーリック大学プロジェクトでは、出席者をBORに振り分けた。しかしプロジェクトの当日、BORに入れない学生が複数あった。授業アンケートの自由記述にも書かれている。Zoomのサインインに不慣れであることが理由として考えられる。 Zoomのサインインのしかたの事前説明を、さらに丁寧にを行う余地がある。この点を反省している。また、サインインについてグループ内で教えあってもらうよう、呼びかける。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>私たちは、「文化」とは国民文化のことだ、と考えることがある。A国とB国の国民文化を比較するとき、両国の国際関係の立場に影響されることがある。このような影響は、民族差別（「人種」差別）にもつながる。</p> <p>本学の学生には、民族差別を意識的にする人はいないと考えている。この科目の履修生には、民族差別は何かおかしいのかについて、各自の考えを深めてもらいたいと願っている。</p> <p>そこでこの科目の前半では、文化に関して次のようなことを学んでもらう。①文化は「歴史」でもあり、行動規範でもあり、「意味」でもあること。②人間は新しい文化を学ぶことができる、つまり新しい生き方をすることができること。③人間を民族という「人種」という人間のグループ分けの基準は根拠がないこと、などである。</p> <p>これらの項目について学修したあとで、イギリスと受講生の国の国民文化の比較を行う。これが、ウォーリック大学の日本語学習者との交流プロジェクトである。このプロジェクトは先方の学生さんたちにも評価されている。本学の学生も楽しんでくれている（今後の実施にあたっては上述の課題を解決する）。</p> <p>この科目の受講生の人たちがすでに持っている民族差別をしない文化を、今後さらに深めてもらいたいと願っている。換言すれば、インクルーシブな観点で自分の文化を重視すること、「インクルーシブに自分の文化を大切にすると他者の文化も大切にすると」という文化である。今後も長崎国際大学の学生の皆さんを支えていきたい。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 月4

科目名 TOEIC対策B

教員名 田中 誠

回答者数/履修者数 43/50

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>満足度については、昨年度が4.7で、今年度は4.5という結果となった。今年度は、5または4と記入している学生の割合が93.0%、例年のことではあるが、なかなか全員を満足させることは難しいと感じている。TOEICの試験は非常に難しいし、学生の英語力の差が大きくなってきているだけでなく、下の方に大きく振れているので、英語が苦手な学生にも満足できるような授業内容になるように常に工夫を考えている。今後とも、学生の英語力を最大限に伸ばすことができるような授業内容、参考資料の作成の仕方などを研究していくことで、さらに改善していきたい。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>今年度も、対面で授業をすることができたので、特にライブ感を意識した授業構成を意識した。授業外学修の時間を増やすために、例年通り毎回の授業でマナバを活用して、2種類の課題を出し、提出させる取り組みも実施した。授業中もアクティブラーニングを意識して、リスニング問題のトレーニングをすることで、単に講義を聞くだけの授業にならないような工夫もした。また、例年通り、毎回授業の終わりにマナバのresponの機能を使用し、授業の理解度やコメントなどを記入させた。そして、前回の授業のコメントに対して、学生が疑問に思っていることや、授業で分かりにくかったと感じた事項に関して、次回の授業で導入としてコメントをしたり、参考資料を作成して配布したりして理解度を高める努力をした。さらに、難しい中でも「楽しい」と思ってくれる学生が少しでもでてくるような授業も意識した。学生のコメントにも「いつも楽しい授業ありがとうございます」などのコメントが見受けられた。今後とも、様々な英語力の学生に対して、少しでも満足度を高めるような授業を展開していきたい。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>Q3に関しては、昨年度が4.7、今年度は4.5、Q4に関しては、昨年度が4.8、今年度が4.5、Q5に関しては、昨年度が4.6、今年度が4.3であった。全ての項目で4.3以上なので、ある程度良い授業が提供できたのではないかとと思うが、いずれの項目でもポイントが昨年度より下がってしまった。英語のプレイスメントテストの結果からも、今年度の1年生の英語力の低さは、分かっていたのだが、昨年度と同等のポイントを得るほど良い授業を展開することができなかつたのであろう。これからも、高いレベルを維持していきたい。学生のコメントには、例年通り「いつもわかりやすいです」というコメントも見受けられたが、「前期より内容理解が難しく感じます」というコメントも見られた。もっと良い授業が提供できるよう教材研究に時間をかけていくことで、どのレベルの学生にも対応できるように努力を続けていきたい。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>Q6~Q11に関して、個別に見ていくと、Q6に関しては、昨年度が4.6、今年度が4.5、Q7に関しては、昨年度が4.8、今年度が4.7、Q8に関しては、昨年度が4.7、今年度は4.6、Q9に関しては、昨年度が4.8、今年度は4.5、Q10に関しては、昨年度が4.7、今年度は4.6、Q11に関しては、昨年度が4.6、今年度が4.2であった。ポイント自体は、そう悪くないとは思いますが、やはり昨年度と比べると、こちらのポイントも全体的に下がっている点は、素直に反省したい。授業方法としては、例年どおりの授業展開なので、悪くない授業ができたと思うが、もっと満足してもらうには、何かが足りなかつたのであろう。例えば、Q6の「話し方は明瞭でしたか」については1名だけ、2と評価した学生がいた。自分では、明瞭に話しているつもりなのだが、少し早口で話をしてしまう傾向があるので、聞き取りにくい時もあったのかもしれない。この早口で話すということについては、なかなか修正できない癖であるが、努力したい。Q7の「熱意の感じられる授業でしたか」に関しては、毎年常に意識して授業を展開しているので、</p>

項目見出し	コメント
	<p>4.7というポイントを得られたのは、こちらの熱意が授業を聞いている学生に十分に伝わった結果だと思うので、ほっとしている。今後とも、熱意の感じられる授業を展開していきたい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>今年度の授業については、学生の学ぶ意欲の低さが目立ち、自分の教育力のなさに対して、授業後にかなり落ち込むことをあった。もちろん、授業中はそのようなそぶりは見せず、熱心に授業を展開したつもりである。この傾向が今後とも続くのか、今年度特有の事象なのかは分からないが、今後も一定数の低学力の学生が入学してくることは間違いないであろう。このような状況であっても、少しでも良い授業が提供できるように、努力をしていきたい。とは言え、学生のコメントを見てみると「難しい」というコメントよりも「おもしろかった」や「わかりやすい」というコメントの方が多い。昨年度よりポイントは下がっているものが多いけれども、それでも全体的にポイントは低くはないので、良いところは維持しつつ、改善すべき点を改善しながら、少しずつでもより良い授業が提供できるように努力をしていきたい。学生のコメントに関しても「難しい」というコメントよりも「おもしろかった」や「わかりやすい」というコメントの方が多い点を励みに頑張りたい。また、英語力を伸ばすためには、授業外での学びが非常に重要なので、毎回、やればできるレベルと量の課題等を出すことを継続して実施することで、授業外学修時間の向上にも寄与していきたい。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 火4

科目名 レクリエーション活動研究

教員名 中山 忠彦

回答者数/履修者数 22/24

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>全体として概ね良好な授業が展開できたのではないかとと思われる。授業満足度について、平均値が4.7であり高い評価を得た。理解度についても平均値が4.6であり高評価であった。このことから、授業の目的を明確に示すことができ、それを理解した上で学生は授業に取り組み満足度の高い授業になったのではないかと考える。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>学生の理解度を向上するため、スライドを用いて講義するとともに、授業で活用した講義スライドをmanabaで共有し振り返りを行いながら授業の理解度を向上する取り組みを行った。また、理解度を向上するため、実践的なグループワークを多く取り入れ体感させる土地くみを試みた。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>問いの回答の平均値がいずれも4.6以上であり、概ね分かりやすい授業であったこと、加えて、学生の興味ある内容を提供し続けることができたのではないかとと思われる。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>Q8を除くQ6からQ11すべての項目について、平均値が4.5を上回っており、比較的取り入れた授業方法は良好であったと考える。しかし、Q8の項目が4.4で他項目より低かった。このことは、資料を配布せず、ポータルシステム上での共有のみであったため、スマートフォンしか持たない学生にとっては、やや不親切であったかもしれない。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>学生の満足度は良好であったと考える。学習者である学生の理解度を確認しながらの展開を試み、理解度がやや低いと感じた時には、振り返りを含めたグループワークを取り入れ、目的意識を持たせて授業を行う事を心がけた。 本授業は、今年度で閉講となる科目であるが、他授業においても同様の手法で授業を展開するよう心がけていきたい。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 水1

科目名 球技C

教員名 中山 忠彦

回答者数/履修者数 33/37

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>授業満足度について、平均値が4.7の高い評価を得ており、全体として概ね良好な授業が展開できたのではないかと考えられる。昨年度と同授業の満足度と比較すると0.1ポイント低下したが、比較的授業の満足度は高く維持できたのではないと思われる。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>履修学生に対しては、個に応じた言葉がけを行い、学習意欲の向上に努めた。本授業はスポーツ実習科目であるため、運動量の確保を心掛けるとともに、種目特性を理解した上で、それを他者に示すことを課題として取り組ませた。そのために必要なスキルを実践の中で自ら体感し、改善するための方策を考えることを学生に求めた。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>Q2からQ5の項目全てが平均値4.7以上の高い値を示した。このことから、昨年度と同様に特に大きく改善を要するような大きな問題はないと考えられる。しかし、引き続き、運動量の確保とそれを可能にする内容、そして意欲的に取り組めるような授業構成についてブラッシュアップを試みる。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>Q6からQ9の項目全てが平均値4.8以上の高い値を示した。昨年度と同様にこの項目に関する評価は高い。内容の説明や質問に対しては、丁寧に対応していたと考えられる。本科目では指導の実践を行ったが、実践後は即時フィードバックを行い、改善のためのヒントを与えている。コーチングスキルを活かしている結果であると考えられる。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>授業内容についておおむね高い評価を得ており、大幅な改善は必要ないものと考えられる。本科目では「スポーツの特性を理解させた上で、どのようにすれば楽しさを伝えられるのか」を学ばせる取り組みを行っている。そのため、本調査結果から、履修学生はそのことを理解して受講していたのではないかと考えられる。本授業は高い評価を得ているが、内容を見直し、常に私自身が熱意を持って取り組みができていないかを自己評価し、授業改善に繋げていくこととする。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 水1

科目名

茶道文化ⅡB

教員名

安部 直樹 (嶋内 麻佐子)

回答者数/履修者数

30/34

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>Q13の授業に参加して満足できましたかの平均は4.8で、回答者数を見ると、満足が25名で、やや満足が5名である。昨年度との比較では、0.3ポイント高い。全体平均との比較では、0.1ポイント高い。</p> <p>本クラスは、履修者が34名ということで、自明堂を使用して、少人数グループを編成して授業を行った。各班に1名の指導者を配置しており、学生が質問等をしやすい環境を整えており、点前の習得につながっていることが満足度の向上に寄与しているものと考えられる。また、茶道文化Ⅱは、茶道文化Ⅰのように学科毎にクラスが分かれておらず、違う学科の学生が同じクラスを受講するため、学生間で様々な交流が生まれ、コミュニケーション能力を高める機会にもなっていたことは良好である。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>学生の受講態度については平均が4.6で、回答者数を見ると、熱心が20名、やや熱心が8名、どちらとも言えないが1名である。昨年度との比較では、0.1ポイント低い。全体平均との比較では、0.1ポイント高い。</p> <p>昨年度との比較では低いものの、全体平均より0.1ポイント高い数値が出ているのは良好である。茶道文化ⅡBでは、濃茶点前の習得を主とした授業内容を計画しているが、着付けや生け花、絵手紙の中から学生が希望する内容を行うオプション授業も設けている。点前以外にも日本文化を体験する時間を設けることで、楽しみながら日本文化に触れ、理解を深めることにつながっていることも受講態度や学習意欲の向上に影響しているものと考えられる。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>Q3の授業はよく編成され、まとまっており、分りやすかったですかについての平均は4.8で、回答者数を見ると、良いが24名、やや良いが5名、どちらとも言えないが1名である。昨年度との比較では、0.4ポイント高い。全体平均との比較では、0.2ポイント高い。</p> <p>Q4のシラバスと授業内容に整合性はありましたかについての平均は4.8で、回答者数を見ると、良いが24名、やや良いが5名、どちらとも言えないが1名である。昨年度との比較では、0.4ポイント高い。全体平均との比較では、0.1ポイント高い。</p> <p>Q5の授業内容は興味あるものでしたかについての平均は4.7で、回答者数を見ると、良いが22名、やや良いが8名である。昨年度との比較では、同数である。全体平均との比較では、0.1ポイント高い。</p> <p>授業内容に関しては、すべての項目において高い数値が出ており概ね良好である。茶道文化Ⅰでは点前の習得が主であったが、茶道文化Ⅱでは濃茶点前の他にオプション授業やミニ茶会、炭点前等の多岐にわたる内容が計画されていたこともあり、学生の興味関心を惹いたのではないかと考えられる。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>Q6の話し方は明瞭であったかの平均は4.8で、回答者数を見ると、良いが24名、やや良いが5名、どちらとも言えないが1名である。昨年度との比較では、0.4ポイント高い。全体平均との比較では、0.1ポイント高い。</p> <p>Q7の熱意の感じられる授業であったかの平均は4.9で、回答者数を見ると、良いが26名、やや良いが4名である。昨年度との比較では、0.5ポイント高い。全体平均との比較では、0.2ポイント高い。</p> <p>Q8の教科書、参考書、配布プリントの使用は適切であったかの平均は4.4で、回答者数を見ると、良いが17名、やや良いが7名、どちらとも言えないが6名である。昨年度との比較では、0.1ポイント高い。全体平均との比較では、0.3ポイント低い。</p> <p>Q9の板書や機器 (OHP、パワーポイントなど) の使用は適切であったかの平均は4.4で、回答者数を見ると、良いが18名、やや良いが6名、どちらとも言えないが6名である。昨年度との比較では、0.3ポイント高い。全体平均との比較では、0.2ポイント低い。</p>

項目見出し	コメント
	<p>Q10の遅刻や私語が授業の妨げにならないように対応したかの平均は4.5で、回答者数を見ると、良いが18名、やや良いが10名、どちらとも言えないが1名、良くないが1名である。昨年度との比較では、0.1ポイント高い。全体平均との比較では、0.1ポイント低い。</p> <p>Q11の学生の授業参加を促すような工夫がなされていたかの平均は4.7で、回答者数を見ると、良いが21名、やや良いが9名である。昨年度との比較では、0.4ポイント高い。全体平均との比較では、同数である。</p> <p>授業方法に関しては、概ね良好な数値が出ている。一方で、Q8とQ9については全体平均より低い数値となっている。しかし、茶道文化は実技を主とする授業の特性を持っていることから、配布プリント等がなく、板書やOHPなどの機器を使用することはほとんどないのが現状である。そのため、Q8やQ9の項目については、低い数値となっていると考える。また、Q10についても全体平均より低くなっているため、指導者間で私語等への注意を促すよう努めたい。</p>
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	<p>茶道文化Ⅱは選択科目となり、必修科目である茶道文化Ⅰに比べると履修者が減少する。そのため、少人数での班編成を組むことにつながり、指導者の目が行き届き、各班で充実した点前の稽古ができていくことは大変良好な点である。また、薄茶点前を基本として、濃茶点前や炭点前の理解を深めることで、茶道文化ⅡB終了時に鎮信流初歩伝免許状を申請することができるのも、学生にとっては大きな付加価値となっている。さらに、着付けや生け花、絵手紙といったオプション授業も毎年好評で、様々な日本文化を経験することが新鮮で、魅力的な授業内容となっている。一方で、これまでの学びを今後につなげるためにミニ茶会を計画したところ、茶会の流れや亭主と客のやりとりを学ぶことができ、茶道文化Ⅲへの足掛かりとなっているのではないかと感じられる。学内で学んだことを学外で表現できる機会を設け、学生が主体的に学ぶことができる授業を組み立てていきたい。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 金2

科目名

茶道文化ⅢB

教員名

安部 直樹（嶋内 麻佐子）

回答者数／履修者数 9／10

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>Q13の授業に参加して満足できましたかの平均は4.8で、回答者数を見ると、満足が7名、やや満足が2名である。昨年度との比較では、0.1ポイント高い。全体平均との比較でも、0.1ポイント高い。</p> <p>茶道文化ⅢBでは、これまでに習得してきた薄茶点前や濃茶点前を基本として、隅切棚の習得と三川内陶器市での茶道体験の開催を主な授業内容とした。隅切棚の点前については、学生の習熟度を見ると大変理解度が早く、各指導者とも協議した結果、中風炉点前の稽古も追加することとなった。様々な点前を学ぶことができるのは満足度向上の大きな要因と考える。また、学外でのフィールドワークとして三川内陶器市での茶道体験ということで、学生が地域の方々へお茶の点て方や飲み方をレクチャーした。学内で礼儀作法を学ぶだけではなく、学外で幅広い年代の方々とのコミュニケーションを取ることで新たな発見ができていいることも満足度に影響を与えているものと考え。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>学生の受講態度については平均が4.4で、回答者数を見ると、熱心が7名、やや熱心が1名、不熱心が1名である。昨年度との比較では、0.3ポイント低い。全体平均との比較では、0.1ポイント低い。</p> <p>昨年度および全体平均より低い数値となってしまったことは反省点であるが、学生からは「4年生（茶道文化Ⅳ）でも頑張りたい」とのコメントがあり、茶道文化Ⅲで行った授業内容に対して一定の評価を得ているものと考え。特に、茶道文化Ⅳの履修につながるように、寄付や外待合、懐石などの茶事の流れも部分的に取り入れたことは、学生の興味関心を高め、受講態度や学習意欲に影響を与えているものと思う。点前だけでなく、茶会の開催を意識した授業内容は学生にとって、魅力あるものであると考える。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>Q3の授業はよく編成され、まとまっており、分りやすかったですかについての平均は4.8で、回答者数を見ると、良いが7名、やや良いが2名である。昨年度との比較では、同数である。全体平均との比較では、0.2ポイント高い。</p> <p>Q4のシラバスと授業内容に整合性はありましたかについての平均は4.8で、回答者数を見ると、良いが7名、やや良いが2名である。昨年度との比較では、同数である。全体平均との比較では、0.1ポイント高い。</p> <p>Q5の授業内容は興味あるものでしたかについての平均は4.8で、回答者数を見ると、良いが7名、やや良いが2名である。昨年度との比較では、同数である。全体平均との比較では、0.2ポイント高い。</p> <p>授業内容に関しては、全体的に高い数値が出ており概ね良好である。隅切棚や中風炉といった新しい点前、三川内陶器市でのフィールドワーク、茶事の流れ等、多岐にわたる内容を取り入れたことで、これまでの茶道文化よりも深く学ぶことにつながっていることが、高い数値が出ている要因だと考える。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>Q6の話し方は明瞭でしたかについての平均は4.7で、回答者数を見ると、良いが6名、やや良いが3名である。昨年度との比較では、0.1ポイント低い。全体平均との比較では、同数である。</p> <p>Q7の熱意の感じられる授業でしたかについての平均は4.8で、回答者数を見ると、良いが7名、やや良いが2名である。昨年度との比較では、同数である。全体平均との比較では、0.1ポイント高い。</p> <p>Q8の教科書、参考書、配布プリントの使用は適切でしたかについての平均は4.6で、回答者数を見ると、良いが6名、やや良いが2名、どちらとも言えないが1名である。昨年度との比較では、0.3ポイント高い。全体平均との比較では、0.1ポイント高い。</p> <p>Q9の板書や機器（OHP、パワーポイントなど）の使用は適切でしたかについての平均は4.6で、回答者数を見ると、良いが6名、やや良いが2名、どちらとも言えないが1名である。昨年度との比較では、</p>

項目見出し	コメント
	<p>0.3ポイント高い。全体平均との比較では、同数である。 Q10の遅刻や私語が授業の妨げにならないように対応していましたが、についての平均は4.4で、回答者数を見ると、良いが7名、やや良いが1名、良くないが1名である。昨年度との比較では、0.2ポイント低い。全体平均との比較でも、0.2ポイント低い。 Q11の学生の授業参加を促すような工夫がなされていたかについての平均は4.7で、回答者数を見ると、良いが7名、やや良いが1名、どちらとも言えないが1名である。昨年度との比較では、同数である。全体平均との比較でも、同数である。 授業方法に関しては、全体的に昨年度および全体平均と比較して良い結果が出ており良好である。しかし、Q10に関しては低い数値となっている点は反省点であり、各指導者が注意して、きちんとした授業環境を整えることが必要である。また、授業の出席状況なども管理をして、学生をフォローアップする体制も整えていきたい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>今年度は、三川内陶器市での茶道体験をフィールドワークとして活用し、実施した。授業の中で練習を行う中で、学生同士で道具の配置や声のかけ方などを意見交換し、課題解決する姿が見受けられた。実際に本番当日を迎えたときも、自分自身の役割（接待、水屋、呼び込み）を考えながら行動しており、よくコミュニケーションが図られている状況であった。特に、一般の方々と接する機会があるシーンでは、社会に出たときに遭遇する実践的な場面を想定することにつながると思う。</p> <p>次のステップとして茶道文化Ⅳでも、学内で学んだことを茶会として表現する機会を多く設け、学生が主体的に学ぶことができる環境づくりを徹底したいと考える。また、茶道文化Ⅳへの導入として、茶事の流れを部分的に実施できたことも大変効果的であった。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 月3

科目名 茶道文化 I B

教員名 嶋内 麻佐子

回答者数/履修者数 48/50

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>Q13の授業に参加して満足できましたかの平均は4.7（留学生は5.0）で、回答者数を見ると、満足が39名で、やや満足が4名、どちらとも言えないが5名である。全体平均との比較では、同数である。</p> <p>本クラスは履修者が50名ということで、自明堂と不息庵を使用して、1班を7～8名の少人数に編成し、各班に1名の指導者を配置して授業を行った。点前に関しては、前期に学んだ薄茶点前（前半）の続きとして、薄茶点前（後半）を習得することを目標とした。道具の準備から片付けまでの一連の流れを習得することで、前期よりも詳しく茶道文化を学ぶことにつながり、満足度の向上に寄与したものと考えられる。また、後期には、茶の歴史に関する講義や、初釜、松芳忌といった儀礼を通じた学びの中で、日本文化への理解を深めることができたことも満足度向上の要因の一つと思われる。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>学生の受講態度については平均が4.8（留学生は5.0）で、回答者数を見ると、熱心が42名、やや熱心が4名、普通が2名である。全体平均との比較では、0.3ポイント高い。</p> <p>前期は初めて茶道を経験する学生がほとんどであったが、前期に薄茶点前（前半）の実技確認まで行ったこともあり、後期は前期よりもスムーズに点前を覚えることができ、学生の様子を見ていると授業を楽しむ余裕が感じられた。また、初釜や松芳忌では、着物を着た補助員（SA）が点前をする姿を見る機会があり、茶道について広く、深く学ぶことができたことは受講態度や学習意欲の向上につながったものと考えられる。さらに、本クラスは、薬学科の学生が多く履修していることもあり、茶道文化の授業が心をリフレッシュする時間になっている。日頃の忙しい時間と異なる、ゆっくりとした時間を過ごすことができることも茶道文化の授業の魅力であり、学習意欲の向上に寄与している。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>Q3の授業はよく編成され、まとまっており、分りやすかったですかについての平均は4.8（留学生は5.0）で回答者数を見ると、良いが41名、やや良いが4名、どちらとも言えないが3名である。全体平均との比較では、0.2ポイント高い。</p> <p>Q4のシラバスと授業内容に整合性はありましたかについての平均は4.8（留学生は5.0）で、回答者数を見ると、良いが42名、やや良いが4名、どちらとも言えないが2名である。全体平均との比較では、0.1ポイント高い。</p> <p>Q5の授業内容は興味あるものでしたかについての平均は4.7（留学生は5.0）で、回答者数を見ると、良いが38名、やや良いが5名、どちらとも言えないが4名、あまり良くないが1名である。全体平均との比較では、0.1ポイント高い。</p> <p>すべての項目で全体平均よりも0.1～0.2ポイント高く、授業内容に関しては概ね良好な数値が出ている。茶道文化の授業では、毎回点て出しを行っており、お茶とお菓子を準備している。回を重ねるごとにお茶を点てるのが上手になる学生や、様々なお菓子に触れることで美味しさに気付く学生がおり、日本文化の楽しさを知る機会となっていることが考えられる。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>Q6の話し方は明瞭でしたかについての平均は4.8（留学生は5.0）で、回答者数を見ると、良いが42名、やや良いが4名、どちらとも言えないが2名である。全体平均との比較では、0.1ポイント高い。</p> <p>Q7の熱意の感じられる授業でしたかについての平均は4.9（留学生は5.0）で、回答者数を見ると、良いが42名、やや良いが5名、どちらとも言えないが1名である。全体平均との比較では、0.2ポイント高い。</p> <p>Q8の教科書、参考書、配布プリントの使用は適切でしたかについての平均は4.7（留学生は4.7）で、回答者数を見ると、良いが38名、</p>

項目見出し	コメント
	<p>やや良いが6名、どちらとも言えないが4名である。全体平均との比較では、同数である。</p> <p>Q9の板書や機器（OHP、パワーポイントなど）の使用は適切でしたかについての平均は4.6（留学生は4.7）で、回答者数を見ると、良いが36名、やや良いが6名、どちらとも言えないが6名である。全体平均との比較では、同数である。</p> <p>Q10の遅刻や私語が授業の妨げにならないように対応していましたかについての平均は4.7（留学生は4.3）で、回答者数を見ると、良いが40名、やや良いが1名、どちらとも言えないが7名である。全体平均との比較では、0.1ポイント高い。</p> <p>Q11の学生の授業参加を促すような工夫がなされていましたかについての平均は4.7（留学生は5.0）で、回答者数を見ると、良いが40名、やや良いが4名、どちらともいえないが3名、良くないが1名である。全体平均との比較では、同数である。</p> <p>授業方法に関しては、全体平均と比較しても同数または0.1から0.2ポイント高く、良好である。特にQ7の熱意については、各班の指導者が細やかに学生と接していることや、学生の先輩学生に当たる補助員が対応していることも良い点と考えられる。</p>
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	<p>学生のコメントの中には、各班の指導者の説明が丁寧であることが多く挙がっており、少人数での授業体制が良好であることがわかった。特に、茶道文化Ⅰの授業ではSA（先輩学生）を配置しており、より質問のしやすい環境を作ることができ、学生と指導者の相互交流促進のきっかけとなっている。後期に開講される茶道文化ⅡBでは、「茶の歴史と鎮信流」についての講義を取り入れており、茶道を通じた日本の歴史の学びや地域の再理解や再発見の機会となっていることがわかった。さらに、初釜や松芳忌を執り行うことで、日本の年中行事である正月の意味や、創立者が茶道を教育に取り入れた由来などを知ることにつながっている。</p> <p>本クラスは薬学部の学生が履修しており、学生のコメントには「忙しい日々を忘れ、心を落ち着ける時を持てたことは良かった」とあった。座学中心の講義が多い学生たちにとっては、茶道を学ぶことで心を落ち着かせることにつながっており、茶道文化の授業は新鮮で有意義な時間であったように見受けられる。将来、薬剤師となる学生にとって、茶道文化で感じた癒しの部分を患者に伝えていくことができるよう、茶道の魅力を今後も発信していきたい。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 火2

科目名 茶道文化ⅠB

教員名 嶋内 麻佐子

回答者数/履修者数 99/115

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>Q13の授業に参加して満足できましたかの平均は4.7（留学生は5.0）で、回答者数を見ると、満足が75名で、やや満足が18名、やや不満足が6名である。昨年度との比較では、0.1ポイント高い。全体平均とは同数である。</p> <p>本クラスは履修者が115名と多く、自明堂と不息庵、2101教室の3教室を使用して、1班を7～8名の少人数に編成し、各班に1名の指導者を配置して授業を行った。点前に関しては、前期に学んだ薄茶点前（前半）の続きとして、薄茶点前（後半）を習得することを目標とした。茶道文化ⅠBでは、実技確認を行った後に、個別にフィードバックをする時間を設けており、1人1人が採点者から総評を受けることができるようにしている。本クラスは他のクラスと比べても、特に実技確認という目標に対する意識が強い傾向がある。そのため、実技確認をきちんとこなすこと、フィードバックを通して自分自身を省みる時間を設けることは、満足度の向上に大きな影響を与えているものと考えられる。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>学生の受講態度については平均が4.5（留学生は5.0）で、回答者数を見ると、熱心が62名、やや熱心が27名、普通が6名、やや不熱心が4名である。昨年度との比較では、同数である。全体平均との比較でも、同数である。</p> <p>前期は初めて茶道を経験する学生がほとんどであったが、前期に薄茶点前（前半）の実技確認まで行ったこともあり、後期は前期よりもスムーズに点前を覚えることができ、学生の様子を見てみると授業を楽しむ余裕が感じられた。また、学生は茶道を通して学ぶ礼儀作法や道具を大切に扱う心を、将来の生活でも活かすことのできるものとして意識していることが、学生のコメントから読み取ることができた。茶道と触れ合うことを前に向きに捉えていることが、受講態度や学習意欲の向上につながっていると思われる。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>Q3の授業はよく編成され、まとまっており、分りやすかったですかについての平均は4.7（留学生は4.5）で、回答者数を見ると、良いが71名、やや良いが24名、どちらとも言えないが4名である。昨年度との比較では、0.1ポイント高い。全体平均との比較でも、0.1ポイント高い。</p> <p>Q4のシラバスと授業内容に整合性はありましたかについての平均は4.7（留学生は4.5）で、回答者数を見ると、良いが70名、やや良いが27名、どちらとも言えないが2名である。昨年度との比較では、同数である。全体平均との比較でも、同数である。</p> <p>Q5の授業内容は興味あるものでしたかについての平均は4.6（留学生は5.0）で、回答者数を見ると、良いが66名、やや良いが28名、どちらともいえないが5名である。昨年度との比較では、0.1ポイント高い。全体平均との比較では、同数である。</p> <p>授業内容に関しては、昨年度との比較および全体平均との比較においても同数または0.1ポイント高い数値が出ており、概ね良好である。学生のコメントを見ると、実技確認までの授業回数が適当であったことは重要であると感じた。今後も学生の習熟状況はきちんと把握していきたい。また、予習・復習として茶道文化研究所作成の動画を活用したことも興味関心を高める要因であったと思う。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11</p>	<p>Q6の話し方は明瞭でしたかについての平均は4.7（留学生は5.0）で、回答者数を見ると、良いが76名、やや良いが19名、どちらとも言えないが3名、良くないが1名である。昨年度との比較では、同数である。全体平均との比較でも、同数である。</p> <p>Q7の熱意の感じられる授業でしたかについての平均は4.8（留学生は5.0）で、回答者数を見ると、良いが78名、やや良いが18名、どちらとも言えないが3名である。昨年度との比較では、0.1ポイント高い。</p>

項目見出し	コメント
スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	<p>。全体平均との比較でも、0.1ポイント高い。</p> <p>Q8の教科書、参考書、配布プリントの使用は適切でしたかについての平均は4.6（留学生は4.5）で、回答者数を見ると、良いが64名、やや良いが27名、どちらとも言えないが8名である。昨年度との比較では、0.2ポイント高い。全体平均との比較では、0.1ポイント低い。</p> <p>Q9の板書や機器（OHP、パワーポイントなど）の使用は適切でしたかについての平均は4.3（留学生は5.0）で、回答者数を見ると、良いが52名、やや良いが22名、どちらとも言えないが24名、良くないが1名である。昨年度との比較では、同数である。全体平均との比較では、0.3ポイント低い。</p> <p>Q10の遅刻や私語が授業の妨げにならないように対応していましたかについての平均は4.6（留学生は5.0）で、回答者数を見ると、良いが65名、やや良いが28名、どちらとも言えないが5名、あまり良くないが1名である。昨年度との比較では、同数である。全体平均との比較でも、同数である。</p> <p>Q11の学生の授業参加を促すような工夫がなされていたかについての平均は4.7（留学生は4.5）で、回答者数を見ると、良いが76名、やや良いが18名、どちらとも言えないが5名である。昨年度との比較では、0.1ポイント高い。全体平均との比較では、同数である。</p> <p>授業方法に関しても全体的には良好である。しかし、茶道文化が実技を主とする授業の特性を持っていることから、板書やOHPなどの機器を使用することはほとんどないのが現状である。そのため、Q9の板書や機器の使用については、低い数値となっていると考える。また、指導の統一性や私語への対応について学生から要望が出ている点は、反省点として指導者の研修およびローテーションを行いながら改善していく。</p>
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	<p>授業の構成に関しては、実技確認という一つの目標を設定したことで、目標達成のために学生の授業への取り組む姿勢がより積極的になったと思われる。一方で、指導者によって教え方が異なるとの指摘もあることから、指導者間の統一を図っていきたい。また、指導者をローテーションして欲しいという要望もあるため、指導者間での情報共有をしながら学生の授業環境を整えていきたい。後期に開講される茶道文化ⅠBでは、「茶の歴史と鎮信流」についての講義を取り入れており、茶道を通じた日本の歴史の学びや地域の再理解や再発見の機会となっていることがわかった。さらに、初釜や松芳忌を執り行うことで、日本の年中行事である正月の意味や、創立者が茶道を教育に取り入れた由来などを知ることにつながっている。</p> <p>なお、本クラスは、茶道文化ⅠBの中でも履修者が100名を超え最多数である。少人数での指導体制を組むために3会場を使用したことは、学生に対して良い授業環境を提供することができたのではないかとと思われる。また、SAの学生と交流ができたことは学生にとって良い刺激となり、学習意欲の向上につながったと思われる。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 水1

科目名 茶道文化ⅡB

教員名 嶋内 麻佐子

回答者数/履修者数 30/34

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>Q13の授業に参加して満足できましたかの平均は4.8で、回答者数を見ると、満足が25名で、やや満足が5名である。昨年度との比較では、0.3ポイント高い。全体平均との比較では、0.1ポイント高い。</p> <p>本クラスは、履修者が34名ということで、自明堂を使用して、少人数グループを編成して授業を行った。各班に1名の指導者を配置しており、学生が質問等をしやすい環境を整えており、点前の習得につながっていることが満足度の向上に寄与しているものと考えられる。また、茶道文化Ⅱは、茶道文化Ⅰのように学科毎にクラスが分かれておらず、違う学科の学生が同じクラスを受講するため、学生間で様々な交流が生まれ、コミュニケーション能力を高める機会にもなっていたことは良好である。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>学生の受講態度については平均が4.6で、回答者数を見ると、熱心が20名、やや熱心が8名、どちらとも言えないが1名である。昨年度との比較では、0.1ポイント低い。全体平均との比較では、0.1ポイント高い。</p> <p>昨年度との比較では低いものの、全体平均より0.1ポイント高い数値が出ているのは良好である。茶道文化ⅡBでは、濃茶点前の習得を主とした授業内容を計画しているが、着付けや生け花、絵手紙の中から学生が希望する内容を行うオプション授業も設けている。点前以外にも日本文化を体験する時間を設けることで、楽しみながら日本文化に触れ、理解を深めることにつながっていることも受講態度や学習意欲の向上に影響しているものと考えられる。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>Q3の授業はよく編成され、まとまっており、分りやすかったですかについての平均は4.8で、回答者数を見ると、良いが24名、やや良いが5名、どちらとも言えないが1名である。昨年度との比較では、0.4ポイント高い。全体平均との比較では、0.2ポイント高い。</p> <p>Q4のシラバスと授業内容に整合性はありましたかについての平均は4.8で、回答者数を見ると、良いが24名、やや良いが5名、どちらとも言えないが1名である。昨年度との比較では、0.4ポイント高い。全体平均との比較では、0.1ポイント高い。</p> <p>Q5の授業内容は興味あるものでしたかについての平均は4.7で、回答者数を見ると、良いが22名、やや良いが8名である。昨年度との比較では、同数である。全体平均との比較では、0.1ポイント高い。</p> <p>授業内容に関しては、すべての項目において高い数値が出ており概ね良好である。茶道文化Ⅰでは点前の習得が主であったが、茶道文化Ⅱでは濃茶点前の他にオプション授業やミニ茶会、炭点前等の多岐にわたる内容が計画されていたこともあり、学生の興味関心を惹いたのではないかと考えられる。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>Q6の話し方は明瞭であったかの平均は4.8で、回答者数を見ると、良いが24名、やや良いが5名、どちらとも言えないが1名である。昨年度との比較では、0.4ポイント高い。全体平均との比較では、0.1ポイント高い。</p> <p>Q7の熱意の感じられる授業であったかの平均は4.9で、回答者数を見ると、良いが26名、やや良いが4名である。昨年度との比較では、0.5ポイント高い。全体平均との比較では、0.2ポイント高い。</p> <p>Q8の教科書、参考書、配布プリントの使用は適切であったかの平均は4.4で、回答者数を見ると、良いが17名、やや良いが7名、どちらとも言えないが6名である。昨年度との比較では、0.1ポイント高い。全体平均との比較では、0.3ポイント低い。</p> <p>Q9の板書や機器（OHP、パワーポイントなど）の使用は適切であったかの平均は4.4で、回答者数を見ると、良いが18名、やや良いが6名、どちらとも言えないが6名である。昨年度との比較では、0.3ポイント高い。全体平均との比較では、0.2ポイント低い。</p>

項目見出し	コメント
	<p>Q10の遅刻や私語が授業の妨げにならないように対応したかの平均は4.5で、回答者数を見ると、良いが18名、やや良いが10名、どちらとも言えないが1名、良くないが1名である。昨年度との比較では、0.1ポイント高い。全体平均との比較では、0.1ポイント低い。</p> <p>Q11の学生の授業参加を促すような工夫がなされていたかの平均は4.7で、回答者数を見ると、良いが21名、やや良いが9名である。昨年度との比較では、0.4ポイント高い。全体平均との比較では、同数である。</p> <p>授業方法に関しては、概ね良好な数値が出ている。一方で、Q8とQ9については全体平均より低い数値となっている。しかし、茶道文化は実技を主とする授業の特性を持っていることから、配布プリント等がなく、板書やOHPなどの機器を使用することはほとんどないのが現状である。そのため、Q8やQ9の項目については、低い数値となっていると考える。また、Q10についても全体平均より低くなっているため、指導者間で私語等への注意を促すよう努めたい。</p>
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	<p>茶道文化Ⅱは選択科目となり、必修科目である茶道文化Ⅰに比べると履修者が減少する。そのため、少人数での班編成を組むことにつながり、指導者の目が行き届き、各班で充実した点前の稽古ができていくことは大変良好な点である。また、薄茶点前を基本として、濃茶点前や炭点前の理解を深めることで、茶道文化ⅡB終了時に鎮信流初歩伝免許状を申請することができるのも、学生にとっては大きな付加価値となっている。さらに、着付けや生け花、絵手紙といったオプション授業も毎年好評で、様々な日本文化を経験することが新鮮で、魅力的な授業内容となっている。一方で、これまでの学びを今後につなげるためにミニ茶会を計画したところ、茶会の流れや亭主と客のやりとりを学ぶことができ、茶道文化Ⅲへの足掛かりとなっているのではないかと感じられる。学内で学んだことを学外で表現できる機会を設け、学生が主体的に学ぶことができる授業を組み立てていきたい。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 水2

科目名 茶道文化IV B

教員名 嶋内 麻佐子

回答者数/履修者数 3/6

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>Q13の授業に参加して満足できましたかの平均は5.0で、回答者数を見ると、満足が3名である。昨年度との比較では、同数である。全体平均との比較では、0.3ポイント高い。 満足度に関しては、大変高い数値が出ており良好である。 本クラスは、前期の茶道文化IVAで学外での波佐見茶会を経験していることもあり、後期は卒業茶会ということで学外からお客様を迎えての茶会を開催した。正式な茶事とまではいかないものの、懐石料理を含めた形式で、4年間の集大成として卒業茶会を開催することができたのは、満足度の向上に大きく影響していると思われる。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>学生の受講態度についての平均は5.0で、回答者数を見ると、熱心が3名である。昨年度との比較では、0.4ポイント高い。全体平均との比較では、0.5ポイント高い。 学生の受講態度や学習意欲等については、昨年度および全体平均よりも0.4～0.5ポイント高い結果が出ている。卒業茶会の練習や本番を通して、学生と指導者のコミュニケーションが密に行われ、指導者の熱意が学生に伝わったことも良い結果につながった要因であると考えられる。茶会を何度も経験したことによって茶道の奥深さや魅力について実感できたと思われる。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>Q3の授業はよく編成され、まとまっており、分かりやすかったですかについての平均は4.7で、回答者数を見ると、良いが2名、やや良いが1名である。昨年度との比較では、0.3ポイント低い。全体平均との比較では、0.1ポイント高い。 Q4のシラバスと授業内容に整合性はありましたかについての平均は5.0で、回答者数を見ると、良いが3名である。昨年度との比較では、同数である。全体平均との比較では、0.1ポイント高い。 Q5の授業内容は興味あるものでしたかについての平均は5.0で、回答者数を見ると、良いが3名である。昨年度との比較では、同数である。全体平均との比較では、0.4ポイント高い。 授業内容に関しては、全体的に概ね良い結果が出ている。卒業茶会開催に向けての内容が主であり、亭主や接待の動きのみならず、茶会で使用する道具の組み合わせについての説明をすることで茶会のテーマ等を共有した。茶会を通してホスピタリティを学ぶことにつながっており、学生にとって有意義な時間となっていることがわかる。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>Q6の話し方は明瞭でしたかについての平均は5.0で、回答者数を見ると、良いが3名である。昨年度との比較では、0.1ポイント高い。全体平均との比較では、0.3ポイント高い。 Q7の熱意の感じられる授業の平均は5.0で、回答者数を見ると、良いが3名である。昨年度との比較では、同数である。全体平均との比較では、0.3ポイント高い。 Q8の教科書、参考書、配布プリントの使用は適切でしたかについての平均は4.3で、回答者数を見ると、良いが2名、どちらとも言えないが1名である。昨年度との比較では、0.4ポイント低い。全体平均との比較でも、0.4ポイント低い。 Q9の板書や機器（OHP、パワーポイントなど）の使用は適切でしたかについての平均は4.3で、回答者数を見ると、良いが2名、どちらとも言えないが1名である。昨年度との比較では、同数である。全体平均との比較では、0.3ポイント低い。 Q10の遅刻や私語が授業の妨げにならないように対応していたかの平均は5.0で、回答者数を見ると、良いが3名である。昨年度との比較では、0.3ポイント高い。全体平均との比較では、0.4ポイント高い。</p>

項目見出し	コメント
	<p>Q11の学生の授業参加を促すような工夫がなされていたかの平均は5.0で、回答者数をみると、良いが3名である。昨年度との比較では、同数である。全体平均との比較では、0.3ポイント高い。</p> <p>授業方法に関しては、全体的に良い結果が出ており、良好である。一方で、Q8とQ9については低い数値となっている。しかし、茶道文化は実技を主とする授業の特性を持っていることから、配布プリント等がなく、板書やOHPなどの機器を使用することはほとんどないのが現状である。そのため、Q8やQ9の項目については、低い数値となっていると考える。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>後期は、4年間の集大成として懐石料理を含めた簡略した形式での卒業茶会を計画し、学内外より客を迎え、もてなしの実践を行った。授業では少人数であったため、担当者との交流も盛んに行われ、熱心な対応が授業の理解度や満足度につながっていることがわかった。また、茶会を何度も経験することで臨機応変な対応や周りを見る力も培うことができていると思われる。学生のコメントからは、4年間茶道を学ぶことが有意義であることを学生自身が感じている様子が見受けられ、充実感を得ている。</p> <p>卒業後、社会人の即戦力となることができるよう、今後も茶道を通じたもてなしの心を持った学生の育成を引き続き行っていきたいと考える。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 金2

科目名 茶道文化ⅢB

教員名 嶋内 麻佐子

回答者数/履修者数 9/10

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>Q13の授業に参加して満足できましたかの平均は4.8で、回答者数を見ると、満足が7名、やや満足が2名である。昨年度との比較では、0.1ポイント高い。全体平均との比較でも、0.1ポイント高い。</p> <p>茶道文化ⅢBでは、これまでに習得してきた薄茶点前や濃茶点前を基本として、隅切棚の習得と三川内陶器市での茶道体験の開催を主な授業内容とした。隅切棚の点前については、学生の習熟度を見ると大変理解度が早く、各指導者とも協議した結果、中風炉点前の稽古も追加することとなった。様々な点前を学ぶことができるのは満足度向上の大きな要因と考える。また、学外でのフィールドワークとして三川内陶器市での茶道体験ということで、学生が地域の方々へお茶の点て方や飲み方をレクチャーした。学内で礼儀作法を学ぶだけではなく、学外で幅広い年代の方々とのコミュニケーションを取ることで新たな発見ができていいることも満足度に影響を与えているものと考え。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>学生の受講態度については平均が4.4で、回答者数を見ると、熱心が7名、やや熱心が1名、不熱心が1名である。昨年度との比較では、0.3ポイント低い。全体平均との比較では、0.1ポイント低い。</p> <p>昨年度および全体平均より低い数値となってしまったことは反省点であるが、学生からは「4年生(茶道文化Ⅳ)でも頑張りたい」とのコメントがあり、茶道文化Ⅲで行った授業内容に対して一定の評価を得ているものと考え。特に、茶道文化Ⅳの履修につながるように、寄付や外待合、懐石などの茶事の流れも部分的に取り入れたことは、学生の興味関心を高め、受講態度や学習意欲に影響を与えているものと思う。点前だけでなく、茶会の開催を意識した授業内容は学生にとって、魅力あるものであると考え。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>Q3の授業はよく編成され、まとまっており、分りやすかったですかについての平均は4.8で、回答者数を見ると、良いが7名、やや良いが2名である。昨年度との比較では、同数である。全体平均との比較では、0.2ポイント高い。</p> <p>Q4のシラバスと授業内容に整合性はありましたかについての平均は4.8で、回答者数を見ると、良いが7名、やや良いが2名である。昨年度との比較では、同数である。全体平均との比較では、0.1ポイント高い。</p> <p>Q5の授業内容は興味あるものでしたかについての平均は4.8で、回答者数を見ると、良いが7名、やや良いが2名である。昨年度との比較では、同数である。全体平均との比較では、0.2ポイント高い。</p> <p>授業内容に関しては、全体的に高い数値が出ており概ね良好である。隅切棚や中風炉といった新しい点前、三川内陶器市でのフィールドワーク、茶事の流れ等、多岐にわたる内容を取り入れたことで、これまでの茶道文化よりも深く学ぶことにつながっていることが、高い数値が出ている要因だと考える。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>Q6の話し方は明瞭でしたかについての平均は4.7で、回答者数を見ると、良いが6名、やや良いが3名である。昨年度との比較では、0.1ポイント低い。全体平均との比較では、同数である。</p> <p>Q7の熱意の感じられる授業でしたかについての平均は4.8で、回答者数を見ると、良いが7名、やや良いが2名である。昨年度との比較では、同数である。全体平均との比較では、0.1ポイント高い。</p> <p>Q8の教科書、参考書、配布プリントの使用は適切でしたかについての平均は4.6で、回答者数を見ると、良いが6名、やや良いが2名、どちらとも言えないが1名である。昨年度との比較では、0.3ポイント高い。全体平均との比較では、0.1ポイント高い。</p> <p>Q9の板書や機器(OHP、パワーポイントなど)の使用は適切でしたかについての平均は4.6で、回答者数を見ると、良いが6名、やや良いが2名、どちらとも言えないが1名である。昨年度との比較では、</p>

項目見出し	コメント
	<p>0.3ポイント高い。全体平均との比較では、同数である。 Q10の遅刻や私語が授業の妨げにならないように対応していましたが、についての平均は4.4で、回答者数を見ると、良いが7名、やや良いが1名、良くないが1名である。昨年度との比較では、0.2ポイント低い。全体平均との比較でも、0.2ポイント低い。 Q11の学生の授業参加を促すような工夫がなされていましたが、についての平均は4.7で、回答者数を見ると、良いが7名、やや良いが1名、どちらとも言えないが1名である。昨年度との比較では、同数である。全体平均との比較でも、同数である。 授業方法に関しては、全体的に昨年度および全体平均と比較して良い結果が出ており良好である。しかし、Q10に関しては低い数値となっている点は反省点であり、各指導者が注意して、きちんとした授業環境を整えることが必要である。また、授業の出席状況なども管理をして、学生をフォローアップする体制も整えていきたい。</p>
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	<p>今年度は、三川内陶器市での茶道体験をフィールドワークとして活用し、実施した。授業の中で練習を行う中で、学生同士で道具の配置や声のかけ方などを意見交換し、課題解決する姿が見受けられた。実際に本番当日を迎えたときも、自分自身の役割（接待、水屋、呼び込み）を考えながら行動しており、よくコミュニケーションが図られている状況であった。特に、一般の方々と接する機会があるシーンでは、社会に出たときに遭遇する実践的な場面を想定することにつながると思う。 次のステップとして茶道文化Ⅳでも、学内で学んだことを茶会として表現する機会を多く設け、学生が主体的に学ぶことができる環境づくりを徹底したいと考える。また、茶道文化Ⅳへの導入として、茶事の流れを部分的に実施できたことも大変効果的であった。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 月1

科目名 ホテルオペレーション

教員名 落合 和昭

回答者数/履修者数 63/90

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>2021年度に実施した際に比較して、回答率は向上（前回65.3%⇒今回70.0%）してアンケートの精度向上は図られたが、満足度は若干下降（前回4.5⇒今回4.4）した。前回同様に2および1の評価は無いものの、5が過半数をやや下回ったため満足度に反映したものと推測される。しかしながら、引き続き「授業の内容について」「授業の方法について」「授業に対する理解度、満足度について」のいずれも4.2以上にあり、引き続きバランスの良い授業が行えたものと考えられる。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>前回同様に、外部講師の臨場感あふれる授業と前後の解説講義による理解浸透が、「実際に働いている方のお話を聞くことができ良かった」「わかりやすい」などのコメントに繋がっていると感じるほか、前回授業資料の改善に関する希望を見受けたため、ポートフォリオの活用や外部講師への依頼などを実施した結果、「パワポが適切でとてもわかりやすかった」とのコメントも得て、改善につながったと評価したい。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>出席管理の厳格化に関して意見（真面目に受けている人が損をしている）が寄せられたが、システムへの依存を強化するには限度があるため、新型コロナウイルス感染症への配慮も沈静化したことから、出席登録を前提としたグループ討議を取り入れるなどの工夫を検討したい。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>前回は私語に関する注意喚起の希望が寄せられたが、外部講師の講義中に室内を巡回するなど工夫を行っている。前項に記載した通り更なるコミュニケーション強化による授業の活性化を図りたい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>前回は授業内容を理解できない（評価2）の学生を見受けたが、今回は満足度とともに全て3以上となった。次年度よりブライダルマネジメントと一体になった授業に再編される予定だが、一層充実した講義となるよう検討していきたい。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 月3

科目名 専門演習 I B

教員名 落合 和昭

回答者数/履修者数 8/8

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>前年に比較して向上 (4.5⇒4.9) したほか、回答率も向上 (90.9%⇒100.0%) したことで、総合的な評価向上が図られたものとする。引き続き当該水準の維持向上に努めていきたい。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>授業理解と満足度がいずれも評価4以上にあるほか、「専門的な知識が得られた」とのコメントにもある通り、演習主旨が学生の希望に適っていたと思われる。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>授業への興味は高い水準にあるものの、「授業の編成やわかりやすさ」について評価3が見受けられる。演習の課題や進め方について学生からアンケートを募るなど、より興味に応える課題の選定を行いたい。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>全て4.8以上となっており特段の改善項目は見受けないが、授業への参画に関して学生からのフィードバックを促す工夫を検討する。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>前回と比較して全体的な向上を見受けるものの、更なる授業理解と満足度向上を図るべく、近隣ホテルとのタイアップ企画などキャリアプランを意識した活動を拡大していく。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 月3

科目名 教育原理

教員名 乙須 翼

回答者数/履修者数 45/57

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>授業に対する満足度は4.4という結果であり、昨年より0.1ポイント増加した。ただし、無回答者が7名、3と回答した学生も4名いた。他の質問に関しても、無回答者は少ないが3と回答した学生が比較的多く、受講生の5分の1から6分の1ほどの学生が授業についていけない、あるいはよく理解できない、まじめに取り組まない、という状況であったことがわかる。実際、教職課程の必修科目であるにもかかわらず逃げや授業コメントほぼ未提出といった学生がいるなど、受講生の受講態度に疑問を感じる場面も多々見受けられた。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>今年度新たに取り組んだことは特にないが、教職課程の必修科目とは言え、受講生の予備知識や受講意欲に大きな幅があるため、予習を促したり、毎回のコメントで授業の振り返りをさせたり、といった工夫は行っている。その結果、予備知識もあり、積極的に受講している学生はコメントの中身や文章力も向上していくが、逆に予備知識もなく、予習など授業への取り組みも足りない学生は最後までよく理解できないまま終わっているということになっている。教職課程の授業は卒業単位ではないため、全員に単位を取得させることが目的ではないが、教職への意欲をいかに1年次の授業から継続させていくかはやはり課題である。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>授業の内容に関する質問の結果は、4.5から4.6であった。授業内容については、教職コアカリキュラムに照らし合わせて構成しているため、大きく変更することは難しい。逆に言えば、受講生（回答者）のうち5名程度が教職を目指しながらも「教育」というものに興味があまり持っていない状況がうかがえる。授業内容が難しく、また歴史的な内容も含むため、できる限り今の学校や教室の現場とも繋がるような例を出して説明はしているつもりであるが、そういった例についてもピンと来ていない学生もいるように思える。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>授業方法に関しては4.5から4.6という結果であった。学生の授業参加や学生とのやりとりはもう少し取り入れたいと考えているが、授業内容の理解を優先してしまうため、時間的に余裕がないのが正直なところである。予習を確実にさせるなどして、授業時間中の相互的なやりとりにもう少し時間が取れるような工夫が必要かもしれない。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>近年、教職課程を履修する学生の数が増えており、それに伴い、本授業も多く学生が受講するようになってきている。しかし、同時に、授業内容に関する予備知識や学習意欲が乏しい学生の割合も増えてきており、教職にまじめに取り組む学生とそうでない学生の差がひろがってきている。本授業は教育の難しさや複雑さを考える機会を提供すると同時に、教育に対する興味や深みを感じさせたい科目であるが、その点ができているのか、この近年の状況を考えると実感が持てていない。教員側もやり方を工夫しつつ、学生側にも教職を目指す学生としてもう少し自覚を促したいところである。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 木2

科目名 キャリア開発 I

教員名 乙須 翼

回答者数/履修者数 247/311

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>授業に対する満足度は平均4.5と、2020年度に実施したアンケートと同様の数値であった。ただし、無回答者が30名、3以下が24名と、満足と回答していない学生の数も多くみられた。この数字はQ.2の授業態度に対する自己評価の結果とほぼ一致しており、受講生の5分の1ほどが、授業にまじめに取り組まず、満足もしていないということが伺える。1年生の必修科目であり、再履修者も多いため、受講学生のモチベーションが最初から低いことがこの結果になっているのではないかと考えている。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>今年度新しく取り組んだことは、学外授業として受講生をバスで合同企業セミナーに連れて行ったことである。結果的には200名近くの学生が参加し、多くの学生が良い経験であったと感じていたようであった。また、卒業生や4年生の他、企業の人事担当者など、多くの外部講師にキャリアについて話をしてもらったことも学生にとっては新鮮であったようである。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>授業の内容に関する質問については、4.3から4.5という結果であった。自由記述では、自己分析や自分の興味をプレゼンテーションする課題が難しかったとの声があったが、外部講師の招聘など、概ね授業内容には満足しているようであった。ただ、日本語があまり上手でない留学生が多く受講していたという点で言えば、講話スタイルの授業は理解が難しかった部分もあったのではないかと考えている。スライドをマナバに提示するなど工夫はしたが、次年度も留学生が増えることを考えると、その点がやや課題である。また、3と回答している学生が30名ほどいる点もやはり気にあるところである。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>授業の方法については、4.4から4.5という結果であり、自由記述でも特に不満の声はなかった。課題としては、上に書いたように、留学生への配慮や、大教室の座席によるスライドの見にくさ等への配慮がもう少しできればよかったのではないかと考えている。その点が3と回答した学生数にも表れているのではないかと感じている。またSPIなど、授業外での学修を促す工夫を授業に取り入れてみたが、やはり取り組まない学生は多く、結果的には例年と同様、もしくは例年以上にFやDの学生が出るという結果になった。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>4101教室がほぼ満杯となる授業であり、授業中も授業態度等について厳しめに指導をしたため、授業アンケートの結果はあまりよくないものと考えていたが、予想していたよりも学生が授業に満足していることが確認できた。特に、他の授業とは違い、自分のことを考えるきっかけとなる時間を提供するという趣旨であるため、様々な外部講師を招聘して授業を展開した点が学生にとっては新鮮であったのではないかと考えている。次年度は、座席指定の仕方や変更の頻度、留学生やピアサポートが必要な学生などへの配慮も加味しながら、多くの学生が単位取得できるような工夫を盛り込んでいきたい。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 火3

科目名 コンピュータ基礎演習 I B

教員名 尾場 均

回答者数/履修者数 54/66

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>4.4 (昨年度4.3) 今日のスピードは繰り返しやゆっくりと進めるため数年書かれていた「早い」は激減している。 また広い教室ですが巡回(学生の画面を見る動作)も定着してる。補助員学生も積極的に声かけしてることで、全体に合わせた授業と補助員学生のサポートがうまく出来たと思う。 昨年度の指摘、そしてカリキュラム変更に伴い情報関連の講義の追加、何度も繰り返しやゆっくり包める方法が伝わったことがコメントにも見られる。 今年度も課題の提出率も高く、小テストの内容もよく、授業の参加意識と理解ができていたと思われる。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>前回の授業を復習からの進む方法で授業内容を改善した。また途中で相互の学生で相談や確認をするような時間を設けることで学生の受講態度も良く、また学習意欲等の向上につながったと思われる。 毎回、学生の意見を聞くアンケートを設置することで、学生対応もできた。また、問題点への対処も迅速に行って、満足度の高い授業になっていたと思う。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>Q3 4.3 Q4 4.4 Q5 4.2 (2022年 Q3 4.3 Q4 4.1 Q5 4.0) スコアは向上した。しっかりと学生の進捗状況と見て、学生アシスタントとの連携が学生の理解度や満足度の向上につながると考えて授業を実施した。 各回の授業に関してはシラバスに沿って実施した。回により多少のずれがあるがシラバス通りに授業を進めた。これも授業の復習による効果であるが結果は低い回答も見られた。各回しっかりと完結しているが、アンケートから授業内容には興味のない学生が見られた。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>話し方、熱意は昨年度から下がる項目があった。熱意を感じる授業は心がけているが、伝わるように改善したい。説明が早いという意見も減り、授業内容も方法も含め、良い方向に改善できたと思われるが、遅刻や私語が授業の妨げにならないように対応についてのスコアについて、授業態度の悪い学生に何度も注意する時間が全体の授業の流れの妨げになっていた。これはどうすることもできない問題であるが、教職員と共有して改善したい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>テストのための授業だけではなく、将来、就職などに役立つ内容を心がけた。今後この分野の授業には社会におけるデータ・AI活用の技術や最新動向も必要になってくる。また利活用におけるデータリテラシーも組み込む予定である。常に最新のテクノロジーを理解し授業内容を準備して、学習意欲向上に繋がる内容としたい。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 火5

科目名 情報処理論

教員名 尾場 均

回答者数/履修者数 17/22

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>連続で4.6だったが、今回は4.9となった。 特に教科書とは別に情報関連のニュースや社会情勢など、多くの旬の情報をわかりやすく説明すること、また身近に関係することや行動などを実例を紹介した。講義が終わってから、その学びから自ら行動するような場面、行動後の感想の報告を受けた。実際に学んで自ら行動することで授業内容に満足度が向上したと思われる。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>教科書やスライドだけでなく、実際に授業で聞いたことを、授業内外で体験する機会や体験しようとする意欲を持たせることが学生の受講態度、学習意欲等の向上につながったと思う。昨年までは寝ている学生も見えたが、今年度は興味深く授業に参加する学生を見ることができた。講義の内容が実社会の現実であること、そして自分自身で体験することで学習意欲等の向上がみられたと思う。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>教科書以外で実例紹介やデモンストレーションなどを実施するためシラバスとの整合性(質問4:4.6)は不安であったが授業内容は興味あるものだったと思う(質問5:4.8) 途中で機材のトラブルやネット環境の不具合もあったが、これまでの経験で代替えの用意も万全だった。毎年内容を変化せざるを得ない内容であるので、今後も新しい内容で学生にわかりやすい内容の授業を構成する。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>熱意の感じられる授業でしたか(7-4.9)は納得のいく評価である。この分野では学生よりも早くトレンド情報を提供しているので情報収集の早さや情報量で熱意を感じていると思う。質問9のスコア結果は教室の古い提示機器(プロジェクター)の問題である。板書およびスライドに不備はないと思う。 教科書よりも正確で旬であるため、学生の興味を持たせる授業となった。居眠りや途中退出の学生もいないため質問10は不要である。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>自由記述にも「全体的にとっても興味がある分野」「自分たちの興味があるものがたくさん紹介されていて面白い体験ができた」などこちらで準備している内容が学生に伝わっていると思う。 今後も同様の準備と授業内容で科目を実施する。 「強いて言うならプログラミングやWeb開発のことを少し学びたかった。」の記述へは他の科目(コンピュータ基礎II)で対応する。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 水3

科目名 専門演習ⅢB

教員名 佐野 香織

回答者数/履修者数 8/8

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>体験とふりかえりを繰り返し、自律的に論文化めざす方法が受講生にあっていただと思われる。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>ワークショップ、外部の方との交流、活動をおこなってきた。個人個人の興味関心に沿って行うことができたのも高評価につながったと思われる。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>文献学習を課題の読みものとしてきたが、一人で課題に取り組む姿勢づくりも必要であると考ええる。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>文献に関する情報、説明を加えた資料を用意するなど、可視化できるものを適宜配布することを考えたい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>ゼミの取り組み方法、コミュニケーション能力に対する問題意識にも焦点をあてて活動をデザインしてきた。来年度は、もう少し早く活動の準備を行う</p>

アクションプランシート

2023年度後期 火5

科目名 テーマパーク論

教員名 城本 高輝

回答者数/履修者数 16/128

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>全体的に満足できる結果であった。ただ、アンケートへの回答を何度も促したが、回答数は大変少なかった。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>外部講師を招いて、授業を行った。実際にテーマパークなどの実務に関わっている方々の話であり、大変興味深く聞いている学生が多かったと感じる。一方で、関心の低い学生も見受けられ、対策が非常に難しいと感じる。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>夕方の部活前に授業に立ち寄る感覚の学生が多い。授業が午前中にあるとそうした学生が少なくなる可能性がある。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>学習についての習慣がない学生について、対策が必要と考えられる。しかし、まずは、本人がある程度学習に興味を持たないと対策も打ちにくい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>本年度をもって退職となり、テーマパークに関連する授業はなくなるが、観光産業の施設はテーマパークと見立てると役に立つ知見がある。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 火1

科目名 海外観光資源A

教員名 竹田 文雄

回答者数/履修者数 105/121

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>満足度平均は4.6pt。留学生以外が4.7pt、留学生が4.6pt。総じて努力の甲斐が評価されたと思料しており、今回の評価結果については概ね満足している。しかしながらここで留まることなく、評価結果のさらなる向上を目指して各評価項目を確認していく。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>【留学生以外】と【留学生】の評価結果の間には微細ではあるが0.1ptの差異がある。この差異の理由のひとつには日本語理解力が関与するものと思料する。しかしながら観点を変えると、必要以上に難しい表現の使用を回避するとともに、努めて視覚素材を多用したことで、この差異を0.1ptに抑えこめたのではないかとも思料している。話し方や資料の展開などの講義スピードが速くなりすぎないことに留意していた点が、結果的に留学生以外の学生に対してもプラスに作用したものと考えられる。次年度に向けては、5段階評価の「3」を「4」以上に向上するための手法を検討していく。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>質問「4」のシラバスと授業内容の整合性については毎回の授業で最も留意している点のひとつであるが、評価結果「3」が複数見受けられることから、次年度に向けて再度確認していく。また質問5の評価結果をさらに向上させるための手法を検討していく。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>質問8と質問12が次年度に向けての課題であると認識している。各回の授業では教科書とパワーポイント資料を併用しているが、その使用バランスを再考することで、これらの評価結果の向上を試みる。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>自由記述の評価が総じてポジティブな内容であることに安堵している。特に「先生の海外での経験や知見を活かした素晴らしく有意義な時間でした。」「履修した科目の中に一番好きな授業です。」といった評価は教員冥利に尽きるものである。ネガティブな評価に対する改善に真摯に努めていくことは無論のことではあるが、さらに、ポジティブな評価に対する一層の向上と研鑽に努めてまいります。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 火3

科目名 英語演習 II A
 教員名 Thom W. Rawson
 回答者数/履修者数 29/39

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>The overall score of 4.4 is satisfying for me. It shows the students overall were happy with their participation in the class. 総合得点が4.4点というのは、私にとっては満足のいくものだ。これは、生徒が全体的に授業への参加に満足していたことを示している。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>I think the weekly schedule of class activities became a cycle that students were able to follow easily. There was no confusion about what was expected. As a result, the students were able to focus on developing their English reading and writing skills through the planned activities. 毎週のクラス活動のスケジュールは、生徒たちが無理なくついていけるサイクルになったと思う。何が期待されているのか混乱することはなかった。その結果、生徒たちは計画された活動を通して、英語の読み書きのスキルを伸ばすことに集中することができた。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>A 4.4 score in each of these three categories is satisfying for me. Every student answered at least 3 or above. Some of the comments I received indicated that the students appreciated the extra explanations given during class each week. この3つのカテゴリーでそれぞれ4.4点というのは、私にとっては満足のいくものだ。すべての生徒が少なくとも3以上と答えた。私が受け取ったコメントの中には、毎週授業中に行われる特別な説明を生徒が高く評価しているというものもあった。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>Again, the majority of students reported 3 or above for these 6 categories. One student reported that my speech was not so clear (a 2 of 5), but otherwise the rest of the students seemed OK. I received a majority score of 5 from more than 1/2 of the students in the class. ここでも、大半の生徒がこの6つのカテゴリーで3以上と回答した。私のスピーチがあまりクリアでなかったという生徒が1人いたが(5点満点中2点)、それ以外の生徒は問題ないようだった。私はクラスの1/2以上の生徒から過半数の5点もらった。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>I think when you have some students of very low academic ability and low motivation for learning, it is difficult to strike a balance in the class focused on practicing English reading and writing skills. If motivation exists, the learning will happen more naturally and students can have greater enjoyment of the class. As the teacher, I find it challenging to encourage students to be motivated about the materials. I will continue to focus on contents to motivate students. 学力が非常に低く、学習意欲の低い生徒がいる場合、英語の読み書きの練習を中心とした授業のバランスを取るのには難しいと思います。モチベーションがあれば、学習はより自然に進み、生徒も授業をより楽しむことができます。教える側としては、生徒が教材に対して意欲的になるように働き</p>

項目見出し	コメント
	かけることにやりがいを感じています。今後も生徒のやる気を引き出す内容に力を入れていきたいと思ひます。

アクションプランシート

2023年度後期 木1

科目名 英会話

教員名 Thom W. Rawson

回答者数/履修者数 9/12

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>I think the score of 4.9-5.0 shows that this conversation course provided a lot of enjoyment for the students who participated actively in the class. 4.9~5.0というスコアは、この会話コースが積極的に参加した学生たちに多くの楽しみを提供したことを示していると思う。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>Students were able to express their ideas with planned presentations and discussions in English. I think this helped them to improve their confidence in using the language. 計画的なプレゼンテーションや英語でのディスカッションにより、自分の考えを表現することができた。その結果、英語を使うことへの自信がついたと思う。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>The students graded this section with 4 or 5 which shows their satisfaction with the materials and syllabus. 学生はこのセクションを4または5で評価しており、教材やシラバスへの満足度を示している。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>I think the enthusiasm of the teacher and the class (5.0 for both scores) shows a positive environment. Some students reported lower scores for handouts and materials and the use of the whiteboard as lower (4.7 for both scores) but these are still positive results. I'm not sure why they reported scores as being lower because all materials were stored in the LMS for student use. Classroom management was also scored positively (4.8-4.9). 先生とクラスの熱意（両スコアとも5.0）はポジティブな環境を示していると思う。配布資料や教材の点数、ホワイトボードの使用率が低いと回答した学生もいましたが（いずれも4.7点）、それでもポジティブな結果です。すべての教材は学生が使用できるようにLMSに保存されているため、なぜ点数が低いと報告されたのかはわかりません。教室管理もポジティブなスコア（4.8-4.9）であった。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>Overall this class was enjoyed by most students. As a teacher, I also looked forward to this class each week. I am hoping to continue offering a positive class for students who wish to practice their English conversation skills. 全体的に、このクラスはほとんどの生徒が楽しんでいました。教師としても、毎週このクラスを楽しみにしていました。英会話の練習をしたい生徒のために、これからも積極的にこのクラスを続けていきたいと思っています。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 木3

科目名 English Reading Skills II

教員名 Thom W. Rawson

回答者数/履修者数 25/28

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>Overall the score of this class was reported positively by students. 19 of 26 reported a score of 5.0. このクラスのスコアは、全体的に学生から肯定的に報告されている。26人中19人が5.0点と回答した。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>In this course, students learn the value of reading English books for enjoyment as a passive activity for improving their fluency in English. It requires a lot of quiet time reading books, and ample time is given in each class to perform these activities. Also, students are encouraged to engage with the reading materials through the use of bibliobattle-style presentations. このコースでは、英語の流暢さを向上させるための受動的な活動として、英語の本を楽しんで読むことの価値を学びます。そのためには、静かに本を読む時間を多くとる必要があります。そのための十分な時間が毎回の授業で与えられます。また、ビブリオバトル形式のプレゼンテーションを通して、生徒がリーディング教材に興味を持つよう促します。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>Students reported a high degree of satisfaction with the course contents. The class received scores from 4.7-4.9 in this section. Although the course itself was difficult, it didn't reduce their impression of the course as meaningful. 学生は授業内容に高い満足度を示した。このセクションでは4.7~4.9点を獲得した。コースそのものは難しかったが、それがこのコースを有意義なものだという印象を下げることはなかった。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>Overall, students were satisfied with this section of the course. They scored the course from 4.7-4.9 overall. Some comments I read were that students wondered why a textbook was needed since we didn't use the textbook a lot during the semester. This textbook is used for 3 semesters worth of classes, so hopefully the importance will be realized in the next semester. 全体的に、学生はコースのこのセクションに満足していた。コース全体の点数は4.7~4.9点であった。私が読んだコメントの中には、「学期中は教科書をあまり使わなかったので、なぜ教科書が必要なのか疑問に思った」というものがありました。この教科書は3学期分の授業に使われるので、次の学期にはその重要性が理解されることを期待している。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>This class is typically viewed as the hardest course in the Global Tourism curriculum. There is no other way to increase the speed by which students develop reading skills other than to impress upon them the importance of reading on a daily basis with a goal of improving over time. I will continue to find ways to encourage their efforts moving forward. このクラスは通常、グローバル・ツーリズムのカリキュラムの中で最も難しいコースとみなされている。生徒の読解力を伸ばすスピードを上げるには、時間をかけて上達することを目標に、日々読書をすることの重要性を印象づける以外に方法はない。今後も、生徒の努力を後押しする方法を模索していきたい。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 金2

科目名 英語演習 II B
 教員名 Thom W. Rawson
 回答者数/履修者数 23/27

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>The overall score of 4.4 is satisfying for me. It shows the students overall were happy with their participation in the class. 総合得点が4.4点というのは、私にとっては満足いくものだ。これは、生徒が全体的に授業への参加に満足していたことを示している。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>I think the weekly schedule of class activities became a cycle that students were able to follow easily. There was no confusion about what was expected. As a result, the students were able to focus on developing their English listening and speaking skills through the planned activities. 毎週のクラス活動のスケジュールは、生徒たちが無理なくついていけるサイクルになったと思う。何が期待されているのか混乱することはなかった。その結果、生徒たちは計画された活動を通して、英語のリスニングとスピーキングのスキルを伸ばすことに集中することができた。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>A 4.6-4.7 score in each of these three categories is satisfying for me. Every student answered at least 3 or above. Some of the comments I received indicated that the students appreciated the extra explanations given during class each week. この3つのカテゴリーでそれぞれ4.6-4.7点というのは、私にとっては満足いくものだ。すべての生徒が少なくとも3以上と答えた。私が受け取ったコメントの中には、毎週授業中に行われる特別な説明を生徒が高く評価しているというものもあった。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>The class reported excellent scores in this section as well. This is the result of a curriculum that has been developed and improved for more than the last 5 years. このセクションでも優秀な成績が報告された。これは、過去5年以上にわたって開発・改善されてきたカリキュラムの成果である。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>I think when you have some students of very low academic ability and low motivation for learning, it is difficult to strike a balance in the class focused on practicing English reading and writing skills. If motivation exists, the learning will happen more naturally and students can have greater enjoyment of the class. As the teacher, I find it challenging to encourage students to be motivated about the materials. I will continue to focus on contents to motivate students. 学力が非常に低く、学習意欲の低い生徒がいる場合、英語の読み書きの練習を中心とした授業のバランスを取るのには難しいと思います。モチベーションがあれば、学習はより自然に進み、生徒も授業をより楽しむことができます。教える側としては、生徒が教材に対して意欲的になるように働き</p>

項目見出し	コメント
	かけることにやりがいを感じています。今後も生徒のやる気を引き出す内容に力を入れていきたいと思ひます。

アクションプランシート

2023年度後期 木2

科目名 MICE論

教員名 森尾 真之

回答者数/履修者数 38/67

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>スコアとしては良かったが、その要因としてはコメントにもあるように授業の開始時に期待していた内容以上の学びがあったことではなかったかと考える。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の提出課題について、真剣に取り組む学生が多く、例年がない手ごたえを感じた。 ・本年から都市観光におけるMICEの重要性から、MICEを構成する各業務の内容に順番を入れ替えたことで、学生の視点をうまくリードできたことが良かった。
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>上記(2)に記載の通り、改善の効果が出たことがよかった。できれば座席が可動式で、もう少し小さなサイズの教室だと対話型の講義ができるので、次年度はそのような教室の提供を期待したい。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>まだ一方的に話をしている講義であることから、上記(3)に記載の通り、対話型に変えることで、さらに授業の内容と学生の理解の距離を縮めたい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>年々評価が上がっていることが喜ばしい。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 土2

科目名 地域産業の魅力

教員名 森尾 真之

回答者数/履修者数 85/139

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>スコアとしては普通であるが、無回答が多いのが気になる点である。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>本年から学籍番号での座席指定制にしたことが、講義を真剣に聞くことにつながったことで、関心を示した学生も一部にいたことが成果として挙げられる。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>例年に比べ、スコアが若干低い。あまり積極的でない学生も多く、例年参加いただいているゲストスピーカーからも指摘があった。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>授業の進め方については、学生の主観であるのでこの点が満足度にどのようにかかわっているかはわからないが、この講義については、8や9の設問にはあまり意味がないと考える。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>学生に社会への視点を持たせることが目的であることから、次年度以降も本年のスタイルを踏襲したい。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 土4

科目名 旅行業論
 教員名 森尾 真之
 回答者数/履修者数 33/73

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>回答数が少なく、数字をそのまま評価としては考えにくい。無回答者がおおいという点では満足度があまり高くないともいえる。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>本年は受講者に対して教室が広く、あまり熱心な学生が多くなかった印象であったが、こちらの一方的な授業のやり方を見直すべきであると痛感した。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>コロナ前の業界の情報が中心のテキストであり、講義内容がテキストから離れる部分も多く、この点は次年度改善したい。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>(3) に記入した通り、教材の使用については、来年以降抜本的に見直す予定で、手を動かすよう要素を盛り込みたい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>旅行業への就職者も増えていることから、今回の反省を生かして、改善につなげたい。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 月3

科目名 日本事情 I

教員名 山内 美穂

回答者数/履修者数 45/55

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>本授業は、入学して半年あるいは入学したばかりの留学生向けの全学共通科目で、日本の文化や社会について学ぶものである。質問13の平均結果をみると4.8だったので、学生は授業におおむね満足できたかと思う。毎回の授業には日本の文化や社会について留学生が興味をもつようなトピックを選んで、資料の見せ方を工夫した。さらに毎回の資料をその前の回に配布し、関連した予習課題を出し、学生が自主的に学習できる工夫もした。大半の学生は真剣に授業に向き合っており、その結果がこの評価に現れたのだと思っている。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>授業ではいつも前の回に教員が準備した資料を配布し、次の週に学習する内容の語彙などを調べてくるように促した。配布プリントには()を複数個所設け、授業を聞きながら自身で該当することばを書き込んでいく作業をさせた。授業では配布資料に関連したスライドとともに、時にはビデオなどの視聴も交えながら日本文化や社会について紹介していった。大半の学生は聞き逃さないように懸命に聞いて書き込んでいた。なぜなら、次の回には前回の授業内容の小テストを課していたからである。さらに、日本語会話力向上のため、数回にわたって数人のグループ毎にテーマについてトピックを与えディスカッションと発表をさせた。このため、授業を聞くだけでなく、自身で深くテーマについて考えたり、クラスメイトと考えを共有したりすることで、学習意欲が向上したのではないかと思う。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>質問5についての平均は4.7ということだったので、授業でとりあげたトピックについては大半の学生にとって興味のもてるものだったといえる。質問3~5の回答は3以上が多いが、2と評価したのも2名いることは、授業がわかりにくかったと感じる学生もおり、改善の必要があることであろう。質問2の学生自身の態度について聞いた質問でも「不熱心」と答えたものが5名いたことは反省を要する。今回は履修者が55名で、日本語のレベルがかなり高い学生からまだ入門レベルの学生までさまざまであった。日本語レベルが高い学生は発言も多く積極的であったが、日本語レベルが低い学生はいつも後ろに固まって座って消極的な学習態度であり、小テストの結果もあまり高くなかった。来年度は、いろいろな国の、また日本語レベルも様々の学生が混ざるようにグループ毎に席を決めて座らせ、日本語レベルが低い学生も積極的に授業に参加できるような環境作りをしようと考えている。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>質問6~11は平均で4.4~4.6であったが、細かく見てみると、9「板書や機器（OHP、パワーポイントなど）の使用は適切でしたか」、10「遅刻や私語が授業の妨げにならないように対応していたか」、11「学生の授業参加を促すような工夫がなされていたか」の質問で2以下の回答も4件あった。またそれぞれ「良くない」と答えたものも1名ずついる。このことから、パワーポイントの資料についても分かりにくいと思っていた学生もいたということが言える。また、遅刻や私語に対して教員がきちんと注意していなかったことで授業が妨げられた、と思っている学生もいたこともしっかり受け止めなくてはならない。確かに、本年度の当該授業は履修者も多く母語でがやがやすることもしばしばあり、厳しく注意したこともあったが、それだけでは学修の促進にはつながらなかったのかもしれない。今後は席の指定も含めてクラス運営管理にも注力し、授業の中で1人1人の学生に目を配ることが必要である。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>留学生が日本の社会や文化について学ぶこの授業では、だまって教員の話聞きただけではなく、重要語句の書き取りやテーマについてのデ</p>

項目見出し	コメント
	<p> イスカッションを取り入れたことで、満足度ではおおむね高い評価を得られたと思っている。しかし、質問1の予習、復習については4.3とあまり高い評価を得られていない。授業の前の週に配布するプリントにも予習を促すような様々な工夫をこらしていたつもりだが十分でなかったといえる。今後は授業前に必ず調べてこななければいけないタスクや語彙の予習課題とともにその確認も授業の中に取り入れ、予習・復習を促す工夫をする必要があると考えている。また、全体的な満足度は低くなかったが、質問2の「自身の態度の自己評価」や、「Ⅲ授業の方法」では、1をつけたものもいた。日本語レベルがかなりさまざまなこの授業ではどのあたりに照準を合わせるのかが難しく、毎回の授業展開で悩むことも多かったが、多くの学生にこれから生活していく日本の文化や社会の様子を学んでもらうためにスライドの作り方、資料の改善など、まだまだやらなければならないことは多いと感じている。また、学生の様子に目配りすることが今後さらに必要だと思う。 </p>

アクションプランシート

2023年度後期 火1

科目名 英語コミュニケーションB

教員名 井畑 敦子

回答者数/履修者数 17/29

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>ABとも前年度まで使用されていた教科書を引継ぎ、前期で半分まで進んだので後半では最後までカバーした。教科書自体が演習をベースとするので授業においてもワークが深まるようにUnitのテーマに関わるインプットをスライド中心に行い、宿題で準備してきた語彙やフレーズ、例文を実践できるよう反転授業で進めた。Aの構成と基本変わらないが、前期終了後、もっと話したいという声があったので、Bでは少なくとも3回以上の授業は全てグループワークに割いた。それ以外でも半分以上は会話、プレゼンに費やした。本授業では毎回リアクションペーパーを英語で課し、ライティングの練習を促し、語彙と英作文力、読解力、思考力を育てると、提出すれば他のクラスメートのものを見る 구글クラスのシャトルクエスト機能を使用しているのでピアラーニングができるようにしている。そこで毎回授業の理解度や質問、提案を聞いており、全授業が終わってからでなく、毎回次の授業に反映し改善できるようにしている。この授業自体はコアカリに基づき、CEFRB2以上のレベルの提供をカリキュラムで求められるが、教科書は中学英語の文法確認が中心であり、受講生の英語力も前期で把握したので、宿題も量もリアペの質問数も半分以上減らした。とにかくクラスメートと話がしたいということでスライド数も前期に比べ三分の一以下にした。これまで教授してきた内容によってアカデミックスキルと英語力の飛躍的な伸びを示す学生が例年8割以上はいたが、本学においては2割以下にとどまり、後期はより平易にしたのでさらに下がった。しかし学生からの要望に応えるのも重要かと思いきや最大限に反映し、改善に努め大幅に講義の時間を減らしたにもかかわらず、コメントによるといまだ話したりしないと不満を述べる者がみられ、正直これ以上どうすべきか考えあぐねている。また、担当する授業はすべて最後にこちらの方からアンケートを実施している。それによると前期においても、他と比べこの授業が一番グループワークの時間が多くクラスメートと交流できてよかった、という声も多い。エビデンスとして提出できるので、ぜひそちらの方も参照していただきたい。これまで見てきた傾向として、そうした満足度が高い学生より低い学生が無記名のアンケートに積極的であることを申し添えておく。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>留学生と話せてよかったという声が毎回あるので、必ずペアを組めるようにセッティングした。しかし月曜に一限ということもあり出席率が回を経るごとに減少し、同じメンバー一年になる確率が高くなったので、自由回答に班を組むほうがとあるが、それができるだけの人数が残ってなかったのが物理的に無理であった。班にするとその中で同じもの同士でワークする傾向があり、それを避けてほしいという声もあったので、なるべく違ったもの同士で組ませた。が、一定の学生は非協力的で自ら動いていかないが、興味深いのはそうした学生の方が後ほど、もっと話したかったワークしたかったと主張する傾向にあった。またGTの学生の方がその傾向が強いように感じた。GTでない学生の方が、宿題にもまじめに取り組み、ワークも積極的にこなし、振り返りもしっかり書けていたので、授業の振興にも貢献し、英語力も伸びた者が多かった。ABを通し、一割程度であったが、真摯に取り組み、授業も真剣に聞いていたものは、アカデミックスキルにおいても目覚ましい伸びを示した。成績でもSがついている者たちである。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5</p>	<p>毎回、リアペで深い振り返りができている学生のフィードバックを英語で確認し、そこで提案されたり質問されることに英語で答える形で進めてきたのが反映されていると感じる。しかしよくないという答えもあり積極的に今後の教訓としたいが、つまらないよくわからないというコメントは、具体的な指摘がなく漠然としているので参考にしたい。しかしそうした反応に際し、英語自体にも興味がわくように映画や洋楽、笑いやプレゼンなど楽しく取り組めるようにしてきた。パ</p>

項目見出し	コメント
スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	<p>フォーマティブなものを入れながら教科書のテーマが理解できるように説明し、その都度わからなかったら質問できるようにリアベを参照し、スライドも課題も大幅に減らしほとんどワークに充てている。後期は特に前期より改善に努め、リアベでもどうすればよいのか具体的な提案が求め、反映できる限りは授業につなげた。授業後ではどうすることもできないのでその都度聞いているが、おそらくそれには反応しない者がここで発言していると予測する。というのも、課題は学生の学びが定着するように授業を振り返るよう設定しており、それを授業の初めで共有し、コミュニケーションの授業だけに双方向のやり取りを重視しているからである。スライドでもポイントを明確にし重要などころは繰り返したが、恐らくベースとなる理解力がないと伝えても伝わらないのではと考える。しかしこの層に合わせると前期からまじめに取り組む思考力も読解力もつく、本来大学生としての学力向上ができる者の伸びを遮ることになるので、大学としてアカデミックなレベルの最低ラインを保つためにプライオリティをどこに置くか、安易な妥協をしないように進めたい。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>熱量や私語に関しては高めである、ということで、姿勢としては伝わったものがあつたかと思う。私語に関しては特に注意を払い、厳格に対処した。いつも1, 2名妨害となるものがおり、AB通して大体同じ学生でGTであった。インプットを全く聞かずとにかく友達と日本語で話したいらしく、おそらくこうした学生が不満足と答えコメントでもネガティブかと思われる。提出物にも取り組まないで英語力も思考力も伸びず、宿題もやってこないでワークもペアやグループの障害となっていた。一方的にこのような学生がクレームをつける機会を設けるアンケートでなく、こうしたダイナミクスをしっかりと拾える授業評価を望む。しかし、問題学生はほんの一部であり、大多数は真摯に取り組む、伸びを示したものが多かったのもので、このような真面目で前向きな学生が報われる授業づくりに今後も励みたい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>自由回答のコメントに際して述べると、前期に比べ後期はより課題提出物が減り出席率も下がるので、モチベを上げるために「英語で」いろんな取り組み方を伝えることがグループワークの時間を減らしていると捉えることによると考える。すでにモチベがあり基礎学力があり、しっかりした内容を提出し、課題に取り組める学生に対してはこの部分がいらなくなり、アカデミックな英語力向上のみに割けるが、未提出があまりにも多く、恐らく英語力が中学以下で学習経験自体を持たない者が多く見られるのでそれ以前の話になる。現に、英語への取り組み方や学習方法の参考になり、授業外でも勉強するようになったというフィードバックも独自で取るアンケートでは多々受けている。他に、三分の一のワークしかなくてつまらないというのがあるが、1で述べたように後期は逆にしたのでこの者の指摘は当てはまらない。平均して一時間は毎回ワークに使い、最後の3回はすべてワークのみであった。前期に増やしてほしいということで大幅に増やしてもなおかつこのように感じるものがあるということは、英会話学校と勘違いしているのではないかと感じる。この授業だけが留学生と交流できるという声が多かったのでなるべく時間をより後期で割いたのだが、クラスメートとのおしゃべりのみで講師の話がいらぬならば大学のアカデミックな授業が成立しない。そして実際にはペアワークの時間になってもなかなか始めようとせず、沈黙が続きスマホばかり見たり、ペアでない友達とだけ話したりなど、そうしたことを注意するだけで時間が過ぎることも多々あった。そのような授業態度に難がある学生がワークを望み講義を少なくするよう要求する傾向にあると前後期通して感じた。</p> <p>ただ、極端に問題がある学生は一部で、ほとんどの学生はワークで最大限活躍できるよう真摯に宿題に取り組む、インプットにもアウトプットにも真摯に取り組んだ。Bは時に前期に未提出が多くまじめに取り組まなかった学生が履修せず、前期よりやる気のある学生が集まったので内容も深まり、英語力向上にもつながった。しかしこの授業は「留学する人向け」としながらも「教職のコアカリ」にある授業なので、受講生の構成が極端であり、全てが満足するものを提供するのには困難を極めるので、改善策をカリキュラム作成の時点で考えていく必要があると思われる。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 火3

科目名 専門演習ⅡB

教員名 浦郷 淳

回答者数/履修者数 6/8

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>平均点4.8と学生の満足度は高かったと思われる。全員が満足となるように今後も努めていきたい。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>学生のニーズに合わせた内容となるように工夫した。部活動や教育実習での公欠もあったので、個々の課題を重要視した。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>平均がどの項目も4.7～4.8であり、評価は高かった。授業の創り方やシラバスとの整合性、授業内容への興味など全員から”良い”という評価が得られるように工夫していきたい。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>どの授業も評定が4.7以上であり、好意的な評価を得た。全員から”良い”という評価が得られるように指導を工夫していきたい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>学生からの評価は概ね好意的なものであり、引き続き高評価が得られるように努めていきたい。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 木1

科目名 専門演習 I B

教員名 浦郷 淳

回答者数/履修者数 8/8

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>学生の満足度も高く、学生も集中して取り組めた結果であると思う。全体が5となるように改善を務めたい。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>学生の模擬授業や租税教室の授業づくりを中心に行っていた。学生は主体的に学習に取り組んでいたため、その主体的な取り組みが重要であったと考える。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>授業のわかりやすさ、シラバスとの整合性の所で3とつけている学生がいるため、説明を積み重ねていけるようにしていきたい。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>平均点は全て4.5以上であり、全体的には良い傾向であるが、参加を促すような工夫が3であるところもあることから、この点の改善を図ってきたい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>学生の予習や授業の態度などの所で、学生自身の肯定感が低い。この肯定感が高くなるように、こちらの価値づけ、励まし、認めることなどを率先して行っていく必要がある。 ゼミだからこそ、ゼミでしかできないことを創りながら、学生の満足度が向上するように気を付けていきたい。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 木5

科目名 教育方法論

教員名 浦郷 淳

回答者数/履修者数 27/58

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>学生の満足度は4.7と比較的高く、経年比較しても高いものであった。学生の満足度は学生自身のできた、わかった、といった達成感と理解度が大切だと思われるため、さらなる指導の工夫を行っていききたい。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>予習をもとにしたグループワークと発表を大切にしたため、学生自身の授業外の学修が活かされた点がよかったのではないかと考える。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>授業のわかりやすさや整合性の所で”3”の学生が見られるため、改善を図りたい。特にシラバスについては、模擬授業の人数に影響があったり、授業会場の都合で時間変更等もあったので、次年度工夫したい。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>板書や機器の仕様の適切さで2があること、熱意の部分、授業の妨げの対応、参加を促す工夫などで3という回答が見られたため、この点での改善を図っていききたい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>今回のアンケートでは、回収率が50%未満であり、全体を反映しているとは言い難い点がある。そのため、回収率そのものが向上するような声かけが必要であった。自由記述からは比較的好意的な回答が得られているものの、採点での結果を踏まえて、今後の改善を図っていききたい。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 月2

科目名 武道
 教員名 江島 弘晃
 回答者数/履修者数 15/17

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>本実習の武道では、学生の授業に対する満足度は良いに達していたのは4.7であったため、学生は満足に達していたと推察している。とくに設問のQ10に限らず、Q1からQ13にかけてすべてが5の学生が大半であり、学生の授業態度も熱心だったためと考える。また、7名の留学生が本実習を受講していたが、留学生の授業態度も教員の予想よりもよく、本人達からの満足度もアンケートを見る限り、高かったことから双方満足いく結果になったと考えられる。留学生に対しては武道自体が日本人に比べて武道に対する理解も不足しているが、導入性が高いであろう柔道よりも剣道を主体とした授業展開を実施した。今回、有段者はおらず、他は未経験者が多数ということ、大半が資格取得のため、または留学生は単純な興味ということから、学生が授業に導入しやすいように、剣道の初歩から、基本技へと段階を追って実施したことがアンケートの結果につながったと考える。その一方で、自由設問には不平をのべる意見もあったが、授業の片付けに関しての意見であり、単に学生の不満にすぎないものとしてとらえ課題にはしない。学生がアンケートに回答している際、自由設問に記述するよう促したが、とくに意見などの記載はなかったため必ず記載させることが授業の今後のさらなる向上につながると考えられる。ただ、記載はないということは次年度の授業も同様の手順で実施していけば学生の満足度も得られると考える。この点は要注意であり自由設問の記入を促していきたい。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>(1) に記載したように留学生も7名参加していたこと、日本人の学生は資格取得の意識が強いため受講しているように感じた。そのため、双方納得のいくよう創意工夫したが、あくまでも授業であるということ認識させた。具体的にはまず、道着の装着方法からすり足の仕方などの基礎中の基礎となる基本技術を習得させるため、2~3コマ分の授業を用いて学生に指導するような形で授業展開を実施した。その結果、中盤以降の授業では大半の学生が基本技などの習得が容易に感じられた点、スポーツの実技に見られる試合形式の授業を多用せず、段階を追って授業展開を行ったことで学生の学習意欲につながったと考えられる。また、授業に対して熱心さに欠ける学生も一定数いたが有段者による試合を履修生の学生たちに観戦させた点は剣道のダイナミックな動きがあることを承知させることで迫力のある試合が出来る点や模範を示す点で学生の受講態度の向上につながったと考えられる。また、今年度はICT活用として、学生自身の動作確認を動画で撮影してポートフォリオに視聴させた工夫を実施した。剣道は素早い動きを行うことが試合での有利な展開につながると考えられるが、動きを取り入れた指導を行うことで、学生の興味がある、理解しやすい、意図がある授業展開につなげることが今後の課題と考えている。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>受講した学生の大半が「良い」の5であったが、授業の編成、シラバスとの整合性、そして学生が興味の引くような授業展開を実施した結果だと考える。その一方で数名ほど評価が3の学生もいた。最低の1の評価だった学生はいなかったが、この学生が5になるように改善する必要がある。そのため、履修学生が満足いく内容にするためには学生一人一人に対しての密な教育指導が必要になる。また、本実習は学生の履修生も少なく、学生を特定することが出来るが、公平性を持って授業を展開する必要がある、個別性を理解した配慮が必要であると感じている。例えば、履修していた学生の中に今回有段者はおらず模範となる学生一人に対して学生一人ずつ稽古を実施した工夫を取り入れることができず素人同士で稽古をつけることがむずかしかった。また、学習意欲も低く、剣道を学びたいという学生は留学生に多く見受けられた。この点は終盤に学生同士で技能の差が中盤以降から明確になっていたため、技能が低かった学生に対してもう少し親切丁寧に指導すれば有意差は改善でき、アンケート結果も変わったであろうと推</p>

項目見出し	コメント
	<p>察している。そのため、次年度からの課題として全履修者の技能レベル向上できるよう学生一人一人の密な指導による授業展開が必要であると認識している。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>アンケートの結果では、話し方、熱意は「良い」が11名と多く、4が3名程度で3が1名という評価であった。配布プリントを各授業で配布したことで授業の理解浸透度を高めるよう、また復習・予習の武道に関して事前学習を行うなどの創意工夫をしたが、なかなか評価しない学生がいたことが前年度の課題であったため、今年度はICT活用として動画撮影を実施した。機器の使用を頻繁に使用したことや授業の妨げにならないように学生に問いかける授業展開を行うことで学生自身もその対応を理解してくれていたと考えている。そして、学生が授業参加に積極的に介入するように試合形式を取り入れたり、団体戦での試合を実施したことが学生自身もその創意工夫を理解し、アンケートでの評価として表れたと考えられる。全体的に履修した大半の学生が「良い」と評価してくれており、次年度も今年度と同様の授業展開を実施していく計画にある。しかし、また次年度から学生の様相も変わるであることが予測されるため柔軟に対応していきたい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>授業アンケートの結果を閲覧し、率直な感想は満足のいく内容と感じている反面、授業時間が片付けを延長しての不満を述べている学生がいるようだったため、学生に対する配慮なのか、単に学生のがままなのか見極める必要がある。授業を行う際、配布プリントを多く使用し、またパワーポイントの使用、ときにはインターネット上での学生が理解しやすい剣道に関するルールの公開、そしてビデオでの有段者による試合の閲覧を実施するなどの工夫を凝らした。しかし、評価の低い学生は資格取得のための授業という認識しかなく、学ぶ姿勢はあまり感じられない。また、留学生に対しても時にはマンツーマンでの実技指導などを徹底することが出来たので双方満足 of いく授業展開が出来たと考えられる。マナバ上での課題提出などの授業を展開したが、楽しい、学べた、という評価を述べた意見もあった一方、上記の不平等を述べる意見もあったため、今後の課題として、有段者の試合の動画を授業冒頭に見せるなど、創意工夫を行うようしたい。さらに、自由設問に記入する学生は不平をのべる学生もいたため、次年度はより多くの学生に良い意見が記載してもらえるように記述時間の確保や記載の際に積極的に介入する必要があると考える。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 月4

科目名 専門演習ⅢB

教員名 江島 弘晃

回答者数/履修者数 6/6

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>授業に対する理解度・満足度は6名が「できた」と評価し、学生達が満足いく専門演習を実施してくれたと感じている。またQ12の授業内容の理解に関しても納得のいく「できた」と評価してもらった。自由記述の記載に関しても学生1名から「とても勉強になった」という記載には教員としての満足のいく結果である。この評価は次年度も尊重して学生との介入を増やしていきたい。今年度は学生が6名と昨年度は10名と人数が減少したため、各学生個人にある程度の学生指導が出来たとも感じ、次年度は学生数が8名と若干増加する分、教育的指導を増やし、学生一人一人の専門性を高めるよう個別指導を積極的に展開したいと考えている。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>専門演習ということで主に卒業研究の論文制作に注視した。学生には目標課題を各自達成させるとともに共通の条件も設けた。共通の条件は規定にあるように2万字の文章に達していない場合は卒業研究の論文を満たしていないというものである。この共通条件は各自が目標達成出来るように学生の意欲向上につながったのではないかと考えている。そして最も工夫した点は一度、学生全員で進捗報告を設定したことになると考える。これは各自がどの程度進捗しているのか把握できる点や自分自身の位置状況も把握できる点が効果的だったと考えられる。確かに進捗状況を発表した後は学生の受講態度の変化も見られたと考えられる。卒論発表会でもその成果が表れたと感じている。内容は次年度でも展開させ、内容自体の良さであるのか本年度の学生のみ適用できたのかを検討したい。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>授業の内容に関して6名の大半は設問の3つに対して「良い」の評価を得たため、授業内容に関心を持って受講してくれたものだと考えている。その一方で、1名のみ授業はよく編成され、まとまっており、わかりやすかったのかは「4」、1名はシラバスとの整合性および授業内容に興味はありましたか「4」と平均的な回答だったため、今後は履修学生全員が5と評価してもらえるように改善する必要がある。改善策としては主に個別での指導を積極的に導入していく点やシラバスでの内容を教員と学生双方で相互確認し合うことで改善が期待できると考えている。次年度は人数が若干増加するため、各学生にマンツーマンで指導し適切な課題を解決できるように指導していきたい。平均的な数値は4.8以上であったためこれまでの評価と比較しても満足のいく結果だと捉えている。次年度では学生も変わり、授業の内容を適時修正しながら対応していく予定である。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>授業の内容に関して6名の大半は設問の3つに対して「良い」の評価を得たため、授業内容に関心を持って受講してくれたものだと考えている。その一方で、1名のみ授業はよく編成され、まとまっており、わかりやすかったのかは「4」、1名はシラバスとの整合性および授業内容に興味はありましたか「4」と平均的な回答だったため、改善する必要があるようである。改善策としては主に個別での指導を積極的に導入していく点やシラバスでの内容を教員と学生双方で相互確認し合うことで改善が期待できると考えている。次年度は人数が増加するが、専門演習IIで卒業論文の制作を進めており、十分な指導が実行できると考えている。平均的な数値は4.8以上であったため概ね満足のいく結果だと捉えている。次年度では学生も変わり、授業の内容を適時修正しながら対応していく予定である。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>授業の方法に関しては(1)(3)と比較して十分なアンケート評価が得ることが出来なかった。話し方の明瞭は平均が4.8であり、最大評価の5にするためにも事前に話す内容を事前練習し要改善する必要があると考える。熱意の感じられる授業の問いには6名全員が「5」を記載していたため、熱意のある授業展開にするためにも方法を見直す必</p>

項目見出し	コメント
	<p>要があると考えている。教科書、参考書、配布プリントの使用の適切さは6名全員が「5」だった点や板書や機器の使用の適切さに関しては6名が「5」であったため、プロジェクタースクリーンやスライドを用いての進捗状況の各自の発表方法が良かったと考えている。また遅刻や私語が授業の妨げにならないように対応をしていたのかの問いに関しては6名全員が5と評価しており、昨年度はこの項目はばらつきがあったため、私語厳禁を学生に指導することを次年度での課題としていたが、概ね改善されたと考えている。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 月その他

科目名 卒業研究
 教員名 江島 弘晃
 回答者数/履修者数 6/6

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>授業に対する理解度・満足度は6名が「できた」と評価していた。そのため、満足度は100%という結果だったが、履修者数が少ないため評価のしがいがないが、学生達が満足いく卒業研究を実施してくれたと感じている。また設問12の授業内容の理解に関しても納得のいく「できた」が6名全員だったため、全学生が同様の結果と評価していた。自由記述の記載はなかったが専門演習Ⅲbと同様の評価であると捉えている。平均は5.0と最高得点の評価であった。これは学生も満足の結果だったととらえており、今後も次年度の卒業研究制作でも同等の評価を得る必要があるように創意工夫していきたい。しかし、専門演習Ⅲbと同様に学生が6名と今年度は人数が少なかったため、学生個人に十分な学生指導が出来たことがその要因であるとも捉えることが出来る。次年度は学生が8名と今年度より人数が増加するため制作に関しても細部に拘って指導していきたい。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>卒業研究は6名がこれまでの担当教員の専門による内容であり、主に野球や運動、運動不足などに関心がある学生達であったため教員自身の専門性のある動物実験を用いた解析による研究を卒業研究と1名のみ専門の野球に関するデータ分析を実施した。その際、前者は学生が理解しやすい内容である一方で研究倫理書の作成に注視させた。動物実験に関する卒業研究を担当した学生はまず実験などに関する理解・知識が圧倒的に不足していたため夏季休業中に個別指導を実施した。以上のように学生達には公平性を保つようにはばらつきがないように指導を実施した。結果として卒業研究発表会では全員が満足いく発表を行ってくれたと捉えている。卒業研究を執筆する際にも規定を満たすように設定したことは学生自身が目標を持って取り組む姿勢になると考えており、学習意欲の向上につながったと考えている。反省点としては、短い期間での卒業研究の制作になってしまったため、実施することが限られていたことである。この点は次年度から解消できるため対応できると捉えている。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>授業はよく編成され、まとまっており、わかりやすかったですかという問いに関しては5名がよい、1名が4という評価であったため授業内容といえる卒業研究に関心を持って取り組んでくれたものだと考えている。シラバスと授業内容に整合性はありましたかという問いに関しては、同様に6名がよいという最高の評価であり、実際整合性のある卒業研究制作に取り組めていくことが出来たと考えている。授業内容は興味あるものでしたかという問いに関しては、5名がよい、1名が4という評価であった。このことから5名は最高の5という回答で、1名のみが4の回答である可能性が考えられ、特定1名の積極的な内容理解に携わる必要があったのではないかと考えている。この点は反省点として次年度で改善していきたい。次年度では学生も8名と減少するため、学生一人に対する指導の時間を増やすことができるため内容の適時修正しながら対応していく予定である。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>話し方は明瞭でしたかとの問いは良いに値する5が6名全員と平均が5.0、熱意の感じられる授業でしたかとの問いもほぼ同様であり、教科書、参考書、配布プリントの使用は適切でしたかとの問いは質問6と同様の数値であった。これらの問いは概ね平均が5の満点であり学生は方法に関して最高評価を行っていた。とくに、配布プリントは最近の研究論文を提示することで学生主体の考察力などを育くんだ結果、良い回答に繋がったのではないかと考えている。板書や機器(OHP、パワーポイントなど)の使用は適切でしたかとの問いは、6名が最高の5にしており、実際パワーポイントを多用することで理解促進につなげた点と学生たちの現状把握につなげていった。遅刻や私語が授業の妨げにならないように対応していましたかの問いに関しては</p>

項目見出し	コメント
	<p>、平均が5.0と昨年よりとても良い評価となった。これは学生たちの意欲も関係していたと考えている。学生の授業参加を促すような工夫がなされていたかの問いには、熱意と同様の回答結果であった。これらの回答結果を統合すると、学生の回答はすべてが5であり、授業展開を継続すれば学生にも満足していく評価になってくれると考えている。次年度は学生も8名と人数が増加する一方で、今回のアンケート結果の数値が向上維持できるよう柔軟に対応したいと考えている。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>卒業研究に関しては、学生からのアンケートを見る限りは6名全員が満足いく結果であったということで専門演習Ⅲbと同様な回答結果と捉えている。また、専門演習Ⅲbでは授業の方法に関しては改善する必要があると考えていたが卒業研究はとくに改善する必要はなさそう で、授業展開を創意工夫すれば、おのずと卒業研究で満足いく結果になるのではないかと考えている。専門演習同様、授業の内容に関しては概ね「良し」のアンケート回答が多いという結果と捉えている。本年度から担当した専門演習の学生たちは担当期間が1年と期間が短い学生は前年度と比べて少なく、次年度の学生は専門演習Ⅰから履修しているため、より深い専門的な卒業研究の制作が可能と考えている。学生の自由記述はとくに記載がなかったため、その点を改善できるよう積極的に記載を促すようにしたい。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 水2

科目名 運動生理学

教員名 江島 弘晃

回答者数/履修者数 128/135

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>運動生理学では講義形式のため、135名の受講者数に対して128名の回答(94.8%)があり、全受講者のアンケート回答を反映しているものとらえている。設問の授業に対する理解度・満足度は、61名が満足の「5」であり、52名が4と平均が4.4という結果であった。設問12の授業内容を理解出来ましたかに関しては、設問13とほぼ同様の結果となったことから平均が4.5以上となるアンケート結果は受講した学生が満足のいくものとなったと捉えている。実際、自由記述に関しては大半の学生が、理解しやすかった、スライドが分かりやすいと記載しており、学生も納得のいく授業展開が出来たのではないと考えている。専門演習と異なり、学生一人一人との面談を重ねて個人の状況を把握するということは出来ないが、学生が履修しやすいような学習環境を整える必要があると感じている。円グラフ上では、理解度・満足度は5の評価は半分以上、4の評価は4分の1以上と全体制で見ても満足のいく結果だったため、評価結果には満足している。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>まず、学生の理解の浸透度を高めるために各授業毎にノートでスライドの部分を記載するよう設定した。これはスライドの内容と同様のものので学生にはスライドを見ながら、自身のノートで記述確認する形式をとった。これは授業の教室が広く、学生はスライドを確認できない恐れがあったこと、聞き逃しがあるかもしれないがそのような意見はなく概ね良い結果になった考える。結果的には学生から好評だったようで自由記述に記載があったため、学生の学習意欲の向上につながった方法であると考えている。実際、プリントがないとの意見もあったが、授業後に学生がしっかり理解できているかどうか課題を設けるなど確認することが出来たため学生の受講態度も評価することが出来ると考えている。テストの際にノートの持ち込みも設定し、良い評価になった。また教科書の使用を今後頻繁にするなど教員自身の改善すべきものとして次年度に生かしたい。また、運動生理学の講義を行う際、身体のごさきなどはイメージがしにくいいためスライドの中で図示を多用することで学生の理解、学習意欲の向上を促した。これが学生の分かりやすかったという評価の回答になったと思うので次年度も活用していきたい。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>授業はよく編成され、まとまっており、わかりやすかったですかという問いに関しては69名がよい、48名が4と平均が4.4以上の良いという評価だった。専門演習と異なり、履修学生もある程度多人数の中での数値は授業内容に問題はないと考えられる。シラバスと授業内容に整合性はありましたかという問いに関しては、68名がよいの5、48名が4とこちらも平均が4.4以上という同様の回答結果であった。実際、授業展開としてはシラバス通りに展開した結果が評価につながったと考える。授業内容は興味あるものでしたかという問いに関しては、上述の問いとほぼ同様の65名がよい、47名が4と平均が4.4以上の結果となった。(3)に関しては3つの設問ではすべて4.4以上の数値という結果となり、授業の内容自体は学生たちは関心があると感じた。反省点は、出席状況が良くない学生はいないなかで、課題のみ集中している学生が数名いた気配があったことから、次年度では授業の講義途中や出席を厳格にすることで授業の内容を把握できているのか試すなどをすることで、授業の内容を発展させていきたい。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11</p>	<p>話し方は明瞭でしたかとの問いは良いに値する5が74名、平均が4.4、熱意の感じられる授業でしたかとの問い、教科書、参考書、配布プリントの使用は適切でしたかとの問いは平均が4.4と同様の数値であった。したがって平均が4以上と学生は方法に関してとても良い回答を行っていた。板書や機器(OHP、パワーポイントなど)の使用は適切でしたかとの問い81名が最高の5にしており、スライドの出来の効果が大きかったのではないかと推察している。遅刻や私語が授業の妨げ</p>

項目見出し	コメント
スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7	<p>にならないように対応していましたかの問いに関しては、平均が4.4という評価を得たがこれは学生が基本的に私語厳禁にした配慮が大きかったと考えている。これは履修した学生全体の意欲にもつながるため、継続していきたい。学生の授業参加を促すような工夫がなされていなかったかの問いには、平均が4.5と他の設問とほぼ同様または若干減少した結果となった。まとめとして、学生の回答はすべてが4または4.4以上であり方法に関しては多数の学生が履修した講義の中で良い評価の回答結果だったと考えている。次年度はこのアンケート結果と同等の数値またはそれ以上となるように継続性を保つことで学生の意欲を向上させていきたい。</p>
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	<p>アンケートの結果を見る限りでは学生は満足いく講義を履修してくれたと考えている。昨年度は実行しなかった定期試験を慣行し、それに向けての勉強やノートをまとめるなど学生は授業外の時間に復習の時間を設けてくれたと考えている。このことから次年度も定期試験を実施し、自主学習ができるよう工夫したい。アンケートでの評価を詳細に検討すると授業の内容は4.4、授業の方法は4.5前後、理解度、満足度は4.4と学生の満足度が明確になったのではないかと考えており、この評価を継続できるようつとめていきたい。一方で、態度に関しては平均が3.6と非常に数値が少なく、自己評価は平均が4と他の項目よりも数値が低く、より多くの学生が予習・復習を行えるように復習を行ったか確認するなどの対策を講じたい。毎授業開始時に復習の時間を設けているがその際に学生がきちんと履修できているのか実施する予定である。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 金2

科目名 専門演習ⅠB

教員名 江島 弘晃

回答者数/履修者数 8/8

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>専門演習Ⅰbでは、主に二年生8名を対象に専門演習を展開した。二年生ということで専門的な学習を導入した。教員が専門とする運動生理学に関する研究を紹介しながら、各自興味のある研究や論文を輪読する作業を実施した。学生8名に対して、授業に対する理解度・満足度は8名が「できた」に値する5と評価し、3名が4のアンケート評価を回答した。平均は4.6と他の専門演習と比較すると、数値は高く、学生が授業構成に何らかの理解感を得られていると思われる。他にはこの授業に対して満足出来ましたかの問いには5名が満足の5、3名が4と評価し、平均が4.6と高い数値だった。つまり学生の理解度は高くそれなりの満足感を得ていることとなる。本授業の履修した学生8名は全員が十分な単位を取得しており、次年度では卒業研究の作成の準備段階になるため、専門演習Ⅱと同様に教員自身の専門性のある授業を展開していくことが必須と捉えている。円グラフ上でも理解度・満足度は5の評価は半分以上、4の評価は30.0%以上と全体的に見ても学生は満足していると考えている。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>専門演習Ⅰbでは学生がどのような研究に興味があるのかサイトなどを活用して自分自身で調査させた。この際に学生の取り組みの姿勢などを伺ったが、熱心に取り組む学生と熱心に欠ける学生と分かれる印象をもった。しかし、課題を授業後に実施させるなど課題をやり遂げるということを終始徹底させたことは次年度での専門演習で活用できると考えている。学生の受講態度は私語などはせず、よく質問してくれる学生が多い印象を持った。また、学生の理解の浸透度を高めるために授業に教員作成のスライドでのプレゼンテーションを視聴させることで理解促進につなげた。結果としては理解度にばらつきはなく、満足度は高かったため、学生自身は満足していると考えている。また、学生に体力測定を実施させることで自身の運動能力を把握させる実践的な取り組みを行うことで学生には良い勉強になったなどの意見をもらい学習意欲の向上につながったのではないかと考えている。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>専門演習Ⅰbでは他の専門演習と同程度の人数のゼミ生ということもあり、他の専門演習との比較も検討した。授業はよく編成され、まとまっており、わかりやすかったですかという問いに関しては3名がよい(5)、4名が4、と平均が4.3以上の良いという評価であり、他の専門演習とほぼ同様の値から概ね良いの評価であったと考えている。シラバスと授業内容に整合性はありましたかという問いに関しては、3名がよい(5)、4名が4と平均が4.3以上という上述の設問と近似した回答結果であった。授業展開としてはシラバス通りに運動処方の理解や運動する意義などを理解させるような従業展開が評価につながったと考える。授業内容は興味あるものでしたかという問いに関しては、5名がよい(5)、3名が4と平均が4.6以上の授業はよく編成され、まとまっており、わかりやすかったですかという問いと同様であった。これらを踏まえると、専門演習Ⅱbの授業の内容自体は学生たちは関心があると感じた。反省点としては、課題が少なく学生によく復習予習などの時間を設けさせるなどを行わせることを次年度の課題としたい。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>各設問に対する回答結果を考察していく。話し方は明瞭でしたかとの問いは良いに値する5が3名、4が4名と平均が4.3、熱意の感じられる授業でしたかとの問い、教科書、参考書、配布プリントの使用は適切でしたかとの問い、板書や機器(OHP、パワーポイントなど)の使用は適切でしたかとの問いは5が3名、4が5名と平均が4.4とこれ以外の上記2は3つは同様の数値であり、8のみが3.9と低かった。それ以外は平均が4.4以上と学生は方法に関して良い回答を行っていた。遅刻や私語が授業の妨げにならないように対応していただいたかとの問いに関しては、平均が4.5と若干他の問いより数値が低下したが、これは学生</p>

項目見出し	コメント
	<p>に基本的に私語を厳禁にした配慮と遅刻だけはしないように終始徹底させたことが大きかったと考えている。学生の授業参加を促すような工夫がなされていたかの問いには、平均が4.5と他の設問とほぼ同様の結果となった。まとめとして、学生の回答はすべてが4.5以上であり方法に関しては学生は概ね良いという評価の回答結果だったと考えている。次年度は9名の学生が新規にゼミ配属となることから、このアンケート結果と同等の数値またはそれ以上となるように学生の意欲を向上させていきたい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>アンケートの回答結果では、学生は他の専門演習と同様に内容の理解や満足のいく演習を履修してくれたと捉えている。その一方で、設問1または2の学生自身の復習・予習、態度はよい数値の評価を下しておらず、平均は4.0という値であった。このことは、学生自身の根本的な学習意欲を変える必要があると捉えている。予習や復習を徹底させることは他の授業にも活用できる行為であることを学生自身に理解させ、次年度から実施を試みたい。各設問の評点が5を記入した学生の比率は、授業の内容は45.8%、授業の方法は43.8%、理解度・満足度については62.5%と回答しており、総じて5と評価した学生の平均比率は50%を超えているのは他の担当授業と比較しても教員自身は満足のいく結果ではなかったと考えている。一方で、学生による自由記述はなかったため、次年度よりより積極的に記載の促しを強化したいと考えている。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 金3

科目名 専門演習ⅡB

教員名 江島 弘晃

回答者数/履修者数 8/8

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>専門演習Ⅱbでは、主に三年生を対象に卒業研究の制作に向けた準備段階として専門的な演習を展開した。学生8名に対して、授業に対する理解度・満足度は7名が「できた」に値する5と評価し、1名が4と4のアンケート評価を回答していた。これは授業の理解に関しても同様であった。したがって評価は平均が4.9となる結果であり、専門演習Ⅲと同様に4.9以上の概ね学生からは満足のいく回答結果だと考えている。今後、評価をさらに向上させるためには学生の要望を聞きながらも教員自身の専門性のある授業を展開していくことで数値も向上し、評価も最高に達すると考えている。評価が高まれば良いわけではないが、学生一人一人との面談を重ねて個人の状況を把握する必要があると考えており、双方納得のいく専門演習を通して卒業研究の制作につなげていくのが良いととらえている。円グラフ上でも理解度・満足度は5の評価は半分以上、4の評価は10%以上と全体制で見ても満足度のいく結果だったのかもしれない。他の授業と比較しても専門演習では比較的學生から満足のいく回答が得られているととらえている。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>学生の受講態度をよくするために個別での授業展開を導入した。グループを作成し、そのグループで課題を行う形式を実施した。その課題は卒業研究につながる課題とし、達成することは自身のためであると理解させることで学習意欲の向上を図った。今年度の専門演習Ⅱでは比較的学習意欲の高い学生で構成されているが、全体的に学習意欲を向上するためのグループ編成を行った。結果として、全員が卒業研究のテーマを設定することが出来た。今後は、グループを設けるものの、1対1で進捗状況を話し合い、集団での進捗状況を発表しあうことで自主性のある卒業研究を実施していけるように指導していきたい。次年度での授業内容の課題としている。また、学生自身が卒業研究に向けて大まかなテーマを決めることが出来たのは学生の学習意欲の向上につながるものであり、次年度での専門演習と卒業研究に今後生かしていけると捉えている。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>授業はよく編成され、まとまっており、わかりやすかったですかという問いに関しては7名がよい、1名が4と平均以上の良いという評価であったため授業内容に関しては理解などの下回ることはなかった回答結果であったことから専門演習に関心をもって取り組んでくれたものだと捉えている。シラバスと授業内容に整合性はありましたかという問いに関しては、同様の回答結果であった。実際、授業展開としても整合性のある専門演習に取り組めていくことが出来、平均を上回ることが出来た。授業内容は興味あるものでしたかという問いに関しては、上述の問いとほぼ同様の7名がよい、1名が4と平均が4.8または4.9と最高に近い結果となった。このことから、授業の内容自体は学生たちは関心があるように見受けられる。反省点としては、欠席が目立つ学生が一定多数いたことから、次年度で毎回出席させるように改善していきたい。これは前年度の課題と同様であった。次年度では履修する予定の学生も10名と増加するため、内容の適時修正しながら対応していく予定であり、この点は卒業研究でも記載した。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>話し方は明瞭でしたかとの問いは良いに値する5が7名、4が1名と平均が4.9、熱意の感じられる授業でしたかとの問い、教科書、参考書、配布プリントの使用は適切でしたかとの問いは4.6の数値であった。したがって平均は4.7であり、昨年度より向上が見られた。とくに配布プリントは各学生が関心のある論文を提示し、読ませることで、学生主体の考察力と論文を執筆する上での技法を学ばせる意図であると認識させる方法がアンケートの回答結果に繋がったと捉えている。板書や機器（OHP、パワーポイントなど）の使用は適切でしたかとの問いは、8名が最高の5にしており、専門演習Ⅲおよび卒業研究に比べてばらつきが多少見られた。これはパワーポイントを多用することで</p>

項目見出し	コメント
	<p>理解促進につなげる方法をとったが、パワーポイントではない別の方法を模索する必要があると考える。具体的には板書を用いるなどの代替を用いることで方法の手法を変更すれば学生の理解も高まると考えている。遅刻や私語が授業の妨げにならないように対応していましたがの問いに関しては、平均が4.9という評価を得たがこれは最高に近い点数だったため今後も維持していきたい。学生の授業参加を促すような工夫がなされていたかの問いには、熱意とほぼ同様だが、平均が5.0と他の設問と比べて最高に達した結果となった。回答結果を統合すると、学生の回答はすべてが4.8以上であり方法に関しては他の授業アンケートと同様に満足いく結果になったと捉えている。次年度は学生が10名と成績も良い学生が集まり集団が異なるため、学生一人一人に対して積極的に指導する方法を行うことで学生の意欲を向上させていきたい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>設問のあなたの授業を受けた態度については、問1は平均が4.6と概ね良い評価だったと考えている。また、授業中のあなたの態度（積極性、私語、遅刻、途中退出、居眠りなど）を自己評価してくださいの問いには、平均が4.9と他の授業回答と比べると概ね良い点数であった。授業内容や方法、理解度、満足度の回答と比べて平均が下回った点は改善するよう課題を常に設定する、態度を改めさせるよう終始徹底指導することに努めていきたいと考えている。今後は、専門演習Ⅲbを履修する予定の学生は卒業研究の制作に携わってくるためより専門のある知識習得に向けた授業展開を実施していく予定である。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 月その他

科目名 マリンスポーツⅠ

教員名 江島 弘晃

回答者数/履修者数 4/6

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>マリンスポーツでは、一般の他の授業とは異なり、設問の10のこの授業に参加して満足できましたかという問いに満足の5を記した4名全員という結果で平均が5.0だった。これは学生が実習に関して大変満足しているものと捉えている。実際、学生は全員が楽しんで、実習を体験しているようでこの点数には教員も納得している。結果として、平均が5.0と履修した学生は最高の満足感を得ていることが推察でき、次年度の実習で活用していきたい。自由記述に関しては、新たなスポーツが経験でき、良い経験になった。楽しかった。などの学生自身は満足のいく実習を行ってくれたものと感じている。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>マリンスポーツでは、4名の履修となったが、皆受講態度も良く熱心にマリンスポーツ実習に参加している印象をうけた。実際、自由記述にも満足いく回答をしており、学習意欲は高い授業を展開できたと捉えている。しかし、学生が楽な授業を展開したわけではなく、授業の主旨であるマリンスポーツの意義を学習させるために、海の安全性や今後の実習・経験に生かせるような体験を行えるよう配慮が必要であり、指導者とともに十分な海の危険性や実際の潜水などは学生に周知徹底させた。それらが学生への学習意欲の向上につながったものと考えている。授業展開の際、学生の受講態度としてはとくに私語などはせず、熱心に聴講してくれた。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>マリンスポーツでは実習独自の設問ということで他の授業との比較は実施していない。シラバスと授業内容に整合性はありましたかという問いに関しては、4名がよい(5)と平均が5.0の良いという評価であり、実技に関する説明や話し方は明瞭でしたか、学生の質問に適切に対応していましたか、授業の時間配分は適切でしたかなどの他の設問もほぼ同様の数値を示していた。これは前年度の評価より向上が見られたため、次年度も継続していきたいと考えている。とくに4以下の回答をした学生は1名もおらず、すべてが最高点となった。そのため、授業の方法に関してはとくに大きな反省点はなかったと考えている。感染症の影響などから、学生には常に不測の事態を想定させることを次年度では周知徹底させたいと考えている。円グラフ上では、全体で100%が良いの5であり、すべての学生が良いの5を記入しているようでマリンスポーツへの関心の高さと自身の実習はさらに学生が満足と理解のいく内容を展開したいと考えている。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>マリンスポーツにおける各設問に対する回答結果を考察していく。熱意の感じられる授業でしたかの問いには、良いに値する5が4名、と平均が5.0、他実技に関する説明や話し方は明瞭でしたかの問いは5が4名と平均が5.0であり、学生の質問に適切に対応していましたか、授業の時間配分は適切でしたかなどの問いには平均が5.0と同等の数値という結果であった。全体的に見ても、授業の方法の展開に関してもとくに学生は満足しているように感じられる。反省としては、授業を展開する際に実習のため、指導者にゆだねた面もあるため、事前学習の徹底などを課題にするべきととらえている。次年度では実習地の選定などあらたな課題もあるためより良い実習を実現したいと考える。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>マリンスポーツは集中的に実施したが、学生からのアンケート回答はすべての設問に対して平均が5.0以上と学生は概ね満足のいく授業展開を行えたかと捉えている。アンケート回答の全体的な平均が5.0、または4.8など点数が高く、授業としての準備も課題など必要があるものの、継続して次年度も実施していきたいと考えている。また次年度では事前学習や予習などの課題も設けたいと考えている。教員自身</p>

項目見出し	コメント
	<p>による反省点としてはマリンスポーツを教育現場で実施する際に十分に留意する点などがある一方で、次年度からは実習地が変更する恐れがあり、学生にマリンスポーツの有用性などを伝えるよう実習に取り組んでいきたいと考えている。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 金4

科目名 スポーツ実習B

教員名 江島 弘晃

回答者数/履修者数 27/31

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>スポーツ実習Bでは、一般の他の授業とは異なり、設問の10のこの授業に参加して満足できましたかという問いに満足の5を記した21名、4に5名という結果で平均が4.7だった。これは前期のスポーツ実習と比較して大差ない結果であり、実習に関して満足しているものと捉えている。他には、この実習に対して満足に対して1が1名という結果は対応しなければいけないと感じている。ただし、授業中に不適切な行動を実施した学生に対して注意指導した学生が評価した可能性があり、授業に対する単に不平不満の可能性もあると考えている。しかし結果として、平均が4.7と履修した学生はそれなりの満足感を得ていることが推察でき、次年度の実習で活用していきたい。自由記述に関しては、色々なスポーツが経験でき、良い運動になった。スポーツの良さを再確認することができた。熱心に話を聞いてくれた。楽しかった。などの学生自身は満足のいく実習を行ってくれたものと感じている。これは前期同様の記述であった。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>スポーツ実習Bでは、31名の履修となったが、皆受講態度も良く熱心にスポーツに参加している印象をうけた。実際、自由記述にも満足いく回答をしており、学習意欲は高い授業を展開できたと思えている。しかし、学生が楽しめ授業を展開したわけではなく、授業の主旨であるスポーツの意義を学習させるために健康面での利点や心拍数の簡易な測定方法、またそこから導き出される運動強度の算出方法などを指導することで学生からの評価を得て、学習意欲の向上につながったものと考えている。授業展開の際、学生の受講態度としてはとくに私語などはせず、熱心に聴講してくれた。とくに率先して授業で使用する体育関連用品を迅速に準備してくれた学生が大半であり、この点は次年度の実習でも学生に伝え態度の良さとして伝えたい。また感染症の防止対策として、事前に県外自粛の確認、体温報告、体調報告を徹底させた点は次年度でも展開したい。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>スポーツ実習では実習独自の設問ということで他の授業との比較は実施していない。シラバスと授業内容に整合性はありましたかという問いに関しては、18名がよい(5)、7名が4、3が2名と平均が4.6のよいという評価であり、実技に関する説明や話し方は明瞭でしたか、学生の質問に適切に対応していましたか、授業の時間配分は適切でしたかなどの他の設問もほぼ同様の数値を示していた。これは前年度の評価より向上が見られたため、次年度も継続していきたいと考えている。とくに2以下の回答をした学生は1名おり、単に注意指導した学生の不平不満ととらえている。そのため、授業の方法に関してはとくに大きな反省点はなかったと考えている。感染症の影響などから、学生には常に不測の事態を想定させることを次年度では周知徹底させたいと考えている。円グラフ上では、全体で70%が良いの5であり、多数の学生が良いの5を記入しているようでスポーツへの関心の高さと自身の実習はさらに学生が満足と理解のいく内容を展開したいと考えている。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>スポーツ実習における各設問に対する回答結果を考察していく。熱意の感じられる授業でしたかの問いには、良いに値する5が20名、4が6名と平均が4.6、他実技に関する説明や話し方は明瞭でしたかの問いは5が19名、4が7名と平均が4.6であり、学生の質問に適切に対応していましたか、授業の時間配分は適切でしたかなどの問いには5と4の若干の人数の変動はあるものの平均が4.6または4.7と同等の数値という結果であった。全体的に見ても、授業の方法の展開に関してもとくに学生は満足しているように感じられる。反省としては、授業を展開する際に実習のため、マスクの着用を徹底することはもちろんのこと、運動強度が高くなった際にどのタイミングでマスクの着脱を認めるのかはよく吟味する必要があると考える。これは前年度での課題でも</p>

項目見出し	コメント
	<p>あったように次年度ではマスク着用の義務も軽減されるとか予想されるため、課題にするべきかは思案している。次年度ではアンケートには記載のない詳細な授業な方法に関して注意することで学生の満足いく実習が実現できると考える。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>スポーツ実習は前期と合わせて後期も実施したが、学生からのアンケート回答はすべての設問に対して平均が4.7以上と学生は概ね満足いく授業展開を行えたと捉えている。アンケート回答の全体的な平均が4.7、または4.6など前年度と比較して点数が高く、授業としての準備も課題など必要があると認識している。次年度では予習などの課題も設けたいと考えている。教員自身による反省点としては感染症防止対策を考慮した上での運動、スポーツを大学教育現場で実施する際に十分に留意する点などがある一方で、次年度からマスク着用の必要性が緩和されるかもしれず、学生に運動の意義などを伝えるよう実習に取り組んでいきたいと考えている。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 水1

科目名 進路指導論

教員名 川上 知子

回答者数/履修者数 17/17

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>学生における授業への満足度は高い傾向にあったことがわかり、今後も学生の実態を丁寧に把握しながら授業内容の定着・発展を図っていきたくて思いました。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>個別のファイルを用意し、毎回の授業でワークシートを保管させることで、そのファイルを見ながら自身の学びを振り返ったり、学びを自覚できたこと、また、授業の終了時に、個別にワークシートへの取り組み状況を把握しながら声掛けをすることで、学生自身の授業への取組を相互に確認できたこと、次の授業の開始時に、学生のワークシートのフィードバックを行ったこと、などが効果的だったのではないかと推測しています。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>授業の内容に関しても、学生の評価も良い傾向にありましたが、担当学生の質は変わるので、その学生に合った策を継続していきたくて思っています。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>この授業は教職科目の中でも、教員のもつ個性によってアイデアや関わりが多様化する領域です。そのため、学生自身が自分の良さを自覚したり、自分を表現したり、自分自身の今や人生をどうとらえているのかについて考える機会を与えることを大事にしました。実際に自分が体験することでそのよさや難しさを体感し、指導する側に立った時にその経験が糧になると思うからです。体験型を取り入れつつ、学生各々のもつ良さを引き出す授業を今後も目指したいと考えます。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>先述しましたが、教職科目全般に言えることとして、授業者自身が一つのモデルとなり、学生自身の教育観や授業観・生徒観を育む上で重要な役割を担っていると自覚しています。その意識を今後も大事にし、生きた教材として授業者自身も研鑽するとともに、学生の実態を土台に、内容理解、そして実践力を培っていくことを目指して、新しいきもちで授業づくりを行っていきたくて思っています。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 金2

科目名 英語演習ⅡB

教員名 川上 直彦

回答者数/履修者数 31/38

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>授業に対する満足度の平均は、3.9とそれなりに良い結果を得られることができた。しかし、2022年度後期の英語演習（薬学中級クラス）の満足度4.2から、0.3評価が下がった。今回の薬学（中級クラス）ではなく、もう一つレベルが低い国際観光（中級クラス）に対してアンケートを実施した。薬学（中級クラス）及び国際観光（中級クラス）共にPre-intermediateレベルの教科書を使用し、英語で授業を実践しているが、国際観光（中級クラス）だと少々内容が難しすぎると感じたことが評価が下がった原因でないかと考える。国際観光（中級クラス）では、Pre-intermediateレベルの教科書を使用して、日本語を多く使用して授業展開することを考えた方がいいかもしれないと現在考えている。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>前年度の英語演習と同様のコメントになるが、授業中に学生個人個人と対話をする機会が多くあるので、その時にできるだけ褒めることによって、学生の授業への興味向上につなげていきたいと考える。また、隣の学生同士で英語で会話をする機会を多く設けている。15回の授業をつうじて隣に座る学生のみならず、色々な学生と英語で話す機会を提供し、授業を楽しんでもらうようにしたい。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>Q3とQ5の質問に対する評価が3.7と低かった。授業の内容が分かりにくく、興味を持てなかった学生がいたということになるので、やはり、国際観光学科（中級クラス）の学生に対しては、もう少しやさしい問題を準備する必要があると感じている。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>Q6の評価が一番低かった。すべて英語で授業を展開しているので、何を話しているのか良く分からないと感じる学生がいたのだと考える。やはり、日本語をもう少し多く使用して、授業展開することを考えた方がいいと感じている。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>理解度4.0と満足度3.9と悪くない評価結果であると感じている。しかし、国際観光（中級レベル）の学生に対しては、Inter-mediateレベルの教科書を用いた英語での授業は少々難しく、つまらないと感じさせてしまった可能性があることから、もう一段階レベルを下げた授業を展開するようにしたい。また、チャンスがあれば他の英語演習教員が活用している様々な新教材の導入も検討したい。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 火4

科目名 英語演習 II A

教員名 John Patrick Owatari-Dorgan

回答者数/履修者数 29/37

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>For Q13, students gave me a score of 4.5. While this score is good and shows that students were very satisfied with the class. Students expressed a satisfaction with the reading and writing experiences in the class. I believe that they were able to easily understand the homework in the class. I think I need to improve how well I focus on making sure that as many students as possible pass the class.</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>In order to improve student satisfaction, I will work to better explain the independent study elements of the class and make sure that all of the students understand how to complete the work and use the tools needed for the class. I will also try to give students more opportunities to communicate during the class to improve satisfaction.</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>For Q3-5, students gave me pretty good scores. I believe that students were satisfied with the content of the class and were able to complete the work without too much difficulty. To improve this part of the class, I will work to spend more time explaining the required tasks for the class and try to communicate more clearly with the students.</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>For Q6-11, the students gave me good scores. I believe that the students were satisfied with the materials and style of the class. Of course, I will continue to work to improve student satisfaction with the element of the class. I will try to provide students with better explanations of the tools and tasks used in the class. I will also try to give students more complete explanations using Japanese to help them understand the materials.</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>Overall, I am satisfied with the results of this survey. I feel that it provided me with significant insight into the needs of the students. I look forward to making changes to the class next year based on the information in the survey. I will also work to improve the changes made to the class to increase overall student satisfaction.</p>

アクションプランシート

2023年度後期 火5

科目名 Practical English II B

教員名 John Patrick Owatari-Dorgan

回答者数/履修者数 25/28

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>For Q13, students gave me a 4.7 which is a fairly good score. That being said, this is still a high satisfaction score. Regardless, I will do my best to continue to increase student satisfaction. I plan to do this by trying to include a wider range of activities in the class and provide students with more opportunities to shape the design of the class.</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>To improve satisfaction, I will work to provide students with more face-to-face feedback and try to keep activities engaging. Moreover, I will also work to include more active learning in the class. I will also try to help students understand the connection between the class activities and their study abroad opportunities. I think this will improve student satisfaction and give them better motivation.</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>For Q3-5, the students gave me excellent scores that show a strong satisfaction with the class structure. Overall, I believe that most students were satisfied with the content of the course. Of course, I will work to improve student opinions of the content. Since this class is a high-level English communication class (Global Tourism), it is natural that the material was difficult for students to understand. The students seemed to handle the difficulty of the class well. I will try to continue making the purpose more clear and explain the reasons for my assignments better.</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>In Q6-11, student gave me high scores. Based on this, I believe that students were pleased with my communication, enthusiasm, materials and teaching methodology in class and enjoyed changes made since last year. I hope to increase student satisfaction with these elements in the class by developing stronger relationships with the students. I hope that this will make students more comfortable with expressing problems they are having with my materials or methods. Moreover, I will try to give the students even more opportunities to express their opinions in class.</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>I found the results of this survey very helpful and I now have a clear understanding of what I should do to improve this class and student satisfaction with this class. The survey has made it clear that many of the changes made to the class were successful. In my mind, the student survey process is vital and I am very pleased with the results of this survey. Students wrote many comments on the survey. This allowed me to better understand their thinking. I also hope that I can continue to improve my classes to make them better for students.</p>

アクションプランシート

2023年度後期 月1

科目名 スポーツ運動学

教員名 神野 周太郎

回答者数/履修者数 23/30

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>学びのポイントは何か、明確に言語化すべきであろう。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>科目の背景になっている学問が一体どのような学問なのかを丁寧に説いた。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>授業全体を通して、内容の一貫性が、昨年度よりも不十分であったように思う。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>配布資料のレイアウトに改善の余地がある。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>履修学生が多くなることで、評価が若干低くなった。人数に応じた教授方法の模索が必要である。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 水3

科目名 保健体育科教育法Ⅲ

教員名 神野 周太郎

回答者数/履修者数 19/22

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>学びのポイントは何か、明確に言語化すべきであろう。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>科目の背景になっている学問が一体どのような学問なのかを丁寧に説いた。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>授業全体を通して、内容の一貫性が、昨年度よりも不十分であったように思う。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>配布資料のレイアウト、学びを具現化する教材そのものに改善の余地がある。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>履修学生が多くなることで、評価が低くなった。人数に応じた教授方法の模索が必要である。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 金4

科目名 保健体育科教育法Ⅰ

教員名 神野 周太郎

回答者数/履修者数 26/37

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>学びのポイントは何か、明確に言語化すべきであろう。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>科目の背景になっている学問が一体どのような学問なのかを丁寧に説いた。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>授業全体を通して、内容の一貫性が、昨年度よりも不十分であったように思う。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>配布資料のレイアウトに改善の余地がある。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>履修学生が多くなることで、評価が若干低くなった。人数に応じた教授方法の模索が必要である。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 火2

科目名 地域スポーツ

教員名 末永 貴久

回答者数/履修者数 73/97

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>平均4.5であり、学生がある程度の満足感を得たことは良好な結果だと考える。講義の準備や教材研究には毎回時間を割いていることから、実際の授業においても自信を持って取り組むことができている。今後もこのような結果を維持できるように、地域の情勢や学生のニーズも捉えながら、参加意欲を高く持たせるよう心がけたい。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>「地域スポーツ」という講義であるため、どの回にしてもまずは学生自身の出身地について調べることから取り組ませている。地元の状況を確認した上で、本学のある佐世保市、さらに長崎県、九州、そして全国というエリアで実際に行われている活動を題材にすることで、地域のスポーツを現実的な物として捉え、考察させている。また、それらの事例を基に、地域スポーツの課題をいくつかピックアップし、それについて個人での調査、グループワーク、発表なども盛り込んでいることが、積極的な受講態度につながっていると考えられる。</p> <p>授業の開始時には、前回の課題についてフィードバックしている。一部を紹介することで他の学生がどのように考えたかを共有したり、課題提出の励みにさせている。また、時事の紹介も授業冒頭に毎回するが、インターネットからだけではなく、学生はほぼ購読していないであろう新聞から地域スポーツに関連する記事を紹介し、興味を持たせている。同時に、動画も活用し、授業の流れに飽きないような対策をとっている。</p> <p>課題については、ほぼ毎回出している。内容については、まずは短時間で取り組むことができる設問や、自身のアイデアにつながるような事柄、さらに授業で考えた内容をもう少し深めるような題にして、提出しやすいものになっている。そのことにより、予習・復習が自然にできるようになったと考える。</p> <p>また、10回目の授業あたりでゲストスピーカーを招聘し、実際に地域でのスポーツに取り組んでいる立場から講義をしてもらうことで、講義内容と実際を結びつけるよう取り組んでいる。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>前述のように授業の構成には力を入れているため、学生はわかりやすいのではないかと考える。ただし、情報量が多かったり、説明が長くなることもあるので、授業の流れや強弱にはより気を遣いたい。</p> <p>授業の基本となる内容はほぼシラバスに照らし合わせて進めている。時事の紹介や課題のフィードバックにも時間を取っているため、多少次回に繰り越すこともあるが、その場合もよい振り返りの機会として捉え、実施している。</p> <p>授業内容への興味も全体的には良好であることから、あまり興味が低い学生に対しても、ある程度の意欲を持って取り組ませることができていると考える。ただし、5の評価と4の評価がほぼ同数であることから、もう一步踏み込んで、地域スポーツの現状を伝えることに加え、学生がより興味を持つ内容や、印象に残ることを探求したい。</p> <p>受講人数が100人を超える授業であるため、全体を見渡すことが難しく、中には授業以外のことをしている学生もいると見受けられる。やはりグループワークや課題につながる作業時間をタイミング良く活用することで、授業への集中力をさらに高めさせたい。また、授業に関する質問が少ないため、質問しやすい環境を作っていく必要があると感じている。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方</p>	<p>授業方法についても平均的に4.5程度であった。話し方はマイクを</p>

項目見出し	コメント
<p>法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>用い、スライドに注目させるような動きを心がけているので、明瞭という評価につながっていると考えられる。今後も継続したい。</p> <p>十分に準備し、自信を持って授業をすることが熱意にもつながると考えているため、内容の研鑽には毎回時間をかけている。よって話す内容に説得力は感じていると思われる。</p> <p>教科書・参考書は使用せず、配布プリントもスライドで紹介し、ペーパーレスの観点からも紙ベースではあまり渡していない。紙に記入、提出させることは行っているが、必要に応じて紙の配布も取り入れるべきか検討したい。</p> <p>板書はキーワード程度にとどめ、パワーポイントでの説明を重視している。適度な枚数や、内容や流れも考えて準備しているため、適切だと学生も感じている。</p> <p>授業の妨げになるような遅刻や私語はほぼないと感じているが、授業中にディスカッションを数回取り入れるので、メリハリが効かず、私語につながっている時はある。しっかり区切りをつけるよう心がけたい。</p> <p>学生へ授業参加を促すことは、地域スポーツという特性を活かし、学生自身の出身地・地元の状況を把握させることで取り組の動機付けを高め、授業に現実感を持たせている。その上で個人での調査、グループワーク、発表などを行わせ、参加を促している。また、出席カード提出や授業中の課題提出、またレスポンスも活用することで参加を促し、不正出席（ピー逃げ）対策にも取り組んでおり、そのことは学生にも伝わっていると考えられる。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>全体としての授業評価は良好であり、教員としては授業全般で十分に準備し、実施し、考えさせるアクティブな授業をしているつもりではあるが、質問1,2を見ると、まだまだ学生が受け身になっていることが考えられる。</p> <p>本授業では課題への取り組みが「予習・復習」の意味合いを持たせているため、学生自身が準備学習をしたと捉えていないと考えられる。課題の内容を工夫し、学生が思考する時間や密度を増やすことで、準備学習と感ずるよう見直していく必要がある。</p> <p>また、授業中の学生自身の態度・積極性などについても、積極的な学生が存在する反面、不関心や、実際、居眠りしている学生も見受けられることから、より学生の積極性を導き出すことが課題であると捉え、改善していきたい。</p> <p>この授業は後期であり、期間中には「スポーツフェスタ」を3年ぶりに復活開催した。スポーツフェスタはスポーツによる地域との連携や貢献として位置づけ、学生教育も兼ねて学生主体で実施したため、この授業でも学生の協力を要請し、運営に多くの学生が加わった。また、佐世保市内の健康づくりイベントを紹介したところ、自主的に複数名の学生が参加した。このような機会には、学生は授業では見せない積極性を出し、取り組んでいる。これらのことから本授業は、学生が将来、そして生涯にわたり「地域スポーツ」に関わっていく礎になっていると考えられる。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 水3

科目名 Japanese Economy

教員名 陳 慶光

回答者数/履修者数 10/12

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>2020年度：満足度 (4.6)、2021年度：満足度 (4.3)、2022年度 (未実施)、2023年度：満足度 (4.7) の評価をいただいた。前回の復習、グループディスカッションとプレゼンテーション、講義、この三つのセットによる授業構成と関連動画の活用で興味を喚起する授業の進め方が満足度に繋がったのではないかと思います。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>講義：日本経済史とマクロ経済学の基本概念がメインで、学生でもわかりやすい事例や応用 (例：海外留学と為替レート) を取り入れた。プレゼン・ディスカッション：講義で学んだトピックや extended reading の内容をまとめてプレゼンして、学生の相互フィードバックを通じて練習と改善のサイクルを行った。今年度の履修者には欧米系留学生、アジア系留学生、日本人学生三つのグループがバランスよくいたので、新しい取り組みとして、身近なテーマについてディスカッションする時間を入れた。授業時間外：日本経済における応用や事例は extended reading として学生に提示し、アクティブラーニングを取り入れた。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>授業内容に関する三つの質問に対する評価の平均：2020年 (4.6)、2021年 (4.33)、2023年 (4.7)。内容は多少難しい経済学のコンセプトもあったが、学生の反応を見ながら理論と応用のバランスを調整していきたい。タイムリーな映像や新聞記事を取り入れて学生の興味を引きつつ、キャリアにつながる内容を考案していきたい。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>授業方法に関する六つの質問に対する評価の平均：2020年 (4.5)、2021年 (4.5)、2023年 (4.7)。講義とプレゼン、図表と映像などのバランスは評価されたと思う。学生の授業参加を促すためには発言回数を可視化するなど工夫したい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>例年ほとんどの履修者はGTコース所属の3年生である。英語力と学習意欲が比較的高い学生が多い印象を受けた。今年度の履修者には欧米系留学生、アジア系留学生、日本人学生三つのグループがいて、ディスカッションの際に異なる背景の学生が混じるように心掛けた。満足度 (4.7)、授業内容 (4.7)、授業方法 (4.7) の評価をいただいたが、日本人学生の理解度 (4.3) は低めであった。全英語で日本経済を学ぶのは難しい面もあるが、100%英語のポリシーを維持したい。学生の予習を促す目的においても、重要単語の事前提示など、引き続き改善を図りたいと考えている。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 金1

科目名 スポーツツーリズム

教員名 陳 慶光

回答者数/履修者数 98/136

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>2020年度：満足度 (4.6)、2021年度：満足度 (4.2)、2022年度：満足度 (4.3)、2023年度：満足度 (4.5) の評価をいただいた。自由記述ではほとんどポジティブなコメントですが、満足度の分布 (5点57人、4点19人、3点12人) から見ると、良くも悪くもないと感じる学生が一定数あることを読み取れたかと思います。来年度は遠隔開講の予定なので、授業資料や動画をオンデマンドで提供することで、学生が柔軟に学習できる環境を構築したい。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>理論と事例の結合、映像で興味を喚起することを軸に進めた。学生の集中力と理解度向上を目指して、授業を30分の3セット (講義20分、授業中課題10分) に分けて進めた。30分の3セットが終わった後、復習課題として、小テストの提出を求めた。全体としては、講義と関連動画を視聴することで学び、アンケートと小テストによる理解度確認を行なった。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>授業内容に関する三つの質問に対する評価の平均：2020年 (4.6)、2021年 (4.33)、2022年 (4.27)、2023年 (4.5)。スポーツツーリズムコースの必修科目として、学生の興味を惹きつけるために、関連動画の構成と視聴する意欲を向上させるように工夫したい。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>授業方法に関する六つの質問に対する評価の平均：2020年 (4.53)、2021年 (4.33)、2022年 (4.30)、2023年 (4.5)。自由記述「話が分かりやすく」、「参考動画が適度に入っており、わかりやすかった」等のコメントが示したよう、遠隔授業にも活かしたいと思う。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>自由記述「ほかの授業では履修生の私語が多く受けづらかったのですがこの授業は話す人が少なかったのでとても内容が入ってきやすかった」と同じく感じた。全体として、メリハリのある授業 (遠隔授業を30分の3セットに分けること) と動画の活用にたくさん肯定のコメントをいただき、国際観光学科スポーツツーリズムコースの初年次必修科目として良いバランスがとれたと思います。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 火4

科目名 博物館実習B

教員名 中島 金太郎

回答者数/履修者数 11/11

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>無回答者2名が気になるが、概ね良い評価だった。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>6年間の授業の蓄積が評価につながったと思われる。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>大きな問題は感じられない。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>概ね問題はない。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>基本的には高評価だが、予習項目の低さが課題である。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 水1

科目名 博物館実習B

教員名 中島 金太郎

回答者数/履修者数 6/10

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	満足度は高い。
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	従来通りきめ細かい対応を心がけた。
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	特に問題はない。
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	特に問題はない。
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	平均して良い評価だが、予習項目の低さが課題である。

アクションプランシート

2023年度後期 水2

科目名 日本語 I

教員名 東出 朋

回答者数/履修者数 10/10

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>概ね高評価を得ている。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>グループワークをたくさん取り入れた点 毎授業、学生一人一人への声かけを心がけた点</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>概ね高評価を得ている。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>概ね高評価を得ている。 学生の授業参加を促すように、アンケートやゲームなどを取り入れる工夫をする。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>他者の授業の工夫を学ぶ。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 木3

科目名 日本語の研究B

教員名 東出 朋

回答者数/履修者数 12/13

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>毎年ほぼ同じ結果。日本人学生、留学生ともに、各自のレベルで取り組める課題を課し、簡単すぎず難しすぎない設計をして、積極的に参加できる環境を作る。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>簡単な課題と難しい課題を組み合わせる。常に成績を見せる。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>予習・復習などの取り組みが低いようなので、積極的に取り組めるように興味・関心を引くネタを考え続ける。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>特になし。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>特になし。学生一人一人を見る。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 月1

科目名 英語演習 II A
 教員名 Brendan Van Deusen
 回答者数/履修者数 20/27

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>This class was rated 4.5/5 for satisfaction (Q13). This class prepares students for to communicate with mostly reading and writing.</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>This class consisted of standard level Social Work students. Although English was difficult for them, they participated actively in the class at their own pace. I am interested to see that in-person was more highly evaluated than on-demand.</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>Q3 was rated as 4.5/5: There were plenty of opportunities for review in this class. Each week, I provided feedback on assignments and by video comments. Q4 was rated as 4.6/5: The class followed the syllabus exactly. Q5 was rated as 4.2/5: We focused on communication about everyday topics that would likely be interesting to students. There were opportunities to personalize the content as they wished.</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>Q6 rated as 4.7/5: Teaching a foreign language requires a fine balance of communicating and challenging students to understand. I used mostly English to communicate to students. The materials on QLearn were bilingual. Q7 rated as 4.8/5: I am happy that students felt my excitement and positivity. Q8 rated as 4.7/5 & Q9 rated as 4.8/5: We continued a similar format to the spring and 9Learn.net LMS from the spring, so students were familiar with the content. We also used Xrading.com and Wordengine.jp as learning materials on a weekly basis. Q10 rated as 4.7/5: The class was 9am on Mondays, but there were few problems with lateness. Q11 rated as 4.7/5: This was a challenge because the class was on-demand. However, were certainly active with their English reading, writing, and vocabulary. The goals were very clear.</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>I am pleased that this class was more highly-rated than last year's on-demand class. This was a challenging course for many students. I am pleased that students enjoyed the class. I will continue to find ways to make it more active and challenging when we return to the classroom.</p>

アクションプランシート

2023年度後期 月5

科目名 English Writing Skills II

教員名 Brendan Van Deusen

回答者数/履修者数 26/28

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>This class was rated 4.7/5 for satisfaction (Q13). This class prepares students for to communicate with mostly reading and writing.</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>This class consisted of Global Tourism students. Although English was not so difficult for them, this class presented two types of essay writing that they had never done before, which was to prepare for the IELTS test.</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>Q3 was rated as 4.7/5: Although it was a writing class, there were plenty of opportunities for review in this class. Q4 was rated as 4.7/5: The class followed the syllabus exactly. Q5 was rated as 4.7/5: Everyone took the IELTS in February, so there was motivation to work hard. Also, students wrote a weekly blog, so there were opportunities to personalize the content as they wished.</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>Q6 rated as 4.8/5: Teaching a foreign language requires a fine balance of communicating and challenging students to understand. I used mostly English to communicate to students. The materials on had both English and Japanese components. Q7 rated as 4.9/5: I am happy that students felt my excitement and positivity. Q8 rated as 4.7/5 & Q9 rated as 4.7/5: We continued a similar format to the spring and 9Learn.net LMS from the spring, so students were familiar with the content. We also used Google Docs for assignments on a weekly basis. Q10 rated as 4.8/5: The class was often in the afternoon, so there were no problems with lateness. Q11 rated as 4.7/5: Students often discussed their writing with each other and helped each other to brainstorm ideas. The goals were very clear.</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>This was an enjoyable yet challenging course for many students. I am pleased that students enjoyed the class. I will continue to find ways to make it more active and challenging when we return to the classroom.</p>

アクションプランシート

2023年度後期 月4

科目名 専門演習ⅢB

教員名 相羽 枝莉子

回答者数/履修者数 6/9

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>本授業の満足度は全員が5.0点と回答しており、高い点数であったと評価できます。本授業は、卒業論文研究の活動を中心に取り組んできており、全員が初めて論文を執筆することになるため苦勞したと思いますが、それでもこのような高い満足度が得られたことに、率直に嬉しく思っています。今後のゼミ活動に活かしていきたいと存じます。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>本授業で受講生の学習意欲の向上につながったと感じている点として、卒業論文研究の完成に向けて、短期・中期的な目標を立てて、受講生に計画性をもたせたという点です。これは前期の専門演習ⅢAでも同様ですが、卒業論文研究の最終提出の前いくつかのデッドラインを設け、それぞれで進捗を確認できるようにしました。このことが、受講生の動機づけにつながったと考えています。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>この項目では、全て平均点4.8点で、比較的高い得点であったと考えていますが、個人的に課題として考えていることは、授業のわかりやすさについてです。受講生全員が心理学に触れた卒業論文テーマを設定しており、心理学における分析手法を用いて研究をしています。そこで、特に統計解析に関する説明において、わかりにくい説明の仕方をしてしまったと反省しています。これを改善するために、自分自身も日々勉強を重ねつつ、アウトプットする能力を高め、初学者にとってもわかりやすい説明ができるよう工夫していきたいと考えています。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>この項目は全員が5.0点と回答しており、高い得点が得られたと評価しています。しかしながら、これらの項目の中にある遅刻者への対応については、私自身ではあまりうまくできていないと感じています。本授業の受講生に遅刻する受講生が数名おり、それらの学生には注意を続けていましたが、最後まで改善されていませんでした。そのため、真面目に取り組んでいる受講生にとっては迷惑に感じられることが多々あったのではと懸念されてます。いくら注意しても結果的に改善されなければ意味がないので、今後は遅刻者への働きかけを改めていきたいと考えています。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>本授業では、全体的に高い得点を得られたと考えています。実際に手応えのようなものはあり、具体的には、卒業論文研究の制作にあたって、受講生は真面目に一生懸命取り組んでくれていました。その中でも、このような授業評価アンケートのリフレクションの機会をいただいたおかげで、より良い授業・演習を行っていくためにどのような工夫をしたらよいかを考えることができたので、今回でてきた課題点・改善点を、今後に活かして参ります。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 月5

科目名 スポーツ心理学

教員名 相羽 枝莉子

回答者数/履修者数 89/111

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>授業に対する満足度の評価の結果は、「4.7」点でした。1や2などの不満によった回答は全くなく、全体的に学生の満足度の高い授業が行えたのだと感じている。その一方で、5ではなく、4と回答している学生も多くいることから、より学生の満足度を最高点までもっていただけるように、細かな工夫をしていきたいと考えています。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>本授業では、毎回復習の課題を課していましたが。復習の機会があることによって、学習の定着を図れている可能性があると考えていますので、今後も予習や復習を取り入れることで、学習意欲の向上を目指したいと思います。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>授業の内容については全て平均4.7点であり、昨年度よりも向上したと捉えています。 その中でもさらに改善できそうな点として、Q3の授業のわかりやすさについてです。スポーツ心理学の理論の説明が必要となる場合、なるべく学生の身近な例を挙げる必要があり、それを意識するあまり理論と結びつけて考えることをかえって難しくしてしまった点について反省しています。これについては、今後改善していきたいと思ひます。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>授業の方法については平均4.7点程度であり、このうち特に改善が必要だと感じたのはQ8の話し方の点です。配布資料が少なかつた分、自分でノートをとる時間がかかり多くあり、その方法に不満を感じている学生もいるのではないかと推察しています。こちら側の意図が伝わっていない可能性が考えられるので、なぜ資料を配布しないのか、なぜノートに書く必要があるのか、といったことから根気強く説明をすることが必要だったと感じています。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>今年度のスポーツ心理学の授業アンケートでは、前年度のアンケートの点数より向上が見られたところがあり、特に昨年度のアンケート結果を踏まえて改善したところで点数の向上見られました。また、自由記述を多く書いてもらえたので、それによって数値からは見えない学生の意見、特に批判的に考えている学生の声を拾うことができ、大変意義のある結果が得られたと感じています。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 水2

科目名 専門演習ⅡB

教員名 相羽 枝莉子

回答者数/履修者数 7/10

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>本授業は「Q13 授業に対する満足度について」の質問では、全員が「5」と回答してくれています。学生とコミュニケーションをとり、学生の声を聞くように傾聴する姿勢を意識した結果だと考えています。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>専門演習では授業外時間に活動したり、調べ学習、発表準備をする機会がありました。この過程があったことで、学生が自分の興味のあるテーマを見つけることに繋がり、学習意欲の向上に繋がったと考えています。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>Q3～Q5では全ての項目で全員が「5」と回答してくれていますので、このアンケート結果からは課題を見出すことが難しいですが、今後より質の高い授業を展開していけるよう、細かな調整をはかっていきたいです。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>学生の授業参加を促すような工夫がなされていたか、といった質問で、「4」の回答がありました。授業の参加態度がよくない学生に対して、個別に注意はしていましたが、全体に対して参加を促すような注意をしていなかったため、今後は必要に応じて注意をしていきたいです。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>専門演習に関しては、概ね良好なアンケート結果だったと感じています。ただし私個人としては、専門演習での活動に満足していないこともあり、具体的には、もう少し学外での地域貢献活動を増やしたかったと考えています。今後は計画性やマネジメント力を高めていきたいです。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 金2

科目名 専門演習 I B

教員名 相羽 枝莉子

回答者数/履修者数 10/10

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>本授業は「Q13 授業に対する満足度について」の質問では、全員が「5」と回答していました。しかしながらこのアンケート結果が全てを反映しているとは言えないことから、授業時にコミュニケーションをとることで学生の生の声に耳を傾けることが重要だと考えています。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>学生の授業態度について、全員が「5」と回答しています。専門演習では授業外時間に活動したり、調べ学習、発表準備をする機会を多くつくりました。</p> <p>学習意欲の向上に関して、一つはフィードバックを行うようにしたことが良かったと思います。学生が行ったプレゼンテーションに対して、良かった点と改善を要する点を伝え、それが他の学生にとっての学習にもつながったと考えています。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>改善すべき点は「授業はよく編成され、まとまっており、わかりやすかったですか」で「4」を選んだ学生が2名いる点です。</p> <p>本授業では、計画を綿密に立てたものの、実際に活動してみると時間が不足することがあり、計画の修正が必要になったこともありましたので、上記のような結果になったと推察できます。この反省を活かし、少々ゆとりをもった計画を立てて、15回の授業とその前後の予習・復習時間の編成をしていきたいと考えています。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>ほとんどの項目で全員「5」と回答しています。その中でも「熱意の感じられる授業でしたか」について「4」と回答した学生が1名いました。全員に熱意が伝わるような姿勢を示し、その熱意によって学生の意欲も高めていきたいと思っています。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>個人的には大きな問題なく進めることができたと感じています。これからも本授業アンケートの結果を活かして、学生の満足度や学習態度、参加態度などがより良くなるよう、尽力していきたいです。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 火3

科目名 スポーツ実習B

教員名 相羽 枝莉子

回答者数/履修者数 26/30

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>「授業に対する満足度について」の質問で、ほとんどの学生が「5. 満足」を回答してくれた結果については良かったと感じていますが、「1. 不満足」を選択している学生も1名います。この原因を自分なりに考え、今後改善を図っていきたいと思います。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>学生の授業態度については「4.7点」という結果で、ほとんどの学生が「5点」を選択しています。これらは学生自らが真摯に取り組んでくれた結果です。学習意欲の向上に関しては、ニュースポーツを取り入れることで種目について学ぼうとする姿勢が自然とできたと思います。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>【改善すべき点および評価結果】 「運動量は十分でしたか」で平均点が4.5点であり、運動量が不足していたと感じている学生が複数名いる点</p> <p>【改善策】 学生が本授業を受けて、生涯スポーツと出会ったり、運動・スポーツを始めるきっかけとなったりすることが、本授業の目的の一つでもありました。その一方で、もともと体を動かすことが好きな学生にとっては、少々物足りなさを感じたのではと考えられます。初回の授業等で本授業のねらいや達成目標を、より正確に伝える必要があると考えます。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>【改善すべき点および評価結果】 「これから先もスポーツ・運動を継続したいと思いますか」で「3」を選んだ学生がいる点</p> <p>【改善策】 学生の運動習慣について、授業のプレ・ポストでアンケートを取ることで、週1回90分の運動時間が増えたことに加え、その他の運動習慣の変化を明示したり、運動・スポーツの楽しさを明示したりすることで、今後の、運動・スポーツ継続意欲の向上に繋げていきたい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>今回は、一部の学生が全体的に不満感を抱いているように捉えています。実技授業となると、身体的な差異が大きく開き、それは男女差としても顕著です。その中で全員が満足のいくような運動量の確保は難しいですが、授業の趣旨を理解した上で履修してもらうことは必ず行わなければならないと考えます。選択授業においては特に、初回のオリエンテーションに限らず、2回目以降の授業内でも、授業のねらいがわかるよう学生に伝えていきたいと思います。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 火1

科目名 道徳教育論

教員名 木村 勝彦

回答者数/履修者数 24/30

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>今年度のこの科目の総合満足度を示す質問項目Q13の平均評価値は4.3で、24名の回答者のうち5が10名、4が9名、3が3名で、2及び1をつけたものはいなかったが、2名が無回答という内訳であった。例年この科目の総合満足度は4.5以上を記録しており、それと比較すると非常に低い数値であったと認めざるを得ない。授業の基本的な進め方は変わっていないものの、例年と比較して低い評価に留まった第一の要因としては、受講者数が30名で、教職課程の履修者としては超過気味であったことが挙げられるであろう。学生に中学2年生を対象とする道徳の学習指導案の導入部を発表させ、それに対する学生相互の質疑応答の後に小職がコメントするという進め方をしたが、毎回3人の発表というかたちにせざるを得なかったため、一人一人へのコメントや指導が短めにならざるを得なかったことが低評価の原因と思われる。授業内容の理解に関する質問項目Q12の平均評価値も4.4で例年よりは低目であり、内訳としては5が12名、4が10名、3が2名であったが、総合満足度の評価と連動した傾向になっているものと思われる。道徳教育論の授業は本学の教職課程設置以来一貫して小職が担ってきたが、教職課程履修者の激増（特に保健体育の教員免許希望者）と平均的学力の低下という傾向は年々顕著になってきており、教職を志す学生にとって重要な意味をこの科目の意義をいかに伝えていくかについて検討を重ねる必要があることを痛感している。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>道徳教育論という科目は、学習指導要領においても教育の根幹とされている道徳という「特別の教科」の意義と授業方法を、教職課程履修の学生が実践的に学修することを目標としている。そのためこの科目の授業の進め方としては、すべての受講生が中学2年生を対象として作成した学習指導案の導入と展開の一部を発表した後に、学生相互の質疑応答を行い、小職が総括的なコメントと評価を行うということを行っている。それに先行して、道徳の学習指導案の書き方の要点を解説したり、途中で2回ほど日本と西洋の主要な道徳教育思想について講義したりするため、発表に充てる回数は全15回のうち10回になるが、例年このペースで実施して不都合はなかったものと考えている。しかし、今回の授業評価では総合満足度や理解度の数値が例年と比較して低かったことを考慮すると、基本的な枠組みは変更しないにしても回数の割り振りを再検討する必要があると言わねばならない。無論、このところの教職課程履修者数の激増傾向を見ると、それが必ずしも本質的な解決につながるとは言えないものの、まずはそうした見直しの上で授業の進め方等を改善向上させていかざるを得ないであろう。学生の発表、質疑応答と教師の総括的コメントという基本的な進め方は、アクティブラーニングの観点からも変えることはできないであろうが、どの部分を膨らませて、どの部分を縮小するのが効果的かについて早急に再検討する所存である。ちなみに授業の事前準備に関する質問項目Q1の平均評価値が4.0と低く、内訳も5が7名、4が10名、3が6名、2が1名であったことは、発表の材料である学習指導案の作成に必ずしも真剣に取り組んでいないことの証左とも思われるため、学修指導案の作成と発表についてはさらに厳しく対応する必要があると思われる。授業中の態度に関する質問項目は4.3でやや低いものの、内訳は5が11名、4が10名、3が3名であったことから、授業中の質疑応答には概ね熱心に取り組んでいるものと考えてよいであろう。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5</p>	<p>授業の編成やまとまりに関する質問項目Q3の平均評価値は4.3で、5が11名、4が10名、3が3名であった。このことから、授業の内容や組み立て方は学生にとっても概ね理解され、好意的に受けとめられていたものと評価することができるであろう。次にシラバスと授業内容の整合性に関する質問項目Q4の平均評価値は4.3で、5が11名、4が9名、3が4名であった。授業内容は基本的にシラバス通りに進行させたため、概ねこのような肯定的評価になったものと考えているが、</p>

項目見出し	コメント
スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3	<p>3が1名増加していることの原因は、公務出張の回ややコロナ、インフルエンザの感染状況を鑑みて年明け最初の回を、主要な教育思想の紹介に関する授業動画の視聴によるオンデマンド方式の授業に変更したが、学説史の概説というその内容が通常の授業と比較するとやや難解なものになってしまったことが関係していると思われる。また授業内容は興味深い者であったかに関する質問項目Q5の平均評価値は4.5と今回の評価値のなかでは高い数値を示しており、内訳も5が14名、4が7名、3が3名であったことから、道徳そのものに対する受講生に興味関心を高めることはできたものと評価することができよう。総じて、授業の内容については受講生から概ね高い評価を得ることができたものと考えている。今後もより分かりやすい編成と内容に改善することによって、すべての項目で4以上の評価を獲得することができるようにしていく所存である。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>授業方法のうち話し方の明瞭さに関する質問項目Q6の平均評価値は4.8で、最も高い評価となっており、内訳も5が18名、4が6名であったことから、伝えるべきことは明確に学生に伝わっていたと評価することができるであろう。熱意に関する質問項目Q7の平均評価値は4.5で、内訳は5が15名、4が7名、3が2名であったが、基本的には学生の発表に対する総括的コメントと評価に終始することが多かったために、冷静さを心がけていたことからQ6と比較するとやや低くなったものの数値としては高い水準に達しているものと解することができる。教科書、配布プリントの使用に関する質問項目Q8の平均評価値も4.5で、内訳は5が15名、4が5名、3が4名となっており、学習指導案の書き方や教育思想に関するもの以外は学生が作成した学習指導案のコピー配布であったが高い評価を得られた。板書や機器の使用に関する質問項目Q9の平均評価値は4.3で若干低くなっており、内訳も5が12名、4が8名、3が3名、2が1名と低評価の学生も少数見られた。小職が板書をするのはほとんどなく、解説もパワーポイントによるものであったために問題はなかったと考えているが、低評価になった要因としては、学生発表時における機器使用に不手際が多く、その指導が手間取ったり、小職自身も対応しきれなかったりしたことが考えられる。遅刻や私語への対応に関する質問項目Q10も平均評価値が4.3にとどまり、内訳も5が12名、4が6名、3が6名であった。学生の発表と質疑応答を渾発にし、明るい雰囲気づくりを心がけたために、多少授業内容に関する私語が出る場面も容認したことがこの結果に反映したものと考えているが、全15回を通じて叱責する必要を感じることにはなかった。学生の授業参加の促しに関するQ11の平均評価値は4.2と低く、5が10名、4が8名、3が6名であった。学生発表に対する質疑応答でも挙手して発言する者が限られており、他の学生については適宜指名して発現させたりしたが、そうした消極的姿勢の学生たち自身が発言したいという思いをもっていたことに十分対応しきれなかったことが、この結果に表れているものと考えられる。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>先述したように道徳教育論の授業は本学の教職課程開設以来、一貫して小職が担当してきた科目であり、それなりに内容を精選してスキルアップも図ってきた科目であるだけに、今回の総合満足度に関する評価が4.4に留まったことについては深刻に受けとめると同時に、大いに反省もしているところである。最も大きな要因としては、受講生数が30名と多数になり、学生の発表と質疑応答を核とする授業を進める上で時間配分等に齟齬をきたしたことが挙げられる。一人一人の発表とそれをめぐる質疑応答にさらに多くの時間をとり、小職の総括的コメントや評価も手厚いものにする必要があるが、今年度は各回に3人の発表を入れたために各自に充てる時間が25分程度にならざるを得ず、受講生の思いとしては消化不良気味であったものと推察される。来年度以降も受講生の数は増加することが予想されるので、授業の枠組みそのものを大きく見直し、学生一人一人に充てる時間をいかに増やしていくかについて検討を重ねる所存である。また受講生数の増加と連動する問題であるが、学習指導案の作成をおざなりで済ませてしまう学生が年ごとに微増しているように思われるため、学校教育における道徳の重要性を自覚させるためにも厳格な指導をしていく必要があるとも感じている。毎年、道徳教育論の授業の雰囲気は明るく良好で、授業進行に苦勞を感じることはほとんどない。とは言え、教職志望の学生の意欲を汲み取って伸ばすためには明るく闊達なクラスの雰囲気作りも重要であるが、教職課程としての規律も欠くことはできず、</p>

項目見出し	コメント
	それらをいかに両立させていくかが問われていることを自覚している次第である。

アクションプランシート

2023年度後期 火3

科目名 人権と平和

教員名 木村 勝彦

回答者数/履修者数 17/17

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>今年度のこの科目の総合満足度に関する質問項目Q13の平均評価値は4.4で、一定の水準に達しているとはいえ、受講者数が17名の授業であったことを考慮するとさらに高い数値が得られるべきであったと反省している。評価の内訳としては5が9名、4が6名で、2をつけた者も1名見られたことは遺憾である。この科目は隔年開講であり、受講者数も例年数名程度であったために単純比較はできないが、従来の授業の進め方から大きく変更したことが評価に影響したことが考えられる。ただしそれは、法務省が挙げた11の人権課題に関する網羅的な講義や戦争加害と戦争被害の関係に関する講義というあり方から、特定の人権課題に関してグループディスカッションと発表を行わせるというアクティブラーニング重視のあり方へと転換したものであったが、その手法が十分にこなれたものになっていなかったのではないかと推察される。その傍証となるのが授業内容の理解度に関する質問項目Q12の平均評価値がやはり4.4にとどまり、しかもその内訳として5が10名、4が5名で、2が2名存在したということである。すなわち小職がグループディスカッションや発表を行わせることによって、受講生たちに何を獲得させようとしているのかという授業目標が必ずしも明確になっていなかったものと言わざるを得ない。この科目において設定している小職のねらいそのものは間違っておらず、授業方法としても有効なものだと確信しているが、それを十分に咀嚼して活かすことができなかったことについては自戒して、改善向上に努めなければならないと考えているところである。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>先述したように今年度のこの科目では、最初の数回を人権思想の歴史に関する講義に充て、公務出張等で正規の授業時間に実施できない場合に授業動画をオンデマンド方式で視聴させたほかは、ほとんどすべての回をグループディスカッションと発表という進め方で実施した。その場合にディスカッションする内容をあらかじめ予告し、それについての予習を課すべきであったが、実際には当日にテーマと資料を提示することになってしまったため、事前の準備学習を受講生たちに行わせることが不足していた。そのため準備学習に関する質問項目Q1の平均評価値が3.7と唯一3点台という低水準にとどまり、その内訳も5が6名、4が5名、3が3名、2が1名、1が2名とばらつく結果になったことは大きな反省点である。もう少し厳しく準備学習を課すことにより、当日のディスカッションそのものさらに充実したものになったのではないかという悔いが残る結果である。ただし、授業中の自身の受講態度に関する質問項目Q2の平均評価値は4.6と高い水準に達し、その内訳も5が12名、4が4名、3が1名であったことは、ほとんどの受講生が真摯かつ真面目にこの授業のテーマ理解に取り組み、主体的に参加していたことを示しているものと解することができるであろう。今年度はやや試行錯誤の面が強かった点は認めざるを得ないが、今後も今年度の授業内容・方法をさらに改善・向上させることによって学生の主体的な受講態度を促していく所存である。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>授業の編成・まとまりに関する質問項目Q3の平均評価値は4.6という高い水準に達し、その内訳も5が10名、4が7名であったことから、ほぼすべての学生が授業編成そのものについては肯定的に受けとめていたと考えることができるであろう。シラバスと授業内容の整合性に関する質問項目Q4の平均評価値も同様に4.6を示しており、その内訳も5が11名、4が6名であったことから、授業内容はシラバスに記載した通りに展開されていたという評価を得られたものと言えよう。そして授業内容の興味深さに関する質問項目Q5の平均評価値も4.6となっており、内訳は5が11名、4が5名、3が1名であって、ほとんどすべての学生が人権問題や世界平和の実現に関する問題には高い興味・関心をもっていただことがわかる。総じて授業内容そのものについては全項目が4.6という高い評価を得ており、教職課程を履修する学生た</p>

項目見出し	コメント
	<p>ちに人権意識や平和維持の重要性に対する意識を啓発・涵養するといふこの科目の目標は十分に達成されたものと評価することができるであろう。今後もさらに全15回において取り扱う内容を絞り、当該年度の授業の到達目標を明確にするとともに、受講生に考えさせるべき内容を精選することによって、より高い評価を得ることができるよう改善・向上の努力を継続していく所存である。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>授業方法に関する質問項目のうち話し方の明瞭さに関するQ6の平均評価値は4.7という高い数値に達しており、その内訳は5が12名、4が5名であった。授業実施の基本的な条件である明確・明晰な話し方をすることができていたものと考えている。また授業への熱意に関する質問項目Q7の平均評価値は全項目の中でも最高の4.8に達しており、内訳は5が14名、4が3名であった。教職を志す者は人権尊重や世界平和の実現に向けて努力し、学校教育の現場で子どもたちにそのことをしっかりと教えなければならないという小職の信念が、この科目の授業の中に示されていることをすべての受講生たちが受けとめてくれたものと評価することができるであろう。教科書、配布プリント等に関する質問項目Q8の平均評価値も4.6で、その内訳は5が12名、4が4名、3が1名であることから、講義やグループディスカッションのために作成した毎回のプリントが好意的に受けとめられていたことがうかがわれる。板書や機器に関する質問項目Q9の平均評価値も4.6の高さであり、内訳で5が12名、4が4名であったのに対して2をつけた者も1名存在したが、板書やパワーポイントの使用、視聴覚教材の使用なども概ね高評価であったものと理解している。遅刻や私語等への対応に関する質問項目Q10の平均評価値は4.5で、内訳は5が12名、4が3名、3が1名、2が1名であった。概ね高評価で問題はないものと考えているが、一度だけ私語のやまない学生たちを叱責したことが逆に低い評価値を示した数名の存在につながっているものと思慮される。学生の授業参加への促しに関する質問項目Q11の平均評価値も4.5で、内訳は5が11名、4が5名、2が1名であった。アクティブラーニングの要素を例年になく強めたが、その進め方に十分こなれない面があったことが低評価の1名につながったものと推察される。とは言え、授業方法に関する評価値はすべて4.5～4.8の高水準に達しており、受講生から高い評価を得ることができたと言えるであろう。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>先述のようにこの人権と平和という科目は隔年開講であり、教職課程履修者は履修することが望ましいとされているものの選択科目であることから、学生にとっては履修上の位置づけが難しいと捉えられたものか。ここ数年の受講者数は数名に留まるような状況であった。今年度はそうした中で20名近くの学生が受講し、途中で4年生が教育実習での欠席を機に履修放棄をするという事例もあったものの、17名に単位を付与することができた。その要因として、今年度は従来の講義中心の組み立てを改めて、毎回異なるグループを形成させた上でのグループディスカッションと発表を多く取り入れ、アクティブラーニングの要素を強化したことが挙げられるであろう。その結果、授業内容や授業方法そのものについては4.5～4.8という高い評価を得ることができたのは、改善・向上の結果が表れたものとして受けとめることができるであろう。ただしその反面、総合満足度や理解度が決して低くないものの4.4というレベルにとどまったのは、小職自身がアクティブラーニングの進め方についてまだ十分こなしきれていない面があったことを物語っており、この点については反省すべきものと考えている。このことに関連して、授業の準備学習に関する学生の自己評価が3.7の低水準にとどまったことも考え合わせ、事前にグループディスカッションのテーマと資料を与え、十分な準備学習をしてから授業に臨むよう強く指導すべきであったと考えており、次回以降のこの科目の実施においては改善するように努める所存である。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 木1

科目名 倫理学
 教員名 木村 勝彦
 回答者数/履修者数 180/226

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>今年度の総合満足度に関わる質問項目Q13の平均評価値は4.5であり、200名超の学生（回答は180名）が受講する講義科目としては、高い評価を得ることができたものと考えている。ほとんどが国際観光学科の学生で、それに次いで社会福祉学科の学生が多く、健康栄養学科の学生が10名程度、薬学科の学生が1名という受講者の構成であったが、総じて授業を真剣に聞いており、私語等で叱責するような場面もなかった。評価の内訳としては5をつけた者が108名、4が51名、3が21名であり、2や1をつけた者や無回答の者はいなかった。半数以上の学生が5という評価をしていることから、全体として高評価だったと考えてよいであろう。今後は4という評価の学生が5、3の学生が5或いは4という評価をつけるように、授業内容や方法に改善を重ねていく所存である。そのことと関連して、授業内容の理解度に関する質問項目Q12の平均評価値が4.4であったことを真摯に受けとめる必要があると考えている。この項目の評価内訳は5が97名、4が54名、3が28名で、2が1名、1や無回答の者はいなかった。項目13と比較すると5が少なく、3が多いという結果になっており、2という評価をつけた者と合わせて、内容がやや難解なものを受けとめられたものと推察される。内容理解の点でさらに平易化あるいは簡略化を進めるとともに、授業方法に工夫を重ねることによって理解度が高まり、そのことが総合満足度の向上にもつながるものと考えている。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>前項でも述べたように受講者のほとんどが国際観光学科の学生であり、次いで社会福祉学科が数十名、健康栄養学科が10名程度、薬学科が1名という構成であったが、総じて受講態度は真面目で、私語もほとんど見られなかった。200名を超える受講者数であったが、私語等で叱責する必要はほとんどなく、講義内容に集中して授業を進めることができた。どの質問項目においてもほとんどの学生が3以上の評価をつけており、無回答の者がいなかったことにも、学生の受講態度の良さが表れていると言えよう。また毎回授業終了時にリフレクションカードを回収しているが、その評価も「よく理解できた」「理解できた」がほとんどで、例年に比べて飛躍的に増加した自由記述の内容も肯定的なものがほとんどで、学生が高い学習意欲と関心をもってこの授業に臨んでいることがうかがわれた。このことの主たる要因としては、西洋倫理思想史の主要な学説を時代ごとになぞるという例年の授業内容から大きく変更し、本年度は具体的な倫理的問題いわゆるモラル・ディレンマの解説を増加させることによって、より身近な問題として倫理学を考えさせるような工夫をしたことが挙げられるであろう。それによって学生たちは道徳的に選択が困難な具体的事例を通して主体的に考え、倫理学に対する関心を深めていったものと考えている。今後はさらに視聴覚教材やレスポンス等の効果的な使用により、多人数クラスに相応したアクティブラーニングを導入していくように改善を重ねる所存である。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>授業の編成、まとめ、分かりやすさに関する質問項目Q3の平均評価値は4.5で、5が112名、4が43名、3が25名で、2や1をつけた者はいなかった。このことから、授業構成や分かりやすさについては概ね高い評価を得られたものと考えることができよう。シラバスと授業内容の整合性に関する質問項目Q4の平均評価値は4.5で、5が112名、4が43名、3が22名であったが、この項目については2をつけた者が3名あったことは反省すべき点である。しかし、ほとんどの学生が4以上の評価をしていることから、授業内容はほぼシラバス通りに進めることができ、受講生は授業全体の目標やねらいを理解することができたものと考えられる。また授業内容は興味ある者であったかを問う質問項目Q5の平均評価値は4.4で、5が101名、4が50名、3が28名で、2をつけた者も1名存在したが、ほとんどの受講生は倫理学の内容に関心・興味をもち、積極的に授業に臨んだものと考えてよいであろう。ただ</p>

項目見出し	コメント
	<p>しむずか0.1ポイントとは言え、Q3やQ4と比較すると評価値が低かったのは、そもそも学生に哲学・思想分野の学問に対する「抽象的」「難解」という先入見が見られることもその一因と思われるため、次年度以降はより具体的で学生の興味・関心を惹きつけ得るような題材を盛り込むように努める所存である。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>話し方の明瞭さに関する質問項目Q6の平均評価値は4.5で、5が115名、4が41名、3が23名、2が1名で、1は0名であったことから、言語明瞭に講義を進めることができたものと考えられる。授業への熱意に関する質問項目Q7の平均評価値は4.6で、5が123名、4が36名、3が20名、2が1名で、1は0名であり、この科目に関する今回の授業評価におけるすべての質問項目のなかで最も高い評価を得ることができた。難解な学問との思い込みが強いであろう受講生たちに倫理学の面白さを伝えようとした小職の努力が、多くの学生に肯定的に受けとめられたものと考えている。配布プリント等の使用に関する質問項目Q8の平均評価値は4.5で、5が115名、4が45名、3が1名、2が2名、1は0名であった。毎回パワーポイントのスライドと同じ内容のプリントを配付し、空欄に重要語句を記入させるという方式をとっており、この方法が概ね高評価を得ていると思われるが、同時に2が2名存在することから、プリントへの記入に困難さを感じている学生もいるのではないかと思量している。パワーポイントの使用等に関する質問項目Q9の平均評価値は4.5で、5が115名、4が40名、3が23名、2が2名で、1が0名であった。配布プリントと同じ内容のスライドと必要に応じての写真・図のスライドを提示するという方法は、ほとんどの学生に肯定的に受けとめられているものと考えられる。遅刻や私語への対応に関する質問項目Q10の平均評価値は4.4で、5が107名、4が45名、3が25名、2が2名、1が1名であった。他項目よりも少し低い評価に留まった上に、2や1をつけた者もいたことから、教師自身はそのように感じなかったものの、私語や授業中の遅刻・退出等に不満を感じている学生が一定程度存在したのと考えられ、この点については今後改善を期していきたい。学生の授業参加促進に関する質問項目Q11の平均評価値は4.3、5が102名、4が36名、4が41名、2が1名、1が0名であった。予習・復習の問題と関連して、学生の主体的な授業参加につながるようなアクティブラーニングの要素が不足していることは小職の授業の欠点であり、そのことが今回もこのようなかたちで現われてきたものと考えている。この点についても改善向上の方策を検討していきたい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>今年度の倫理学の受講者は226名で、途中で一定程度の学生が授業に参加しなくなったものの、授業評価アンケートに回答した学生は79.6%であった。最終的に単位を付与した学生の数はこれを上回っており、200名を超す受講者の講義科目としては高い出席率、回答率であった評価することができることから、授業評価の結果も概ね受講者全体の意向を反映したものになっていると考えられる。そうした意味では授業参加の満足度が4.5、授業内容の理解度が4.4であったのは、授業内容及び授業法に対して概ね高い評価を得ることができたものと言ってよいであろう。倫理学をはじめとして哲学・思想分野の学問に対しては、学生の間には「難解」「抽象的」「思弁的」というような先入見があると想定されるが、そのような学生たちに倫理学の魅力がある程度は伝えることができたことと評価できる。今年度は特に具体的なモラル・ディレンマの事例を紹介することに努め、毎回身近な問題として倫理を捉え直すことができるように工夫したことが好意的に受けとめられたものと考えられる。今後もこうした具体的な事例の数を増やすとともに、紹介の仕方を含めて内容の精選を重ねていくことが重要であろう。また受講態度は全体として真面目であり、私語等の叱責は必要なかったものの、大講義室であれば後方や両端に目が行き届かないという面もあり得るので、対応を検討していきたい。さらに毎回指摘される学生の授業参加の要素が不足していることについては、レスポンス等の活用等も含めて検討を重ねていく所存である。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 木4

科目名 ダイバーシティとグローバル市民論

教員名 木村 勝彦

回答者数/履修者数 133/135

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>この授業は全学共通科目で学部・学科及び学年が多様な135名の学生が受講したが、総合満足度に関する質問項目Q13の平均評価値は4.4で、この種の授業科目としては高い評価を得ることができたものと言えよう。ただし、評価の内訳を見ると5をつけた者が74名、4が44名、3が13名で、2はいなかったものの1をつけた者が2名存在したことは、概ね肯定的に受けとめられているとは言い得るものの、不満を抱く者も少なくはなかったことがうかがわれる。また授業内容の理解度に関する質問項目Q12の平均評価値は4.5で、これも高い評価を得られたと言い得る一方で、内訳を見ると5が79名、4が39名、3が14名で、1をつけた者も1名存在することから、この授業がどのような目標を掲げて実施されたものであるかについて理解の行き届かなかった学生も一定程度存在したことがうかがわれる。そうした傾向の要因としては、この科目がオムニバス形式の授業であり、多種多様な内容について話を聴くことができると面白さがある一方で、授業全体として何を指すのかについて必ずしも十分な理解が得られなかったことが挙げられるべきであろう。この科目は木村・浦郷・川上の3人を担当教員とし、この3人が統括・進行するというかたちをとりながらも、特に後半部のグローバル市民論に関する回においては各方面の専門家をゲストスピーカーとして招聘し、それぞれの領域に関する講話を並べるといったかたちをとったために、授業目標がやや曖昧に受けとめられるという側面もあったものと思われる。この点については、今後ゲストスピーカーの選定も含めて再検討される必要がある。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>この科目では教員あるいはゲストスピーカーの講義を聴いて、それに対する意見・感想をとりまとめる回を主としながらも、その合間の節目節目の回においては全体を20のグループに分け、それぞれのグループで与えられたテーマについてディスカッションして意見を取りまとめ、パワーポイントを利用して全体の前で発表するという学修活動を実施させた。座学に類する講義聴講の際にはレスポンスを活用して意見や質問をその場で提出させ、その幾つかを教員が講義担当者に投げかけるといったかたちで、学生の授業参加を促した。レスポンスの活用は出席確認の機能も兼ねていたが、こうした講義聴講の回については必ずしも準備学習を要求することがなかった。そのため準備学習に関する質問項目Q1の平均評価値は3.7という低い水準にとどまっております。その内訳も5をつけた者が45名、4が35名、3が33名、2が8名、1が12名という状況で、準備学習はほとんど真面目に取り組まれていなかったことが明らかである。ただし講義の受講態度そのものは概ね良好であったし、グループ発表にはどのグループも真剣に取り組んでいたようなので、そのことが授業中の態度に関する質問項目Q2の平均評価値4.3に表れているものと推測できる。内訳を見ても、5が62名、4が54名でほとんどの学生は高評価をつけており、3が16名、2が1名に過ぎなかった点は高く評価してよいであろう。全体としてグループ活動への関心が高いことがうかがわれたため、今後はそうしたアクティブラーニングを強化するように授業内容を見直すことが必要であると思われる。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>授業の内容についての質問項目のうち編成・まとまりに関するQ3の平均評価値は4.4で、5をつけた者が80名、4が35名、3が15名、2が3名という内訳であったことから、授業編成そのものについてはほとんどの受講者から肯定的に受けとめられていたことがうかがわれる。シラバスと授業内容との整合性に関する質問項目Q4の平均評価値は4.5で、内訳は5が80名、4が28名、3が18名、2が1名であった。したがって、授業内容はシラバスに記載の通りに実施されており、そのことを学生も明確に認識していたものと考えてよいであろう。また授業内容の興味深さに関する質問項目Q5の平均評価値も4.4であったことから、ダイバーシティとグローバル市民論という授業の内容に対する</p>

項目見出し	コメント
	<p>興味・関心は多くの受講生に共有されており、ほとんどが意欲的に授業に臨んでいたと評価することができる。しかし、評価の内訳を見ると、5をつけた者が77名、4が40名と86%以上の学生が高い評価をしていたのに対して、3が12名、2が2名、1が2名というように低い評価をしていた学生も一定数存在していたことが示されており、先述したように受講する学生層が多種多様であるという現実を踏まえた上で、今後とも授業内容を精選してどのような学部・学科の学生であってもその興味・関心をひきつけることのできるようなものに改善していく必要がある。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>授業方法について問うもののうち話し方の明瞭さに関する質問項目Q6の平均評価値は4.5で、高い数値を示している。内訳も5が83名、4が31名、3が17名、2が2名であり、オムニバス形式の授業で講義担当者がバラエティに富んでいた実情を鑑みると、これだけの評価値が得られたことは十分な成果であったと考えられる。また授業担当者の熱意に関する質問項目Q7の平均評価値も4.5という高い数値を示しており、内訳も5が84名、4が33名、3が16名であったことから、少なくともダイバーシティ理解の重要さとグローバル市民社会における生活の見直しの必要性とを伝えたいという授業担当者の熱意は、受講生に十分受けとめられたものと評価できるであろう。配布プリント等に関する質問項目Q8の平均評価値は4.4で、内訳は5が81名、4が30名、3が21名、2が1名であり、板書や機器の使用に関する質問項目Q9の平均評価値は4.5、内訳は5が83名、4が34名、3が15名、1が1名であった。いずれの項目も低評価の者が若干存在するものの、大講義室における講義科目としては高い評価を得られたものと評価することができよう。遅刻や私語への対応に関する質問項目Q10は平均評価値4.4で、内訳は5が79名、4が33名、3が20名、2が1名であった。木村・浦郷・川上のうちの2名以上が必ず授業には参加し、後方から参観していたこともあって、多人数の講義科目である割には不必要な私語はほとんど見られなかった。授業の妨げになるほどではなかったものの、遅刻常習者が存在したことが低い評価の要因の一つになっているとも思われる。学生の授業参加への促しに関する質問項目Q11の平均評価値は4.4で、内訳は5が79名、4が33名、3が20名、2が1名であった。レスポンの活用やグループ活動の実施などが高い評価に結びついたものと解することができるであろう。以上、これらの項目全体を通して、授業方法そのものは受講生から高い評価を得られているものと思量する。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>ダイバーシティとグローバル市民論というこの科目は、全学共通科目としては最も新しく5年前に導入されたものである。導入当初から複数の担当教員が編成・進行するオムニバス形式の授業として導入されており、今年度も3人の担当教員のほかに各界からの多数のゲストスピーカーによって実施してきたが、科目提案者の発意によるこうしたあり方をいつまで続けるのかについては再検討が必要である。3人の担当者の負担が大きい上に、前半のダイバーシティに関する講義を中心とする部分と、ゲストスピーカーがそれぞれの専門領域の話をする後半のグローバル市民論に関する部分との脈絡が必ずしも明確ではないと思われるからである。そのことは学生の授業評価の結果にも表れており、準備学習や態度に関する質問項目、授業内容に関する質問項目に低い数値をつけた者が多く存在することは、こうした授業編成の分裂に起因するものと思われる。ダイバーシティの内容をめぐるグループディスカッションと発表に多くの学生が興味・関心をもって意欲的に参加しているのに対して、ゲストスピーカーの講話に対する質問・感想をレスポンスで提出だけの回では受け身の姿勢が顕著であるということは、毎回の授業を参観した上での授業担当者の感想である。もちろん全学共通科目群の選択科目として多くの学生が受講しており、しかも受講生の多さの割には高い評価を得ているという事実はあるものの、全学共通科目群の整理統合の必要性に鑑みれば、現状のままこの科目を維持し、毎年実施していくことについては疑問の余地なしとしない。科目の意義と授業内容そのものについて再検討の必要が大きいと思われる。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 月2

科目名 社会保障Ⅱ
 教員名 脇野 幸太郎
 回答者数/履修者数 53/61

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>本科目の満足度は4.3で、ほぼ例年と同様の水準であった（ただし、本科目については昨年度はアンケートを実施しておらず、一昨年度以前の水準との比較となる）。本科目については、この水準からのもう一伸びを目指してきたが果たせなかった。また、本年度は、満足度を2と回答している受講者が2名おり、反省とともに要因分析の必要を感じている。自由記述にみられる「教員の一人語り」（教員としては授業内容との関連した話題提供のつもりであるが）などの印象も影響しているかもしれない。話題の持ち出し方等について今後検討したい。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>受講態度や学習意欲は、全体として非常に良好であった。本科目は、抽象的な制度理解が授業内容の中心となるため、例年、内容理解に困難を示す受講者が少なくないが、今回に関しては、多くの受講者から「何とかして難解な制度を理解したい」、さらには「理解でき、わかると楽しい」といった反応が多くみられた。受講者に、真の意味で授業内容を「理解」してもらえる授業づくりに徹したことの一定の成果であると理解している。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>(2) のとおり、多くの受講者の反応から、授業内容には興味・関心を持ってもらえたものと思っている。それも、単に「国家試験指定科目だから学習しなければならない」といった意味での関心ではなく、「自分や家族の生活にもかかわりがあるから、ぜひ理解しておきたい」「専門職として利用者と関わるうえで、必ず理解しておく必要がある」といった、しっかりした目的意識が多くの受講者から感じられた。今後も、このような興味・関心を引き出すことのできる授業づくりを心がけていきたい。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>受講者の授業参加を促す工夫に関する評価（質問11）の評価が低く、この点について改善が必要と考えている。授業内容のボリュームが多いため、どうしても一方通行の講義形態になりがちであるが、学習内容の定着を図るためにも、授業自体の質の向上のためにも、有効な手法を模索したい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>本学着任以降、一定水準の理解度・満足度は確保できるようになってきたが、その先へ突き抜けることができないまま、在職最終年度を迎えてしまった。上記のとおり、受講者の興味関心は全体として高いので、それに応えよう、内容面でも、方法の面でも、これまでの経験を踏まえつつ、さらなる工夫を凝らし、今後の教育活動に反映させていきたい。これまでのすべての受講者に感謝しつつ、本学最後のアクションプランシートを締めくくることとしたい。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 火1

科目名 貧困に対する支援

教員名 脇野 幸太郎

回答者数/履修者数 43/47

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>満足度は4.5で、小職のこれまでのアンケート結果の中では高水準であった。もう1つの担当科目である「社会保障論」以上に、関心を抱きやすいテーマの科目であったことも関係しているかもしれない。福祉専門職を目指す学生に、本科目のテーマに関心をもってもらえたことは大きな喜びとするところである。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>受講態度は全体として非常に良好で、「難しい内容だが、何とかして授業内容を理解したい」という高い意欲が多く受講者から感じられた。本科目のテーマや目的を明確に提示し、そのうえで、制度を段階的に理解できるよう、解説にも工夫を凝らしたことが一定の成果をもたらしたものと理解している。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>授業内容が真の意味で「理解」できるよう、丁寧な（ときにはやや詳細な）説明を心掛けた結果、授業時間に不足をきたしてしまった。このバランスのとり方は自身が長年のテーマとしているところであるが、未だに折り合うポイントが見いだせていない。自身でも、解説が時として冗長であることは認識しているので、この点について改善し、扱う内容にも優先順位を付けたうえで説明の仕方にもメリハリを持たせるなど、今後さらに工夫したい。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>話し方、熱意、教材については、一定の評価を得ており、方向性としては適切であったと考えている。今後は、授業内容の定着を図るためにも学生の授業参加を促すための取り組みを更に工夫していく必要がある。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>本科目も、本学着任時から一貫して担当してきた科目であるが、ここ数年、受講者の受講態度は非常に改善され、授業内容への関心も高くなってきたと感じている。そうした受講者の興味関心をしっかりと受け止め、「学んでよかった」と感じてもらえる授業づくりを今後も心掛けていきたい。授業は、教員にとっても真剣かつ重要な学びの場である。そのような場を与えていただいた本学およびすべての受講者に心から感謝しつつ、本学最終年度を終えることとしたい。ありがとうございました。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 木5

科目名 社会学
 教員名 大島 啓
 回答者数／履修者数 20／187

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>授業評価の満足度は、平均とほぼ同値であった。話し方、熱意、資料の使用法については評価が高い。自由記述も肯定的意見（この授業に参加しなければ知る機会のなかった考え方を知ることができて、とても興味深かった）であった。授業の内容や方向性に関しては、おおむね妥当であると考えている。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>学生に興味を持ってもらうために、配布資料に多くの画像や図、関連知識などを配置し、無味乾燥な内容にならないよう努めた。授業の冒頭に前回の授業内容に関する質問や感想を紹介し、それにコメントを付けるようにしている。これが一番楽しみであるという学生の感想は多い。またレジュメに学生が書き込む部分を多数用意し、常に手を動かす機会を作ることによって、集中力の低下を防ぐよう努めた。各回の内容が対象の小テストを授業の最後に行い、答え合わせとセットで授業内容の確認を行っている。資料に書き込む用語等は、パワーポイントで大きな文字で出している。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>授業編成はシラバスに従い、整合性を持たせ、シラバス通りに進んでいる。内容も教科書をなぞるだけの形を避けるために、時事的、歴史的なトピックを適宜挿入し、興味関心を高めるよう努めた。学生の反応としては、例年内容は難しいが解説が分かりやすい、時代背景等の話が興味深いというものが多い。話が面白く情報量が多いとの評価も例年多いが、社会福祉学科以外の学生には内容の難易度が高く、その知識の必要性が伝わらない傾向にもある。国家試験対応用の「硬い部分」と、興味関心を引くための「やわらかい部分」のバランスをいかに取るかに、例年注力している。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>話し方や熱意、配布資料や文献の使用法については、一定の評価を得ていると考えている。ウィークポイントである早口は最近指摘されていない。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>この授業は、国家試験を受ける社会福祉学科の学生と、それ以外の一般学生が合同で受ける授業である。前者の学生のために内容は国家試験対応の専門的なものとなっていることから、「なぜこんな必要のない硬い内容の授業を受けなければならないのか」という疑問を、後者の学生が持っても無理はないのが現状である。この課題の克服を念頭に置いて、この数年授業スタイルの構築を試行錯誤してきたが、その努力は徐々に報われてきていると考える。ただ、制限時間内にどの程度の情報量の知識を伝達するのが適切なのかについては、適切な答えを得ておらず試行錯誤が続いている。引き続き改善に努めたい。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 月5

科目名 卒業研究

教員名 大町 いづみ

回答者数/履修者数 3/3

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>学生間のディスカッションを多く取り入れながら、進捗に応じ、発表の機会を多くとっていったことは、理解を深め、満足度につながる結果となったのでは中と考える。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>学生間のディスカッションを多く取り入れながら、進捗に応じ、発表の機会を多くとっていったことは、理解を深め、満足度につながる結果となったのでは中と考える。授業に対して、興味、関心を持ち、最後まで研究を仕上げていくことのモチベーションを維持することができるよう、新たな発見について、フィードバックを心がけて、毎回行っていった。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>該当項目なし</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>該当項目なし</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>ゼミ人数が3人であり、学力が高い学生であったため、理解が早く、モチベーション維持に貢献できたと考える。ゼミ活動時は、ゼミ構成員間のコミュニケーションが円滑に行えるように、誕生日会などのイベントや食事会なども計画し、実施していったことは、交流による勉学面での効果が発揮できたものとする。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 水2

科目名 介護における医療的ケアⅡ

教員名 大町 いづみ

回答者数/履修者数 11/12

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>満足度は、4.9と高い結果であった。演習を多く取り入れ、演習には、4人から3人に1人の配置で教員が入り、手厚く介護技術指導ができたことは効果的であったと考える。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>講義による、技術の根拠に対する理解→演習ビデオによる技術のシミュレーション→実施の流れで実践したことは、諸学者の学生にとっては、概ねわかりやすく技術の習得ができたのではないかと考える。技術実施後は、必ず、フィードバックし、よかった点、改善点について伝え、次の演習週につながるようにした。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>もともと医療的ケアに興味がない学生に対し、興味、関心を持ってもらうことから始めなければならない。身近な、医療的ケアの事例から考えていくことを始めたい。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>上記に同じ</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>全体満足度は高かったが、興味関心を高めるための、授業方法の工夫を次年度は、研究し、実践していきたい。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 金4

科目名 認知症の理解 II

教員名 大町 いづみ

回答者数/履修者数 27/31

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>満足度は、一般4.7、留学生5.0でほぼ、よい結果を受けた。受講の対象学生が、1年生から4年生と実習等を経験していない学生も含まれていることから、できるだけ、事例などを通して、理解していけるよう努めていきたい。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>ゲストスピーカーの招福を3回行っており、実践現場での実践や、行政からの現在の施策の方向性など、できるだけリアルな身近な内容を取り入れていることは、意欲向上につながっているのではないかと考える。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>十分に理解できないまま、授業が進み、どんどんわからなくなるなど、授業に対するモチベーションが低くなっている学生が存在する。小テストや確認テストなど、授業前に、前回の授業内世フィードバックを必ず実施するよう改善していきたい。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>上記に同じ</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>1年から4年生、国家資格受験者から、受験者ではない学生、留学生と受講生がバラエティに富んでいる。授業の焦点を合わせることが難しいが、できるだけ、初学者が理解を深めることができる工夫、伝わる工夫を編み出し、授業展開を試みていきたい。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 月3

科目名 ソーシャルワークの理論と方法（社会）Ⅱ

教員名 坂本 雅俊

回答者数／履修者数 34／57

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>満足度は4.0と年度を追うごとに0.1から0.2ポイント上昇を続けている。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>学生の授業態度は、コロナ禍の時期から、講義中の私語がまったなくなるなど、社会環境の影響がみられる。その理由は不明である。従って、学生の授業態度は良好であった。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>学生の意見がみられたのは、パワーポイントが一番後ろの席から見えにくいという指摘であった。今後、教室の中間地点にモニターを配置するなどの何らかの改善策を必要とする。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>評価は良好であった。改善は、年度毎に変化する学生世代の要求や視点に真摯に応じていくことである。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>学生の授業態度が良好であり、学習面は鍛えれば伸びる環境である。このチャンスをいかせるように努めていきたい。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 木4

科目名 保健医療と福祉

教員名 坂本 雅俊

回答者数/履修者数 33/57

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>保健医療は、学生の就職希望の多い領域であり、学生の学習態度は特に熱意を感じられた。特に、薬学からの転学科生は優秀であり、講義も前列で聴講するなど、ほかの学生の受講態度を良好に引っ張ってくれている。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>15分ごとに、講話、事例、アクティブラーニング、小テスト、発表と講義型であっても、細かく展開することで、学生の気力を維持させることである。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>薬学からの転学科生が熱心であり、質問も的を得ていることから、そうした学生をリーダーとして講義を展開する方法が功を奏した。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>工夫していることは、年度ごとに違う学生の気質を捉えて、講義の展開方法を事例タイプや知識詰め込みタイプなどに置き換えて講義することである。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>国家資格の目標が明確であり、教員でチームを組んで学生の成長教育を展開できるようになってきている。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 月4

科目名 専門演習B

教員名 柳 智盛

回答者数/履修者数 4/5

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>専門演習Bの授業満足度の結果は、4.5の平均ではあるが全体の平均程度の結果であった。4年次の卒業研究論文の執筆に向けての内容を中心に授業を進めた。特に、論文の書き方や先行研究の資料集めなどを中心に受講者が必要とする内容を中心に進めた。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>受講生の授業態度や学習意欲などの向上のため、卒業研究論文の執筆に向けての指導などでは、理解が難しい学生もいたため、個別指導などを通して、全員が授業の到達目標に近づけるために工夫をしながら授業を行ったが、学生によっては負担にも感じる部分があったと思う。また、授業の進め方においては具体的な課題を提示し各自の卒業研究論文を自ら取り組めるような工夫しながら授業を行った。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>各受講生の卒業研究論文の進捗状況に合わせて毎回の授業を展開する形式であったため、学生の個々の能力や進むペースが違う中、受講生全員が授業の到達目標に近づけるかが課題でもあり、授業の内容においては4.3から4.8という結果になったと考えられる。各学生の卒業研究論文のテーマに合わせて授業内で発表を行い、それに対してディスカッションを行うことで授業を進めるなどの工夫を行った。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>授業の方法については、4.0から4.8の評価結果であった。授業では、テーマにもよるが基本的に自分の考え方をまとめ全員で共有する形式として、各自の卒業研究論文を進めながらゼミ内でのディスカッションを通して自分の考え方と他の学生の考え方をまとめ、教員を含めた学生同士のコミュニケーションの練習の場として、今後も工夫しながら進めていきたい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>今回の専門演習Bの授業は、ゼミ生としての指導も含めて行う必要があり、ゼミの中には修学上の配慮が必要とする学生もいることから、授業だけではなく関わる時間が多かったことから、授業時間内でも関係性が作りやすかった。個々の学修能力を踏まえて、大学生活・学修を含めた指導をしていく必要があると考える。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 月5

科目名 卒業研究

教員名 柳 智盛

回答者数/履修者数 6/6

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>卒業研究の授業満足度の結果は、5.0の平均で全体の平均より高い結果であった。大学での学びを総まとめするような卒業研究論文を完成することが授業のねらいである。特に、卒業研究論文のテーマは、3年次から学生自分の興味関心のあるテーマで執筆を進めて、教員からの指導として論文の書き方や先行研究の資料集めなどを中心に行う授業である。クラス内での授業に合わせて個別指導を細かく行う工夫した。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>受講生の授業態度や学習意欲などの向上のため、卒業研究論文の完成に向けての指導などでは、理解が難しい学生もいたため、個別指導などを通して、全員が授業の到達目標に近づけるために工夫をしながら授業を行ったが、学生によっては負担にも感じる部分があったと思う。また、授業の進め方においては具体的な課題を提示し各自の卒業研究論文を自ら取り組めるような工夫しながら授業を行った。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>各受講生の卒業研究論文の進捗状況に合わせて毎回の授業を展開する形式であったため、学生の個々の能力や進むペースが違う中、受講生全員が授業の到達目標に近づけるかが課題でもあり、授業の内容においては4.8から5.0という結果になったと考えられる。各学生の卒業研究論文のテーマに合わせて授業内で発表を行い、それに対してディスカッションを行うことで授業を進めるなどの工夫を行った。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>授業の方法については、4.8から5.0の評価結果であった。授業では、卒業研究テーマにもよるが基本的に自分の考え方をまとめ、全員で共有する形式として、各自の卒業研究論文を進めながらゼミ内でのディスカッションを通して自分の考え方と他の学生の考え方を述べる形式で授業方法を進めてきた。教員を含めた学生同士のコミュニケーションの練習の場として、今後も工夫しながら進めていきたい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>今回の卒業研究の授業は、ゼミ生としての指導も含めて行う必要があり、ゼミの中には修学上の配慮が必要とする学生もいることから、卒業研究論文の執筆においても配慮をしながら指導したことで、全ての受講生が卒業研究論文を完成することができた。そのようなこともあり受講生と関わる時間が多かったことから、授業時間内でも関係性が作りやすかった。個々の学修能力を踏まえて、大学生活・学修を含めた指導をしていく必要があると考える。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 火1

科目名 ソーシャルワーク実習指導（社会）Ⅰ

教員名 柳 智盛

回答者数/履修者数 7/7

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>本授業の満足度は平均4.4で受講生の多くは授業に対して概ね満足している結果であった。社会福祉士受験資格を修得するため必要となるソーシャルワーク実習指導に関連する科目で、夏に実施した実習を振り返り、実習報告書を作成することで社会福祉士のソーシャルワーク実習を総まとめが主な授業内容でもあり、受講生も授業において積極的に参加する科目である。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>社会福祉学科の専門科目の中でも、社会福祉士受験資格の取得のため必修科目でもあり、夏休み期間中に行ったソーシャルワーク実習を振り返り、実習報告書を作成することで社会福祉士のソーシャルワーク実習を総まとめが主な授業内容であることから受講生の受講態度は基本的に良かった。授業の方法として、実習記録を振り返り実習生同士でディスカッションを通して実習内容を深める作業を行う。振り返り作業を通して実習報告書の作成などを受講生自ら考え作成した上で、受講生同士のディスカッションを毎回の授業で行い、他の受講生の考え方を踏まえて自分の考えをまとめるような授業展開をすることで、学修意欲の向上にもつながったと考えられる。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>授業の内容については、4.1～4.3の評価であり、受講生が興味を持って授業を受けていたと考えられる。受講生は夏休み期間中に行った実習を通して体験した内容や知識をまとめ、具体的なイメージや自分の課題を想定して問題設定や問題達成のための方法を再度確認することである。今回の実習を通して学んだことを次年度のソーシャルワーク実習Ⅱでも活かせるために、実習生一人一人の意識を高めるような授業の展開が必要であると考えられる。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>授業の方法については、4.1～4.4の平均で、多くの受講生において授業の方法は的確であったと考えられる。しかし、本授業は、自ら課題設定や課題解決をねらいとすることが多い授業であることから、受講生への実習記録のフィードバックや個別指導を通して受講生が一人一人の実習体験を振り返るような指導を行った。さらに、受講生が行った実習での体験がそれぞれ異なることからお互いに共有できるような内容でまとめていくことについてさらに改善していく必要があると思う。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>本授業は社会福祉の分野の中でも、主な授業内容が社会福祉士受験資格を修得するため必要となる実習指導に関連する科目で、夏休み中に実施した実習を振り返り社会福祉士のソーシャルワーク実習Ⅱに向けた内容が主な授業内容でもあり、受講生が高い興味関心を持って授業に臨んでいたため、授業の展開はしやすかった印象を持っている。特に共通する話題に対してディスカッションを通して学生個々の意見を述べさせることでより授業への意識・意欲が向上できたと考えられる。しかし、社会福祉士国家資格養成科目でもあるソーシャルワーク実習指導は複数のクラスで行っていることから、各クラス間の整合性を取りながら進めないといけない授業でもあったことから、次年度の授業においては改善が必要であると考えられる。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 火5

科目名 ソーシャルワーク実習指導（社会）Ⅲ

教員名 柳 智盛

回答者数／履修者数 5／6

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>本授業の満足度は平均4.5で受講生の多くは授業に対して満足している結果であった。社会福祉士受験資格を修得するため必要となる実習指導に関連する科目で、夏に実施した実習後の振り返りを通して実習報告会の準備及び実習報告書の作成に向けた内容が主な授業内容でもあり、受講生も授業において積極的に参加する科目である。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>社会福祉学科の専門科目の中でも、社会福祉士受験資格の取得のため必修科目でもあり、夏休み期間中に行った実習の振り返りと報告書作成が授業内容であることから受講生の受講態度は基本的に良かった。授業の方法として、実習の振り返りと報告書の作成などを受講生自ら考え作成した上で、受講生同士のディスカッションを毎回の授業で用いることで、他の受講生の考え方を踏まえて自分の考えをまとめるような授業展開をすることで、学修意欲の向上にもつながったと考えられる。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>授業の内容については、全ての項目において4.6の評価であり、受講生が興味を持って授業を受けていたと考えられる。ただ、受講生が行った実習の報告会準備や実習報告書などを作成することもあり、具体的なイメージや自分の課題を想定して問題設定や問題達成のための方法においては受講生によって温度差もあり、一人一人の意識を高めるような授業の展開が必要であると考えられる。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>授業の方法については、全ての項目において4.6の評価であり、多くの受講生において授業の方法は的確であったと考えられる。しかし、本授業は、実習の振り返りや報告書作成などの課題解決中心の授業方法であり、受講生の実習先や実習での体験がそれぞれ異なることからお互いに共有できるような内容でまとめていくことについてさらに改善していく必要があると思う。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>本授業は社会福祉の分野の中でも、主な授業内容が社会福祉士受験資格を修得するため必要となる実習指導に関連する科目で、夏に実施した実習後の振り返りを通して実習報告会の準備及び実習報告書の作成に向けた内容が主な授業内容でもあり、受講生が高い興味関心を持って授業に臨んでいたため、授業の展開はしやすかった印象を持っている。特に個々の実習体験を各自で振り返りを行った上で、共通する話題に対してディスカッションを通して学生個々の意見を述べさせることでより授業への意識・意欲が向上できたと考えられる。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 月1

科目名 国家試験基礎演習

教員名 梅野 潤子

回答者数/履修者数 55/59

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>満足度は概して高く、受講者参加型の授業を展開した結果であると受け止めている。今後も受講者が自ら学ぶ方法を獲得できるような授業展開を行いたい。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>社会福祉士・介護福祉士・精神保健福祉士の国家試験に共通する科目を抜粋し、グループワークを中心に受講生同士で学び合い、その成果を單元ごとにテストで確認するという方法をとった。この方法が予復習の習慣化、受講態度の熱心さにつながったと思われる。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>概して高評価を得ているため、今後も授業の流れや分かりやすさに留意して取り組んでいきたい。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>概して高評価を得ているため、今後も授業の流れや分かりやすさに留意して取り組んでいきたい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>授業アンケートそのものに対する回答率が高く、授業時間中に回答時間を設けたことが確実なアンケート回収につながったと思う。本科目は今年度新設科目であったが、科目担当で綿密な打合せを行った上で実施したため、概ね高い満足度を得ることができたと受け止めている。今後も受講生の意欲を高める取り組みを継続していきたい。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 月5

科目名 卒業研究

教員名 梅野 潤子

回答者数/履修者数 5/5

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>大変高い満足度を得た。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>受講生の個別進捗状況に合わせた指導や、就職支援などが高評価につながったと思われる。今後も継続して取り組んでいきたい。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>大変高い評価を得ており、今後も継続していきたい。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>大変高い評価を得ており、今後も継続していきたい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>受講生は真面目に卒業論文に取り組んでおり、意欲が高く授業態度も真摯であった。受講生の個別進捗状況に合わせた指導や、就職支援などが高評価につながったと思われる。今後も継続して取り組んでいきたい。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 火6

科目名 社会福祉総合演習（福祉専門）

教員名 梅野 潤子

回答者数／履修者数 32／34

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>概ね高い満足度を得ている。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>科目解説だけではなく、確認のための定期的なテストや国家試験に関する情報提供も行ったことが、意欲向上につながったとみられる。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>概ね高い満足度を得ているが、授業編成や授業内容についてやや改善の余地がある。3年次の新設科目に連動させる形で、解説型から受講者参加型授業へ切り替えて実施していきたい。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>概ね高い満足度を得ているが、国家試験科目であるため、学生の授業参加を促す工夫についてはさらに改善の余地がある。この点についても、解説型から受講者参加型授業へ切り替えて実施することで、改善を試みたい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>国家試験受験者用科目であり、学修意欲は総じて高く、満足度も高い結果となった。上記の通り、次年度からはグループワークを中心とした学生参加型の授業に切り替え、授業改善を図っていきたい。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 火2

科目名 ソーシャルワークの理論と方法（共通）Ⅱ

教員名 野田 健

回答者数／履修者数 40／46

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>Q13の評価は4.5であり、及第点は超えていると判断する。評価のうち3点が2名であった点に関しては、どの点に問題があるかわからないが、自由記述から推測すると、スライドの文字のサイズにあると考える。文字サイズは、実際に教室の後ろに座った際には見えないレベルのサイズであったが、プリントを配布した他、ポートフォリオでデータを閲覧可能にしたため、見づらいという指摘に関するフォローは取れていたように考えている。また、文字サイズを大きくすればするほど印刷物が増えてしまい、それがかえって学習効果を下げているのではないかと懸念もある。ついては、今後もう少しポートフォリオのデータを活用するよう促していく工夫が必要であると考えている。その他、今回、毎回小テストを実施したが、それに対して学生の自由記述に2つの高評価があった点は、教員として励みになるものであった。また、グラフや図が多いことも多く高評価を受けているため、今後も継続的にしていきたいと考える。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>上記にも記したが、「毎回の小テスト」と「グラフや図の多用」が学生の学びやすさにつながっていることがわかった。これらのコメントは、これまでの授業評価でもたびたびコメントがあったため、今回はより意識的に、また「自分自身が学生の立場だったら」と想定して資料を作成するよう努めた。それが功を奏した形となったと考える。ついては、今後も「説明は簡単な言葉で」「グラフや図を多用し」「小テストで復習ができるよう」にしていくことで、学生が学んでいる実感が得られるよう、資料作りや授業案（タイムスケジュール等）を丁寧に作成していきたい。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>Q3・4・5は、いずれも4.6であった。この3つの項目は、「授業編成」「シラバスとの整合性」「授業内容」であるが、ここで1つずつ反省していく。 「授業編成」に関しては、テキストの章立てに沿い、必ず1コマで区切りの良いところまで終わらせるよう編成した点が今回の評価につながったと考える。 「シラバスとの整合性」に関しても、第1回授業時にシラバスを用いて丁寧に第何回にテキストの第何章を行うのかを明確にした他、毎回の授業で次回予告をし、それを宿題にしたことから今回の評価につながったと考える。 「授業内容」に関しても、上記と同じようベースはテキストに置き、テキストでは十分に理解しがたい点を授業で丁寧に解説するようにつとめたことから今回の評価につながったと考える。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>Q6「話し方」、Q7「熱意」、Q8「教科書等の使用」、Q9「板書・機器使用」、Q10「遅刻や私語への対応」、Q11「授業参加を促す工夫」のうち、Q6から10までは4.5以上であったことから、一定の評価を受けたと考える。しかし、Q11は4.4であり、授業参加を促す工夫が他の項目と比べると弱かったと判断できる。授業参加を促す工夫としては、上記した資料や小テスト等の工夫の他、DVDや新聞記事等の活用によって、社会情勢等を伝えながら行った。しかし、今考えるといずれも「受動的なプログラム」であったと感じている。もう少し、授業内で学生が主体的（能動的）に参加できるプログラムを入れ込まなければならない。ついては、今後、課題提示し、学生が回答する機会を増やす等を盛り込んでいきたい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>この授業は、今年度はじめて担当した科目であったため、どこまで学生に分かりやすく楽しい授業にできるか不安があった。しかし、今回のアンケート結果を見て、一定の評価を得られたように感じている。しかし、ここで満足をするのではなく、学生が何を望んでいるのかを</p>

項目見出し	コメント
	理解しながら、授業展開させていかなくてはならない。普段も授業アンケート（授業の感想等）を求めて、それを基に授業方法の改善を図っているが、今後も怠ることなく学生の声に耳を傾け、授業準備をしていきたい。

アクションプランシート

2023年度後期 木3

科目名 ソーシャルワーク演習（社会）Ⅳ

教員名 野田 健

回答者数／履修者数 16／16

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>Q13の満足度に関して5点満点中4.6であったため、ある一定の評価を得られたと感じている。</p> <p>この科目は演習のため、学生が積極的に参加することが必須であり、能動的に参加できるプログラム作りが重要となる。その点に関しては、例年積み上げてきたプログラムがあるため、大きく評価を下げることはないと考えるが、プログラムに甘んじ、その時々学生の姿勢・様子を確認しないしていると、満足度は下がってしまう。ついては、教員として常に学生一人ひとりに気配りできるかが、重要となってくる。</p> <p>そうした点に関して、ある程度できていたのかもしれないが、3点台に1名、4点台に3名いたことを踏まえると、その学生とのコミットメントは十分に取れていなかったと判断できる。その部分に関して、教員として反省しなくてはならない。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>今回の授業に関しては、上記したとおりであるが、教員として最も重要であるのは、どれだけコミットメントできるかであり、また、学生側から見れば、演習に取り組む中でどれだけ経験値を理論化でき、新たな発見ができるかであると考え。そのことをプログラム内容と対話を通じて行っていかなくてはならない。</p> <p>今回、その点に関していえば、評価表のQ3以降の内容を見ると、3点の評価を付けている者が1名、4点を付けているものが4名程いる。これはコミットメント不足からくるものだと考えられる。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>Q3「授業編成」、Q4「シラバスの整合性」、Q5「授業内容」は、4.8点、4.6点、4.6点であり、一定の評価がなされていると判断できる。</p> <p>上記したとおりであるが、ある程度授業のプログラムは完成されており、そのプログラムに沿い、どれだけ学生が課題に取り組めるかが重要なのだが、プログラム自体に不満等は少なかったと考えられる。よって、今後も引き続き同様のプログラムを進めていく。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>Q6「話し方」、Q7「熱意」、Q8「教科書等教材」、Q9「板書・機器等」、Q10「遅刻・私語への対応」、Q11「参加への工夫」に関しては、いずれも4.6点以上であったため、一定の評価はなされたと考える。</p> <p>今後も今回同様に上記項目を意識し、授業を進めていく。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>この授業は、夏休みに行われる実習とリンクする授業であり、どれだけ経験を理論化し、自分自身の糧としていくかが問われるものである。これ自体は学生の中で構築されなければ意味がなく、形だけの授業（聞くだけの授業、受動的な授業）にしてはならない。</p> <p>そのことを考えると、今回の評価結果は少し安堵するものであった。しかし、3点をつけた学生の存在は見逃してはならない。すべてが同一の学生かはわからないが、こうした学生がいたことを授業中に気づき、対応をしていかなくてはならなかった。それができていない時点</p>

項目見出し	コメント
	で、まだ学生への気配りが少ないと考える。 来年度もこの授業を行う際は、今回以上に学生に対する意識を高めたい。

アクションプランシート

2023年度後期 水1

科目名 専門基礎演習B

教員名 前田 佳宏

回答者数/履修者数 7/10

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>平均4.3をどう評価するかは別として、議論が進まなかったためか、また意欲に差があったためか満足度が低くなった学生もいたと感じている。今後はさらなる参加の促進に努める。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>テーマを各自設定するようにしたため、それぞれの学生が自分の興味がある分野のテーマを設定して取り組むことができたと考えられる。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>研究という未知の世界へのスタートの一步であったため、難しく感じた学生もいたと考えられる。しかし、なぜそうなのか、どうしてそう考えるのか、という問いは学問の本質であり、必要なステップであると考えている。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>学生自身が自分のテーマを設定する際になぜそのテーマにしたか、そのテーマにおける先行研究はどうなっているか、研究方法はどのようにするか、など、段階をさらに分けて取り組んではどうかと考えている。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>一限であったためか、参加者が少ない時期もあった。議論を中心とする授業であるため、まず授業に学生が参加するためのしかけが必要と考えられた。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 火1

科目名 地域福祉と包括的支援体制Ⅰ

教員名 韓 榮芝

回答者数/履修者数 62/71

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>履修者71名、回答者62名（内留学生1名）回答率87.3%で、授業満足度は3.9（留学生5.0）去年は3.7で、0.2ポイント上がった。本科目は社会福祉士カリキュラムの改正に伴う新設された科目であり、今年度は3年目となる。今年もコロナ禍の影響で、授業の形態は対面によって行われたが、三密を避けるためにグループワークや少人数の発表、互いに学び合うことが依然として厳しくなったことである。一年生を対象とした科目でもあるので、なるべく専門用語の定義や地域社会における諸生活問題を分かりやすく、動画を取り入れたり専門用語や人物などについてイラストなどを用いて、予習と復習ができるように授業毎にレジュメ作成や資料を事前に配布したりして、多くの受講者が授業内容を理解するようになった。しかし、今後さらに工夫していく必要があると感じた。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>今回は全ての授業が対面で行った。大人数（71名）の講義ということもあって、まず受講生にコロナ感染予防を常に促しながら三密を避けるように座席を指定した。月曜1限目の授業があったため、遅刻や欠席がないように授業の最初に前回の授業内容を復習し、簡単な小テストを行った。本科目は去年から1年生を対象に卒業必須科目となり、新カリの国家試験（SW/PSW）の受験科目でもある。そのため、予習と復習ができるように、受講生に理論的知識を得るのみならず現場での理論を実践に結びつけるように、動画の視聴や参考資料の配布するなどを実施した。授業毎に次の授業内容を受講生にレジュメを配布し、図やグラフなどを取り入れながら丁寧に作成し、復習を積極的に取り組むように授業レポートを課したり、授業後で振り返りも行った。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>質問3から5の平均得点順に3.8、3.9、3.8（去年3.6、3.9、3.9、前年度は3.6、4.0、3.4）であった。ポイントは少々上がった。改善策として、事前学修や事後復習を徹底したことである。社会福祉士の受験科目でもあり、卒業必修科目でもあるので、丁寧に留学生も含め分かりやすく事例やリアルな動画視聴を取り入れていくことが重要であると思われる。また、ゲストスピーカーの講義を受けたり、教科書に書いていない事例もグループワークで議論をしたり理解を深め、授業の参加を促して理解を深めること。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>質問6から11順に3.8、4.1、4.0、4.0、4.0、3.8で、去年は3.6、4.0、4.0、3.9、4.2、4.1（前年度3.7、4.2、4.0、4.0、4.1、3.7）であった。項目ごとにポイントがやや変動があるものの、大差がなかった。授業中に小人数でグループワークを行ったり（三密を避けるため、5人でグループワーク）、質問紙を用いて質疑応答を随時に行ったこと。予習と復習時間を確保するために授業毎に授業に対するコメントを書いてもらい、フィードバックを行ったこと、授業前と後に課題レポートを出すなど学修を促していたこと。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>今年を受講生が多く授業アンケート評価を受けて、難しい科目でもあるが、まず学生らが自ら学修する意欲を高めるため授業内容を如何に分かりやすく簡潔に説明できるように工夫する必要がある。また、学生の学修意欲（興味）を喚起させていくために、学生が何か求め、困りごととは何か対話を通して把握し、学生らの意見を真摯に受け止め、改善策を考えていくこと。さらに、他の先生の授業を参観し、より良い授業方法を模索し、学生に興味や関心を持てるように講義を進めていくことが大事であると感じる。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 木4

科目名 地域福祉と包括的支援体制Ⅱ

教員名 韓 榮芝

回答者数/履修者数 40/48

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>履修者48名、回答者40名（内留学生2名）回答率83.3%で、授業満足度は3.7（留学生5.0）、新規開講授業となったため、以前の実績がない。本科目は社会福祉士カリキュラムの改正に伴う新設された科目であり、今年度ははじめとなる。今年もコロナ禍の影響で、授業の形態は対面によって行われたが、三密を避けるためにグループワークや少人数の発表、互いに学び合うことが依然として厳しくなったことである。三年生を対象とした科目で一年間のブランクがあったので、専門用語や定義などを振り返りながら、動画を取り入れたり事例や関係する人物などについてイラストなどを用いて、予習と復習ができるように授業毎にレジュメ作成や資料を事前に配布したりして、国試に関する過去問を練習し多くの受講者が授業内容を理解するように行った。しかし、満足度が依然として高くないので、今後さらに工夫していく必要があると感じた。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>今年度の授業は全て対面で行った。大人数の講義ということもあって、まず受講生にコロナ感染予防を常に促しながら三密を避けるように座席を指定した。木曜4限目の授業があったため、遅刻や欠席が少ないが授業参加を積極的に行うように、授業の最初に前回の授業内容を復習し、簡単な小テストを行った。本科目は3年生を対象に社会福祉士及び精神保健福祉士の必須科目となり、新カリの国家試験（SW/PSW）の受験科目でもある。そのため、予習と復習ができるように、受講生に理論的知識を得るのみならず現場での理論を実践に結ぶつけるように、動画の視聴や参考資料の配布するなどを実施した。授業毎に次の授業内容を受講生にレジュメを配布し、図やグラフなどを取り入れながら丁寧に作成し、復習を積極的に取り組むように授業レポートを課したり、授業後で振り返りも行った。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>質問3から5の平均得点順に、3.7、3.8、3.7であった。改善策として、事前学修や事後復習を徹底したことである。社会福祉士の受験科目でもあり、卒業必修科目でもあるので、丁寧に留学生も含め分かりやすくように事例やリアルな動画視聴を取り入れていくことが重要であると思われる。また、ゲストスピーカーの講義を受けたり、教科書に書いていない事例もグループワークで議論をしたり理解を深め、授業の参加を促して理解を深めること。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>質問6から11順に、3.8、4.0、3.8、3.9、3.9、3.7であった。授業中に小人数でグループワークを行ったり、質問紙を用いて質疑応答を随時に行ったこと。予習と復習時間を確保するために授業毎に授業に対するコメントを書いてもらい、フィードバックを行ったこと、授業前と後に課題レポートを出すなど学修を促していたこと。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>授業アンケート評価を受けて、難しい科目でもあるが、まず学生らが自ら学修する意欲を高めていくため授業内容を如何に分かりやすく簡潔に説明できるように工夫する必要がある。また、学生の学修意欲（興味）を喚起させていくために、学生が何か求め、困りごととは何か対話を通して把握し、学生らの意見を真摯に受け止め、改善策を考えていくこと。さらに、満足度を高めるために、他の先生の授業を参観し、より良い授業方法を模索し、学生に興味や関心を持てるように</p>

項目見出し	コメント
	講義を進めていくことが大事であると感じる。

アクションプランシート

2023年度後期 金4

科目名 中国語 I B

教員名 韓 榮芝

回答者数/履修者数 12/16

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>履修者16名中12名の授業満足度は4.3であった。去年は4.9、4.0、前年度4.3であった。コロナ鍋の感染状況が緩和したため授業は対面で行われ、受講生らの顔を見ながら一人ひとりの発音など学習態度の実際に把握することができた。また中国語に興味や関心を持つように、授業毎にレジュメを事前に作成し、事後に動画URLを作ってマナバにて復習や予習ができるように行った。そして、発音のコツを覚えるため関連動画やDVDを用いて映像で発音の特徴や面白さを体感で覚えていく。グループワークや少人数の発表、互いに学び合うことができ、熱心に授業参加や宿題や自習するなど積極的に取り組んでいる学生が増えた。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>去年度同期の授業満足度がよかったため、今年度は去年のやり方を踏襲した形で行った。それは、授業中に個人ワークや小人数でグループ練習を多めに取り入れたため、発音に自信をもつようになり、楽しく個人発表も非常に上手になった。また、なるべき一人ひとりと会話し、発音を確かめながら、好きな単語や新しい語彙を書き写したり、日常生活によく触れる単語を書き出して発音を覚え、また、一人一人と会話をしたり、教科書に沿って説明をしたりすることだけでなく、参考教科書を使い、簡単な文法や自己紹介の動画と書く練習を加え、楽しく学ぶことができた。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>質問3から5の順平均得点は、4.4、4.5、4.3（去年は4.7、4.7、4.6）全年度は4.3、4.3、4.3)であった。去年より標準得点が落ちており、原因究明をしなければと考えている。内容に関しては、対面授業ができたことで受講生と常にコミュニケーションを図り、個々の実情に応じて分かりやすく、発音のコツを掴むまでに繰り返し練習を行った。また、中国語や中国の実情に興味を持つように中国の最新情報や中国文化を取り入れて動画を見たり、一対一で対話したり、自己紹介の発表ができたこと。特に個別指導を丁寧に行い、受講生全てができるようにと授業内容を編成したこと。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>質問6から11順の平均得点は4.6、4.8、4.8、4.6、4.8、4.5（昨年度は4.9、4.9、4.9、4.9、4.9、4.8、前年度は4.6、4.7、4.6、4.6、4.7、4.6、前前年度3.9、4.1、4.0、3.9、4.2、4.4）、昨年ポイントが下がった。対策として予習と復習の時間を確保するために宿題を出したり、授業毎に一人ひとりの発音を聞いたり練習を行ったこと。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>小人数のクラス編成ということで個々の学生に対し丁寧に教えるため時間上の余裕ができた。また対面授業ができたことで受講生が楽しく学修ができたが、総合の得点から見ればポイントが落ちている、満足度は4.3になった繋がった。また、受講生が中国語の学習を通して身につけたことで興味が高められた。これからも授業の方法や内容編成をさらに工夫していきたい。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 火1

科目名 ソーシャルワーク演習（精神）Ⅲ

教員名 足立 孝子

回答者数／履修者数 9／11

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>本科目の満足度は「4.9」であり、多くの学生から満足が得られていると言える。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>今回の授業は、夏休みの“ソーシャルワーク実習（精神）”の中で、学生が実際に体験した事例を発表し、グループワークの中で、アセスメントを深め、今後の対応について皆で考えるというものである。前期科目“ソーシャルワーク演習（精神）Ⅱ”では、教員が事例提供者になって事例学修をすすめたが、実習を経験することによって、学生たちの視点は広がり、知識も得、発想も豊になっていた。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>事前にどのような事例が出されるのか、把握することが難しく、シラバスとの整合性を保つことが困難であった。授業の編成や授業への興味は「5.0」であった。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>熱意は「5.0」であったが、その他は「4.7～4.9」であった。そのときばったりの授業であり、コントロールが難しかったことなどが理由と捉えている。もう少し、理論的な解説ができるように自らの力を養いたい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>私自身がとても楽しめたし、勉強にもなった授業である。学生も興味をもって、積極的に取り組んでくれた。なによりも、学生の成長を強く感じる事ができた。しかし、前述したように事例を事前に把握していなかったことから、まとまりに欠ける回もあり、コントロールが難しかった。事前に事例を把握するなどの工夫と、どのような事例に対してもうまくまとめる力を涵養する必要がある。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 木3

科目名 現代の精神保健の課題と支援Ⅱ

教員名 足立 孝子

回答者数/履修者数 25/36

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>本科目の満足度は「4.8」であり、多くの学生に概ね満足してもらえているようだ。 前期開講の“現代の精神保健の課題と支援Ⅰ”は「4.7」であったので、やや上昇している。 ただし、感染症が蔓延していたため、欠席者が多く、回答率は69.4%であった。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>図や絵を使い、わかりやすい授業をこころがけた。精神保健福祉法の改正や診療報酬のトリプル改定などの最近の動向についても、興味をもってもらえるように随時取り上げて、わかりやすく解説した。時には、NHKの番組を教材として使い、視覚でイメージしやすいように工夫した。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>授業の編成は「4.9」、シラバスとの整合性や授業の内容については「4.8」であった。 前期はすべて「4.7」だったので、評価は上昇している。 シラバスは、初回に明示しているが、途中、前後することがあった。学生には、その都度、事情を説明しながら、シラバスと齟齬がないようにしたい。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>テキストやレジユメの使用については「4.9」、話し方の明瞭さや熱意については「4.8」であった。 板書は、伝えたいことが先行してしまうことから、雑になってしまい「4.7」になったと思われる。 遅刻や私語への対応や授業参加を促す工夫については、「4.6」であった。前期に比して、私語は減ったと捉えていたが、授業態度の悪い学生を黙認していた点は否めない。やる気のある学生のためにも、気持ちよく授業を受けてもらえる環境づくりをしていきたい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>ね評価は良いと捉えている。自由記述欄には、現場のリアルな話、体験談、教科書にはない知識の伝授に対して、評価が高い。また、レジユメがわかりやすいこと、ビデオの使い方が有効であったと評価を得ている。 しかし、一方でやる気のある学生と、やる気のない学生の二極化がすすみ、やる気のある学生のみが授業をしていたことが、反省であり、悔やまれる。そもそも福祉に興味のない学生が、どうしたらこちらを向いてくれるのか、工夫をしていく必要がある。また、やる気のある学生に対しても、自発的な学修につながるような仕掛けをしていかなければならないと思っている。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 土5

科目名 精神保健福祉の原理Ⅱ

教員名 足立 孝子

回答者数/履修者数 16/24

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>満足度は「4.9」であり、多くの学生に満足してもらっていると思う。前期科目である“精神保健福祉制度論”（履修学生はほぼ同じ）は、「4.7」であることから、評価は上昇していると言える。ただし、感染症の蔓延のため、欠席学生が多く、回答率は66.7%であった。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>図や絵をホワイトボードに表示し、わかりやすい授業を心がけた。また、事例を使うことで、学生がイメージしやすいように工夫した。授業中はそれなりに集中して受講していたと思う。しかし、事前学習につながるような働きかけがあまりできなかったことが悔やまれる。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>授業の内容についても、「4.8～4.9」の評価を得ており、概ね満足してもらえている。毎回、レジュメをきっていた。今後は、テキストからの抜粋だけでなく、さまざまな文献を活用したい。出典の記載を忘れることがあったので、怠らないようにしたい。シラバスは、初回に明示しているが、途中、前後することがあった。学生には、その都度、事情を説明しながら、シラバスと齟齬がないようにしたい。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>話し方の明瞭さや熱意は、「4.9」であった。伝えたい事柄が先行するあまり、板書が汚くなっていると思う。板書の内容についても、事前にまとめておくようにしたい。レジュメはわかりやすいとの評価がある一方、テキストとの併用により、使い勝手が悪い一面もあるようだ。テキストをどのように使うか、再考したい。遅刻や私語への対応や授業参加を促す工夫については、「4.6」であった。前期に比して、私語は減ったと捉えていたが、授業態度の悪い学生を黙認していた点は否めない。やる気のある学生のためにも、気持ちよく授業を受けてもらえる環境づくりをしていきたい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>概ね評価は良いと捉えている。自由記述欄には、現場のリアルな話、体験談、教科書にはない知識の伝授に対して、評価が高い。また、図や絵を表示することで、わかりやすいとの評価も得られた。しかし、一方でやる気のある学生と、やる気のない学生の二極化がすすみ、やる気のある学生のみ授業をしていたことが、反省であり、悔やまれる。そもそも福祉に興味のない学生が、どうしたらこちらを向いてくれるのか、工夫をしていく必要がある。また、やる気のある学生に対して、自発的な学修に</p>

項目見出し	コメント
	つながるような仕掛けをしていかなければならないと思っている。

アクションプランシート

2023年度後期 月3

科目名 生活支援技術IVB

教員名 浦 秀美

回答者数/履修者数 8/9

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>本科目における授業に対する満足度の平均値は4.9であった。カテゴリ別集計結果表に記載されている平均点は、 実習・演習：4.7 社会福祉：4.4 2年：4.5 全体：4.5 昨年度の本科目：4.3 以上から、すべての項目と比較しても満足度は高い結果を得ることができた。 学修したことのアウトプットとして、単元別の知識チェックや実技チェックを実施した。アウトプットの結果（評価）の明確化として、一人ひとりにフィードバックを実施し、さらに全体へ本科目のポイントとしてフィードバックを行ったことが満足度の高い授業につながったと考察している。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>今回の授業で、学生の受講態度を良いものにするための方法として検討したことは、一人ひとりへのアイコンタクトや状況確認を適宜実施したことであった。 学習意欲等の向上につながった方法として、夏季実習で取り組んだ介護実践の振り返りや介護実践に関する記録についての振り返りを授業の中で実施し、できていないこと、今後行ってほしいこと等、実習と本科目とをリンクさせるような授業展開を行った。また、演習を充実させるために授業では、テキストを適宜活用することに心がけた。さらに、前年度と同様に穴埋め式の配付資料の作成した（学生の希望を確認し、穴埋め方式の資料の希望があったため）。また、厚生労働省や職能団体等が配信しているデータの活用、一般企業が配信している介護に関するサイト等の情報提供を行い、介護は身近なものであり、一般概念化される必要があることを授業の中で伝えた。 以上のような展開が今回の高評価につながったと考察している。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>Q3授業編成の平均値：4.9（昨年度3.9より1ポイント上昇） <集計結果表に記載されている平均点> 実習・演習：4.6 社会福祉：4.3 2年：4.5 全体：4.5 前年度との比較、今年度それぞれのカテゴリごとの平均値とも比較し、すべて上回る結果を得ることができた。</p> <p>Q4シラバスとの整合性平均値：4.9（昨年度4.2より0.7ポイント上昇） 集計結果表の記載平均点 実習・演習：4.7 社会福祉：4.4 2年：4.6 全体：4.6 前年度との比較、今年度それぞれのカテゴリごとの平均値とも比較し、すべて上回る結果を得ることができた。</p> <p>Q5授業に対する興味平均値：4.6（昨年度4.1より0.5ポイント上昇） 集計結果表の記載平均点 実習・演習：4.6 社会福祉：4.3 2年：4.5 全体：4.5 前年度との比較、今年度それぞれのカテゴリごとの平均値とも比較</p>

項目見出し	コメント
	し、上回る、もしくは同等の結果を得ることができた。
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>Q6話し方の明瞭性平均値：4.6（昨年度4.5より0.1ポイント上昇） 集計結果表の記載平均点 実習・演習：4.7 社会福祉：4.4 2年：4.6 全体：4.6 前年度との比較、今年度それぞれのカテゴリーごとの平均値とも比較し、上回る、もしくは同等の結果を得ることができた。</p> <p>Q7熱意ある授業平均値：4.9（昨年度4.2より0.7ポイント上昇） 集計結果表の記載平均点 実習・演習：4.7 社会福祉：4.5 2年：4.6 全体：4.6 前年度との比較、今年度それぞれのカテゴリーごとの平均値とも比較し、すべて上回る結果を得ることができた。</p> <p>Q8テキスト使用の適切性平均値：4.8（昨年度4.0より0.8ポイント上昇） 集計結果表の記載平均点 実習・演習：4.7 社会福祉：4.4 2年：4.5 全体：4.6 前年度との比較、今年度それぞれのカテゴリーごとの平均値とも比較し、すべて上回る結果を得ることができた。</p> <p>Q9板書、機器使用の適切性平均値：4.9（昨年度4.0より0.9ポイント上昇） 集計結果表の記載平均点 実習・演習：4.6 社会福祉：4.4 2年：4.6 全体：4.6 前年度との比較、今年度それぞれのカテゴリーごとの平均値とも比較し、すべて上回る結果を得ることができた。</p> <p>Q10遅刻私語対策平均値：4.9（昨年度3.9より1.0ポイント上昇） 集計結果表の記載平均点 実習・演習：4.6 社会福祉：4.4 2年：4.5 全体：4.5 前年度との比較、今年度それぞれのカテゴリーごとの平均値とも比較し、すべて上回る結果を得ることができた。</p> <p>Q11授業参加促進平均値：4.8（昨年度4.0より0.8ポイント上昇） 集計結果表の記載平均点 実習・演習：4.7 社会福祉：4.3 2年：4.5 全体：4.5</p>

項目見出し	コメント
	<p>前年度との比較、今年度それぞれのカテゴリーごとの平均値とも比較し、すべて上回る結果を得ることができた。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>本科目における授業構成や使用教材は昨年度のものをアップデートしたものを用いて展開した。手技や手法についてはテキストを中心に、そして、テキストで図示されていない項目は資料を検索し、妥当性を検討した上で資料として用いた。昨年度は国家試験合格基準より標準を少し上げた授業展開であったが、分かりやすさが若干不足していたため、今回は、分かりやすさをより重視した授業資料作成に心がけた。</p> <p>学生からの質問や確認、リアクションがあり、導入時は学生とのやりとりを必ず行い、様子を確認した上で授業を展開することができた。コミュニケーションを十分に図った上で授業を展開させることが、今回の高評価につながったと考察しているため、次年度以降も導入時の展開をさらに検討し、実施していきたいと考えている。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 水1

科目名 介護概論ⅠA

教員名 浦 秀美

回答者数/履修者数 52/60

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>本科目における授業に対する満足度の平均値は4.6であった。カテゴリ別集計結果表に記載されている平均点は、 講義：4.5 社会福祉：4.4 1年：4.5 全体：4.5 以上から、すべての項目と比較しても満足度は高い結果を得ることができた。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>授業導入時に前回のリフレクションレポートへのフィードバックを毎回実施した。コメントへの考えを伝えるとともに、疑問点を解消するための新たな資料や見解を述べることで、真摯に対応したという印象になったのかもしれないと考察している。 また、定期試験に向けた授業内での重要箇所の明確化、授業最終回での定期試験重要学修項目の提示により、試験勉強に取り組みやすいというリフレクションレポートコメントもみられたことから、当たり前のことであるが、明確化・可視化が重要になってくると考察している。 受講態度については、残念ながらイヤホンをつけて受講していた学生が見受けられたため、その際には他の学生がいたが注意を行った。注意を行うとともに、残念な気持ちになったこと（授業準備を可能な限り万端に行い、学生へ提供している側の気持ちも少しは慮って欲しいというニュアンス）を伝えると、授業終了後に反省したことを学生も伝えてくれた。 注意や指導とともに、教授する側にもモチベーションがあり、下がる行為をしてほしくないことを伝えることの重要性を確認できた。次年度以降、イヤホンをつけて受講する学生がいないことを願うばかりだが、もしそのような学生がいた場合は、今回のように真摯な態度で関わっていきたいと考えている。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>Q3授業編成の平均値：4.6 <集計結果表に記載されている平均点> 講義：4.5 社会福祉：4.3 1年：4.5 全体：4.5 今年度それぞれのカテゴリーごとの平均値とも比較し、すべて上回る結果を得ることができた。</p> <p>Q4シラバスとの整合性平均値：4.6 集計結果表の記載平均点 講義：4.6 社会福祉：4.4 1年：4.6 全体：4.6 今年度それぞれのカテゴリーごとの平均値とも比較し、同値もしくは上回る結果を得ることができた。</p> <p>Q5授業に対する興味平均値：4.5 集計結果表の記載平均点 講義：4.5 社会福祉：4.3 1年：4.5</p>

項目見出し	コメント
	<p>全体：4.5 今年度それぞれのカテゴリーごとの平均値とも比較し、上回る、もしくは同等の結果を得ることができた。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>Q6話し方の明瞭性平均値：4.7 集計結果表の記載平均点 講義：4.5 社会福祉：4.4 1年：4.6 全体：4.6 今年度それぞれのカテゴリーごとの平均値とも比較し、すべて上回る結果を得ることができた。</p> <p>Q7熱意ある授業平均値：4.8 集計結果表の記載平均点 講義：4.6 社会福祉：4.5 1年：4.6 全体：4.6 今年度それぞれのカテゴリーごとの平均値とも比較し、すべて上回る結果を得ることができた。</p> <p>Q8テキスト使用の適切性平均値：4.7 集計結果表の記載平均点 講義：4.5 社会福祉：4.4 1年：4.6 全体：4.6 今年度それぞれのカテゴリーごとの平均値とも比較し、すべて上回る結果を得ることができた。</p> <p>Q9板書、機器使用の適切性平均値：4.6 集計結果表の記載平均点 講義：4.5 社会福祉：4.4 1年：4.6 全体：4.6 今年度それぞれのカテゴリーごとの平均値とも比較し、同値もしくは上回る結果を得ることができた。</p> <p>Q10遅刻私語対策平均値：4.6 集計結果表の記載平均点 講義：4.5 社会福祉：4.4 1年：4.5 全体：4.5 今年度それぞれのカテゴリーごとの平均値とも比較し、同値もしくは上回る結果を得ることができた。</p> <p>Q11授業参加促進平均値：4.6 集計結果表の記載平均点 講義：4.5 社会福祉：4.3 1年：4.5 全体：4.5 今年度それぞれのカテゴリーごとの平均値とも比較し、すべて上回る結果を得ることができた。</p>

項目見出し	コメント
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	<p>本科目が学科必修科目となって2年が経過する。昨年度はオムニバス科目で展開し、今回は単独で開講した科目である。新たな形態になってからの授業アンケートであることから、自身のこれまでの評価がないため、他のカテゴリ情報と比較するに留まったが、概ね良好な評価を得ることができたと考えている。</p> <p>自由記述にも、「分かりやすい」「重要度が区別化されている」「毎回楽しい」「理解しやすかった」「丁寧」「おもしろい」「教科書を最大限活用することができた」「介護について興味をもつことができた」「知識をたくさん身につけることができた」等、全てのコメントがポジティブなものばかりであった。介護のイメージは社会福祉学を学修する学生にとってもネガティブなイメージを持つため、その払拭をシラバスの内容から逸脱しない程度に網羅した。また、介護を知る、学ぶことの必要性、受講学生自身にとってどれだけメリットがあるかということについても授業時間の中で伝えた。</p> <p>今後も学修することへのモチベーションを保たせるために、受講学生にとって受講することのメリットは何かということも追究したうえで授業を展開させていきたいと考えている。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 月4

科目名 専門演習B

教員名 久田 貴幸

回答者数/履修者数 5/6

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>本科目の満足度は、非常に高かった。今後も継続して学生の満足を得られるようなゼミの運営を行いたい。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>学生のモチベーションと能力に併せて授業を組み立てた。理解が進んでいない内容については、個別に指導を行うなどの方法をとったことが意欲の向上に繋がったと考える。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>改善が必要と思われる内容は見当たらなかった。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>課題を期限内に提出できていない学生が多い。自身のタスク管理ができていないことが原因と推測できるため、今後はタスク管理に関する指導も取り入れたい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>本科目の受講生は、特に学習意欲が高いわけではないが、学生同士の仲がよく、適度に支援し合っているため、満足度も高くなったと考える。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 月5

科目名 卒業研究
 教員名 久田 貴幸
 回答者数/履修者数 5/6

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>本科目の満足度は、4.8であり非常に高かった。今後も継続して学生の満足を得られるようなゼミの運営を行いたい。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>卒論の指導を始め、介護実習に関する助言や就職に関しても支援を行ったことが意欲の向上につながったと考える。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>改善が必要と思われる内容は見当たらなかった。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>改善が必要と思われる授業の方法について、特に見当たらなかった。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>本科目の受講生は、学生同士の仲がよく、卒論の執筆や就職活動等についての情報共有がよくできていた。来年度の学生に対しても同様の支援を行いたい。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 金1

科目名 介護過程ⅡB

教員名 久田 貴幸

回答者数/履修者数 6/11

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>本科目の満足度は、4.6であった。これは、例年通りの結果であると考ええる。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>介護に関する次回事例に対して、個人作業やグループワークを組み合わせ実施した。疑問点については、質問できる時間を設けたり、個別に話を聞いたことが意欲の向上につながったと考える。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>学生の能力の差から、事例の選定について検討が必要と感じた。事例の抽象度が上がると、想像できない学生もいたように感じた。事例の選定や授業中の支援など検討が必要であると考ええる。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>授業の方法については、例年通りの結果と感じる。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>前年度の改善を行い、学生の意欲が向上したように感じた。今後も、改善を図りながら学生の満足度が向上する授業を運営したい。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 金3

科目名 介護概論ⅡA

教員名 久田 貴幸

回答者数/履修者数 9/9

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>本科目の満足度は、4.8であった。これは、例年通りの結果であると考ええる。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>今年度は、地域の介護予防の様子を見学に行く機会を作った。また、介護予防をはじめとして、これからの高齢者福祉の明るい展望に対する内容を取り入れたことが意欲の向上につながったと考える。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>授業の内容に対する評価については、例年通りの結果と感じる。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>授業の方法については、例年通りの結果と感じる。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>今年度の授業も特に問題を感じなかった。今後も学生の満足が得られるような授業を展開していきたいと考える。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 木2

科目名 社会福祉調査の基礎

教員名 裴 孝承

回答者数/履修者数 54/61

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>授業満足度については、4.3点で悪くはないものの、全体平均に比べて若干低かった。しかし、満足している学生も多いため、中間層である学生さんの満足度を伸ばすために細かな配慮が必要である。また、本授業では、できるだけペーパーレスを目指し、資料配布を行ってないが、それが原因としても考えられるため、今後変更してみたい。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>おおむね、授業準備や積極的な姿勢はあったが、全く準備していない学生も4名ほどいる。本件に関しては、卒業単位のみを目指す学生ではないかと推測できる。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>本科目は、科学的な発想を基本としており、論理的に展開しなければ理解しにくいかもである。そのため、科目に興味を持たない学生さんが多くいることが例年みられる。今後、もう少し統計の面白さや面白い統計数字を用いて学生の興味を引き出したい。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>特に改善が必要な方法はない。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>本科目は、社会福祉&精神保健福祉士養成の指定科目であり、4年間のカリキュラムとの整合性がほとんどない。特に、数学や化学に苦手意識を持っている学生が多い特徴がある。そのため、本授業の準備を熱心に準備し、小テストの準備も行うが、理解できない学生さんが多くいるため理解度を高めるのには限界があると考えられる。ただ、本科目を履修する学生は、国試の本科目の点数が良いため、今後も授業方法を続けていきたい。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 木2

科目名 精神保健福祉の理論と相談援助の展開 II B

教員名 丸山 貴志

回答者数/履修者数 5/7

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>今回の対象科目は、精神保健福祉士実習を経験した学生が受講する科目であるため、履修登録者数が少ない科目であった。その分、各個人に対して密にコミュニケーションをとることができ、その結果授業に対する満足度が高かったのではないかと推測する。特に本授業は4年生が対象のため、これまでの関係性も築くことができていたので、個人個人の特性に合った授業を進めていたことが高い満足度につながったのだと考える。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>本授業は、国家試験の対象科目であったため、授業内の随所で国家試験に対応した内容や過去の問題の傾向などを伝えていたことで、学生は意欲的に授業に参加することにつながった。少人数であるが受講生間には学力に差があったため、そのことが授業態度にも影響することがあった。学期の後半になって、そのことを私が把握して授業を進めたことで、個人のレベルと特性に合わせた授業ができ、そのことも学習意欲の向上につながったのではないかと考える。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>授業内容についても、対象学生が4年生であり国家試験の対象科目であったため、特に受験対策に直結するような内容にしたことが学生の興味ある内容として捉えられたのだと考えられる。授業の構成やまとまりについても、国家試験の受験を踏まえて分かりやすく工夫したことがよい評価につながったと推察する。今後も、教える必要がある内容は、しっかり要点を伝え、分かりやすい内容にすることを心がけたい。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>Q6、Q7の話し方や熱意については、自分のなかでは、しっかりとしたものをもって授業を行っているが、学生に対して伝わらないことがあるかもしれないと感じた。特に自分の話し方については、今後より分かりやすく明瞭になるよう工夫していきたい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>これまでも述べたように、本授業は国家試験の対象科目であること、精神保健福祉士の実習を経験した少人数のクラスであること、4年生であるため学生との関係性がある程度築けていることなどの要因で、一般的に良い評価を得ることができた。ただし、授業の内容についても「良い」回答を得られたことは、自らも評価できると考える。今後は本授業だけでなく、1、2年生など関係性が4年生ほどできていない学生や、学修意欲が元々低い学生に対しても、しっかり対応できる授業ができるように努めていきたい。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 火5

科目名 ソーシャルワーク実習指導（社会）Ⅲ

教員名 中村 尚生

回答者数／履修者数 6／6

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>本授業は、ソーシャルワーク実習（社会）Ⅱを終え、実習体験の省察をおこなうことが主な目的であった。受講生は、ソーシャルワーカー（社会福祉士）を志す者として、ソーシャルワーク実習（社会）Ⅱの経験を踏まえ、また大学講義などで既に修得した知識と関連させながら、専門的・実践的なソーシャルワークに関する知識・技術に対する理解を深化させる必要があった。アンケート結果より、本授業の理解度は4.2であり、一定の評価を得ることができたと考えられる。一方で、授業の満足度は受講生により異なっていた。授業満足度と授業内容への興味に関する回答傾向は類似していたため、本授業内容に満足できなかったものは興味や関心が持てなかった可能性が考えられる。これは、本授業の内容や指導方法だけに帰結できるものではなく、前期開講のソーシャルワーク実習指導（社会）Ⅱの授業段階から、授業展開を見直す必要があると示唆される。なぜなら、ソーシャルワーク実習関連科目は、事前指導、実習、事後指導が一体となって理解が進むものであり、事前指導の段階からソーシャルワークの社会的意義や実習の中で学び取るべき事項を丁寧に説明し、実習関連科目を受講する動機や目的、興味関心を明確にさせていく必要がある。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>本授業は、受講生が各々で実習体験を省察し、実習報告書を作成することで展開していく。そのため、授業方法は、受講生に対する個別添削指導が主である。個別指導では、実習報告書の作成に入る前に実習課題に関する学びや考察を言語化させた。理由としては、省察が深まらないまま無計画に文章を書くことを防ぐためである。実習課題ごとに身に付いた知識や技術、残された課題などを振り返ってもらうことで、省察を深めてもらった。本授業では、上述した実習体験を言語化させ、省察を深めることに重きを置き、それをどのように文章にあらわすか、については科目担当教員がある程度サポートすることで、省察内容の幅や範囲が広がるように文章を留意した。よって、個別指導において実習体験を振り返り、言語化させる時間を丁寧に確保することで、受講生の省察内容が深まり、ひいては授業の理解度の評価にもつながったと推測される。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>(1) でも述べたように、授業満足度と授業内容への興味に関する回答傾向は類似していた。そのため、本授業内容に満足できなかったものは興味や関心が持てなかった可能性が考えられる。これは、本授業の内容や指導方法だけに帰結できるものではなく、前期開講のソーシャルワーク実習指導（社会）Ⅱの授業段階から、授業展開を見直す必要があると示唆される。なぜなら、ソーシャルワーク実習関連科目は、事前指導、実習、事後指導が一体となって理解が進むものであり、事前指導の段階からソーシャルワークの社会的意義や実習の中で学び取るべき事項を丁寧に説明し、実習関連科目を受講する動機や目的、興味関心を明確にさせていく必要がある。また本授業は、複数のクラスに分かれて授業が展開されるが授業内容や進め方は統一されている。科目担当教員は、統一された方法に則って授業を展開するだけではなく、受講生の興味関心や理解度を把握しながら、弾力的に対応する必要があると考えられる。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>本授業は、実習報告書の作成を通じて、実習体験を省察することが主な目的である。そのため、受講生は個別に授業課題である実習報告書の作成を進める。そして、受講生は、科目担当教員に実習体験を言語化することで省察を深めた。しかし、受講生が実習先が異なっていたため、互いの実習体験や省察の進捗を話し合いながら、科目担当教員による個別指導だけではなく、受講生同士の相互学修の機会をもっと積極的に確保してもよかつたのではないかと考える。その場合は、受講生の省察の深まり具合を確認しながら、計画的に導入する必要があると考えられる。なぜなら、省察があまり深まらない段階で相互学</p>

項目見出し	コメント
	修をさせても互いの学修の深まりにつながらず、不全感だけを抱かせる可能性があるためだ。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	本授業は、ソーシャルワーク実習（社会）Ⅱに係る科目であり、社会福祉士国家資格の取得を目指す受講生にとっては、必修授業である。基本的に個別指導の形態をとることが多い。本授業の実施形態を踏まえると、各受講生の課題の進捗状況により指導内容は異なるため、受講生の意欲や関心などを含めて実態把握をより丁寧におこなうことが重要だと考えられる。また、科目担当教員は個別指導が学生の実情に即して対応できていると過信しすぎず、学生からのフィードバックを受けながら指導を進めていく姿勢も肝要だと考える。

アクションプランシート

2023年度後期 水3

科目名 心理学
 教員名 向 晃佑
 回答者数/履修者数 33/36

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>授業に対する満足度としては、平均4.8であり、ほとんどの受講生が満足する授業となっていたと評価できる。昨年度の結果と比較しても、高水準を保っているが、現状に満足せず、授業の満足度を高めていく工夫を積み重ねていきたい。本授業では、授業の中でポートフォリオ (manaba) を活用することで、受講生の感想や意見、質問などを全体で共有するようにした。その結果、受講生同士で意見を共有する機会を設けることができたと考えられる。学生の自由記述からも、他学生の感想や意見を見ることができたことについて、ポジティブな感想を抱いていると推察されるため、今後も継続して取り入れていきたい。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>本授業では、心理学の主要な理論や基礎的な知識を取り上げ、人間の行動や心の働きを捉える際の様々な視点を学ぶことをねらった。その上で、授業内での学びを通して日常生活の中で役立つ力を身につけること、講義で学んだことと自身の経験を重ね合わせて考えることで自己・他者理解を深めることを目指し、授業内で紹介した理論などを日常生活に結びつけて考えることができるよう、具体的な事例や身近な例などをまじえた講義を展開した。このように受講生にとって身近な話題やテーマを取り上げたことが、受講生の学習意欲の向上に寄与したと考えられる。また、取り上げた話題に関連する受講生の経験等について自由記述を求め、manabaを通して提出された内容を全体で共有するような時間を取り入れたことも、受講生の学習意欲の向上につながったと考えられる。しかし、アンケート結果が示すように準備学習を行っていた学生が少なかったことが課題としてあげられる。これまでの反省を活かし、受講生に対して予習や復習について明示するようにしたが、取り組みにはばらつきがみられた。そのため、予習や復習の示し方については、今後も工夫を重ねたい。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>全体を通してシラバスに即し、大きな変更なく授業を展開した。その結果、授業アンケートにおいてもシラバスと授業内容の整合性に関して高い評価を得ることができた。次年度も引き続きシラバスに即した授業展開を心掛けたい。また、Q3「授業はよく編成され、まとまっており、わかりやすかったですか」という項目に関して、平均4.8と一定の評価を得ることができたので、今後も引き続きわかりやすく授業資料の作成を続けていきたい。「Q5授業内容は興味あるものでしたか」という項目に関しては、一昨年度の平均が4.3と他の項目と比べて低くなっており、一部の学生にとっては興味が持てる授業内容ではなかったと考えられる。そのため、昨年度より授業内で扱う話題やテーマを厳選し、受講生が興味を持ちやすい授業となるよう工夫した。加えて、受講生の所属学科(健康栄養学科)に合わせた具体例を交えて解説するよう心がけた。その結果、平均4.8と高い評価を受けることができた。今後も引き続き、高い評価が得られるよう工夫を重ねたい。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>授業の方法に関わる項目に関しては、これまで同様概ね高い評価を得ることができた。特に話し方や板書、機器の使用については、多くの学生が高く評価しており、今後も高い評価が得られるよう継続していきたい。授業参加を促す工夫としては、ポートフォリオ (manaba) を活用して授業内で受講生同士の意見を交換するような機会を設ける、ワークシートを取り入れるなどの工夫を重ねた。加えて学生が主体的に授業に参加できるようアクティブラーニングに留意した授業展開を心掛けた。具体的には、ポートフォリオで収集した学生の意見を全体の場で共有する機会を増やしたり、グループワークを取り入れた。結果として、昨年度よりも高い評価を受けることができたので、今後も引き続き工夫を重ねたい。</p>

項目見出し	コメント
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	<p>授業に対する理解度や満足度、授業の内容や方法については、昨年度に引き続き、概ね高い評価を得ることができた。今後も工夫を重ね、今回の結果と同程度かそれ以上の評価が得られるよう取り組みたい。また、昨年度までよりもグループワークやペアワークなど受講生同士の相互コミュニケーションが求められるアクティブラーニングを取り入れることができた。また、ポートフォリオ (manaba) を活用し、学生同士の意見交換ができる場を設けた。このように学生同士の相互交流を促すようなアクティブラーニングとポートフォリオを並行して取り入れ、両者のメリットを活かした授業展開を心掛けた結果、一定の評価を得ることができたため、今後も引き続き工夫を重ねていきたい。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 木1

科目名 食品衛生学

教員名 野村 秀一

回答者数/履修者数 46/52

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>授業満足度は、4.5で、全体平均とほぼ同じ評価であった。3の評価の学生がいることから、さらに、満足度の上がる授業内容になるように、授業内容の再度の検討を実施する。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>昨年度まで、パワーポイントを使用した講義では、教科書を全く開かない、読まない学生が見受けられたので、本年度は教科書をしっかりと見るように、教科書の内容を中心に講義を行ったとで、教科書を読み、内容を確認するという当たり前のことをすることを促したことが1つの要因と考えている。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>評価は、4.3～4.6であった。評価2の学生がいるが、何を根拠にした評価なのか理解に苦しむ。質問1の評価は3.8、自らの学習を実施しない学生の評価は、何になるのでしょうか。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>この項目の評価は、4.3～4.7である。改善策は。これまで、多くの取組をしてきたが、が講義を受ける学生の基礎学力、専門教育に関する興味・関心のない学生が多くなると、専門教育を実施すること自体が難しくなる。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>学力低下、学修習慣無、専門知識に対する関心・興味無の学生が多くなり、苦慮している。定期試験の成績はこれまでで最悪であった。再試験2回実施でも合格できず、再履修が決定した学生が8名である。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 金2

科目名 栄養生理学実習

教員名 熊井 まどか

回答者数/履修者数 28/31

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>授業に対する満足度の評価は4.9であり、昨年度とほぼ同様であった。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>学生の受講態度に関わる項目の評価は、Q1 (4.1)、Q2 (4.6) であった。生体試料を用いたり、学生自身が被験者となる実習内容であったことが、興味・関心を持つ要因になったと考えられる。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>授業内容に関わる項目の評価はいずれも4.9であり、昨年と同様に高い評価が得られた。実習内容に関するネガティブコメントは見られなかったため、今後も学生が興味・関心を持つことができる内容を検討していきたい。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>授業方法に関わる項目の評価は、Q6~9 (4.9)、Q10・11 (4.8) と高評価であった。今年度は実習内容を絞り、実習前の講義に加え実習後もまとめの時間を設けて理解を促したところ、学生から好評を得た。今後、継続して実施する予定である。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>例年のことであるが、授業アンケート評価と実際の理解度を測る試験の結果とのギャップを埋めることが課題である。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 金4

科目名 栄養生理学実習

教員名 熊井 まどか

回答者数/履修者数 32/34

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>授業に対する満足度の評価は4.9であり、昨年度と同様であった。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>学生の受講態度に関わる項目の評価は、Q1 (4.1)、Q2 (4.7) であった。生体試料を用いたり、学生自身が被験者となる実習内容であったことが、興味・関心を持つ要因になったと考えられる。また、常に実習中の机間巡回を行うことで、学生が質問しやすい環境を提供できたと考える。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>授業内容に関わる項目の評価は、Q3・4は5.0、Q5は4.8であり、昨年とほぼ同様に高い評価が得られた。実習内容に関するネガティブコメントは見られなかったため、今後も学生が興味・関心を持つことができる内容を検討していきたい。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>授業方法に関わる項目の評価は、Q7の5.0を除き、4.9と高評価であった。今年度は実習内容を絞り、実習前の講義に加え実習後もまとめの時間を設けて理解を促したところ、学生から好評を得た。今後、継続して実施する予定である。また、話すスピードが速いとの意見があるため、学生の様子を観察しながら適正なスピードで心掛けたい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>これまでレポートは、修正点等のコメントを付けて個別に返却を行っていたが、今年度は添削に加え、返却時に解説を行ったことが、理解度の向上に繋がったと考えられる。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 金2

科目名 調理学実習 II

教員名 古賀 貴子

回答者数/履修者数 20/24

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>Q13は4.7（昨年度4.8）であった。今年度より、調理後に実習室内での試食を行った。コロナ禍以前の対面授業の際には行っていなかった課題の提出（1年次の履修科目である講義：調理学、食品学の範囲の調べ学習）は今年度も継続して実施した。調理学の知識と結びつけて教えてくれたのでわかりやすかったですといった意見がアンケートの自由記述に記載されていた。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>調理学実習では、調理のポイントだけでなく、食材のことや調理の理論（前期開講科目の「調理学」の内容など）を話しながら師範授業（調理から盛り付けまで）をしている。この方法はこれまでの学生にも好評であると感じている。アンケート自由記述においても、調理の過程が見やすく、説明が分かりやすい。実践力のつく授業の仕方とアドバイスを沢山もらいました。食材の下処理、調理方法のポイントを知り、日常生活や実習に応用する力が身につきました。調理の仕方だけでなく盛り付けも学んだ。料理の基本を教えていただけなので楽しく学ぶことができた。との記述があった。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>Q3は4.7（昨年度4.6）、Q4は4.8（昨年度4.8）、Q5は4.7（昨年度4.8）であった。昨年度とほぼ変わらない評価であった。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>Q6～Q11は4.9, 4.8, 4.8, 4.7, 4.8, 4.8（昨年度は4.6, 4.6, 4.6, 4.5, 4.8, 4.7）であった。師範時は密を避けるため、コロナ禍以前のように師範の際に学生が師範台の前に集まって見ることはできないことから、学生は各実習台から上部に設置してあるモニターを見ることになるが、調理学実習室のモニターが小さく画質が良くないことから、今年度もアンケート自由記述において、たまにモニターが見えづらい時があったとの意見があった。モニターの取替をお願いしたいところである。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>遠隔の調理学実習において取り入れた調べ学習は次年度以降も継続していく。また、『調理学実習 I および II』の実習内容と『調理学』の理論（実践に対応する論理的知識）を結びつけながら、常にブラッシュアップして分かりやすい授業展開に努めたい。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 金4

科目名 調理学実習 II

教員名 古賀 貴子

回答者数/履修者数 22/25

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>Q13は4.8（昨年度4.8）であった。 今年度より、調理後に実習室内での試食を行った。コロナ禍以前の対面授業の際には行っていなかった課題の提出（1年次の履修科目である講義：調理学、食品学の範囲の調べ学習）は今年度も継続して実施した。調理をしながら、栄養的なことについて学べる授業でとても好きな科目ですといった意見がアンケートの自由記述に記載されていた。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>調理学実習では、調理のポイントだけでなく、食材のことや調理の理論（前期開講科目の「調理学」の内容など）を話しながら師範授業（調理から盛り付けまで）をしている。この方法はこれまでの学生にも好評であると感じている。アンケート自由記述においても、後期は知識も増えていて、先生が言っていることが分かることが多かった。この実習を通して自然とたくさんの方が身につくのでとてもたのしいです。との記述があった。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>Q3は4.8（昨年度4.7）、Q4は4.8（昨年度4.8）、Q5は4.9（昨年度4.8）であった。 昨年度とほぼ変わらない評価であった。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>Q6～Q11は4.8, 4.9, 4.9, 4.6, 4.7, 4.8（昨年度4.6, 4.7, 4.7, 4.7, 4.6, 4.8）であった。 師範時は密を避けるため、コロナ禍以前のように師範の際に学生が師範台の前に集まって見ることはできないことから、学生は各実習台から上部に設置してあるモニターを見ることになるが、調理学実習室のモニターが小さく画質が良くないことから、モニターの取替をお願いしたいところである。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>遠隔の調理学実習において取り入れた調べ学習は次年度以降も継続していく。また、『調理学実習IおよびII』の実習内容と『調理学』の理論（実践に対応する論理的知識）を結びつけながら、常にブラッシュアップして分かりやすい授業展開に努めたい。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 火1

科目名 栄養学応用演習Ⅱ

教員名 廣田 昌彦

回答者数/履修者数 6/7

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>今のままのやり方で継続させていただきたいと思います。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>前半をミニ講義、後半を当日のテーマを取り上げた国家試験問題の解説、を行った。前半と後半の間に、休憩時間を設け、関連する音楽を流した。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>学生の授業参加を促すような工夫は特にはしていませんが、この点は、教員の性格もありますので、お許しいただければと思います。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>今のままのやり方でやらせていただきたいと思います。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>特にありません。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 水3

科目名 栄養と薬
 教員名 廣田 昌彦
 回答者数/履修者数 51/53

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>たしかに、授業は聞かないで、ぺちゃくちゃ話をする学生が数名いました。気が付いたら注意はしていましたが、あまり強い口調では行いませんでした。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>工夫はしているつもりです。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>うるさい学生にはもっと強く注意をするべきだったと反省しています。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>うるさい学生にはもっと積極的に注意すべきだったと反省しています。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>室温に関して、暑すぎる、寒すぎるなどとあとから言われるのは、その時に言えよと言いたくなります。また、割り当てられた教室のマイク、プロジェクター、などの設定がむずかしく、これで時間をとられて授業時間が短くなるが多々ありました。わかるように、明文化しておいていただくか、複雑なしくみにしないでいただくか、どちらかをお願いしたいです。世の中には、機器にくわしい人もいれば、そうでない人もいます。後者でも授業がスムーズにできるようにしておいていただきたいと思います。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 月2

科目名 給食経営管理論Ⅱ

教員名 水江 文香

回答者数/履修者数 27/31

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>「満足度」の評価結果は平均【4.7】で、回答5【61.5%】、回答4【23.1%】、回答3【3.8%】、回答2・1【0.0%】、無回答【11.5%】から約85%が満足している、約4%はどちらともいえない（満足した時もあれば不満足な時もある）、と回答している。</p> <p>関連質問の「授業の理解度」（平均【4.5】）では、89%が理解できた、約4%がどちらともいえない（理解できた時もあれば理解できなかった時もある）、約4%が理解できなかったと回答している。同内容を別クラスでも講義しているがクラスにより「理解度」に差がみられ、また無回答もあるが、自由記述からは「わかりやすかった」「配布資料やスライドも見やすかった」と同様のコメントであった。過去の評価結果を受け、徐々に授業内容を改善・向上させて「満足度」の評価を上げ、授業方法を変更したことで評価は上がってきているが、今後も見直しを重ね授業方法を再検討し充実を図り「理解度」が深められるものにし、クラス間の差も生じないようにしたい。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>受講態度の結果は、「準備学習」平均【3.8】で回答5【26.9%】、回答4【30.8%】、回答3【38.5%】、回答2【3.8%】から約58%が予習・復習などを行ったが、39%はどちらともいえない（した時もあれば、しない時もある）、約4%は準備学習をしなかった、と回答している。次に「授業態度の自己評価」平均は【4.3】で回答5【46.2%】、回答4【38.5%】、回答3【15.4%】、回答2・1【0.0%】から約85%が熱心だった、15%がどちらともいえない、と自己評価している。</p> <p>受講態度全般は、予習・復習などの準備学習をした割合は意外と高かったが、授業態度の評価は若干低いことがうかがえる。近年の特徴として「自己学習をして授業に臨んだ」と回答する割合が高くなってきている。別クラスに比べ該当クラスは受講態度や学習意欲に関する評価が高かった。</p> <p>学習意欲などの向上につながった授業内容・方法としては、「丁寧なわかりやすい資料」と関連するレポート作成、小テストを実施したことが、ノート作りや試験前の準備がスムーズに運べるようになったと考える。ただ、授業内容・方法については、一部わかりづらいとする学生もいることから、まだ十分ではない点もあることを考慮し内容・方法の見直しをした上で、学生の準備学習のために新たな資料等の作成を検討したい。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>改善が必要な授業内容の項目は評価4.4以上であるが、①「授業内容のわかりやすさ」が平均【4.5】で回答5【57.7%】、回答4【34.6%】、回答3【7.7%】、回答2・1【0.0%】から約92%がわかりやすい、約8%がどちらともいえない、わかりにくいという回答はなかった。②「シラバスとの整合性」は平均【4.8】で回答5【84.6%】、回答4【11.5%】、回答3【3.8%】、回答2・回答1【0.0%】から約96%が整合性あり、4%がどちらともいえないと回答している。③「興味ある授業内容」は平均【4.4】で回答5【50.0%】、回答4【46.2%】、回答2【3.8%】、回答3・1【0.0%】から約96%は興味あり、約4%は興味なし、と回答している。</p> <p>授業への興味の有無は、これまで同様「理解度」「満足度」と関連があり、理解できないから興味が持てない、それが「満足度」へ影響していると考えられる。使用しているテキストや配布資料で「専門用語」や「講義内容」の理解度を上げてはいるが、まだ十分に活用できていないことも考えられ、回答2の評価があった。授業内容も含め理解度向上には繋がる授業内容であったと考える。各改善策としては、①③を併せて内容をさらに充実させ授業のわかりやすさ、興味ある授業にする、②丁寧な補足説明や専門用語の解説、などを再検討していきたい。</p>

項目見出し	コメント
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>改善が必要な授業方法の項目は、評価4.3以上であるが、「(Q11) 授業参加への促しの工夫」の評価が最も低く、約74%が促す工夫あり、約19%がどちらともいえない、約8%が工夫なしと回答している。</p> <p>過去の反省を元に、改善し配布プリントや視聴覚を使用することで評価が向上してきている。ただ、自分で授業の内容をまとめたり整理することができない学生が増えていることから、①スライドタイプ資料の再検討、②チェック問題や復習問題を取り入れ、授業参加を促す、③明瞭な話し方、などに取り組み評価の向上に繋げたい。④講義内容は同じであるが、クラス間に差が生じている。特に「どちらともいえない」とする回答割合が多い点も検討し、差がないような授業方法にしていきたい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>アンケートを実施した科目では高評価を得ており、年々評価は向上している。ただ、複数項目の評価が低いことから、さらに評価を上げるために「質問事項」や「補足内容」については講義中での再説明やポートフォリオに掲示する等に対応していく。更なる検討事項が挙げられている点や、小テストや定期試験の平均点が低下していることから、理解できない学生への対応も含め、集中して興味深く聴講できるような授業にしていきたい。</p> <p>好評価項目は評価の維持、不評項目は内容の見直しや改善を重ね学生の満足度を向上させ、学生に合わせた内容、幅広い知識を習得させられる内容とし、他の専門科目などと関連づけられるようにし、学生の興味や関心が増すような内容を心掛けていきたい。</p> <p>基礎科目の理解が十分でないまま他の科目と関連づけながら幅広い知識を習得しなければいけないが、上位学年になるにつれ新しい専門用語や数値、法規等々が覚えられない、関連づけられない(繋がられない)学生が急増している。また、授業を通して学生は様々な知識を兼ね備えていなければいけないが、授業内容・方法を学生の要望に合わせたものにしては、管理栄養士国家試験合格や、卒後、栄養士・管理栄養士としての業務ができない学生が増えるだけである。</p> <p>現在、講義では「質問事項」「補足内容」についてポートフォリオへの掲示や資料を挙げる等に対応したが、閲覧していない学生が多いが、オリエンテーションでの説明不足も考えられる。また小テストや定期試験の平均点も年々低下していることから、理解できない学生への対応も含め、集中して興味深く聴講できるような授業にしていきたい。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 月4

科目名 給食経営管理論Ⅱ

教員名 水江 文香

回答者数/履修者数 32/33

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>「満足度」の評価結果は平均【4.3】で回答5【39.1%】、回答4【39.1%】、回答3【13.0%】、回答2・1は【0.0%】、無回答【8.7%】から約78%が満足している、約13%はどちらともいえない（満足した時もあれば不満足な時もある）、と回答している。</p> <p>関連質問の「授業の理解度」（平均【4.2】）では、約87%が理解できた、約9%がどちらともいえない（理解できた時もあれば理解できなかった時もある）、約4%が理解できなかったと回答している。</p> <p>近年「授業の理解度」より「満足度」の評価が高い傾向を示している。これは過去の評価結果を受け、徐々に授業内容を改善・向上させた結果である。その要因として授業方法をテキストと併せたスライド（説明資料）を年々改善したことが結果につながったと考える。今後も「理解度」が深められる授業形態にし「満足度」を上げていきたい。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>受講態度の結果は、「準備学習」平均は【3.4】で回答5【13.0%】、回答4【26.1%】、回答3【47.8%】、回答2【13.0%】、回答1【0.0%】から約39%が予習・復習などをした、約48%はどちらともいえない（した時もあれば、しない時もある）、約13%は準備学習をしなかったとする回答だった。次に「授業態度の自己評価」の平均は【4.0】で回答5【26.1%】、回答4【47.8%】、回答3【21.7%】、回答2・1【0.0%】、無回答【4.3%】から74%が熱心だった、22%はどちらともいえない、と自己評価している。受講態度全般は、約40%の学生は何らかの「準備学習」を行い、「授業態度」も熱心だったことがうかがえる。ただ、「予習・復習（準備学習）」を行う学生は年々増加していたが、このクラスは「受講態度」の熱心が不足していた。学習意欲などの向上につながった授業内容・方法としては、自由記述より「丁寧なわかりやすい資料・スライド、説明」を心がけ、一部、指摘コメント（スライドの進め方が早い等）を検討して改善し、今後も評価内容や不十分な点等の見直しを徹底していきたい。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>改善が必要な授業内容の項目は、①「授業内容のわかりやすさ」が平均【4.3】で回答5【47.8%】、回答4【30.4%】、回答3【21.7%】、回答2・1【0.0%】から約78%がわかりやすい、約22%がどちらともいえない、という回答であった。②「シラバスとの整合性」は平均【4.6】で回答5【65.2%】、回答4【26.1%】、回答3【8.7%】、回答2・1【0.0%】から約91%が整合性あり、約9%がどちらともいえない、と回答している。③「興味ある授業内容」は平均【4.4】で回答5【56.5%】、回答4【30.4%】、回答3【8.7%】、回答2【4.3%】・回答1【0.0%】から約87%は興味あり、約9%はどちらともいえない、約4%はあまり興味がないと回答している。</p> <p>授業への興味の有無は、これまで同様「理解度」「満足度」と関連があり、理解できないから興味が持てない、それが「満足度」へ影響していると考え。使用しているテキストや配布資料で「専門用語」や「講義内容」の理解度を上げてはいるが、まだ十分に活用できていないことも考えられ、回答2の評価があった。授業内容も含め理解度向上には繋がる授業内容であったと考える。各改善策としては、①③を併せて内容をさらに充実させ授業のわかりやすさ、興味ある授業にするために、特に回答2の評価があったことから、小テストやドリルなどで復習させながら授業内容の質向上に努めたい。②丁寧な補足説明や専門用語の解説、などを配布資料中で再検討していきたい。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善</p>	<p>改善が必要な授業方法の項目は、4.2の評価で①「(Q6) 明瞭な話し方」で約83%は明瞭、約13%はどちらともいえない、約4%は不明瞭としている。②「(Q11) 授業参加への促しの工夫」では約</p>

項目見出し	コメント
<p>策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>83%が促す工夫あり、約13%がどちらともいえない、約4%が工夫なしと回答している。③他の質問項目は評価4.4以上であったが、(Q7・8・10)に、各約4%ではあるが「授業への熱意がない」「適正な使用ではない」等を回答していることから、授業内容や方法が回答者には合っていないのか、理解できないのか、コメントにあるスライド進め方が早いといった点からなのか、改善したい。ただ、自分で授業の内容をまとめたり整理することができない、試験の点数が低い学生が増えていることから、①スライドタイプ資料の再検討、②チェック問題や復習問題、繰り返し復習できるドリルの活用も取り入れ、授業参加を促す、③明瞭な話し方、などに取り組み、他の評価も含め向上に繋げたい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>毎年コメントしている内容だが、学力や読解力、国語力の経年変化が顕著(急低下していることをレポートや試験で実感)である。例えば試験では、講義内で説明した内容の例を変えたり、記述で出題すると解答できなくなる、もしくは中途半端な解答になっている。特に専門用語の説明の出題では間違えて覚えたことを解答している。今年度もここ数年の特徴と同様、授業内容通りであれば解答(質問への回答)できるが、数値や表現、応用力を問う出題になると解答(質問への回答)できない学生の割合が多く、小テストも試験も授業内容改善だけで学生の理解度を深めることが難しい点は変わらない状況であった。</p> <p>2年次生で履修するこの科目は、1年次の基礎知識が不足していると、新たに加わる専門用語や数値、法規等々も覚えられない、関連づけられない(繋がられない)傾向が顕著に発現する。授業を通して学生は様々な知識を兼ね備えていなければいけないが、授業内容・方法を学生の要望に合わせたものにしては、管理栄養士国家試験合格や、卒後、栄養士・管理栄養士としての業務ができない学生が増えるだけである。</p> <p>現在、試験点数だけではなくその他の評価(ポイント)も含めた総合評価になっているが、これでは本来の理解度が確認できないと判断し、定期試験に占める割合を引き上げてみたが、あまりよい傾向は見受けられない。次に「質問事項」「補足内容」についてはポートフォリオへの掲示や資料を挙げる等に対応したが、閲覧していないのかアンケートの自由記述でコメントし指摘している学生もいる。オリエンテーションでの説明不足も考えられ、理解できない学生への対応も含め、集中して興味深く聴講できるような授業にしていきたい。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 金2

科目名 臨床栄養管理学Ⅱ

教員名 林 俊介

回答者数/履修者数 34/35

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>本年度は 4.6/4.5 (A/Bクラス)の評価だった。昨年度(4.2/4.6)、一昨年度(4.5/4.6)、3年前(4.6)(A・Bクラス)で、ここ数年間は安定した評価であった。</p> <p>本科目は臨床栄養分野の学修の最初の科目となる。これまでの基礎科目での学修とこれからの実践科目や臨地実習へ繋がる学修としてこの科目は、重要である。現場での実践がより理解できるような教材や話題を提供し、将来管理栄養士として様々な分野で活躍できるよう意識付けを出来るような授業展開を心掛けている。これらの授業での取り組みが満足度の向上に繋がると考えている。</p> <p>本年度は、課題レポートの内容を見直しして、より学習者自らが調べ学修に取り組むようなものにする事で、能動的な学修に繋がるようにしたことが本科目への満足度の向上に寄与したと考えている。コロナ禍の遠隔授業以降も安定した授業の満足度の評価スコアを維持している。</p> <p>今回の授業アンケートのコメントは、「初めて臨床という科目を行い病気と食事の関係について学ぶことが出来てとても満足出来た。」、「実物や参考書を回してくれるので、楽しみながら授業を受けることができた。管理栄養士として使える知識をたくさん教えてくださるので、学生のための授業であると思う。」などである。</p> <p>Manabaを活用し、授業で使用した映像を見られるようにしたり、質問への回答、補足の説明や資料の提示、関連するサイトの紹介を丁寧に行い、学生の授業の復習や課題レポート作成に役立つよう作成している。これらの取り組みが満足度の向上に繋がっていくと考えている。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>この科目は、臨床栄養分野での疾患と栄養管理、食事や食事療法の基本を学修するものであるため、常に実践的授業になるように配慮している。授業の中では、実際に臨床現場で使用される各種の栄養剤や治療用特殊食品などを多様な教材を多数提示している。また疾患に関する様々なニュースやテレビ番組の映像、新聞記事などを教材として使用し、実際の患者や治療に関することを話題にし、イメージが湧くように授業展開をしている。これらは、学生の授業への興味関心を高め、受講態度と学習意欲の向上に寄与しているものと考えられる。</p> <p>学生が授業に集中し、飽きがないようにアクティブラーニングの手法を用いた学修展開を行っている。授業の始めに出席カード(リフレクションカード)を使用し、本時の授業内容に関する基礎科目での学修、前時の復習、事前の予習の確認をするようにしている。学生の授業への参加度を高めるため、発問に対する考察と短いディスカッションを取り入れるような授業展開を意識して行っている。また授業で紹介した栄養剤や減塩食品などの様々な製品を手にとらせ、実物を体感できるようにしている。</p> <p>自由記述でも「授業に応じてその内容にあった動画を見せてくれたり、食品や薬などを回ってくれて実際に手に取って成分を確認できたりするのがよかった。また、実際に食べたりして体験することができたのもとても良い経験になりました。」などのコメントも多数あった。</p> <p>本年度もまだ新型コロナウイルス感染症の状況が予想できないところがあったため、定期試験(筆記)をせずにManabaを利用した課題レポートを行った。これまでも「調べ学修」に繋がるようにし、授業時間内では時間を掛けて出来なかった内容などを後から自分で調べ、自らの経験と照らし合わせ、考えることが出来、更にこの科目の学修を深めることに繋げるようにしている。今回は、授業で学修している各疾患について、身近にそれらの疾患の患者がいる場合は、インタビューを試みることを行ってみた。直接患者から話を聞くことで、病気の大変さ、管理栄養士の必要性などが深く理解できたレポートには多数感想</p>

項目見出し	コメント
	<p>があった。それらにより学修意欲が更に向上したことが分かる。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>本年度 質問3(4.8/4.2) 質問4(4.7/4.7) 質問5(4.7/4.5) R4年度 質問3(4.1/4.7) 質問4(4.5/4.9) 質問5(4.3/4.7) R3年度 質問3(4.5/4.6) 質問4(4.7/4.8) 質問5(4.5/4.6) R2年度 質問3(4.7) 質問4(4.7) 質問5(4.6)</p> <p>質問3, 4, 5は、授業評価のスコアは維持できた。学修内容はモデルコアカリキュラム及び管理栄養士国家試験の出題基準を基に、同時期に履修する臨床栄養管理学Ⅰや3年次の臨床栄養管理学Ⅲなどの学修内容と調整してシラバスを作成している。2年次で学修する内容について、当該学年として適切なレベルでの様々な疾患等についての学修になるようにしていきたいと考えている。1つ1つの疾患について、他の科目での学修状況などを踏まえた構成としている。内容についても、各疾患(生活習慣病、依存症、感染症など)を扱う中で、長崎県や学生自身の出身地の疾病構造や食習慣の地域性や実際に発生した災害時の対応、社会の変化、その病気を患った有名人の話などを動画教材も用いて、授業を行う様にしている。</p> <p>自由記述では、「毎回の授業でプリントや動画、減塩パンなど授業に関わる自分の身近に売っているものを持っていくと、とてもわかりやすかったです。」などのコメントがあった。</p> <p>学習内容が自身の身の回りのことと繋がりを持って理解することができるよう授業内容に合わせ展開したことで興味関心を高めることが出来たと思われる。今後、更に学生の興味・関心を高められるように授業教材の作成と更新を常に行い、学修内容を考えていきたい。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>本年度 質問6(4.6/4.3) 質問7(4.7/4.9) 質問8(4.7/4.5) 質問9(4.8/4.6) 質問10(4.8/4.7) 質問11(4.8/4.6) R4年度 質問6(3.6/4.4) 質問7(4.5/4.9) 質問8(4.6/4.8) 質問9(4.3/4.9) 質問10(4.4/4.8) 質問11(4.1/4.8) R3年度 質問6(4.4/4.7) 質問7(4.6/4.7) 質問8(4.5/4.7) 質問9(4.7/4.6) 質問10(4.5/4.6) 質問11(4.5/4.6)</p> <p>質問6, 7, 8, 9, 10, 11は、授業評価のスコアは、若干向上することができた。</p> <p>授業で示した実製品は、2年生の段階で臨床栄養の分野で使用されるこれらの製品を見て、手に取って観察することで非常に学生の興味関心を高めることが出来ている。</p> <p>出席カード(リフレクションカード)にあった質問等は、授業後にマンバ上で回答したり、次の授業で説明したりし、質問等には可能な限り丁寧に対応した。自由記述では、「毎授業後に質問に対して分かりやすく丁寧に答えてくださり、これにより理解が深まるためありがたいです。」とのコメントもあった。授業の質の担保に努めたことで高い評価を得ることにつながったと考えている。</p> <p>各疾患にまつわる時事のニュースや人物の話題などの引用や適切な教材の提示と授業展開ができていると考えている。授業の中でこれらの教材を上手く取り入れ、無駄なく分かりやすく、印象に残るような効果的な学修が出来ている。</p> <p>基本的なことであるが、本時の学修でどこが大事なのか、覚えるべきことが何なのかを丁寧に伝えることが授業の改善に繋がると今回のアンケートのコメントを見ても分かる。</p> <p>しかし、自由記述では、「山口先生のと比べると、とても難しいと感じる。」「話が早くて、メモをとることができないときがある。」とのコメントもあった。どう伝えるかには、課題を感じる。授業方法は常に改善に取り組み、受講者に受け入れられるように務めたい。</p>

項目見出し	コメント
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	<p>今回の授業アンケートは、コロナ禍の遠隔授業から完全に対面授業に戻っても同等の高い評価を得られた。</p> <p>これまでもmanabaを利用し、予習・復習に役立つよう学修を促進するように実践してきた。様々な授業展開の工夫に取り組み、コロナ禍の困難な状況の中、学生に興味を持って授業に参加してもらえるような形を作り上げることが出来たと思われる。また、一方的な授業にならないよう双方向性のある授業になるよう心がけたことが奏効していると思う。</p> <p>2年生の段階としては臨床や様々な疾患に対して、まだ実感、身近なこととして感じられないが、課題レポートの内容を今回、見直しを行い、より臨床場面で、管理栄養士がどのように求められているのが実感できるような調べ学修に取り組みさせた。レポートの感想にもしっかり取り組んだ受講者からは、「管理栄養士がどの様に必要とされているかが初めて分かった。」、「栄養指導の際に、患者にどの様な接し方をすればよいか考えさせられた。」など、臨床栄養で、まずは、学生に学んで欲しいこと、感じて欲しいことを伝えることができた。</p> <p>4月からは、この学年を前期に3科目講義と実習を行うので、これらのコメント、評価を参考に、学生の状況を踏まえた授業展開を考えていきたい。</p> <p>質問1の項目は、今回は(4.2/3.9)、昨年(3.9/3.9)、一昨年(3.8/3.5)、R2年(3.9)であり、授業に対する事前の取り組みは改善しているようであるが、今回、この学年を初めて実際に授業をしていると予習・復習、これまでの授業での知識の定着が十分でないと思われることが少なくない。授業への取り組みや予習・復習など自己学修を更に促すような学修支援・指導をしていきたい。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 金4

科目名 臨床栄養管理学Ⅱ

教員名 林 俊介

回答者数/履修者数 20/29

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>本年度は 4.6/4.5 (A/Bクラス)の評価だった。昨年度(4.2/4.6)、一昨年度(4.5/4.6)、3年前(4.6)(A・Bクラス)で、ここ数年間は安定した評価であった。</p> <p>本科目は臨床栄養分野の学修の最初の科目となる。これまでの基礎科目での学修とこれからの実践科目や臨地実習へ繋がる学修としてこの科目は、重要である。現場での実践がより理解できるような教材や話題を提供し、将来管理栄養士として様々な分野で活躍できるよう意識付けを出来るような授業展開を心掛けている。これらの授業での取り組みが満足度の向上に繋がると考えている。</p> <p>本年度は、課題レポートの内容を見直しして、より学習者自らが調べ学修に取り組むようなものにする事で、能動的な学修に繋がるようにしたことが本科目への満足度の向上に寄与したと考えている。コロナ禍の遠隔授業以降も安定した授業の満足度の評価スコアを維持している。</p> <p>今回の授業アンケートのコメントは、「初めて臨床という科目を行い病気と食事の関係について学ぶことが出来てとても満足出来た。」、「実物や参考書を回してくれるので、楽しみながら授業を受けることができた。管理栄養士として使える知識をたくさん教えてくださるので、学生のための授業であると思う。」などである。</p> <p>Manabaを活用し、授業で使用した映像を見られるようにしたり、質問への回答、補足の説明や資料の提示、関連するサイトの紹介を丁寧に行い、学生の授業の復習や課題レポート作成に役立つよう作成している。これらの取り組みが満足度の向上に繋がっていくと考えている。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>この科目は、臨床栄養分野での疾患と栄養管理、食事や食事療法の基本を学修するものであるため、常に実践的授業になるように配慮している。授業の中では、実際に臨床現場で使用される各種の栄養剤や治療用特殊食品などを多様な教材を多数提示している。また疾患に関する様々なニュースやテレビ番組の映像、新聞記事などを教材として使用し、実際の患者や治療に関することを話題にし、イメージが湧くように授業展開をしている。これらは、学生の授業への興味関心を高め、受講態度と学習意欲の向上に寄与しているものと考えられる。</p> <p>学生が授業に集中し、飽きがないようにアクティブラーニングの手法を用いた学修展開を行っている。授業の始めに出席カード(リフレクションカード)を使用し、本時の授業内容に関する基礎科目での学修、前時の復習、事前の予習の確認をするようにしている。学生の授業への参加度を高めるため、発問に対する考察と短いディスカッションを取り入れるような授業展開を意識して行っている。また授業で紹介した栄養剤や減塩食品などの様々な製品を手にとらせ、実物を体感できるようにしている。</p> <p>自由記述でも「授業に応じてその内容にあった動画を見せてくれたり、食品や薬などを回してくれて実際に手に取って成分を確認できたりするのがよかった。また、実際に食べたりして体験することができたのもとても良い経験になりました。」などのコメントも多数あった。</p> <p>本年度もまだ新型コロナウイルス感染症の状況が予想できないところがあったため、定期試験(筆記)をせずにManabaを利用した課題レポートを行った。これまでも「調べ学修」に繋がるようにし、授業時間内では時間を掛けて出来なかった内容などを後から自分で調べ、自らの経験と照らし合わせ、考えることが出来、更にこの科目の学修を深めることに繋げるようにしている。今回は、授業で学修している各疾患について、身近にそれらの疾患の患者がいる場合は、インタビューを試みることを行ってみた。直接患者から話を聞くことで、病気の大変さ、管理栄養士の必要性などが深く理解できたとレポートには多数感想</p>

項目見出し	コメント
	<p>があった。それらにより学修意欲が更に向上したことが分かる。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>本年度 質問3(4.8/4.2) 質問4(4.7/4.7) 質問5(4.7/4.5) R4年度 質問3(4.1/4.7) 質問4(4.5/4.9) 質問5(4.3/4.7) R3年度 質問3(4.5/4.6) 質問4(4.7/4.8) 質問5(4.5/4.6) R2年度 質問3(4.7) 質問4(4.7) 質問5(4.6)</p> <p>質問3, 4, 5は、授業評価のスコアは維持できた。学修内容はモデルコアカリキュラム及び管理栄養士国家試験の出題基準を基に、同時期に履修する臨床栄養管理学Ⅰや3年次の臨床栄養管理学Ⅲなどの学修内容と調整してシラバスを作成している。2年次で学修する内容について、当該学年として適切なレベルでの様々な疾患等についての学修になるようにしていきたいと考えている。1つ1つの疾患について、他の科目での学修状況などを踏まえた構成としている。内容についても、各疾患(生活習慣病、依存症、感染症など)を扱う中で、長崎県や学生自身の出身地の疾病構造や食習慣の地域性や実際に発生した災害時の対応、社会の変化、その病気を患った有名人の話などを動画教材も用いて、授業を行う様にしている。</p> <p>自由記述では、「毎回の授業でプリントや動画、減塩パンなど授業に関わる自分の身近に売っているものを持っていくと、とてもわかりやすかったです。」などのコメントがあった。</p> <p>学習内容が自身の身の回りのことと繋がりを持って理解することができるよう授業内容に合わせ展開したことで興味関心を高めることが出来たと思われる。今後、更に学生の興味・関心を高められるように授業教材の作成と更新を常に行い、学修内容を考えていきたい。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>本年度 質問6(4.6/4.3) 質問7(4.7/4.9) 質問8(4.7/4.5) 質問9(4.8/4.6) 質問10(4.8/4.7) 質問11(4.8/4.6) R4年度 質問6(3.6/4.4) 質問7(4.5/4.9) 質問8(4.6/4.8) 質問9(4.3/4.9) 質問10(4.4/4.8) 質問11(4.1/4.8) R3年度 質問6(4.4/4.7) 質問7(4.6/4.7) 質問8(4.5/4.7) 質問9(4.7/4.6) 質問10(4.5/4.6) 質問11(4.5/4.6)</p> <p>質問6, 7, 8, 9, 10, 11は、授業評価のスコアは、若干向上することができた。</p> <p>授業で示した実製品は、2年生の段階で臨床栄養の分野で使用されるこれらの製品を見て、手に取って観察することで非常に学生の興味関心を高めることが出来ている。</p> <p>出席カード(リフレクションカード)にあった質問等は、授業後にマンバ上で回答したり、次の授業で説明したりし、質問等には可能な限り丁寧に対応した。自由記述では、「毎授業後に質問に対して分かりやすく丁寧に答えてくださり、これにより理解が深まるためありがたいです。」とのコメントもあった。授業の質の担保に努めたことで高い評価を得ることにつながったと考えている。</p> <p>各疾患にまつわる時事のニュースや人物の話題などの引用や適切な教材の提示と授業展開ができていていると考えている。授業の中でこれらの教材を上手く取り入れ、無駄なく分かりやすく、印象に残るような効果的な学修が出来ている。</p> <p>基本的なことであるが、本時の学修でどこが大事なのか、覚えるべきことが何なのかを丁寧に伝えることが授業の改善に繋がると今回のアンケートのコメントを見ても分かる。</p> <p>しかし、自由記述では、「山口先生のと比べると、とても難しいと感じる。」「話が早くて、メモをとることができないときがある。」とのコメントもあった。どう伝えるかには、課題を感じる。授業方法は常に改善に取り組み、受講者に受け入れられるように務めたい。</p>

項目見出し	コメント
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	<p>今回の授業アンケートは、コロナ禍の遠隔授業から完全に対面授業に戻っても同等の高い評価を得られた。</p> <p>これまでもmanabaを利用し、予習・復習に役立つよう学修を促進するように実践してきた。様々な授業展開の工夫に取り組み、コロナ禍の困難な状況の中、学生に興味を持って授業に参加してもらえるような形を作り上げることが出来たと思われる。また、一方的な授業にならないよう双方向性のある授業になるよう心がけたことが奏効していると思う。</p> <p>2年生の段階としては臨床や様々な疾患に対して、まだ実感、身近なこととして感じられないが、課題レポートの内容を今回、見直しを行い、より臨床場面で、管理栄養士がどのように求められているのが実感できるような調べ学修に取り組みさせた。レポートの感想にもしっかり取り組んだ受講者からは、「管理栄養士がどの様に必要とされているかが初めて分かった。」、「栄養指導の際に、患者にどの様な接し方をすればよいか考えさせられた。」など、臨床栄養で、まずは、学生に学んで欲しいこと、感じて欲しいことを伝えることができた。</p> <p>4月からは、この学年を前期に3科目講義と実習を行うので、これらのコメント、評価を参考に、学生の状況を踏まえた授業展開を考えていきたい。</p> <p>質問1の項目は、今回は(4.2/3.9)、昨年(3.9/3.9)、一昨年(3.8/3.5)、R2年(3.9)であり、授業に対する事前の取り組みは改善しているようであるが、今回、この学年を初めて実際に授業をしていると予習・復習、これまでの授業での知識の定着が十分でないと思われることが少なくない。授業への取り組みや予習・復習など自己学修を更に促すような学修支援・指導をしていきたい。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 火2

科目名 応用栄養学Ⅱ

教員名 松尾 嘉代子

回答者数/履修者数 30/35

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>授業に対する満足度は、例年と変わらず、受講生がおおむね満足できている結果となっている。また、全体平均よりも高い結果となっているため、今後も高評価を得られるように精進していきたい。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>毎回、授業開始前に予習・復習問題の小テストを実施しており、そのことが授業に臨む際のモチベーション向上に寄与できていると考える。また、小テストの解説を行う際に、前回の授業内容の振り返りや、本日の授業の重要ポイントを説明しているため、学生の学習内容の整理にも役に立っていると考えられる。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>シラバスの内容に沿って、学生が予習復習しやすいように授業を進めているので、分かりやすい授業になっていると考える。シラバスを変更する場合は、事前に予告しているので、学生も対応できているようである。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>おおむね好評であるため、改善が必要な個所というよりは、さらに、内容を向上させるように授業の教材等の工夫を行っていきたい。特に、今回は教科書の図表について理解しやすいように、一部、スライドを活用して説明を行った。その方が学生は教科書やノートに記入できるのでさらに理解が深まっているようである。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>このクラスは、一部の学生の授業態度が好ましくなく、他の学生の受講に影響がないか注意をしながら授業を進めていたが、アンケートの結果がおおむね高評価であったため、安堵した。これからも、すべての学生が理解できるよう授業の進め方をさらに工夫していきたい。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 火3

科目名 応用栄養学Ⅱ

教員名 松尾 嘉代子

回答者数/履修者数 25/33

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>今回、授業アンケートを行った日の学生の出席率がとても低かったため、すべての学生の意見を確認することはできなかったが、今回の結果ではおおむね高評価を得られていると考える。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>毎回、予習復習内容の小テストを行っているので、学生の学習意欲向上に繋がっていると考えるが、特に、このクラスは予習に取り組む姿勢が顕著であり、授業態度も例年になく真面目である。そのため、予習復習への取り組みに関する質問1の回答も平均点よりも高い結果となっている。 授業方法が学生の学習意欲向上にマッチしていたと考える。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>授業内容については高評価を得ているので、改善が必要な項目や内容は特にないと考えるが、よりよい授業運営のために、これまでの授業内容の質を維持向上できるように、日々精進していきたい。 特に、シラバスに基づく授業運営を心掛け、学生が予習復習しやすいように配慮していきたい。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>自由記述に、板書中心の授業にしてほしいとの意見もあるが、すべてを板書にしてしまうと授業内容をすべて終わらせることができないため、可能な範囲で板書を行い、スライド等を適宜活用しながら授業を進めていきたいと考えている。それ以外は、特に大きな問題もないため、今後も、授業の質の維持しながら進めていく。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>自由記述でも、授業が分かりやすい、小テストがあるからよいとの意見があり、こちらが意図した授業運営が学生にも伝わっていることを嬉しく思う。今後も、学生の理解度や習熟度に合わせた授業運営を心掛けていきたい。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 水3

科目名 臨床栄養管理学Ⅰ

教員名 山口 留美

回答者数/履修者数 27/28

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>概ね良好であると考える。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>授業自体についていけない学生も見受けられたため、何度も復習を行ったり、練習問題を解かせるなど、工夫を行ったため満足度が高かったのではないかと考える。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>これまでの基礎系の学問から、臨床栄養という授業内容となったために、まずはどのような内容で進めていくかなどを十分に説明を行い始めたほうが、学生の興味を引くものになったにかもしれないと考える。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>概ね良好ではあるが、毎回のアンケート結果でQ10「遅刻や私語が授業の妨げにならないように対応していたか」の問いのポイントが授業方法についての中で最も低くなるため、他の先生方の工夫を教えて欲しい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>座学のため、居眠りなどを防止するために、例年以上に練習問題等を解かせることで、満足度も高くなったように感じる。また発表に関しても、学生同士で話し合い答えを導き出す方法で、他人の意見を聞き理解することで、わかりやすいというコメントが多かったのではないかと感じた。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 木2

科目名 臨床栄養管理学Ⅰ

教員名 山口 留美

回答者数/履修者数 33/34

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>良好であると思える。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>重要な点を繰り返し説明することや、例題などを解かせることでより身についた学修ができるよう心掛けた点が、学生に受け入れられたと思う。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>概ね良好な結果であり、例年より少しずつポイントはアップしてきている。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>Q10に対して、対応は行っているとは思いますが、他の先生方の対応方法について教えていただき、今後につなげていきたいと考える。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>全体的に良好な結果であると考えている。座学であるが故、受け身の学生をいかに参加させ、自ら考えるように工夫した点が結果につながったのではないかと考える。今後もさらに取り入れていきたいと思う。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 金2

科目名 臨床栄養管理実習

教員名 山口 留美

回答者数/履修者数 27/27

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>例年より少しずつではあるが、ポイントが上がってきている。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>症例を通して、これまで学修してきた内容を総復習するような授業形式にしており、より実践に則した内容となり、また臨地実習を経験したことから、身近なものと感じられたのではないかと考える。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>Q3~Q5に関しても、例年より少しずつポイントがアップしてきている。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>模擬カンファレンスを行う際に積極的に参加できていない学生に関しては、個別に参加を促すよう指示してはきたが、十分ではなかったのではないかと思う。固定されたグループ分けのため、今後は症例ごとにグループ移動をさせる方法も取り入れていきたいと考える。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>ほぼ良好な結果であったと考える。自分で調べ、意見を積極的に出すことで、より理解が深まると考えるので、今後も同様な方法で進めていきたいと思う。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 金4

科目名 臨床栄養管理実習

教員名 山口 留美

回答者数/履修者数 25/28

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>理解度や満足度については、良好な結果であり、例年よりポイントアップすることができた。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>学生が、臨地実習を経験したこともあり、実習先で学んだ点とリンクすることでより身近な実習となったのではないかと感じられる。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>良好であり、例年よりポイントが高くなった。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>概ね良好ではあるが、学生によっては消極的な態度を示すこともあり、固定されたグループ分けでは改善が難しいのではないかと考える。そのため、グループ分けを流動化させ、様々な意見を聞くことでより活発なグループ討議が行えるよう考えていく必要があると思われる。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>全体的には良好と考える。これまで学んだ内容が、実践ではどのように活かされるかを再認識させることで、4年次の臨地実習や国家試験に向けての学びを深めることになったと思う。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 水2

科目名 スポーツ栄養学

教員名 小田 和人

回答者数/履修者数 15/15

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>過半数の学生が満足していたが、より理解しやすく興味を持てる授業を行うよう努力する。個々の理解度を細かく把握するため、manabaを上手く活用し、質問や疑問に回答した。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>毎授業後、確認問題やアンケートをmanabaにて実施し、理解度の確認を行い、再度その分野のポイントについて説明を行ったこと。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>シラバスに沿った流れで授業を進めたが、内容が難しいところもあるため、もっとかみ砕いた説明が必要だと感じた。一般を対象とした健康増進に対する内容や、マネージャーからみたサポートの仕方について幅広く説明していく。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>今後は、学生がより授業に参加できるよう身近な例を増やして、検討する時間を確保したいと思う。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>大半が満足していたが、より多くの学生に受けて良かったと思わせる授業ができるように心がけたい。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 金2

科目名 スポーツ栄養学

教員名 小田 和人

回答者数/履修者数 70/89

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>過半数の学生が満足していたが、より理解しやすく興味を持てる授業を行う必要があると感じた。個々の理解度を細かく把握し、学生からの質問や意見に応える時間をもっと取るように心がける。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>シラバスの流れに従って講義を行ったこと。毎授業後、確認問題やアンケートをmanabaにて実施し、理解度の確認を行い、再度その分野のポイントについて説明を行ったこと。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>学生たちに興味をもってもらうためには、アスリートやスポーツをしている学生だけでなく、一般を対象とした内容や、マネージャーからみたサポートの仕方について幅広くする説明する必要があると感じた。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>内容が難しいところもあるため、もっとかみ砕いた説明が必要だと感じた。理解度を高めるために、復習だけでなく、事前の予習も徹底して指導する必要があると感じた。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>大半が満足していたが、より多くの学生に受けて良かったと思わせる授業ができるように心がけたい。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 火1

科目名 生化学
 教員名 川内 美樹
 回答者数/履修者数 43/55

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>質問13の平均点は4.6であった。昨年度が4.5だったので0.1ポイント増加していた。コメント欄をみると、「わかりやすかった」や「勉強しやすかった」とコメントが多く、また例年同様予習復習として穴埋めの宿題を事前にさせることで学習意欲につながったのではないかと思う。ただ、例年に比べ授業についてきていない学生のコメントも見受けられ、学生のレベルの低下もうかがえる。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>授業態度の評価は昨年より増加しており4.4であった。上記にも記載の通り昨年同様事前に予習プリントを配布し予習ノートを作った上で授業に参加するように指導したが、やはり準備学習の評価が変わらなかったことは残念に思われる。コメント欄を見ても、「予習プリントがあるので授業がスムーズにわかる」や「ノート、プリント、教科書を利用することで知識が身につくやすい」という意見があることから、この点は受講態度や学習意欲の向上につながったと考えるが、やはり「暗記するのが大変」「勉強が大変」など一定数はこの科目を難しく思い前向きに頑張れない学生もいることが原因と思われる。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>質問3および4に関しては、平均点が4.7と昨年度とほぼ同じであり、質問5の興味に関する質問も平均点が4.5と昨年と同様であった。プリントで自己学習の機会を設けたことや授業スピードをゆっくりすることで授業の理解度も上がり、全体的に高いポイントであったと思われる。また、パワーポイントだけの授業ではなく実際に板書したりしたことも学生には高評価であった。例年の課題である、質問5の「興味を持った」学生がもう少し上昇すると思う。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>質問6から11に関する項目は、全て平均点が4.7以上と高評価で大変良かったと思う。この結果やコメント欄より、なるべくわかりやすい言葉で丁寧に説明することで、学生もノート作成しやすく、理解しやすいように感じる。「授業で毎回、ノートに書いて、プリントで確認して、最後に教科書でも確認してくださるので、授業内でも復習が出来てとっても良いです。」というコメントもあり、授業をする側としては大変嬉しく感じた。色々な角度から教えていくことが今の学生には必要であることが示唆される。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>今年度は例年と異なり1クラスでの開講であったため、クラスに差がでることなく平等に授業をすることができよかったと思う。また前年度から学生に評判のよかった予習プリントの配布やノート作成を引き続き導入した方法で実施できた。しかし、質問1の予習の項目が相変わらず低いままで、予習をする学生としない学生の学力差は顕著に出ているように感じる。生化学の授業内容は高校生物の延長のような科目で、また食品学や解剖生理学といった科目でも何度も耳にしている内容にも関わらず、コメント欄を見るとやはりまだ理解できていない学生が一定数いて、難しいと感じていることがわかる。来年度の栄養代謝学は、さらに内容が難しくなり理解する内容も増えるので、より良い予習のあり方を検討して確実に勉強できるように指導してい</p>

項目見出し	コメント
	きたい。

アクションプランシート

2023年度後期 月2

科目名 栄養教育論 I

教員名 川野 香織

回答者数/履修者数 31/33

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>昨年度と比較して、0.1ポイント減少したが、全体平均よりも高い状況であった。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>昨年度と同様の授業の進め方であったが、特に今年度は真面目に受講する学生が多く、学生同士が切磋琢磨して学ぶ姿勢が見られ、そのことによって評価を維持できたと考える。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>昨年度よりやや低い点数ではあったが、全体平均より高く、概ね問題ないと考える。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>昨年度よりやや低い点数であったが、全体平均より高く、概ね問題ないと考える。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>本科目の授業評価は年々上がってきたが、Q12の理解度については、もう少し向上させたいと考える。本科目で学ぶ知識と現場での活用をより結び付けて考えることができるような授業展開を検討する。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 月4

科目名 栄養教育論 I

教員名 川野 香織

回答者数/履修者数 26/29

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>昨年度より0.3ポイント低下した。昨年度より丁寧な授業展開に努めたが、学生の理解度に合わせた進行ができていなかったことが考えられる。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>自由記述では、概ね好意的な意見であったが、進行がやや早いという意見もあったため(1)で記載したように理解度に合わせた進行が必要であったと考える。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>問5の授業内容の興味については、学生の理解度に合わせて内容を変えながら、興味を持たせる工夫が必要であった。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>Q6の話し方やQ7の熱意については、やや低い評価であった。学生の受講の様子に合わせてしまったところがあったと考える。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>全体を通して、同じ科目の授業でも学生の理解度に合わせた進行が必要であることを改めて感じた。授業の途中に理解度の状況を確認できるよう検討する。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 金2

科目名 学校栄養教育論

教員名 高江洲 有沙

回答者数/履修者数 2/2

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>昨年度より向上することができた。教職課程の科目で履修者が限られているが、個々の進捗状況に合わせて講義を行ったことが満足度につながったと思われる。今後も同様に続けていきたいと考えている。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>学校現場の状況や栄養教諭の役割、給食の衛生管理では学科専門科目とも関連付けた講義だけでなく、児童生徒の実態把握のための学校保健統計や食に関するアンケート調査等のデータを確認し、学生自身で課題を考えるワーク時間を設けることが意欲等の向上に繋がったと考えられる。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>昨年度同様に、学生の学外実習等の日程も考慮しながら学習内容を展開することができたことから、良いとの評価をいただけたと思う。今後は理解度を深めてもらうため、授業は分かりやすく説明し、学生の状況を見ながら対応していきたいと考えている。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>昨年度同様に、教科書を中心に授業を進めながら個人で取り組む時間も進捗状況を確認しながら確保した。教員としての資質を身に付けるためには、文章をしっかりと読み理解する力を身に付ける必要があるため、今後も同様に取り組んでいきたいと考えている。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>教職課程科目で履修者は限られており、個々の進捗状況を確認しながら授業を進めることができたため、今回の評価は概ね良かったと感じている。 教育職員としての資質向上だけでなく、管理栄養士としての専門性も備えることができるように知識とスキルが実践につながるような授業を展開していくために、日々の自己研鑽に努めていきたいと思う。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 月1

科目名 食品学Ⅱ
 教員名 藤井 俊輔
 回答者数/履修者数 55/67

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>本講義の満足度は4.6ポイントであり、ほぼ例年通りの結果となった。これまでの結果においても4.5ポイント前後であり、今年度の学生の満足度に関しては問題はないと考えている。今後も、高い満足度の維持と共に、満足度の向上に受けて講義資料や内容のブラッシュアップを継続していきたい。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>自由記述を見てみると、講義資料に対する好意的なコメントが多かったこと併せて、身近な現象に置き換えて説明をする点が学生からわかりやすいとのコメントが多かった。したがって、この2点が、満足度の結果につながったと感じている。したがって、今後も継続してわかりやすい資料と説明に力を入れていきたい。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>本項目の結果は4.5～4.7ポイントであり、例年とほぼ同様の結果であった。また、アンケートの結果からも大きな問題点は無いものと考えられる。したがって、今後もこの結果を継続して獲得できるように努めたい。一方で、質問4に関しては、学生がシラバスの内容を熟知している、もしくは毎回講義の前に熟読していることが前提の質問項目であると考えられるため、次年度以降は質問内容または、文言を変更する必要があるのではないかと考えている。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>本項目の結果は4.2～4.8ポイントであり、幅がみられる結果となった。最も低い結果となったのは質問11の「学生の参加を促したか」という問いであったが、講義科目に関していえば促さないと参加しないのかと被評価者（教員側）は感じてしまう。参加しなかった学生自身にも問題はあると考える。しかしながら、講義科目であったとしても学生側から参加を促す仕組みの希望がある結果でもあるので、これまで以上により対話的な雰囲気講義展開を心がけたい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>全体を通して、ほぼ例年通りの結果であり大きな問題点はなかったと捉えている。しかし一方で、学生のニーズの変化を強く感じた。学生のニーズの多くは、難易度を下げることに繋がるケースが多いが、最終的な目的である管理栄養士国家試験の合格を見据えた形でバランスを取りながら、学生のニーズに合わせた講義内容と展開を心がけていきたいと考えている。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 土2

科目名 公衆衛生学 I

教員名 宮原 恵子

回答者数/履修者数 21/25

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>全体平均よりは低かったが、昨年度の同科目の満足度よりは高くなった。この質問に「2」や「3」と回答した受講生が数名いたため、興味関心につながるような導入をこれまで以上に工夫したい。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>本科目は難しく感じてしまう学生が例年多いが、実際には身近なテーマであるため、学生の生活やニュースの話題を取り入れた点が学習意欲の向上につながったと考える。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>いずれの回答も昨年度と同様であった。しかし、Q3・5は全体平均と比べて低かった。本学科の他の専門科目と比べて、範囲が多岐にわたり、やや難しい科目であるため、それが「わかりやすさ」や「興味」の程度に関連していると考えられる。そのため、(1)や(2)と重なるが、これまでに以上に導入の仕方や内容を検討する必要がある。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>大半の回答が昨年度と同様の結果であったが、Q8がやや低下した。全体平均との比較でも同様であった。コメントには「配布プリントをもっとわかりやすくしてほしい」とあり、その点が低くなった要因と考えられる。ただし、授業の初回に「プリントはあくまでも補助教材」と説明しており、プリントを見るだけで授業内容全体の理解にはつながらないとも話しているため、学生の理解も求めたい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>昨年度の同科目と比較すると、全体的にはやや改善がみられたと捉えた。毎年ではあるが、授業の展開を少しずつ工夫しているので、それが本年度の対象の学生には通じた部分があったのかもしれない。しかし、全体平均を比較した場合、点数が低い点は変わらない。本科目への興味関心の度合いを向上するためにどうすればよいか引き続き検討したい。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 火4

科目名 微生物学実習

教員名 射場 仁美

回答者数/履修者数 24/25

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>Q13の評価は4.5で昨年度と同様に高い評価であった。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>レポートでの成績評価になるので、レポートの書き方は実習の初めに丁寧に説明した。1年生でレポート作成に慣れていないので、過去の学生のレポートの良い点、悪い点を示すことがレポート作成の参考になったのだと考えられる。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>2以下の評価をした学生はおらず、平均点も高い評価であった。また、昨年度の評価とも大きく変化がなかった。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>6, 8, 9の評価で2をつけている回答者が1名いた。自由記述欄でも、後ろの実験台の学生は板書や作業の説明が見つらいという記述があった。 実験室の構造上対応が難しいこともあるが、座席を指定する際に視力が悪い場合は前の実験台にするなど対応したい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>満足度、理解度は評価が高かった。しかし、自由記述欄をみると、レポートの作成に苦戦している学生もいた。実際に一部の学生は提出期限を守れず、成績評価も低くなった。実習時間中には実験作業だけでなく、これまで通りレポート作成の指導時間を設けて、丁寧に指導していきたい。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 木4

科目名 微生物学実習

教員名 射場 仁美

回答者数/履修者数 29/31

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>Q13の評価は4.6で昨年度と同様に高い評価であった。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>レポートでの成績評価になるので、レポートの書き方は実習の初めに丁寧に説明した。1年生でレポート作成に慣れていないので、過去の学生のレポートの良い点、悪い点を示すことがレポート作成の参考になったのだと考えられる。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>2以下の評価をした学生はおらず、平均点も高い評価であった。また、昨年度の評価とも大きく変化がなかった。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>2以下の評価をした学生はおらず、平均点も高い評価であった。また、昨年度の評価とも大きく変化がなかった。自由記述欄には、後ろの実験台の学生は板書や作業の説明が見づらいという記述があった。実験室の構造上対応が難しいこともあるが、座席を指定する際に視力が悪い場合は前の実験台にするなど対応したい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>満足度、理解度は評価が高かった。しかし、自由記述欄をみると、レポートの作成に苦戦している学生もいた。実際に一部の学生は提出期限を守れず、成績評価も低くなった。実習時間中には実験作業だけでなく、これまで通りレポート作成の指導時間を設けて、丁寧に指導していきたい。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 金2

科目名 基礎化学実習

教員名 菊地 優子

回答者数/履修者数 21/25

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>昨年度は4.5と4.2であった。本年度は4.4と4.7であり、やや上昇した。年末年始の休暇により同じ実習内容でも実施する時期や授業の間隔がクラスによって大きく変わってしまい、クラス間の差につながっているのではないかと考える。実施内容をずらすなどの調整をしていきたい。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>本年度は人数が少なく、一人ひとりに目がいきとどいたように思える。理解度に差がある科目なので個別に対応することも重要だと考える。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>ほぼ例年と同じ結果であったが、興味があるか(問5)の4.1は最も低い値であった。2をつけた学生もいたため、本科目が今後の学修にどうつながるかを授業中にもっと示す必要があると感じた。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>例年よりやや低い項目があるが、もう一方のクラスでは低くないめ、大きな変更は必要ないと考える。しかし、実習書の記載などが難しく感じる学生もいると思うので、内容を精査したい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>今回、年明け早々の授業で小テストを行い、その直後のアンケートであったので、難しい、楽しくないというイメージがついてしまったように思える。理解できないことが意欲や満足度の低下に直結するので、化学が苦手な学生でも勉強すればできるようになるという経験が必要だと感じた。助手の先生にも巡回してもらい、質問しやすい環境を作ることが大切だと考える。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 土4

科目名 基礎化学実習

教員名 菊地 優子

回答者数/履修者数 20/24

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>昨年度は4.5と4.2であった。本年度は4.4と4.7であり、やや上昇した。特にこちらのクラスは4.7であり、良好な結果であった。理解できたか(問12)についても4.5とこれまでで最も高いため、理解度が直結すると考えられ、今後も理解を深める工夫をしていきたい。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>グループでの実習ではあるが、計算等のも一人ひとりがきちんと取り組み、教え合いながら進める様子が見られたため、苦手意識の高い科目ではあるが、学生が前向きに取り組めたのではないかと思う。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>3~5の項目はこれまでで最も高く、全て4または5であった。大きな改善は必要ないと思うが、もう一方のクラスはあまり高くないため、こちらもクラス間の差をなくしたい。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>いずれの項目も例年より高かった。実習書の説明がわかりづらいとの記述があったので、内容の見直しや補足説明を増やしていきたい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>例年同様に難しいとのコメントがみられたが、わかりやすかったなどの前向きなコメントもみられたのはよかったと思う。高校までの化学の学習状況が大きく関係する科目なので、できるだけ一人ひとりに声をかけて化学が苦手な学生でも頑張ろうという気持ちになってもらえるような授業にしたいと感じた。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 火2

科目名 調理学実習Ⅲ

教員名 吉永 奈津希

回答者数/履修者数 28/32

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>昨年同様、デモンストレーション後に各教員が巡回指導しながら進めた。Q13の昨年度平均は4.9、今年度平均は5.0であり、大きな変化はなかった。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>レポートに次回作る加工品の原理等について予習した内容を記載させることにより、実習内容に興味を持って取り組むことができたのではないかと考える(Q5平均5.0)。また、教員による巡回が多く実習への参加を促すことができたことも学生の受講態度、学習意欲の向上につながったと考える。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>いずれの項目も昨年度と同程度以上の評価が得られた。次年度も継続していきたい。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>いずれの項目も昨年度と同程度以上の評価が得られた。次年度も継続していきたい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>実習中はデモンストレーションの内容を理解できているのか不安なときもあったが、自由記述欄にわかりやすい等のコメントがあり、安堵した。今後もわかりやすいデモンストレーションを心掛けたい。また、食品加工の原理が面白い、加工品の作り方について理解が深まったなどのコメントがあった。今後も食品学、調理学、調理科学等で学んだ内容との関連を理解してもらえようようにしたい。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 火5

科目名 調理学実習Ⅲ

教員名 吉永 奈津希

回答者数/履修者数 28/30

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>昨年同様、デモンストレーション後に各教員が巡回指導しながら進めた。Q13の昨年度平均は4.9、今年度平均は5.0であり、大きな変化はなかった。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>レポートに次回作る加工品の原理等について予習した内容を記載させることにより、実習内容に興味を持って取り組むことができたのではないかと考える(Q5平均5.0)。また、教員による巡回が多く実習への参加を促すことができたことも学生の受講態度、学習意欲の向上につながったと考える。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>いずれの項目も昨年度と同程度以上の評価が得られた。次年度も継続していきたい。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>いずれの項目も昨年度と同程度以上の評価が得られた。次年度も継続していきたい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>デモンストレーションの内容を理解できていないのではないかと思う場面もあったが、その点については教員が巡回することにより補うことができていたと考える。また、実習が楽しかったというコメントが多く、勉強になったとのコメントもあった。今後も楽しく実習を行いながら、食品学、調理学、調理科学等で学んだ内容との関連を理解してもらえるようにしたい。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 月4

科目名 薬剤学

教員名 椛島 力

回答者数/履修者数 96/105

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>満足度4.4であり、昨年度の4.6より低下したが、一定の評価は受けていると考える。次年度以降も、維持・向上できるようにアンケート結果を精査する。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>授業内容と関連した国家試験の過去問を演習問題として実施した。また、他の科目とどのように関連しているか解説を行った。物理系が苦手な学生が多いので、図表や例題等を多用して、分かりやすい授業を心がけた。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>平均4.3-4.6であり、一定の評価は受けていると考える。授業内容に興味を持たせるように、授業内容が国家試験だけでなく医薬品とどのように関係しているか解説を分かり易くする。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>平均4.4-4.6であり、一定の評価は受けていると考える。資料に関する意見があったので、次年度は改善していく。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>アンケートの結果では、概ね問題なく授業できたのではないかと思う。予習のために事前に講義資料をmanabaにアップしたり、復習のために授業動画をYoutubeにアップしたが、見ていない学生も少なく、昨年同様、予習や復習(Q1)の評価が低いのが課題である。今年は広い講義室(7201教室)だったので、前席に着席するよう指導していたが、多くは後方に着席したままであり、進級、卒業、国試合格を危惧している。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 火2

科目名 臨床薬物代謝学

教員名 椛島 力

回答者数/履修者数 98/121

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>昨年度と同様、満足度4.5であり、一定の評価は受けていると考える。次年度以降も、維持・向上できるようにアンケート結果を精査する。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>薬物動態で使用する公式の覚え方や組み立て方を、グラフとともに解説した。また、これらの公式を用いて解答する国家試験の問題を小テストとして出題し、次の講義時に解説した。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>平均4.6であり、一定の評価は受けていると考える。次年度以降も、維持・向上できるように、国家試験の内容を精査する等して授業内容をアップデートする。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>平均4.5-4.7であり、一定の評価は受けていると考える。全体的に、昨年度より向上しているため、次年度以降も、維持・向上できるように努める。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>大きな問題もなく授業ができたのではないかと思います。Q12の理解度は、ここ3年間で最も高かったが、定期試験ではあまり理解できていない学生が多いように感じた。国家試験で苦手とする学生が多い科目なので、理解できるように、分かり易い授業を心がける。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 月5

科目名 薬品物理化学 II

教員名 市川 和洋

回答者数/履修者数 96/117

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>理解度3.7に対し、Q13満足度4.1と難しい講義内容に対して満足度が高めに現れていると考えています（例年同一傾向です）。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>本講義は物理化学講義の中でも原理や数式を扱うセクションに当たり、もともと難しく感じるセクションとなっています。概念理解と、平易な表現を心掛けました。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>評価は4.1-4.4ですので構成はおおむね適正であったと考えています。並行開講の演習との関連性など引き続き改善したいと考えています。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>項目IIIにおいては、評価は4.2-4.4ですのでおおむね適正であったと考えています。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>本年も修学変化を見積もるため、前年度とほぼ同一講義資料を用い、中間試験、定期試験もほぼ同一問題で実施しました。2極化と低得点層が増え、単位未修得者が繰り返し本科目を履修している様子が伺われます。入学者の学力低下がその一因と考えています。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 金1

科目名 物理学演習

教員名 市川 和洋

回答者数/履修者数 38/42

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>Q12理解度では平均4.0、Q13満足度も4.0と、高校での未履修、難しい講義内容を考慮すれば評価はよく出ていると考えています。実際にQ6-11の授業方法については4.1-4.4となっており、講義自体は適切に行うことが出来ていると考えています。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>本講義は専門科目の薬品物理化学につながる科目で、高校物理未修者クラスに当たり、難しく感じたものと思います。できるだけ式を使わず概念理解と、平易な表現を心掛けました。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>3.9-4.4程度ですので構成はおおむね適正であったと考えています。引き続き改善したいと考えています。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>前述の通り、Ⅲの項目では評価は4.1-4.4であり、4次カリからの開講3年になりますが、全体として改善がみられると考えています。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>3クラス制のCクラスで高校物理未履修者ばかりです。理解度ベースでは5が最大人数であり一定の底上げ効果はあったと考えています。ただ、評価3も相当数いることは2年時の学修で苦勞する学生が潜んでいると考えています。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 火3

科目名 生薬学Ⅱ
 教員名 宇都 拓洋
 回答者数/履修者数 105/107

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>満足度4.7ポイントであることから多くの学生が満足している様子が分かる。今後も、5に近い評価になるように講義を充実させていきたい。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>講義プリントを事前に配布することで、予習を促した。また講義開始時に前回の講義の復習テストを実施した。確認試験および定期試験の1か月前に、昨年の問題を全員に配布し、学習意欲向上に取り組んだ。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>3つすべてが4.6の評価であることから、多くの学生が高評価であったと考えている。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>すべての項目が4.6以上の評価であることから、多くの学生が高評価であったと考えている。Q9で2を付けた学生1名がいる。なぜ、2を付けたのか原因は不明であるが、今後、板書や機器を改善していきたい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>コロナでのハイブリッドでの講義の経験も導入して以前の対面よりも内容が工夫されており、おおむね学生は満足したと思われる。自由記述欄もポジティブコメントが多い。しかしながら、確認試験および定期試験の成績は下位層の学生が増えており、さらに再試験でも点数が向上していない。一方で上位層の学生は、ほぼ満点に近い点数を獲得している。このように2層に分かれた状況で、どちらも満足させる講義は非常に難しいと考えている。すぐに対応策は見つからないかもしれないが、試行錯誤を繰り返しながら、最善の方法を探していきたい。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 金1

科目名 医薬品情報論

教員名 大磯 茂

回答者数/履修者数 70/115

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>満足度に関しては、評価平均が4.5と昨年度の4.4より0.1ポイント高い評価点であった。今年度は、昨年度と同様に対面形式で授業を行った。授業形態は基本的に前年度のやり方を踏襲し、マナバフォリオを利用した予習・復習課題も実施した。履修者が学習を進める上で予習・復習を強く意識させたものと考えている。次年度もマナバによる予習・復習課題は継続したい。自由意見において「マナバの小テストにある復習問題や予習問題を、紙媒体かPDFデータでいただけると勉強しやすいと思いました」との意見があり、それらの対応が問題ないか考慮した上で適切に対応したいと思う。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>これまでと同様に教科書を指定して、その内容に沿って講義を進めた。マナバフォリオを利用した予習および復習を実施し、その結果を最終の成績に反映するようにしたが、授業内容の理解に非常に役に立ったとの意見があった。「最新の薬事情の話もあり、とても興味深い授業でした」「資料は見やすかったです」などの意見もいただき説明の仕方も概ね問題なかったものと思われる。昨年度と同様に、小テストを5回目授業の後と13回目授業の後の2回行い、小テスト後すぐに解答を公開することにより、形成的評価も行えるようにした。小テストが履修期間中の学修を進める動機になっている部分もあると思うので、次年度も同様のスタイルで授業を展開したいと思う。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>今年度の評価は4.4から4.6と、昨年度の4.3から4.5の評価と比較すると上昇した。自由意見の中で「マナバの小テストにある復習問題や予習問題を、紙媒体かPDFデータでいただけると勉強しやすいと思いました」という意見があり、対応可能かどうか検討したい。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>今年度の評価点は4.5~4.6で、昨年度の4.4~4.6の評価点よりも若干上昇した。「最新の薬事情の話もあり、とても興味深い授業でした」「資料は見やすかったです」などの意見もいただき特に問題はなかったと思われる。自由意見の中で「マナバの小テストにある復習問題や予習問題を、紙媒体かPDFデータでいただけると勉強しやすいと思いました」という意見があり、対応可能かどうか検討したい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>今年度は昨年度と同様の授業形態ではあったが授業全体の満足度評価点は上がっていた。個々の意見の中にはこれまでに寄せられた意見と同様のものもあったが、改善できる点については対応して、さらなる内容の充実を図りたい。例年同様であるが、予習・復習に関する平均評価点が他の項目と比較すると低めであるため、予習・復習の重要性をあらためて伝えていきたいと思う。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 金2

科目名 分析化学Ⅰ

教員名 大庭 義史

回答者数/履修者数 98/113

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>満足度に関して評価2が1名（昨年度2名）がいるが、昨年度4.5と比べ0.2ポイント増であった。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>講義動画を期限を設けず公開し、何度も復習できるようにした。また、マナバに講義内容に関する小テストを公開した。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>昨年度（4.6, 4.6, 4.5）と比べ0.1～0.2ポイント増であった。評価1、2を付けた学生は0であった。 なお、シラバスとの整合性については、毎回の講義初めに確認しているので5.0の評価になるはずだと思っている。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>昨年度（4.6, 4.5, 4.7, 4.7, 4.4, 4.3）と比べて、すべての項目でポイント増であった。特に授業への熱意（Q7）、遅刻私語への対応（Q10）、授業参加を促す工夫（Q11）は0.3ポイント増であった。 なお評価1、2を付けた学生は0であった。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>基礎系科目で内容的に新しい事がほとんどない科目としては、十分な評価ではないかと思っている。 なお、自由記述欄の試験の配点に関する内容については、manabaにて回答した。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 水2

科目名 微生物薬品学

教員名 小川 由起子

回答者数/履修者数 3/3

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>2017:4.4, 2018:4.5, 2019:4.1, 2020:4.2, 2021:4.6, 2022:4.6, 2023:4.7</p> <p>今年度も3次カリで残っている学生3名への講義であったので中間試験を入れることができた。人数が少なかったので私語はなかったが、韓国の学生2名が休み、マンツーマンでの授業もあったので今後3次カリの在り方を考えたほうが良いと思う。今年度は韓国の学生が2名でいたので、できるだけ学生のやる気をださせるような授業の仕方を考え、実施した。しかしながらこのやり方は学年によって異なるため、その都度見極めが必要と考える。前回は記載したが、毎回小テストで問題を解いて復習できるのが良かったとの意見もあるため、できれば成績ごとにアンケート結果をまとめていただくと対応しやすくなると思う。今回も病院や薬局での業務を見据えて、新たに臨床的な使い方について講義した。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>今回は3次カリで残っていた学生対象であり3名と少なかったため、集中力が昨年よりは高かったように感じる。少人数の良さが現れた。総合満足度は昨年より0.1ポイント上がり、やってきたことは間違いはなかったと確信できる。質問対応は毎授業後にアンケートや小試験の最後で記入してもらうなど実施していた結果、質問対応をしてくれるのが良かったとの意見がmanabaでのアンケートで今年もあがった。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>Q3 2017:4.3, 2018:4.4, 2019:4.1, 2020:4.1, 2021:4.7, 2022:4.7, 2023:5.0 Q4 2017:4.3, 2018:4.4, 2019:4.2, 2020:4.2, 2021:4.7, 2022:4.6, 2023:5.0 Q5 2017:4.3, 2018:4.4, 2019:4.2, 2020:4.1, 2021:4.6, 2022:4.5, 2023:4.7</p> <p>昨年の反省点、授業内容をすべてプリントに書くのではなく、配布資料を穴埋め式とし、responを使用した教授法にした結果、Q3,4は5.0をいただくことができた。しかしQ5で評価4の学生が1名おり、もう少し興味深い授業になるように工夫が必要と考える。今後は、能動的に、学生一人一人が考えることのできる授業や学生の要望に合った授業を作り上げたい。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>2017年度 Q6(4.4),Q7(4.5),Q8(4.3),Q9(4.3),Q10(4.3),Q11(4.4) 2018年度 Q6(4.6),Q7(4.6),Q8(4.5),Q9(4.5),Q10(4.5),Q11(4.5) 2019年度 Q6(4.2),Q7(4.3),Q8(4.1),Q9(4.1),Q10(4.1),Q11(4.1) 2020年度 Q6(4.3),Q7(4.4),Q8(4.0),Q9(4.1),Q10(4.2),Q11(4.2) 2021年度 Q6(4.7),Q7(4.8),Q8(4.6),Q9(4.7),Q10(4.5),Q11(4.5) 2022年度 Q6(4.6),Q7(4.7),Q8(4.6),Q9(4.6),Q10(4.3),Q11(4.5) 2023年度 Q6(5.0),Q7(5.0),Q8(5.0),Q9(5.0),Q10(5.0),Q11(4.7)</p> <p>Q6~Q10までは満点の5.0であったが、Q11で評価4の学生が1名いた。Responなどを使いクイズ形式で問題を解かせて解答してもらったが、受動的な授業が多かったと感じることが多かった学生もいるということは反省すべき点である。授業の進め方や配布プリント類は学生の満足のいくものが作れたと思う。コロナウイルス感染症が5類感染症になることで、対面にもどったため、プリントは少し作り替えたことが功を奏したようである。また韓国の学生のために少し詳しく説明を加え表情を見ながら授業を勧めたのもよいほうに向かった1つであると思う。</p>

項目見出し	コメント
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	<p>3次カリの学生ということで受講者人数が少ないため、学生の理解度は増し、満足度も増していると考えられる。中間試験をしたことで定期試験の範囲も少なくなったことからおおむねみんなよく勉強し平均点も高かった。少人数制が良いというのは明らかであった。アンケート結果をできれば成績と関連付けて出していただけると今後遠隔授業においては参考になるので、ぜひ対応をお願いしたい。年々国家試験に臨床的な内容も増え、さらに教える量も多くなってきているので、精査しながらかつ臨床でも使えるような授業内容にするように努力していきたい。3次カリの学背への授業、10名くらいであればよいが3名4名など少人数の場合2名休んでマンツーマンなどがあつたので、「カリキュラム上の扱いをもう少し考えていただけるとありがたい。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 木1

科目名 薬物治療学Ⅲ

教員名 小川 由起子

回答者数/履修者数 90/104

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>2019/4.3, 2020/4.0, 2021/4.4, 2022/4.7, 2023/4.6</p> <p>昨年の課題であった回答率の低さ(37%)はwebでの授業アンケートとした上え授業内で行ったため、改善できた(今年度86.5%)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業とてもわかりやすいし資料も見やすいです ・興味のある分野でした。 ・ポイントを示して頂けたので、復習する際に助かりました ・とても授業が分かりやすかったです。授業ありがとうございました。 ・ハキハキしていて分かりやすかったです。熱量が伝わってきて良かったです。 ・元気に授業をしていただけなので、やる気が出ます <p>との自由記述欄のコメントがあり、授業をやってよかったと思うコメントばかりであった。今後も学生の立場に立ってわかりやすい資料づくり、わかりやすい授業を目標に精進していきたい。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>毎回授業後のアンケート(質問等)には丁寧に回答し、manabaにアップしていたことは助かったと数名の学生からきいた。コロナウイルス感染症が5類になり、対面授業が原則となり、当初は戸惑いもあったように思われるが、今後も引き続き学生自身が考える能動的自発的学習ができる様な教授法を検討したい。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>Q3:2019/4.2, 2020/3.8, 2021/4.4, 2022/4.6, 2023/4.6 Q4:2019/4.4, 2020/4.1, 2021/4.4, 2022/4.7, 2023/4.7 Q5:2019/4.4, 2020/4.1, 2021/4.4, 2022/4.6, 2023/4.5</p> <p>昨年はQ3,Q5で評価2の学生が、1名ずついたが、今年度はQ5のみ評価2の学生が1名いた。授業内容は国試に直結したものを中心に実施したが、manabaでのアンケートを見ると難しすぎるという意見ともう少し臨床的なものでもよい言う意見もあり、ここでも理解力の差が激しいと考えられる。成績によってできるできないがあるため、アンケートと成績を紐づけての統計結果の作成をぜひお願いしたい。次年度も今年度同様、すべてをこちらで与える授業では受け身の授業にしかないのでは、配布資料ならびに授業の進め方を再考し、学生一人一人が考えることのできる授業を作り上げたい。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>Q6:2019/4.5, 2020/4.2, 2021/4.5, 2022/4.8, 2023/4.7 Q7:2019/4.5, 2020/4.3, 2021/4.6, 2022/4.8, 2023/4.8 Q8:2019/4.2, 2020/3.9, 2021/4.5, 2022/4.7, 2023/4.7 Q9:2019/4.3, 2020/4.0, 2021/4.5, 2022/4.7, 2023/4.7 Q10:2019/4.4, 2020/4.1, 2021/4.5, 2022/4.6, 2023/4.5 Q11:2019/4.3, 2020/4.2, 2021/4.5, 2022/4.6, 2023/4.5</p> <p>昨年に比べ0.1ポイント程度減少した。学生からの自由記述欄で悪いことは全く書かれていなかったが、学生の理解力の違いもあるが、プリントをもう少し学生主体でできるように工夫したほうが良いのではないかと考えている。学生の成績分布を知り授業内容を組み立てるのが、この大学では必要であると考えるのでぜひ成績と関連付けた統計をお願いしたい。今後さらに配布資料は吟味し、来年度に備えたい。さらに「respon」等を使用し、参加型の授業を遠隔授業の中で実施することで学生の理解度を深めることができると考えられるので、次</p>

項目見出し	コメント
	年度以降も活用を考える予定である。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	今年度は、国家試験の出題が8疾患を軸として、多岐にわたり科目を越えての出題に代わってきているため、昨年同様できるだけ生物、衛生、薬理、治療、実務をつなげた講義を目指した。案の定、今年度の国家試験は分野を超えた連問が多く出題された。自宅学習時間も多くとれと考えていたが、全科目で多くの課題があり、学生の中には消化不良を起こしている学生がいることも事実である。講義の進め方は今後も再考する必要がある、次年度以降検討していきたい。また教科書が高いこともあり購入していない学生も多く見受けられたので、分野を超えての出題が今後増えるので、予備校の参考書ではなく、教科書を熟読することの大切さを教えていきたい。

アクションプランシート

2023年度後期 木2

科目名 病原微生物学

教員名 小川 由起子

回答者数/履修者数 92/113

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>2017:4.3, 2018:4.4, 2019:4.1, 2021:4.4, 2022:4.7, 2023:4.8 (2022年度より2年後期、病原微生物へと名称変更) 昨年度より0.1p上昇 自由記述欄には、 ・大事なところを繰り返し言ってくださるので、すごく定着しやすかったです。 ・授業資料が詳しく、分かりやすかったです。 ・話し方が明瞭でわかりやすい授業でした ・薬学部の先生の中で一番わかりやすいです ・すごく分かりやすいです。小川先生に全部薬学の教科習いたいです。</p> <p>など良い印象が多かった反面、 ・早口で聞き取れない部分があった。 ・この授業は私語が多い印象がある。たまに気になって集中できないので、毎回注意してほしいです。 などの意見もあった。私語についてはその都度注意をしていたがmanabaでの授業後のコメントで注意することで授業が途切れるのを嫌がる学生もおり、今後私語ができないような体制を構築する必要がある。また熱が入ると早口になる傾向があるため、次年度は気をつけたいと思う。次年度も引き続き、学生の目線に合わせた講義を展開していきたいと思う。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>昨年より3年後期に移動したが、3年前期に感染防御学にてウイルス学の一部を実施したおかげで、より基礎的なことから始めたことが理解につながったが、昨年の反省点を踏まえ、少し詳しくしすぎたせいでぎりぎりの時間での授業となってしまった。毎回授業終了後にmanabaでアンケートや質問、意見を伺い、その都度修正しながら進めた。学生の意見を授業後すぐに吸い上げることで、思いもよらなかった考えがあることに気づき、修正することができる。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>2017 : Q3:4.3, Q4:4.3, Q5:4.3 2018 : Q3:4.5, Q4:4.4, Q5:4.4 2019 : Q3:4.2, Q4:4.1, Q5:4.1 2021 : Q3:4.5, Q4:4.5, Q5:4.5 2022 : Q3:4.8, Q4:4.7, Q5:4.6 2023 : Q3:4.7, Q4:4.6, Q5:4.7</p> <p>昨年度よりQ3,4は0.1ポイント減少、Q5は0.1ポイント上昇 前期に感染防御学にてウイルス学の一部を実施したおかげが昨年の反省点を鑑み、少し詳しく解説したところもあったことから今回は時間にあまり余裕がなかった。興味ある授業と考えていただけている質問で0.1ポイント上昇したことはうれしく思う。次年度も引き続き今回の方法を軸に進めていきたい。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>2017 : Q6:4.4, Q7:4.4, Q8:4.3, Q9:4.3, Q10:4.2, Q11:4.3 2018 : Q6:4.5, Q7:4.5, Q8:4.5, Q9:4.5, Q10:4.4, Q11:4.4 2019 : Q6:4.2, Q7:4.3, Q8:4.1, Q9:4.1, Q10:4.1, Q11:4.2 2021 : Q6:4.6, Q7:4.6, Q8:4.6, Q9:4.6, Q10:4.4, Q11:4.5 2022 : Q6:4.9, Q7:4.9, Q8:4.8, Q9:4.8, Q10:4.6, Q11:4.7 2023 : Q6:4.8, Q7:4.8, Q8:4.7, Q9:4.7, Q10:4.7, Q11:4.7</p> <p>昨年度より0.1ポイント減少もしくは維持 自由記述欄の早口であったというコメントもあったころから話し方を</p>

項目見出し	コメント
	<p>少し工夫する必要がある。 遅刻や私語に対する対応については6名の学生が評価3、1名の学生が評価2であったことから、授業中の私語、遅刻に関する対応を再度見直していきたい。ただ授業後のmanabaによるアンケート調査で、授業を注意で分断させてほしくない、大人なんだから自己責任という意見もあったので、この点はさらに考えるべき反省点である。 おおむね納得のいく評価をいただくことができた。 基礎的なところから始めるのが理解につながるということがわかった。 今後は同系列の科目と連携を取りながら、点と点が線で結べるような授業体系を取っていきたい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>昨年のアンケート結果と比べると、一部減少した項目もあるがいずれの設問でも昨年レベルであった。 最近の国家試験でも応用問題が多く、ウイルスに関しても難しくなってきたが、以前のアンケートで専門的なところを少し詳しく入れていくと理解度が下がることがわかったので、より基礎的な内容を入れたところ理解度が増したと思われる。さらに学生が理解しているかどうかを毎回manabaのアンケート機能からチェックしたことで、より理解が深まったと考えられる。来年に向けて後期の講義時に学生の意見を聞きながら授業を構築していこうと思う。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 金1

科目名 公衆衛生学Ⅱ

教員名 小川 由起子

回答者数/履修者数 86/98

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>2017/4.5, 2018/4.2, 2019/4.2, 2020/4.4, 2021/4.8, 2022/4.7, 2023/4.5</p> <p>対面にも戻ってはいるもののオンデマンド受講生がいるため、オンデマンド動画を対面授業の学生のmanabaにも掲載したことで理解度が深まったと自由記述欄に書かれており、復習することが重要であると考えられる。昨年より0.2ポイント低かった。昨年よりも話す量が多くなったため急いで授業したことから学生にもっと落ち着いて話してほしいとの意見が寄せられたため次年度は、少し余裕をもってゆっくり話すように努力したい。この授業では、「感染症法」を勉強するが、カリキュラム上、微生物学が後期から始まり、微生物学と並行しての講義でかつ「病原微生物学」未履修で教えなければいけないため、基礎を習っているかいないかで理解度にも大きな違いがみられることから、今年度も試行錯誤を繰り返しながら教えたがやはり限界はある。自由記述欄に「熱心に説明して下さるので理解しやすい。プリントが見やすく、授業内容も重要な所がどこかが分かりやすかった」のコメントに大変救われた。次年度も引き続き授業内容を試行錯誤しながら理解力が深まるように努力したい。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>昨年度から対面に戻り、今年度の動画配信は教員に任せられたが、学生のコメント「授業動画をマナバに上げられているのがとてもありがたかったです」からも今年度も対面授業後に動画配信を行っていたことが学生の理解度を深める手段になったと考える。また、毎回授業時の小テストやアンケートでの質問対応により、学生さんの不安や不満を取り上げ、次の授業にいかせたと考えている。学生により成績や理解度が異なってくるため、毎年考えることであるが、できれば成績ごとにアンケート結果をまとめていただくと対応策がしぼれると考えられる。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>自由記述欄に「熱心に説明して下さるので理解しやすい。プリントが見やすく、授業内容も重要な所がどこかが分かりやすかった」というコメントがあり、Q3-5は評価1, 2の学生がいなかったのは良かった。コロナウイルス感染症が5類に移行したにもかかわらずまだまだ感染者が多いため、コロナウイルス感染症についての報道も多く、より親しみやすかったかとは思いますが、微生物の基礎がないので基礎を固めてからこの授業をした方がもっと理解度が増すと考えられる。また前述の通り、成績とアンケート結果を紐づけていただくと対応しやすくなると考えられる。今後も引き続き、国家試験が科目の枠を超えて出題されるので生物、衛生、実務等をつなげて今後も講義ができた学生にとっても有意義なものになると考えている。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>Q6:2015/4.6,2016/4.3,2017/4.6,2018/4.2,2019/4.3,2020/4.5,2021/4.8,2022/4.8,2023/4.7 Q7:2015/4.7,2016/4.4,2017/4.6,2018/4.3,2019/4.3,2020/4.5,2021:4.9,2022/4.8,2023/4.7 Q8:2015/4.6,2016/4.2,2017/4.6,2018/4.1,2019/4.3,2020/4.4,2021:4.8,2022/4.6,2023/4.6 Q9:2018/4.2,2019/4.3,2020/4.4,2021:4.8,2022/4.7,2023/4.7 Q10:2018/4.1,2019/4.2,2020/4.2,2021:4.8,2022/4.5,2023/4.6 Q11:2018/4.2,2019/4.3,2020/4.3,2021:4.6,2022/4.6,2023/4.5</p> <p>昨年度と同程度であったが、Q11以外 評価2の学生が1名いることから、理解力を高めるために、教科書がない(指定参考書はあるが)授業のため、プリントの作成を再度見直す必要があると考える。どのくらいの成績の学生までがこの授業のやり方で理解できるのか、その境界線を知りたい。それによって、例えば予習の仕方やresponを使用し</p>

項目見出し	コメント
	<p>た授業が可能かどうかを判断したいと考える。成績の幅が広いので、学年でも理解力に差はみられるので、ポートフォリオで復習小テストを解かせた後のアンケートやリフレクションシートを配布するなどして学生の意見を取り入れていきたいと思う。次年度も引き続きmanabaでアンケートを取りながら学生の学力に合わせた授業を構築していきたい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>対面授業が主であったため、学生さんの顔を見ながら講義ができたこと、その後に動画を配信し復習ツールをあげることで高評価につながったと考える。学生の雰囲気はわかっている程度手には取れるので、今年度は授業の組み立てがしやすく、学生のニーズに合わせることでできたと思う。しかし今年度の2年生は後ろに座る傾向が高く、後ろで別のことをやっている生徒がいないかの不安もあったが、試験結果を見ると昨年並みの平均点であった。また一昨年度から、「病原微生物学」を履修する前に、感染症の話をしていなければならないという学生にとっては不利なカリキュラムということ、また微生物の基礎の「微生物学」の講義と並行しているが、学生に不利益を講じさせない授業形態をとることができた。講義終了後にポートフォリオでの小テストを課題として出し理解力を少しでも深めることを考えた。昨年同様、習っていないことを予習をする時間があまりとれなかったため、特に成績下位者にとっては大変だったようである。今後も学生の意見をポートフォリオを使って聞きながら、成績が伸び悩んでいる学生をどうしたら一定レベルまで上げることができるのかをよく考えて来年度講義にのぞみたいと思う。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 月2

科目名 免疫学
 教員名 岸原 健二
 回答者数/履修者数 89/102

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>(2011→2023年度の推移)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Q13 (満足度)) : 3.6→3.6→4.0→3.7→4.2→4.2→4.1→3.9→3.8→4.1→4.5→4.5→4.3 ・Q12 (理解度)) : 3.4→3.4→3.9→3.6→4.0→4.1→4.0→3.7→3.8→3.9→4.2→4.2→4.0 <p>Q13満足度とQ12理解度の両方とも昨年度より若干低下した。例年通り、復習用の講義動画の配信やmanabaの小テストでの課題出題を毎授業後に実施したが、学生のコメントからは概ね好評であった。しかしながら、前年度の反省として提案していた再履修者への対策を、今回実施することができなかった。来年度は、学生の希望を募りながら対策を実行していきたい。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>(2011→2022年度の推移)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Q1 (準備学習)) : 3.1→3.1→3.8→3.5→3.8→3.9→3.9→3.6→3.7→3.8→3.7→3.8→3.8 ・Q2 (授業態度)) : 3.4→3.7→4.0→3.6→3.9→4.0→4.1→3.8→3.9→4.0→4.1→4.2→4.0 <p>今年度は、昨年度に比べて授業態度の自己評価が低下していた。今年度の履修学生は、講義室後方で受講する学生が多く、それも影響しているかもしれない。課題の出題は、準備学習を促す意味で効果的であるようなので継続していく。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>(2011→2023年度の推移)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Q3(授業の編成)) : 3.7→3.6→4.1→3.7→4.2→4.2→4.1→3.8→3.9→4.1→4.5→4.4→4.2 ・Q4(シラバスとの整合性)) : 3.8→3.9→4.2→3.8→4.4→4.3→4.2→4.0→3.9→4.2→4.6→4.5→4.4 ・Q5(授業内容)) : 3.8→3.8→4.1→3.9→4.3→4.2→4.2→3.9→3.9→4.1→4.5→4.4→4.3 <p>今年度は、昨年度より若干低下した。各授業の開始時に、その回の授業内容の説明を明確にすることにより改善していきたい。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>(2011→203年度の推移)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Q6(話し方)) : 3.8→3.7→4.1→3.7→4.3→4.2→4.1→3.8→3.9→4.1→4.4→4.4→4.2 ・Q7(教員の熱意)) : 3.8→4.0→4.2→3.9→4.4→4.3→4.3→4.0→4.0→4.2→4.6→4.6→4.4 ・Q8(教科書等の使用)) : 3.8→3.9→4.3→3.7→4.4→4.2→4.2→4.0→4.0→4.1→4.6→4.5→4.4 ・Q9(板書や機器の使用)) : 3.8→3.8→4.2→3.7→4.4→4.3→4.3→4.0→4.0→4.0→4.6→4.5→4.4 ・Q10(遅刻等への対応)) : 3.6→3.8→4.1→3.6→4.1→4.2→4.2→3.9→4.1→4.1→4.5→4.5→4.3

項目見出し	コメント
	<p>・ Q11(授業参加への促し)): 3.6→3.6→4.0→3.6→4.3→4.2→4.2→3.9→4.0→4.1→4.4→4.5→4.3 今年度は、昨年度より若干低下した。昨年度と大きな変更点はなかったが、全体的に低下した印象である。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>昨年度と同様の授業を実施したが、全体的に昨年度より評価が若干低下した。定期試験(本試験)の合格率は昨年度よりかなり低かった(85%→71%)。試験が最終日であったことや最後の3回の授業が試験前に集中していたことなどが影響したかもしれないが、学生の理解度がやや低下している可能性も考えられる。来年度以降は、より分かりやすい授業を実施する必要があると考え、講義動画の配信や復習問題の出題を継続するほかに、学生の希望があれば補講など新しい改善策を実施していきたい。また、双方向性の授業を実施するための工夫も導入していきたい。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 水1

科目名 疾病学 I

教員名 隈 博幸

回答者数/履修者数 87/100

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>満足度は4.7と、例年並みの結果であった。分かりやすい授業を心掛けているが、100人もいとレベル設定が難しく、全員に満足してもらえる授業とは何か？を考えて実施することも検討する必要があると感じる。とは言え、ひとまずこちらでも安心できる結果であった。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>特にこれ、というものは無いが、疾病学という講義の内容から、普段の生活や家族あるいは学生本人が経験したことのある疾患、また私がこれまで体験してきた話などを上手く絡めて授業を行った。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>授業内容はいずれも4.7～4.8と充分高得点であったと自負しており、特に改善する必要性を感じていない。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>該当項目はいずれも4.6～4.8と高い水準を保っており、こちらも特に改善が必要な項目は無いと考えている。但し、「遅刻や私語が授業の妨げとなる」「学生の授業参加を促す」という項目について、他項目より若干「3」点を付けた学生が多くおり、その点は反省し何か策を考えたい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>各項目比較的安定したスコアであり、安心した。授業内容の理解と準備については他項目に比べ低得点であったが、特に授業準備については学生に対し「必要なし」と伝えており、予習よりも復習が大切であると言っていることからあまり気にしていない。来年度についても、今年度と同等以上になるよう、工夫をしていきたいと思う。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 火1

科目名 細胞生物学

教員名 黒川 健児

回答者数/履修者数 73/104

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>満足度は4.5と全体平均並みであった。4.0以上を維持できるように学生の意見を聞いて工夫を続けたい。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>毎回の確認テストの実施、数回の講義毎の小テストの実施は、学生からポジティブな評価を得ていると感じられる。過去問の提示も、どの点の理解が求められているのかが分かり易いとのコメントがある。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>授業内容は体系化された薬学教育カリキュラムの一部であるが、興味をもってもらえるように映像資料を使うなどの工夫をしている。この分野の学びが創薬や疾患の治療、予防に役立つことを理解してもらうことで、面白さを知ってもらえたらと考えている。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>話し方が単調であること、大事なところを強調して欲しいことについてコメントをよく受けるので、その点は気を付けるようにしている。遅刻や私語に対する注意は積極的には行っていないが必要に応じて行いたい。授業参加の促進としては、確認テストへの回答や小テストへの準備として各自での勉強を促してはいるが、学生間での説明し合う時間を設けるなどのアクティブラーニングの機会を増やすことを今後は考えたい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>期末試験等で得点できていない学生さんのためには、学生間での説明し合う時間を設けるなどのアクティブラーニングの機会を増やすことの有用性を考えている。今後、時間を調整して取り入れていきたい。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 月1

科目名 医薬品化学II

教員名 小島 直人

回答者数/履修者数 69/100

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>今年度が担当初年度であるが、回答者の96%が4以上の評価であり、平均が4.5であったことから、概ね評価されていると考えている。来年度は講義回数の早い段階で独自にアンケートを行い、満足度を下げている要因を探り、さらなる改善に努めたい。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>授業の冒頭に関連する国家試験問題を提示し、該当事項を講義した後で、実際に取り組んでもらった。パワーポイントの資料を映写し、適宜、それに書き込みながら講義したが、できるだけ文字を少なくし、見やすい資料とすることに努めた。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>該当する項目の評価点は4.5-4.6であった。今年度は教科書に記載の内容を中心に実施したが、来年度は最新のトピックスなども取り入れ、より興味を引くような内容にしたいと考えている。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>該当する評価点は4.4-4.6であり、現時点で改善が必要な項目はないと考えるが、Q11が4.4と少し低かった。初年度ということもあり、学生の授業参加を促す工夫が不十分であったため、来年度は積極的に組み入れていきたいと思う。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>これまでに学修してきた有機化学の知識を応用すれば、暗記することを最小限にできることを理解してもらえるように努めたが、自由記述欄にその意図を理解してもらえた記述が多数あり良かったと思う。一方、話すのが少し早いところがあったとのコメントがあったが、今年度は盛り込む内容を絞りきれず、時間的にタイトなところがあったことが原因と考える。次年度は内容を改めて精査し、より重要な項目を時間をかけて説明できるように対応する予定である。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 木2

科目名 病原微生物学

教員名 小林 秀光

回答者数/履修者数 109/113

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>2021年度 (実施せず) 2022年度 (総合満足度：4.5、日本人学生：4.5、韓国留学生4.5) 2023年度 (総合満足度：4.5、日本人学生：4.5、韓国留学生4.8)</p> <p>昨年の総合満足度と同値4.5であったので、ほぼ良好であったと思っている。 自由記述にはポジティブなコメントが多く、一定以上の学生が楽しみつつ興味を持って本科目を聴講していたことが伺える。 しかし、「試験の記述問題の模範解答が欲しい」や「試験で問題と解答欄を同じページにして欲しい」という試験がらみの甘えたコメントが散見されたので呆れた(+ +)</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>3学生を対象とする必修専門科目であり、微生物系科目(微生物薬理学、衛生化学、公衆衛生学など)や臨床系科目(実務実習など)に関連する重要な科目である。もちろん国家試験にも多くが出題される。従って、国家試験の勉強に役立つように、社会的に注目を集めている事例(コロナウイルスやインフルエンザ等)についてしっかり授業した。また、出来るだけ分かり易い言葉を使って解説し、教科書の項目ごとに自作のプリント「まとめ」を配布する等して学修サポートした。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>2021年度 (実施せず) 2022年度：質問3：4.5、質問4：4.6、質問5：4.5 2023年度：質問3：4.3、質問4：4.5、質問5：4.4</p> <p>昨年より1~2ポイント程度下降した。昨今の社会的情勢(コロナ禍)を講義に反映させることを重視したことで、シラバス通りに授業が進まず、講義できなかった項目も生じてしまった。この点は改善すべきことであろう。 次年度は、ALをもっと工夫してより多くの学生が興味を持てる分かり易い授業に取り組みたい。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>2021年度：実施せず 2022年度：質問6：4.6、質問7：4.7、質問8：4.6、質問9：4.6 2023年度：質問6：4.5、質問7：4.6、質問8：4.4、質問9：4.4</p> <p>昨年より1~2ポイント程度下降した。次年度はこれらの項目の評価が上昇するように話し方に気を付けたい。また、受講生よりまとめのプリントに十分なメモ欄を設けることを望んでいるが、まとめプリントがあまりに枚数が増えるのもおかしいので、学生自身がノートを作成するよう促したい。また、受講生がプリントに頼りすぎると教科書やその他の専門書を軽視することが懸念されるので注意したい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>昨年と同様、「出席カード」や「アンケートの自由記述欄」への書き込み(質問や感想など)が殆どなく、授業中においても積極性が殆ど感じられない。本科目の「S」及び「A」評価の成績優秀者の割合が例年よりも少ない。学年全体としての総理解度が乏しいと考えられる。従って、ストレート卒業率や国家試験合格率が悪化しないように、今後の学修支援には全教員が一層努力する必要がある。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 金2

科目名 微生物学
 教員名 小林 秀光
 回答者数/履修者数 88/103

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>2021年度（総合満足度：4.4、日本人学生：4.4、韓国留学生5.0） 2022年度（総合満足度：4.5、日本人学生：4.6、韓国留学生4.3） 2023年度（総合満足度：4.4、日本人学生：4.4、韓国留学生なし） 一昨年の総合満足度4.4、昨年の総合満足度4.5であったので、昨年に引き続きほぼ良好であったと思う。 この要因は、一昨年度は「完全リモート授業」であったが、昨年度と本年度は「完全対面授業」であったことであろう。 自由記述にはポジ(+ +)ティブなコメントが多く、一定以上の学生が楽しみつつ興味を持って本科目を聴講していたことが伺える。 ただし、「まとめプリント以外は試験に出さないで欲しい」という信じられないコメントが見られたので驚いた(+ +) 当然ながら、授業で使用している教科書も試験範囲であることは言うまでもない（周知もしている）。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>2学生を対象とする必修専門科目であり、微生物系科目（病原微生物・ウイルス学、微生物薬品学、免疫学、衛生化学、公衆衛生学など）や臨床系科目（実務実習など）の基礎となる重要な科目である。従って、導入的科目の性格を持っているので、先ず学生がこの分野に興味を持てるように、社会的に注目を集めている事例（コロナウイルスやインフルエンザ等）についてスライド枚数を昨年よりさらに増やして紹介した。 また、出来るだけ分かり易い言葉を使って解説し、教科書の項目ごとに自作のプリント「まとめ」を配布する等して学修サポートした。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>2021年度：質問3：4.3、質問4：4.3、質問5：4.3 2022年度：質問3：4.5、質問4：4.6、質問5：4.5 2023年度：質問3：4.5、質問4：4.5、質問5：4.5</p> <p>昨年度に引き続き、ほぼ良好と判断する。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>2021年度：質問6：4.3、質問7：4.4、質問8：4.2、質問9：4.3 2022年度：質問6：4.6、質問7：4.6、質問8：4.4、質問9：4.5 2023年度：質問6：4.5、質問7：4.5、質問8：4.4、質問9：4.4</p> <p>昨年より1ポイント程下降した。次年度はこれらの項目の評価が上昇するようALを工夫したい。また、受講生よりまとめのプリントに十分なメモ欄を設けることを望んでいるが、まとめプリントがあまりに枚数が増えるのもおかしいので、学生自身がノートを作成することを促したい。また、受講生がプリントに頼りすぎると教科書やその他の専門書を軽視することが懸念されるので注意したい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>昨今の社会的情勢（コロナ禍）を講義に反映させることを重視した。よって、シラバス通りに授業が進まず、講義できなかった項目も生じてしまった。この点は改善すべきことであろう。 次年度は、ALをもっと工夫してより多くの学生が興味を持てる分かり易い授業に取り組みたい。 この学年も昨年と同様、「出席カード」や「アンケートの自由記述欄」への書き込み（質問や感想など）が殆どなく、授業中においても積極性が全く感じられず、手応えがないことはとても残念である。</p>

項目見出し	コメント
	<p>本科目の「S」及び「A」評価の成績優秀者の割合が極めて少ない。学年全体としての総合理解度が低いものと考えられる。従って、ストレート卒業率や国家試験合格率が悪化することのないように、今後の学修支援には全教員が一層努力する必要がある。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 火2

科目名 生物有機化学

教員名 佐々木 茂貴

回答者数/履修者数 80/110

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>満足度は回答者80名中73名が4以上となっているが、理解度のQ12では10名が3点以下の評価となっている。次年度はより多くの演習問題を加えるなどして、さらに理解度を高める工夫を行う。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>学生の感想にあるように、資料を多色刷りとし、説明文を多用した。また講義の中では、立体動画を提示するなどして、分子構造の理解を促した。これらの工夫が効果的だったと感じている。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>Q5の評価が相対的に低かった。内容を伝えるだけでなく、学生が関心を持つような具体的な例を示すなどして、講義中の学生の興味を高める工夫が必要と感じた。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>Q6-11については概ね良好な評価だったが、80名中3～6名は3点以下の評価だった。来年度は、理解が難しいと感じる学生にも気を配った授業を心がけたい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>授業の資料や進め方に関しては、おおむね良好な受け止められたので、今後も同様の方針を継続する。一方、学生の理解度の項目がやや低い評価だったので、来年度はより理解度が高まる工夫、例えば演習問題を増やすなどの対策を行いたい。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 月3

科目名 地球環境論

教員名 佐藤 博

回答者数/履修者数 97/182

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>質問 Q13の評価は、 4.3 (2018) →4.1 (2019) →4.4(2020) →4.4(2021) →4.4(2022) →4.4(2023、今回) と高値を維持した。学生の興味ある話題につなげられる講義をできるよう努めたい。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>毎回、講義後に小テストを行った(計14回)。簡単な内容であるので回答しやすかったと思う。講義プリントには、文字のみにならないよう、絵や写真を必ず用いるようにして、興味を持たせて理解しやすいように工夫をした。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>Q3: 4.1 (2018) →4.2 (2019) →4.3 (2020) →4.4 (2021) →4.2 (2022) →4.1 (2023、今回)</p> <p>Q4: 4.2 (2018) →4.1 (2019) →4.3 (2020)→4.4 (2021)→4.4 (2022) →4.2 (2023、今回)</p> <p>Q5: 4.1 (2018) →4.1 (2019) →4.3 (2020)→4.3 (2021) →4.3 (2022) →4.1 (2023、今回) と4以上を維持できた。毎回、学生の目を見てはなすようにしており、学生の状況を把握することに努めている。また、興味ある話題を提供できるようにアンテナを張っている。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>Q6: 4.2 (2018) → 4.1 (2019) →4.3(2020) →4.3(2021) →4.2(2022) →4.1 (2023、今回)</p> <p>Q7: 4.3 (2018) → 4.2 (2019) →4.5(2020) →4.5(2021) →4.4(2022) →4.4(2023、今回)</p> <p>Q8: 4.3 (2018) → 4.2 (2019) →4.3(2020) →4.3(2021) →4.5(2022) →4.3(2023、今回)</p> <p>Q9: 4.1 (2018) →4.1 (2019) →4.3(2020) →4.5(2021) →4.3(2022) →4.3(2023、今回)</p> <p>Q10: 4.2 (2018) →4.0 (2019) →4.4(2020) →4.4(2021) →4.2(2022) →4.2(2023、今回)</p> <p>Q11: 4.2 (2018) → 4.0 (2019) →4.3(2020) →4.3(2021)→4.3(2022)→4.1(2023、今回) とすべてよかった。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を</p>	<p>小テストの解答や講義資料を講義後に見やすいようにコンテンツにま</p>

項目見出し	コメント
受けての授業担当者の所感	<p>とめてUPしたのは好評であり、是非、今後も継続していきたい。重要な箇所にはあらかじめマーカーで印をつけていたがこれも好評であった。</p> <p>学生に話しかけたりして授業をあきさせないようにしてくれたとの感想もあり、いかに学生に話しかけての双方向の授業が大切か認識できた。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 火5

科目名 化粧品学

教員名 佐藤 博

回答者数/履修者数 75/96

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>Q13:4.1→4.1→4.4→4.2→3.9→4.1 (2020) →5.0 (2021) →4.6 (2022) →4.8 (2023今回) と高い値を維持できた。 選択科目であるが、講義履修者は96名と多かった。実践的な内容と多方面からの外部講師を招いたので評価が高かった。 「化粧品学」は、雑学的要素が強いために、新聞記事を用いたりした。 また、クイズ形式の質問をしたり、「化粧品学」に関するDVDを視聴させた。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>小問題を毎回作成して、講義の終了前に学生に回答をさせることにより、理解させるようにした 実験室にて、テスト前であるので希望者にのみ各自の香水を作成させたのは、大変好評であった。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>Q3 : 3.9→4.1→4.3→4.1→3.8→4.0 (2020) →5.0 (2021) →4.5 (2022) →4.7 (2023、今回) Q4 : 4.0→4.2→4.3→4.2→4.0→4.2 (2020) →5.0 (2021) →4.6 (2022) →4.7 (2023、今回) Q5 : 4.1→4.3→4.4→4.2→4.0→4.3 (2020) →5.0 (2021)→4.7 (2022)→4.8 (2023、今回) と高い値を維持できた。 講義は、興味もてる内容であったようである。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>Q6 : 4.0→4.2→4.3→4.2→3.9→4.2 (2020) →5.0 (2021) →4.5 (2022) →4.7 (2023、今回) Q7 : 4.2→4.3→4.4→4.2→4.1→4.3 (2020) →5.0 (2021) →4.6 (2022) →4.7 (2023、今回) Q8 : 4.1→4.2→4.5→4.1→4.0→4.2 (2020) →5.0 (2021) →4.6 (2022) →4.7 (2023、今回) Q9 : 4.2→4.4→4.2→3.9→4.3 (2020) →5.0 (2021) →4.5 (2022) →4.8 (2023、今回) Q10: 4.1→4.2→4.3→4.2→3.8→4.3 (2020) →5.0 (2021) →4.4 (2022) →4.6 (2023、今回) Q11: 4.1→4.2→4.4→4.1→3.9→4.0 (2020) →5.0 (2021)→4.3 (2022) →4.7 (2023、今回) であった。 常に学生が何に興味を持つのを意識して講義を組み立てるようにしている。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>香水の作成やメイク講座をやることができ大変評判がよかったようである。 普段利用する化粧品も勉強と認識しとても楽しい講義だったとの意見があり、化粧品に興味を持たせることができたと思う。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 金2

科目名 毒性学
 教員名 佐藤 博
 回答者数/履修者数 22/107

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>質問Q13の評価は、 4.0 (2015) →4.3 (2017) →4.4 (2018) →4.2 (2019) →4.5 (2021) →4.4 (2022) →4.7 (2023) で合格点と考えている。興味ある話ができるかにかかっているので、社会とのかかわりで話ができるように新聞、ニュース等から情報を得よう心がける。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>毎回、講義の後に小テストを行った。新聞記事を多用して、学生にあてながら質問をした。解答した正解に係らずにほめることにしており、学生の学習意欲を掻き立てることに気をつけている。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>Q3 : 3.9→4.2 (2017) →4.4 (2018) →4.1 (2019) →4.3 (2021) →4.4 (2022) →4.6 (2023) Q4 : 3.9→4.2 (2017) →4.5 (2018) →4.1 (2019) →4.5 (2021) →4.6 (2022) →4.6 (2023) Q5 : 4.0→4.2 (2017) →4.4 (2018) →4.1 (2019) →4.3 (2021) →4.5 (2022) →4.7 (2023) と、更に高い値が得られた。次回も維持できるようにしたい。学生の目を見て話すことをこころがける。さらに、興味を持てる話をする。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>Q6 : 3.8→4.2 (2017) →4.4 (2018) →4.2 (2019) →4.3 (2021) →4.4 (2022) →4.6 (2023) Q7 : 4.1→4.3 (2017) →4.5 (2018) →4.3 (2019) →4.7 (2021) →4.5 (2022) →4.7 (2023) Q8 : 4.0→4.3 (2017) →4.5 (2018) →4.2 (2019) →4.5 (2021) →4.6 (2022) →4.5 (2023) Q9 : 3.9→4.3 (2017) →4.5 (2018) →4.2 (2019) →4.4 (2021) →4.5 (2022) →4.6 (2023) Q10 : 3.8→4.2 (2017) →4.4 (2018) →4.2 (2019) →4.4 (2021) →4.3 (2022) →4.5 (2023) Q11 : 3.9→4.2 (2017) →4.5 (2018) →4.2 (2019) →4.4 (2021) →4.4 (2022) →4.6 (2023) と高い値を維持できた。マイクを有効に活用する。私語を積極的に注意する。適切な板書を心がける。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>教科書を教壇で映像にして説明するのは、好評のために継続している。早口になりやすいので、滑舌をよくして聞き取りやすいようにゆっくりと話をするように気をつけている。演習プリントの評判はいいので、今後も続けていきたい。配布プリントは、見やすく、文字を大きく、絵を多用したものを使う</p>

アクションプランシート

2023年度後期 火3

科目名 放射線化学

教員名 高井 伸彦

回答者数/履修者数 102/112

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>留学生を含む112名の評価として、4.8の評価があり昨年度と同様に高い評価を得ている。また満足度については、全体の98.1%(評価5と4の合計)が満足と評価されており、この評価が継続できるようにしたいと考えています。</p> <p>2018年度からこの講義を他教員より受け継いだが、学生が満足し理解につながる講義が実施できていると考えられる。2018年度、2019年度よりも満足度および理解度も増加している。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・放射線を怖がりすぎないように原理を説明してくださるので、とても興味が持てました。 ・具体的なお話など、放射線に興味を持つような授業展開で、とても為になりました。分かりやすかったです。 ・復習用ビデオやCAI問題によって復習する回数が多くなり他の科目より理解の定着率が大幅に上昇した。 <p>上記の学生のコメントにもあるように、学んだことが実際に役に立つ事例や、実際の国家試験問題を解ける自信を与えてあげることが、勉強意欲の向上につながっていると実感している。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>Q3-Q5のいずれも4.8-4.9であり、シラバスに則した講義編成を行っている。この評価は昨年度と同様であり、この評価が継続されるように努力したいと考えています。</p> <p>講義の内容について、99%の学生が良いと評価しております。</p> <p>2018年から徐々にその評価は高まっている。Q3-5は全ての項目で、全体平均より上回っており、良い講義ができていると考えられる。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>Q6-Q11のいずれも4.7-4.9であり、かつ評価5とする割合が評価4よりも約3倍多く存在するため、授業方法はこの方法を継続すべきと考えています。またこの高い評価は昨年度と同じである。</p> <p>講義の方法について、99%の学生が良いと評価しており、いずれのQにおいてもオンラインの方法を含め全体平均より高く評価されていた。推移においても2018-2019と比較しても良い評価がなされており、講義方法としてある程度理想形に近づいていると考えている。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・講義を受ける前まで放射線に対しては危険な存在と思い込んでいました。癌治療に使用されていると聞いた事がありましたが正直「本当なのか」と疑っていました。講義で放射線について詳しく学び、危険な存在という考えが無くなりました。 ・講義を通して、放射線がどのような構造を持ち、どのようにして発生するかなどを知った。以前は少し危険な印象が強かったが、今は適切に扱えば人の役に立つものという印象になった。 <p>上記の学生コメントは、正しい講義が行えているという実感と共に、まだまだ教えてあげなければならないことが多くあるということを感じる。</p> <p>高校までの情報を覚えるという過程から、情報が正しいのかを自分で</p>

項目見出し	コメント
	判断させることができる大学としての本来の学術的な講義を目指したいと考えている。

アクションプランシート

2023年度後期 金1

科目名 公衆衛生学 II

教員名 長岡 寛明

回答者数/履修者数 80/98

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>授業満足度は4.5であり、昨年より0.3の上昇がみられたが、概ね満足できる結果であると考え。内容はほぼ昨年と同じであるが、本講義は、薬剤師でありかつ日本で生活する人として知っておくべき内容をと、より専門性の高い内容である。学生にとっては身近な事項であり、テレビ・新聞等のニュースをみたり、聞いたりすることによりより深く理解できる内容と思う。本年の国家試験にも時事問題的な問題が出題されており、日々、新しい事項や統計が公表されている現状から、新しい内容を講義しつつ、学生の興味を引く内容に更新していきたい。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>パワーポイントの使用、学期はじめにプリントの配布、重要語句の赤字表示などにより、私語の減少はみられた。また、YouTubeへの講義内容のアップロードやフォーリオを用いて、知識の確認のための小テスト等を行ったことで学力向上につながったものと思われる。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>授業内容に関しては、4.3~4.6の評価であった。内容がかなり専門性の高い内容であるが、薬学部2年生であるので、理解してほしい内容である。興味に関しては、CBTだけをにらんでの講義ではなく、その後の国家試験や卒業後に必要な基礎知識の内容を行っている。また、この分野の大半は新聞を読む、ニュースを見る(聴く)などの社会常識の範囲でかなりの部分をカバーできるものである。なので、今後も最新的话题を盛り込んだ授業をし、学生の興味を引く授業を行いたい。さらなる自己点検を実施し、よりよい講義を目指したい。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>授業方法に関しては、4.4~4.6の評価であり、概ね満足できる結果であると考え。学生の授業参加を促す工夫をしたいと考えている。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>本年も、ポートフォーリオを活用した小テスト実施とともに質問・コメントを受け付けたところ、多数の質問やコメントが寄せられていた。個々の質問・コメントに完璧な回答ができたとは思えないが、それなりに努力して、真摯に回答したので、学生にもある程度満足してもらえたのではないかなと思う。自由記述欄に提出された意見に関しては、反省すべき点は反省していきたいと思う。講義に当たり、より充実した資料を作成し、更によりよい講義にしていきたいと思う。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 火4

科目名 薬理学Ⅱ（末梢-1・前臨床）

教員名 西奥 剛

回答者数／履修者数 79／121

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>概ね高評価である。引き続きこのまま継続する。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>評価を中間試験50%と定期試験50%にし、中間試験で出題した範囲は定期試験では除外して点。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>概ね高評価である。引き続きこのまま継続する。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>概ね高評価である。引き続きこのまま継続する。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>概ね高評価である。引き続きこのまま継続する。 問題点として、中間試験を講義中に行うと今年度は薬理学Ⅱの講義時間が4限目であり、学生が午前中の講義を故意的に欠席、また他の講義中に薬理学Ⅱの試験勉強を行っていた学生がいたとの他の教員から苦情を頂いた。 よって、来年度からは講義時間外の土曜日に中間試験を行うこととする。 今年度は、中間試験の出来が良くなかったため、中間試験の再試験を行ったが、12月中はまだ他の科目の試験があり、1月の共通テストとの関係から1月上旬に行った。 受けられなかった学生がいたかもしれないが、他の日程で中間試験の再</p>

項目見出し	コメント
	試験をすること行うことは困難であった。

アクションプランシート

2023年度後期 月3

科目名 医療統計学

教員名 早川 正信

回答者数/履修者数 61/107

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>多くの学生が授業に満足できているようでよかった。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>なるべく、実務に活用できるように講義を組み立てた。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>多くの学生が授業に満足できているようでよかった。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>遅刻や私語の対策について検討する。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>学生が興味を持てるように薬剤師としての実務に活用できるように講義を検討した。さらに充実するように考えたいと思います。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 土3

科目名 機能形態・生化学演習

教員名 深澤 昌史

回答者数/履修者数 63/109

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>当該科目の授業アンケートの実施は3年目となる。15コマのうち担当は3コマのみであるため、データとしては弱い。参考のため実施している。満足度は例年ほぼ全体平均並みであるが、今年は昨年と比べて0.1ポイント低下した。方法としては特に変えていないので、理解度の低さが反映されているものと思われる。満足度向上のためには理解度の向上が不可欠であるため、基本的な内容を繰り返して理解度を上げる方向性が望ましいと分析した。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>重要なのはシラバスに沿って授業を進めること、そのために具体的な予習や復習内容を伝えることである。穴埋めのプリントを事前にポートフォリオで配信し、適切な予習方法に導くように努めたが、それ以上に復習用講義動画の配信が最も効果的な方法であったことは、自由記述からも伺える。また、毎時間ポートフォリオに質問受け付けの場を設定したことも、微力ではあるが貢献したと考える。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>授業内容に対する興味が目標よりもやや低いように感じる。基礎的な内容の復習が中心となると、どうしても興味を持たせる内容に乏しくなるため、何らかのトピックなどを織込みたいが、コマ数の少なさや演習科目である事を考えると、これまでの路線をあまり変える事は出来ないかもしれない。しかしながら最新の遺伝子関連の知見などと結びつけられるような内容も少しは触れるようにしたいと考えている。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>方法論的には全ての項目で全体平均とほぼ同じであり、特別に大きく変える必要はないと思われる。ただし教室が大教室であり、学生が後部座席にかたまっているため、私語に対する対応がやや難しいと感じ、これに関しては後部座席を閉鎖するなど、何らかの改善が必要ではないかと感じている。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>入学時の学力が低下し、1年次の生化学Ⅰや2年前期の生化学Ⅲでの成績不振が目立つようになってきた。本演習では、生化学Ⅲの遺伝子領域の復習が主な内容であるが、前期で習ったばかりの項目を既に忘れていく学生が多いと感じる。復習のための動画配信は好評であるが、本来復習を最も必要とする成績下位集団があまり動画を活用していないのではないかという疑念は拭えず、動画を視聴することによって何らかのベネフィットが得られるような工夫をしてみるのも一つのアイデアとして今後試してみたい。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 金1

科目名 医薬品情報論

教員名 室 高広

回答者数/履修者数 91/115

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>昨年度より回答率が上昇してるにもかかわらず4.6と非常に高い満足度だった。次年度も一層満足度の高い授業を行うよう努める。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>講義中に説明しているそれぞれの内容に関して、臨床での重要性・この知識がどのように利用されるのかを説明し、それゆえ、CBTや国試でどの程度取り扱われているのかなど、試験対策情報も添えるようにしてる。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>Q3-5は平均4.5で昨年より0.1点減少したが、回答率が38%から79%と上昇したことも要因と考える。引き続き、臨床での重要性などの情報をわかりやすく伝えるよう心がける。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>Q6-Q11は平均4.6であり昨年と同じだった。引き続き、臨床での重要性などの情報をわかりやすく伝えるよう心がける。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>昨年に比べ回答率が倍増したにもかかわらず、評価は同じように高い値だった。特に今年は留学生からの評価が高かった。できるだけ早口にならぬよう留学生にもわかりやすく講義をすることを心がけたい。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 月2

科目名 薬物治療学 I

教員名 山口 拓

回答者数/履修者数 90/132

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>本年度・本講義の理解度は4.0、満足度は4.0であった。昨年度からそれぞれ0.2ポイントの微減したが、本アンケート結果を踏まえて、講義方法、パワーポイントおよび配布プリントの作成方法など、さらなる向上に努めたいと思う。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>例年のように、可能な限りイラストや図表を多く取り入れたパワーポイントおよび配布プリントを作成し、飽きのこない教材作製に注力したつもりである。可能な限り情報収集した講義内容に関連する最新の新薬情報を積極的に紹介した。また、単元終了後に内容確認のための問題を提示し、Manabaシステムを活用した解答情報の提供を行うことにより事後（自宅）学習への動機付けを促した。さらに講義内容に関する補助資料（疾患ガイドラインや重要薬・新薬の添付文書など）についてManabaシステムを活用して提供し、薬物療法の理解を深めるとともに講義時間の効率化を図った。これらの方策は、事後（自宅）学習および講義内容の反復学習にも繋がっていること、また可能な限り次回の講義に使用する講義プリントを事前に配布し、講義前にそのプリントを読んでおくことや既に学習(履修)履修済みの関連項目・分野の事前学習（予習）を促したことから、学習理解の向上や記憶固定の動機付け、受講態度・学習意欲等の向上に貢献していたと考える。今年度も成績評価の10%に相当する課題として10回の小テストを実施した。この小テストは、定期試験の結果から本講義の予習復習に貢献していると考えられる。さらに、全ての講義について録画した講義動画を見逃し配信として学生に提供し、復習としての事後（自宅）学習および講義内容の反復学習に寄与できたと考えている。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>質問3：4.0、質問4：4.1、質問5：4.2であり、昨年度と比較していずれも微減しているが、大きな変化はなく、さらなる向上に努め、昨年同様にクオリティの高い教材作りを心がけたいと思う。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>質問6：4.0、質問7：4.2、質問8：4.1、質問9：4.1、質問10：4.2、質問11：4.2であり、昨年度と比較して微増減しているが、大きな変化はなく、さらなる向上に努めたいと思う。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>本年度・本講義の理解度および満足度は、昨年度からそれぞれ微減していたが、大きな変化はないと捉えており、さらなる向上に努めたい</p>

項目見出し	コメント
	<p>と思う。</p> <p>一方で、毎年課題であるが、本講義に関わる学生に伝えなければならない情報量（新薬情報や診断・治療ガイドライン改訂に伴う新規の薬物療法など）が年々肥大化していることに苦慮している部分がある。学生に今後の実務実習に必要な情報を身につけさせること、将来の薬剤師国家試験受験を見据えて見落としが無きよう新規情報を含めた本講義内容について伝えねばならないことを考慮すると、年々増加する一方の講義内容を取捨選択することは非常に困難で、講義時間も切迫している実状がある（講義時間が足りない）。これが一部の学生における不満要因となって理解度や満足度にも若干反映されていると思われる。本件はカリキュラムの改訂を含めて対応する必要がある喫緊の課題であると考えている。</p> <p>講義内容については次年度もさらに最新の情報（新薬情報や新しい薬物治療ガイドラインなど）に更新し、これを取り込むことを念頭に、さらなる向上に努めたいと思う。動画の活用（対面講義が可能であれば）と次回の講義プリント配布および「診断・治療ガイドライン」の提供が学生の学習理解の向上に貢献していることから、今後も積極的に講義に取り入れたいと考える。また、全ての講義について録画した講義動画を見逃し配信として学生に提供して、復習としての事後学習および講義内容の反復学習に寄与できたと考えられるので、次年度以降も見逃し配信の情報提供スタイルは継続したい。少なくとも、このようなアンケートによって学生の要望を把握して真摯に受け止め、取り込み可能な講義内容に関する案件は次年度の講義に活かしたいと思う。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 水1

科目名 薬物治療学Ⅲ

教員名 山口 拓

回答者数/履修者数 54/104

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>本年度・本講義の理解度は4.3、満足度は4.6で、昨年度からそれぞれポイント増であった。全ての講義について講義終了後に録画した講義動画を見逃し配信として学生に提供したことは、ポイント上昇に奏効したと考えている。本アンケート結果を踏まえて、講義方法、パワーポイントおよび配布プリントの作成方法など、さらなる向上に努めたいと思う。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>従来実施している薬物治療学ⅠやⅡのように、可能な限りイラストや図表を多く取り入れたパワーポイントおよび配布プリントを作成し、飽きのこない教材作製に注力したつもりである。また、本講義は教科書の各単元（疾患別）の内容に沿って実施した。可能な限り情報収集した講義内容に関連する最新の新薬情報を積極的に紹介した。また、単元終了後に内容確認のために教科書単元（疾患別）の章末にある確認問題（症例問題）を自学自習のために実施するよう伝達し、事後（自宅）学習への動機付けを促した。さらに講義内容に関する補助資料（疾患ガイドラインや重要薬・新薬の添付文書など）をManabaシステムを活用して提供し、薬物療法の理解を深めるとともに講義時間の効率化を図った。これらの方策は、事後（自宅）学習および講義内容の反復学習にも繋がっていること、また可能な限り次回の講義に使用する講義プリントを事前に配布し、講義前にそのプリントを読んでおくことや既に学習（履修）履修済みの関連項目・分野の事前学習（予習）を促したことから、学習理解の向上や記憶固定の動機付け、受講態度・学習意欲等の向上に貢献していたと考える。また、今年度も成績評価の10%に相当する課題として5回の小テストを実施した。この小テストは、定期試験の結果から本講義の予習復習に貢献していると考えられる。さらに、全ての講義について録画した講義動画を見逃し配信として学生に提供して、復習としての事後（自宅）学習および講義内容の反復学習にも寄与できたと考えている。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>質問3：4.6、質問4：4.7、質問5：4.6であり、昨年度と比較して微増しているが、さらなる向上に努め、昨年同様にクオリティの高い教材作りを心がけたいと思う。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>質問6：4.6、質問7：4.8、質問8：4.5、質問9：4.6、質問10：4.5、質問11：4.4であった。各項目が昨年度と比較して増加しているが、さらなる向上に努めたいと思う。</p>

項目見出し	コメント
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	<p>本講義は小川由起子教授とのオムニバスとなっている。これまで薬物治療学ⅠやⅡにて実施していない感染症および悪性腫瘍領域（小川担当）や神経精神疾患領域（山口担当）が講義内容であり、体系的に講義内容を構築している。本年度・本講義の理解度および満足度は、昨年度からそれぞれ増加しており、さらなる向上に努めたいと思う。</p> <p>一方で、毎年の課題であるが、本講義に関わる学生に伝えなければならない情報量（新薬情報や診断・治療ガイドライン改訂に伴う新規の薬物療法など）が年々肥大化していることに苦慮している部分がある。学生に今後の実務実習に必要な情報を身につけさせること、将来の薬剤師国家試験受験を見据えて見落としが無きよう新規情報を含めた本講義内容について伝えねばならないことを考慮すると、年々増加する一方の講義内容を取捨選択することは非常に困難で、講義時間も切迫している実状がある（講義時間が足りない）。本件はカリキュラムの改訂を含めて対応する必要がある喫緊の課題であると考えている。</p> <p>講義内容については次年度もさらに最新の情報（新薬情報や新しい薬物治療ガイドラインなど）に更新し、これを取り込むことを念頭に、さらなる向上に努めたいと思う。動画の活用（対面講義が可能であれば）と次回の講義プリント配布および診断・治療ガイドライン」の提供が学生の学習理解の向上に貢献していることから、今後も積極的に講義に取り入れたいと考える。また、全ての講義について録画した講義動画を見逃し配信として学生に提供して、復習としての事後学習および講義内容の反復学習に寄与できたと考えられるので、次年度以降も見逃し配信の情報提供スタイルは継続したい。少なくとも、このようなアンケートによって学生の要望を把握して真摯に受け止め、取り込み可能な講義内容に関する案件は次年度の講義に活かしたいと思う。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 月1

科目名 有機薬化学 I

教員名 山口 泰史

回答者数/履修者数 98/109

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>満足度は4.5であり、例年の値から変化はない。アンケートの点だけを見ると、問題ないように思うが、定期試験の成績とアンケートの評点に乖離がある。</p> <p>薬学部に課せられたSBOを考慮すると、有機化学の内容・範囲と授業のスピードをこれ以上遅くすることはできない。1年次を終わった段階で、5割以上の学生がA以上の成績である。基礎を理解している学生は、応用分野にも対応できるようになっている。しかし、一方で、同じ授業に参加しながら、有機化学の基礎を全く理解していない学生もいる。ほとんど毎年、満足度4.3-4.5程度で変化がないのは、学生の二極化のため、と考えられる。有機化学の内容を度外視して満足度を上げるだけなら、面白おかしく授業を行えばよいが、それでは、薬剤師を育てることができない。</p> <p>他の科目と協同して、学生の勉強に向かう態度と基礎力向上を目指したい。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前後期に合計25コマの補習授業を行った。始めは勉強が遅れている学生に限っていたが、後期からは希望者すべてに開放した。毎回の参加者は50-60人で、グループ学習である程度の成果が見られた。 ・授業のはじめに、前回の重要点と今日のKeywordを示し、終わりに再確認した。 ・学生がぼんやり眺めるパワーポイントをいっさい使用せず、学生の理解を確かめながら（低学年の学生に有効と判明している）板書のみで授業を行った。 ・この授業では、薬学の基本である構造式を理解させる必要があるため、板書で授業を行っている。 ・90分授業の途中で、1-2分の休憩を挟んだ。（授業後半に対する集中力が増した） ・できる限り、問題集や章末問題を用いる演習の時間をとって、理解を促した。 ・MIT化学科で推奨されている勉強方法を昨年に引き続き推奨した。 ・有機化学に対するMotivationを考慮し、医薬品との関連事例を各章で示した。 ・科学史上重要な発見が行われた欧米の有名大学の話をした。
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 教養セミナー Q2~Q3</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目は基礎科目であり、コアカリキュラムから、内容を変更することはできない。 ・基礎の理解が得られるまで、根気よく授業を行う。 ・4.5-4.6であった。
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 教養セミナー Q4~Q7</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・4.5-4.7でポジティブであった。

項目見出し	コメント
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	<p>この科目を含め有機化学系の科目を3科目担当した。1年次を終わった段階で、有機化学の理解度に大きなばらつきがある。日々努力し、基礎を理解している学生は、応用分野にも対応できるようになっている。定期試験の成績も素晴らしい。約半数の学生がA以上の成績である。しかし、特にB以下の成績で合格はしている学生でも、有機化学の約束事を自分のものに出来ていない。基礎の理解が乏しい学生は、既に1年後期の段階で、焼き付け刀で、努力しても、みんなに追い付くことができないくらいの差がある。ここ2年間は、学生の二極化がさらに進んだ印象をもつ。特に深刻なのは、授業にまじめに出席し、(前後期それぞれ12回の)補習授業に参加しているにもかかわらず、理解できていない学生がいることである。おそらく、人の話を聞いて理解できない、また、文章を読んでも具体的に内容を理解できなとしか思えない。薬学教育はコアカリで内容が縛られ、100名以上の学生がいる現状では、授業進度を遅くすることは不可能である。また個別に勉強を見るわけにもいかない。学生の授業アンケートの結果から、この問題への解決策は見つからない。毎回の授業後、復習を行った学生が、A以上の成績をとっていることから、学生の勉学に対する姿勢や態度こそが、重要であることがわかる。したがって、学生に対して、地道に勉強特に復習の大切さを説くことが重要であろう。またこの問題については、薬学部全体で取り組むべきである。大部分の学生が、一人でも多くの学生を薬剤師になれるよう大切に育てるために。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 月1

科目名 医薬品化学 II

教員名 淀 光昭

回答者数/履修者数 80/93

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>満足度の評価の推移は、H26年度3.9、H27年度3.7、H28年度4.1、H29年度4.1、H30年度4.1、R01年度4.2、R02年度4.3、R03年度4.3、R04年度4.4、R05年度4.5であり、前年度の4.4より有意に向上した。R04年度から配布資料の印刷様式をA4紙1面にスライド2枚を配置するように変更し、文字と図表を大きく見やすくしている。R05年度は、授業内容に関連する国試過去問を紹介したことが、満足度向上につながったと考える。次年度もこの取り組みを継続する。満足度の評価の推移は、H26年度3.9、H27年度3.7、H28年度4.1、H29年度4.1、H30年度4.1、R01年度4.2、R02年度4.3、R03年度4.3、R04年度4.4、R05年度4.5であり、前年度の4.4より有意に向上した。R04年度から配布資料の印刷様式をA4紙1面にスライド2枚を配置するように変更し、文字と図表を大きく見やすくしている。R05年度は、授業内容に関連する国試過去問を紹介したことが、満足度向上につながったと考える。次年度もこの取り組みを継続する。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>Q1&Q2の評価平均の推移は、H26年度3.60、H27年度3.45、H28年度3.55、H29年度3.85、H30年度3.85、R01年度3.75、R02年度3.85、R03年度4.00、R04年度3.75、R05年度3.90であり、前年度より向上した。R02年度より、授業を前半と後半に分け、それぞれの最後に授業内容のポイントを確認する5分程度の小テスト (manaba) を実施し、授業終了後に小テストの内容を含む確認問題とその解答・解説をmanabaにアップしている。R05年度は、確認問題とその解答・解説のmanabaアップを授業終了後30分以内に行うようにしたことが評価平均の向上につながったと考える。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>Q3~Q5の評価結果の平均は、H26年度 3.87、H27年度 3.73、H28年度 4.07、H29年度 4.13、H30年度 4.10、R01年度 4.20、R02年度 4.23、R03年度 4.33、R04年度 4.47、R05年度 4.47であり、今年度は前年度と同評価であった。配布資料には、理解を助けるよう出来るだけ図を入れ、ポイントをまとめることを心掛けた。また、授業内容に関連する国試過去問を授業中に紹介し、確認問題にも取り入れた。次年度はより多くの国試過去問を取り入れることを検討する。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>Q6~Q11の評価結果の平均は、H26年度 4.00、H27年度 3.68、H28年度 4.20、H29年度 4.17、H30年度 4.13、R01年度 4.22、R02年度 4.35、R03年度 4.38、R04年度 4.50、R05年度 4.53 であり、今年度は過去最高の評価であった。R02年度から実施している、授業の途中と最後に小テストを実施して授業内で復習する機会を与える取り組みは有効と考えており、次年度も実施する予定。また、意識してゆっくり滑舌よく話をするように心掛けたことも評価向上に寄与したと思われる。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>Q1~Q13の平均評価はR04年度4.34からR05年度4.40と全体的に評価ポイントは向上した。昨年度と同様、各授業の前半・後半の最後にmanaba小テストを実施して、授業内容のポイントをすぐに復習できるようにした。今年度は、授業内容に関連する国試過去問を多く取り入れ、学んだ事項が国試でどのように出題されるかを意識させたことが評価向上に寄与したと考える。次年度は評価ポイントを維持、更に向上できるよう、授業内容を見直すとともに授業方法を工夫したい。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 火2

科目名 医療生命倫理

教員名 太田 一寿

回答者数/履修者数 93/103

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>例年と同じく、4.8と高い評価をいただいた。これを継続していきたい。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>通常講義、動画視聴、ICTを用いたコメントディスカッション、と複数の形式を組み合わせることで受講生を飽きさせなかったことが今回の高評価につながったと考察している。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>全項目、4.8と高い評価をいただいている。これもおおむね例年通りである。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>4.7 or 4.8と高い評価をいただいた。これも例年通りである。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>特にありません</p>

アクションプランシート

2023年度後期 火1

科目名 製剤学
 教員名 神谷 誠太郎
 回答者数/履修者数 107/112

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>今回満足度は4.5と過去最高の結果を得ることができた。これまで最高が4.3であり、4.3もほとんど獲得したことはなく、4.2か4.1のあたりを示していた。今回も教育する内容を大きくは変更していない。しかし過去のアンケートを調べ、コメント欄をもう一度読み返したところ、共通して、「どこの話をしているのかが分からない」とあった。そのため、授業の際は、パワーポイントで示す部分と配布プリントのページを一致させ、どのページについて説明しているかを逐一述べるようにした。また章の最後には国家試験の問題を載せて、それに対する解答解説を行っていた。これも毎年行っていたが、これも開設の際に、プリントのページを示し開かせて、解説を一問ごとに行ない、時間をかけて丁寧に説明をおこなった。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>今どのページのどの項目を説明しているかを丁寧に説明したことだと考えています。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>Q4およびQ5は4.6と高いポイントが得られた。Q3は再編集の必要があると考えている。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>Q11は毎年低評価の項目であるが、今回は4.5ポイントと高い評価を得ている。これを機会に再編成を行いたい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>今回は製剤学では過去最高点となった。評価を前向きにとりいれて、来年度の授業評価を向上させていきたい。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 木1

科目名 病院薬学
 教員名 神田 紘介
 回答者数/履修者数 93/107

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>満足度は4.6であり、昨年と変化はなかった。 自由記述においても、マイナスのコメントはほぼ見られず、満足度は高かったと思われる。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>例年、単位取得が容易という学生のイメージがあったためか、特に前半は欠席が目立った。 事前学習や実務実習を効果的に行うためには、しっかり理解をしておかなければいけない科目であることを繰り返し伝え、また、期末試験に選択式に加え、記述問題を取り入れるなど工夫を行うことで、受講態度や学習意欲の向上につながったと思われる。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>評価は4.5と悪くはないと思われる。 改善策を挙げるとすると、双方向性が足りないと感じている。 何らかの方法で学生参加型の講義に変えてみたいと思っている。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>評価は4.5-4.6と悪くはないと思われる。 欠席者が多い回があったため、それをどうにかした方がよいのではないかと記載した学生がいた。 本年度も一部実施したのものもあるが、来年度は、授業中に出席確認も兼ねた小テストを実施、定期テストは従来選択式のみであったものを、記述形式の問題も加える、過去問の回収など対策を行い、経過を見たいと思っている。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>赴任後3年目を迎え、講義に大分慣れてきた。 前年度と比べ、話し方や構成なども工夫をしたつもりだが、悪くはないものの評価は前年と同様であった。 更なる評価の向上のためには、学生参加型、双方向型の授業が必要と思われる。 限られた時間内でどれだけできるかわからないが、来年度は取り入れることを計画する。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 火2

科目名 医療生命倫理

教員名 田中 宏光

回答者数/履修者数 81/103

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>学生時代、私は水俣病を中心に、公害問題や医療の問題にボランティアとして取り組んできた。時代は変化した但现在でも同じような問題が起こっている。これらの問題に直接関り、責任のある薬剤師としての立場を自覚してほしいと考え授業を進めている。今後うまく伝えることができるように、新しい資料を交えて取り組みたい。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>ニュース等で報道される医療の問題について、報道よりもさらに踏み込んだ、問題によってもたらされる患者さんの状況、および患者さんの強い生きる力を示す映像を探し出し、ビデオを用いて講義を進めた。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>初年度であり日本語の理解が難しいとは考えるので、医療問題をより深く理解できるように努めたい。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>初年度であり日本語の理解が難しいとは考えるので、医療問題をより深く理解できるように努めたい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>医療従事者という専門の情報を得る職業に就くことへの責任を感じ、患者の立場を理解し行動できる強い心を持ってほしい。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 水1

科目名 分子細胞生化学演習

教員名 田中 宏光

回答者数/履修者数 35/79

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>予習をしてほしいところではあるが、予習をしていなくても自分の担当項目に関して理解が進むように心がけ資料の作成を行った。今後の専門科目に対応して、各受講生の弱点を見出し、復習士試験に臨んだものとする。留学生の評価が低かったため、日本語に気を付けて講義を進めたい。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>今後の専門講義では、個々の医薬品の作用機序について問われるが、それらの作用が分化した様々な細胞に直接もしくは間接的に影響することに関して理解を深めるために、図を用いて作用の理解を深めたつもりではあるが、複雑な相関関係の理解を深めるようにさらに図を用いて講義を進めたい。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>留学生の評価が低いことから、さらに講義の内容の的を絞って、ゆっくりと講義を進めるよう心掛ける。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>留学生の評価が低く、さらに邦人でも「話し方は明瞭でしたか」の項目で2を付けた学生が存在することから、個々の説明に気を付けてゆっくりとすすめるよう心掛ける。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>生物学で講義されるリガンドとレセプターの関係についての基本理解の復習になると考えている。それぞれの分子の動きを専門の講義で習うことになるが、その時までにはそれぞれの学生の理解が弱い部分の専門用語を整理してほしい。今後の専門分野で講義される、重要な既知の分子のふるまいの理解に役立ててほしい。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 金4

科目名 地域の理解と連携

教員名 田中 宏光

回答者数/履修者数 166/276

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>先進国では現在、不妊症患者さんの増加している。少子高齢化が進行し、晩婚化が一つの要因であるが、不妊症の分子メカニズムは不明である。</p> <p>私たちは不妊症の分子メカニズムの理解に関する研究を続け、不妊症に効果がある食品の開発に成功した。</p> <p>現在知られている不妊症の原因を、後に後悔がないように、大学生として持つべき知識を伝え、各人の人生設計に生かしてもらえるように心がけて講義を進めた。さらに、長崎国際大学発ベンチャーの起業について、その生い立ちを紹介した。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>志向の異なる学生を対象に講義に関する身近な問題から論点を拾い上げわかりやすく学生の知識の向上を目指した。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>広範な領域を含む講義であり、それぞれの受講生の志向によって興味ある分野とそれ以外で学生の知識レベルも異なり、受講態度も異なるものと考えられるが、それぞれの講義の中から各人の人生に役立つものがあれば幸いです。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>留学生も参加する中、2, 1の評価はなく、一定の理解が得られたものと考えます。さらに国際的に内容にも理解が進んでもらえるように、丁寧に講義を進めたい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>講義全体での調和を大切に内容を再考し、それぞれの演者の特徴が伝わるものとなれば幸いです。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 水2

科目名 衛生化学 I

教員名 出口 雄也

回答者数/履修者数 99/99

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>満足度は4.6であり、過去3年の4.3 (2020)、4.6 (2021)、4.7 (2022) の高い評価を維持できている。授業プリント1枚あたりのスライド数を2つにしてほしいという要望を受け対応して以降高い満足度を維持していたが、今年度は経費削減もあり1枚あたり4スライドの両面コピーと数年前の形式に戻した。そのため、満足度が低下するのではと思われたが、大きく低下することではなく、自由記述欄にも配布資料についてのコメントがなかったため、来年度以降も同様に行う予定である。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>Q1は3.7 (過去3年は3.5~3.8)、Q2は4.3 (過去3年は4.2~4.4) と大きな変化はみられていない。自由記述欄に小テストが難しかったとの回答があったが、復習をしっかりとしてほしいと思い、毎年小テストの内容を難化させている。授業プリントをみれば対応できる問題となっているが、「しない」と回答している学生が一定数いるのが現状で、Q1を向上させるのに苦慮している。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>Q3は4.7 (過去3年は4.3~4.7)、Q4は4.7 (過去3年は4.4~4.8)、Q5は4.7 (過去3年は4.3~4.7) と大きな変化はみられていない。授業の内容は大きく変更はしていないが、近年話題となったテーマを取り入れるなど、興味を持てる内容に更新は行っている。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>Q6は4.8 (過去3年は4.4~4.8)、Q7は4.7 (過去3年は4.4~4.7)、Q8は4.7 (過去3年は4.4~4.7)、Q9は4.7 (過去3年は4.4~4.7)、Q10は4.5 (過去3年は4.3~4.6)、Q11は4.7 (過去3年は4.4~4.7) と大きな変化はみられていない。学生の意見を紹介するなど、授業参加を促す方法は継続しており、自由記述欄からも好評であったことがうかがえる。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>今回は欠席の多い学生にも個人的に呼びかけてアンケートに回答するよう促した結果、初めて回答率100%を達成できた。その分、Q1 (準備学習)、Q2 (授業態度の自己評価) では点数が低い学生の割合が大きくなっているようにも感じている。来年度以降も回答率100%を目指して推移をみていきたい。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 火1

科目名 機能形態学Ⅱ

教員名 藤井 佑樹

回答者数/履修者数 91/107

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>機能形態学Ⅱの講義資料として、人体に関する模式図や写真を多く取り入れることで、その構造と仕組みの理解につなげた。その学んだ事柄が薬学的にどう大切かを話し、勉強の動機付けを行った。その結果、4.7点の評価を得ることができた。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>多くの科目の学習に取り組まなくてはならない学生の背景を理解し、「どのようにしたら中間試験や定期試験で得点に結びつくか？」ということを話した。具体的に過去に出題した中間試験、定期試験を紹介し、学生の学習意欲の向上につなげた。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>講義に興味あるものにするために、その分野がどう薬に関係しているか？進級後、どの科目と関連性があるか？について話すことを意識した。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>講義資料として穴空きの資料を用意し、講義を進めながら用語を埋めていく方式を取り、講義への集中力を促した。書き漏れがあることを考慮し、動画を録画し、動画配信も行った。本教員は1人でも多くの進級者、卒業者、薬剤師を創りだすことを切望していることをメッセージとして伝えた。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>機能形態学は2-3年で学ぶ薬理学や薬物動態学など国家試験に多く出題される科目の足掛かりとなる。この科目を少しでも好きになってもらえるように楽しくアットホームな雰囲気を作った講義を行い、機能形態学を好きになってもらいたい。好きこそもの上手なれにつなげていきたい。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 火その他

科目名 専門演習Ⅰ

教員名 藤木 司

回答者数/履修者数 95/111

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>講義に対する満足度が4.7と全体の平均レベルを上回ることができたが、目標としていた数値よりは低かった。自由コメントにもあるが講義におけるスピードや学生の理解度を見ながら進めていくなどの対策により丁寧な講義として受け止めてもらえる要素があったと感じた。今後の検討課題として次年度に向けてより一層の満足度が得られるように努力したい。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>講義中に双方向で学習の理解度を図るためにresponの導入、授業中アンケートを採りながら進めたがその点についてはある一定の評価を得たと感じる。講義内容に関わるトピックを織り交ぜながら展開するように意識した構成としたのも評価につながったと感じる。資料づくりについては見やすく、わかりやすくを徹底して、わかりにくいところさらに改善するように努めたい。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>講義の内容についてはシラバスに沿って進めた。それについては学生から一定の評価を得たように感じる。今後はより興味を持てるように内容を工夫していきたい。薬剤師国家試験対策へ寄与する内容、演習問題に関してもアップデートしながら対応していきたい。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>自由記述コメントより資料に関する良い評価を得られた部分もあるが、授業資料などは極力文字を大きく、書き込みができるようにスペースを作るなど学習効果を上げられるように配慮した。また、なるべく事前に資料を配布することを心がけた。資料については自由記述にあるように効果的であったと感じるが、より一層の修正とアップデートを行いさらに改善に努めたい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>講義に対して十分に準備をして臨んだつもりであったが、逆に講義内容が多くなり説明や進め方が一部の学生にとっては少々早いと感じることがあったようで、次年度は講義における重要なポイントをより明確にして、端的にわかりやすく進めていけるように準備、実施したいと思う。さらに理解度を測るアンケートやテストを講義内に導入できればさらに学生への理解度に関するフィードバックが可能となると考える。一層の努力に務めたい。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 木1

科目名 生化学 I
 教員名 藤本 京子
 回答者数/履修者数 97/109

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>今年度の評価は平均値4.8であり、これまで以上に高評価だった。満足度が高い授業が行えたということは、学生の受講する姿勢が良かった結果だと認識している。授業は、常に双方向であり熱心に聞いている学生が多いほど、教える側にも熱が入り相乗効果が生じる。次年度以降も学生の興味を惹きつけるような内容に仕上げていきたいと思う。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>今年度から、授業で用いる配布資料を1-7回目、8-15回目の冊子にして配布することにした。毎度毎度、授業資料を配布する時間も省け、授業への導入がスムーズになった。また、前期に引き続き、復習の内容はランダムに指名して答えてもらう形式にした。そのため、授業の予習をする学生も増える結果につながったのだと思われる。指名されて答えがわからない場合は、周囲の学生の力を借りることも推奨しているため、楽しみながらも緊張感をもった授業を展開することができた。アクションプランシートに授業のまとめを提出してもらうようにした。その中にわからないところがあれば質問事項を記入してもらい、次の授業時に必ず返答するようにした。もしくは、ポートフォリオの掲示板を利用して、回答をした。まとめ方が上手い学生は、みんなが参考にできるように掲示板にアップロードし、まとめ方がわからない学生も参考にできるようにした。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>各項目について、平均値が4.7-4.8だったので、特に問題はないと考える。わからないところはわからない表情をするように伝えているので、引き続き次年度以降も、学生の顔をしっかりと見ながら授業の進め方を臨機応変に変えていこうと思う。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>各項目について平均値が4.8であり、特に問題はないと考える。今後、学生の表情をみながら一人ひとりに話しかけるように授業をすすめていきたいと考えている。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>毎年学生のカラーが違うので、その都度対応は変えているのだが、今年度の学生は熱心な学生が多かったように思われる。聞く姿勢が前向きな学生が多くいたので、授業もスムーズに進めることができ、試験前までに時間的に余裕ができた。一方、補習対象となる学生も一定数はおり、成績の二極化は明瞭化してきたとも感じられた。成績不振な学生が一人で取り残されないように、なるべく授業時において周りとの協調する取り組みを勧めていきたいと思う。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 火2

科目名 生物有機化学

教員名 山田 耕平

回答者数/履修者数 76/110

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>満足度は全体平均と同等の4.5となり、前回の4.6より減少した。向上策としては、有機化学だけでなく、一般的な勉強の仕方をしっかりと教えたい。もっと基礎を繰り返して満足度と成績がリンクするようにしたい。暗記と理解の両方のアプローチが重要であることを強調していきたい。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>授業の始めに前回の内容のテスト及び解説・その週にきた質問の回答を紹介したことが良かったと思う。さらに、一つの内容を教えるごとに、高校レベル、一年生レベルの基礎を順を追って説明したからと考えている。また、一つの内容を説明したら小問を解いて演習という形で講義を行ったので、集中力を切らさずに取り組むことができたのではないかと思う。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>Q3は4.4、Q4は4.6、Q5は4.4であった。昨年度は、Q3は4.5、Q4は4.6、Q5は4.5であったことから、全体としては減少したと考えられる。</p> <p>改善点としては、もう少し基礎からの流れを詳細に説明する資料を足していきたいと思う。有機化学はこれまでの学習内容の積み重ねがないと、新しい内容は全くわからないので、学習の穴を埋めるような資料を作成していくつもりである。2年生でも、高校の内容からやり直す必要がある</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>Q6:4.6, Q7:4.5, Q8:4.6, Q9:4.5 Q10:4.6, Q11:4.6と全体平均程度であり、昨年度 (Q6:4.6, Q7:4.7, Q8:4.6, Q9:4.6 Q10:4.6, Q11:4.5) と比較しても同等程度であると言える。一部の低評価の学生（おそらく私の講義に全くついていけない学生）に対してどのように対処できるかは、匿名のアンケートではいかんともしがたい。今後もこちらの熱意が伝わるように取り組んでいきたい。わからなかったら質問に来てくれればよいのだが、特定のやる気のある学生達だけが質問に来るので、そこが課題である。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>昨年度の生物有機化学のアンケートと比較して全体的に評価は微減したと思う。学生の学力が低下傾向にあるのが問題で、話してみると高校レベルの化学がまったく身につけていない。一方、最終ゴールである薬剤師国家試験の問題は年々難化しており、教える内容を簡単にするわけにもいかない（授業アンケートの評価を上げるにはそれが一番だが）。やはり、基礎を何度も振り返りながら学ぶべき内容を教えていく以外ない。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 火1

科目名 細胞生物学

教員名 石原 知明

回答者数/履修者数 94/105

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>6割弱の学生さんが満足度5を、4割弱の学生さんが満足度4をマークしており、全体的に高い満足度の授業を展開することができたと判断している。自由記入欄を見ても、苦手な生物が好きになった、説明がわかりやすかった、などと記入してくれた学生さんもあり、総合的に良い授業を提供することができたのではないだろうか。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>生物の授業では、とにかく暗記を強いられる学生さんが多いため、まずは原理・原則を解説し、なぜその現象が起こるのかを詳細に説明した。学生さんの態度を観察し、わかりにくそうに感じているような場合には、具体的な例などを用いて解説することを心がけた。また、生物に興味を持ってもらうために最新の研究や薬と紐付けた話を提供した。さらに、今年度からの新たな試みとして、論述問題を作成して授業中に実際に取り組んでもらった。これにより、学生さんがどこでつまづいているかを確認することができたと考えている。さらに、希望者には添削指導などを行い、わかりやすい文章の作成の仕方についてもレクチャーした。これらの試みが一定の満足度につながったものと考えている。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>9割程度の学生さんが5または4を選択していることから、内容については一定の水準に達していると思われる。2や3をつけた学生さんはいるものの、具体的にどこを改善すると良いかについてのコメントがなく、即効性のある対応策は難しい。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>ほとんどの学生さんが5または4を選択していることから、方法については一定の水準に達していると思われる。2や3をつけた学生さんはいるものの、具体的にどこを改善すると良いかについてのコメントがなく、即効性のある対応策は難しい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>ほとんどの学生さんが5または4を選択していることから、一定の水準の授業が展開できたものと考えている。今後も内容を精査し、より学生さんに「生物っておもしろい」と思ってもらえるような仕掛けを準備したい。来年度の試みとしては、より「薬」を意識させるために、今学んでいる知識がどのように薬の作用に貢献しているかについての話を増やしていきたい。また、今年度より始めた記述形式の課題については、次年度は毎回提出させるようにするだけでなく、毎回数件を添削して紹介する試みを始めたいと考えている。</p> <p>以前も記載したが、アンケートの実施の目的として、「アンケート結</p>

項目見出し	コメント
	<p>果から問題点を抽出し、それを改善する」、ということがあると思うが、このアンケートではその目的を達成することが困難である（どこが悪いのか、どこを改善することを期待されるかわからないため）。数字を選択するだけでなく、各項目にコメントをつけることを必須としてほしい。</p> <p>今回の履修者のほとんどが大教室の後方で授業を受けていた。授業中に課題を解いてもらっている際に教室内を見回ると授業に参加しているとは言い難い学生が後方に多かった。履修者が多いので大教室での開講になるのは仕方ない面があるが、来年度は後方の座席を撤去してできるだけ前方で授業を受講してもらえるような環境を整えたい。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 金1

科目名 物理学演習

教員名 榎本 彩乃

回答者数/履修者数 28/35

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>例年と比べ、比較的満足度は同程度ではあるものの、比較的高い評価を得られた。授業内容、補助資料ともに学生の学習に役に立てたのではないかと考えられる。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の上につながった授業の内容と方法</p>	<p>学生が苦手な分野に関しては、特に補助プリントを作成すること、また質問については一人の質問についても全員で共有することで、同じ疑問を抱えている潜在的な学生への理解につながったのではないかと思う。また、クラス共通課題では難しいと感じたものについては、簡単なプリントを作成し、問題に取り組むハードルを下げたことも学習意欲の向上につながったのではないかと思う。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>授業内容にあまり興味を持てなかった学生もいるため、今までよりもより、学生の実生活と結びつけた雑談、また薬剤師になった後にどのようなかかわるか等を絡めて興味をわくような話をできるように努める。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>話し方に難があるという評価のため、できるだけ学生の方を向いて話すようにするほか、話すことをすっきりとまとめられるように事前準備をより綿密に行う。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>授業自体には不満はあまりないようであり、理解していると思っている学生も多かったようであるが、試験の結果や答案から察するにしっかりと理解できていないところが多いように思う。そのため、わかった気にさせるのも重要ではあるが、実態が伴うよう、より課題の添削などを通じて学生の理解力を確認し、フィードバックを行う。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 木5

科目名 総合実習
 教員名 大久保 伸哉
 回答者数/履修者数 74/97

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>満足度の評価結果の平均値は4.9（昨年度4.8）であったことから、おおむねほとんどの学生の満足度は得られたのではないかと考えられる。しかしながら、3点評価の学生が2名：約2.7%（昨年度3.4%）いることを見逃してはならないと考えている。自由記述欄から3点を付けた学生の心情を推測しようと試みたが、好意的なコメントばかりで推測することが困難であった。そこであらためて、自分の授業を俯瞰的に評価してみたところ、私は学生の要領の良さや性格を一言二言の問答によって判別し、その学生に合うと思われる指導方法を意図的に選択し実施しているのだが、その判断基準として、性格よりも能力を重視する傾向がある。この指導方法でほとんどの場合問題なく指導できているが、もしその判断を誤ってしまった学生がいた場合は、その学生にとっては満足いく指導にならなかった可能性がある。今後、満足度の更なる向上（満点の5.0）を目指して、学生の資質を見極める際には、能力と性格の比重を学生によって変動させながら評価し、すべての学生にマッチした指導ができるよう精進していきたい。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>満足度は、昨年度平均4.8に対して今年度平均4.9であり、わずかに向上した。本実習は、OSCE対策に特化した実習であることから、例年、OSCEに合格するために積極的に実習に参加する学生がほとんどである。そういう意味では、本実習自体に学生の受講態度や学習意欲が良好になる要因があると思っている。そのため私は、その高いモチベーションを妨げないような実習を組み立て、実施するだけで良いと考えている。私が、学生の高いモチベーションを維持するために実施していることは、非常にシンプルなことだが、消耗品を切らさないことと応援すること、そして実習がスムーズにいくよう授業計画を熟考することである。とても容易でシンプルな方法だが、その効果は高い。実際に、自由記述欄には「実習のシステムがスムーズに行くよう考えられていて良いなと思いました。」という記載があった。今後も、同じような方法で本実習を実施していきたいと考えている。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>アンケート中の質問3-5に関して、3点をつけた学生がそれぞれの設問で約3-5%ずついる。昨年は、これらの質問に対して1点をつけた学生が1名いたが、今年は3点未満の学生はいなかった。結果的には昨年の反省が活きたと考えられるが、今後は4点未満の学生数0を目指したい。方策として、困った素振りや戸惑っている様子を見せた学生を決して見逃さず、発見したら積極的に声をかけ、適宜助言を行うようにしたい。そうすることで、1人でも多くの学生の理解が得られるのではないかと考えている。1名も見逃さないくらいの覚悟をもって、精進していきたい。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>アンケート中の質問6-11に関して、2点以下をつけた学生はいなかった。これは昨年度も同様である。今年度は、昨年度から継続して、各種説明事項は丁寧に分かりやすい説明になるよう意識しながら説明した。加えて、説明用資料のバージョンアップも行った。これらのことが、結果的に学生に“熱意”として伝わったのではないかと解釈している。毎年、少しでも変化を加えてバージョンアップを繰り返していけば、評価が大幅に下がることはないだろうと考えているし、それがここ3年度を通じた一定の成果につながっていると前向きにとらえている。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>大学教員就任4年度目および同授業の授業評価4回目としては、まずまずの評価であったのではないかと感じている。それと同時に、4年間を通して評価が悪くなかったことから、本実習を実施する上で必要不可欠な教員の資質（態度）としては、現状の私の振る舞いは問題ない</p>

項目見出し	コメント
	<p>と考えられ、現状を維持していくことが重要であると考えている。一昨年度から継続し『次年度は、本年度の評価を下回ることがないように、作成済みの講義資料（実習で使う配布資料）のアップデートを行い、説明する際に用いるセリフを磨き、理路整然とした分かりやすく熱意のこもった実習を実施することを目標とする。』という内容の目標を掲げてきた。個人的には、目標に定めた事項を本年度はおおむね実行できたのではないかと考えている。次年度も同様のことを意識しながら、わかりやすい授業になるよう心掛けていきたい。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 月4

科目名 生化学実習

教員名 倉岡 卓也

回答者数/履修者数 47/94

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>大部分が満足と回答しており、例年通りの結果となった。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>担当した実験の目的や到達目標を明確に説明し、受講者に理解してもらうように努めた。また、今後の実習の理解に繋がるように各実験操作の意味や注意点を説明した。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>実習内容に興味が無いと回答している学生が1名いた。薬学生として興味が無くても理解すべき内容であることを丁寧に説明するように努める。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>Q9に対してあまり良くないと回答した学生が1名いるため、次年度は分かりやすく伝わるような板書等を心がけたい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>回答率50%であるが、多くの学生が実習内容を理解してくれたようで安心した。1名理解できていなかった学生がいるようなので、全ての学生に理解してもらえるように今後努めたい。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 火2

科目名 臨床薬物代謝学

教員名 川崎 達也

回答者数/履修者数 104/122

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>アンケートQ13の平均値は、4.3→4.4→4.2と推移し例年と同程度であった。なお、さらに満足度を上げるべく、本アンケートの自由記述についてmanabaにて全てのコメントに返信を行い意見募集アンケートを実施している。その結果、本アンケート自由記述の「集中力が保てない」「かく字がガタガタでよく見えない」という意見に対し、manabaアンケートでは「集中力は学生個人の問題(興味など)なので、先生が気にすることではないと私は感じました。」「私は読めました。他の講義でもガタガタしている先生が2人ほどいました。川崎先生だけではないので、新しく何かを導入するほど気にしなくていいと思います。」と記述があるなど、学生間で満足度の感じ方に差がある。よって、次年度は大きな変更はせず、経過を観察する。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>毎回の小テストに講義に関する自由記述欄を設け双方向性の講義を行った点、学生から語呂合わせを募集し復習長期記憶形成の機会を提供した点、他科目との関連性、丸暗記ではなく理解の重要性、薬剤師業務との関わりを提示した点が挙げられる。本科目は2023年度後期授業公開対象となり、教員からも一定の評価を得た。以下、後期授業公開アンケートより「アンケート結果の総括」欄を転載する。 川崎達也先生の話し方は、親しみやすい言葉遣いで、話すスピードやトーンが適切で聞きやすかった。公式を使った計算などが多い難しい内容を、様々な工夫を取り入れて丁寧に説明されており、熱意を感じる分りやすい講義を展開されていた。とくに「お便り返信コーナー」では、学生に自分で考え、学生間で共有することで、学生の授業への参加を促していた。また、他の科目との関連も言及されている点も参考になった。双方性授業としても参考になる工夫が多い授業であった。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>平均4点台であるものの、全体平均に比べ低く、昨年より悪化した。以上の結果は、学生間で評価基準が異なり参考にしてよいのか疑問である。例えば、Q4「シラバスと授業内容に整合性はありましたか」に、2または1を付けた学生が合計2名いるが、シラバス通り実施しており失当である。3と回答したものが11名おり、他科目に比べ平均点が低い主要因と考えられるが、何を以て3が多いのかわからず本アンケート結果をどう活用してよいのか判断に苦しむ。次年度は、評価基準を学生に通知した上でアンケートを実施していただき、その結果を他科目と比較することを望むが、いかがか。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>平均4点台であるものの、全体平均に比べ低く、昨年より悪化した。本アンケート結果を受け、学生に別途manabaでアンケートを実施したところ、Q8,9に関する項目では、改善希望と現状維持希望の意見が割れており、改善を希望すると回答したが実際には現状で十分と記述した学生もいた。よって、次年度は大きな変更はせず、経過を観察する。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>改善が真に必要な疑問に感じたため、アンケート結果公開と共にmanabaにて定期試験の結果をフィードバックし、授業評価アンケート自由記述欄の全てのコメントに対して返信し、さらに授業改善に関するアンケートを実施中である。現在21名が提出し、Q1.「(4年次薬動学は)講義の進め方は臨床薬物代謝学と同じがよいですか?」に対してはい16名、いいえ5名である。また、Q2.自由記述欄では、合計13件、講義の引き続き同様に講義を行って欲しい点やその理由、改善</p>

項目見出し	コメント
	<p>の提案を得た。その結果、（少なくともアンケートに回答するような意欲的な学生集団では）本授業評価アンケートの自由記述欄では否定的な意見が多いが、実際には資料、動画、ゴロ募集の取り組みなどが評価されており現状維持を望む学生が多いこと、改善を希望としたものの現状維持でも十分と評価する学生がいること、改善を希望する点については学生間で意見が割れていることが可視化された。</p> <p>例) 語呂合わせの収集について、続けて欲しい（復習の習慣ができるため/ユニークで覚えやすいなど） vs. 廃止して欲しい（語呂を考えるよりも理解に時間を掛けたい/廃止してもよい）</p> <p>また、複数の教員から担任学生の感想を教えていただいたが、同様に評価・意見が割れていた。授業評価アンケート（否定的な要素多数）とmanabaアンケート結果（現状維持派多数、比較的高評価）で印象が大きく異なり、授業評価アンケート結果の活用に難しさを感じる。</p> <p>引き続き、担当講義では毎回講義に対する自由記述欄を設け、学生に授業改善の機会を提供する。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 木1

科目名 病院薬学

教員名 末廣 真理恵

回答者数/履修者数 65/107

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>授業に参加した満足度として平均4.6という高い値を得ることができた。不満足と答えた学生はいなかったが、5段階で3や4を選んだ学生も存在するため、引き続き内容や授業方法の改善を行い、全員が満足してもらえるよう努力していきたい。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>今年度は、毎回の講義の中で国家試験の過去問なども紹介しながら、授業の内容と国家試験、そして薬剤師業務の繋がりを重視した講義を心掛けた。このことが、学生の満足度の向上につながったと考えている。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>授業の内容については平均4.5以上の概ね高評価であった。今後も、変化する国家試験の動向や、新たな薬剤師業務についても盛り込んでいきたい。この科目が開講される3年生はまだまだ基礎科目も多く、モチベーションが低下している学生も多いため、全体的な学習意欲の向上にもつながるような科目の内容にしていきたい。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>今後も学生が勉強しやすい配布資料の準備や、授業中の遅刻や私語に対する注意喚起、授業参加を促す工夫などを継続していきたい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>授業スライドや内容など、毎年少しずつ見直しているが、今回高評価を得られたことで、今後も同様に見直しや改善を行っていきこうというモチベーションの向上に繋がった。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 金2

科目名 毒性学
 教員名 相田 美和
 回答者数/履修者数 79/107

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>Q13 →4.3 (R3) →4.5 (R4) →4.6 (R5) 昨年度に引き続き、少し上昇した。 学んだ知識を社会の中でどう活かすのかを例示しながら授業を進めていき、更に学習意欲を伸ばしたい。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>Q2授業態度は昨年と同じであったが、Q1準備学習は3.4から3.7に上がった。確認問題の配布を通して、復習を中心に自己学習しやすい環境をつくる。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>Q3 4.3 (R3) →4.5 (R4) →4.6 (R5) Q4 4.4 (R3) →4.6 (R4) →4.6 (R5) Q5 4.3 (R3) →4.5 (R4) →4.6 (R5) Q5の向上策として、その時々ニュース等と関連付けて授業する。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>Q6 4.4 (R3) →4.5 (R4) →4.5 (R5) Q7 4.4 (R3) →4.5 (R4) →4.6 (R5) Q8 4.4 (R3) →4.6 (R4) →4.6 (R5) Q9 4.4 (R3) →4.5 (R4) →4.6 (R5) Q10 4.3 (R3) →4.4 (R4) →4.6 (R5) Q11 4.3 (R3) →4.5 (R4) →4.5 (R5) Q11の向上策として、授業中の問題解説の際に、学生が考える時間を設ける。時間が押すので、問題を示してすぐに解説を始めてしまいがちである。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>授業内容は特に難しくもなく進度もそれほど速くなく、学生が勉強するかが試験成績を左右していると認識していた。今回のアンケートで、少数派かもしれないが学生の中には難しいとか速いとか感じる人もいるのが分かった。基礎科目で苦手な領域があっても理解できるように心がけたい。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 火3

科目名 臨床検査学

教員名 高崎 伸也

回答者数/履修者数 96/109

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>今回の講義では、今まで重視していたことを同様に言い、完成度を高めることを目指した。結果、最近の講義の中の値で良い4.6と十分に満足できる結果となった。本大学に赴任してから取り組んでいる学生からの参加を促す双方向の講義スタイルおよび、意見を述べさせること、皆の前でよい意見を取り上げ褒める事としている。これは、講義を単調とはしないため集中力を切らさない事にも寄与していると考えている。これらにより最近の講義で得られている値とほぼ同様の4.6と十分に満足できる結果となった。今回の講義でよかった点は維持しながら、完成度をより高め、さらなる向上を目指したいと考える。今までの基礎があまり見についていない一部の学生にとっては授業内容の量が多いことが不満となっているが、国家試験に必要な力を身に着けるためには減らすことはできないと考えており、学生が納得できる方法を考えたいと思う。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>双方向の講義スタイル、タイミングを見計らった息抜き、視覚的にうったえかける分かりやすい資料作りなど、学習の意欲や集中力の持続の向上を目指し、3つのことを柱として取り組んでいる事が良い評価につながっていると考えられる。また、学生の集中力を切らさぬように、学生の顔を見ながら、タイミングを見計らい、ちょっとした笑いを盛り込み、息抜きを行っている。学生のコメントにもあるように、これにより学生の集中力の持続につながったと考えられる。図や表を多く使用し、視覚から分かりやすい資料を心掛けている。このために資料が多くなるのはやむを得ないと考えている。また、講義についていくのが大変な学生向けに、復習用の動画資料を渡したのもよかったと思う。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>Q3-5は、いつもと同様、全部4.6-4.7と高評価であった。さらなる高水準を目指したいと思う。 Q1,2の授業の準備についての項目が、前回と同様、3点台もあり高得点とはならなかった。ただ、無理に宿題などで復習させることは学生の負担増につながると考えられ難しい。最終的には、妥当な難易度の試験問題が解けることができている、問題ないとも考えている。簡単な前回の講義に関する復習の課題を毎講義出しているが、評価の対象としていないためか、それだけでは不十分であるように思われる。ただ、この質問の回答の正解率は高いので、ある程度は授業の内容が残っていたり復習を行っていたりすると思われる。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>このQ6-11では、4.6以上のみでいずれもかなりよかったと思う。高評価の部分は現状を維持しながら、さらなる改善を行っていきたいと考える。資料が多い事に対して受講生が納得できるよう説明をしたいと考える。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>アンケート結果は最近4.6程度と十分に高評価で落ち着いており、現状のスタイルでよいと考えている。主に行っている3つのこと、つまり、学習の意欲の向上や集中力の持続が良いスタイルになっており、評価につながっていると考えられ満足している。また、定期試験は国家試験を意識した十分な難易度高い問題としているが正答率も高く良いと思う。そのため、大きな変化ではなく完成度を高めることで、さらなる向上を目指したいと考える。自由記述の結果や、今回の結果</p>

項目見出し	コメント
	では表れていないようだが、おそらく学生にとっては、量や内容、試験スタイル(過去問非公開)をハードルが高い面もあると受け取る学生もいると思われるが、それが学生にとって必要なことであることを伝える努力をよりしていこうと思う。

アクションプランシート

2023年度後期 月4

科目名 コンピュータ基礎演習 I B

教員名 松下 博昭

回答者数/履修者数 98/103

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>学生の満足度は前回と同様に高い満足度であった。さらに自由記述に書かれている意見を参考に授業方法を改善し、満足度の向上に繋げたい。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>学生が積極的に質問できるように声をかけをし、学生の質問にはできる限り回答した。高い評価であった。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>Q3 授業は資料を配布し進める形式で実施した。またコンピュータの授業は演習を中心に実施した。学生の状況をよく見極めて、授業を進めるように改善した。 Q4 シラバスに沿って授業を実施した。 Q5 授業に関連した演習問題を盛り込んで、学生が興味を持てる内容にした。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>Q6 授業では話し方をより明瞭なものにし、マイクの音量を調節して話をするように改善した。 Q7 今後も、より熱意をもって授業したい。 Q8 授業では資料を配布した。配布資料は適切な文字の大きさと印刷するように改善する。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>授業評価は、全体的に高い評価であった。授業評価アンケートの自由記述には、良い点と悪い点についての感想が書かれており、自分では気がつかなかったところに気づけた。またエクセルをあまり使用したことがない人もいることが明らかになった。さらに、授業評価アンケートを参考に授業の内容を改善し、授業の評価を向上させたい。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 月4

科目名 薬理学IV (中枢)

教員名 縄田 陽子

回答者数/履修者数 84/114

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>同学年において前期実施の科目アンケートから後期の科目では配布資料の見やすさなどを工夫したため、高い評価が得られたと思われる。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>定期的な復習問題の配付により、学生にとって、学習ポイントの理解につながった。また、講義内容に関連する新聞記事を配布し、レポートを課したが、このレポートが医療人としての責任を実感させる良い機会となったと思われる。その結果、学習意欲の向上へとつながったと感じている。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>1名、シラバスと授業内容の整合性がないと回答していたことから、次年度よりシラバスに準じて実施する。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>授業方法では大半3以上の評価が得られた。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>今年度は最終講義の際に学生がまとめる形式の薬物一覧表を配布した。この表を定期試験前に使用した学生が多かったが、その分、学習効率は上がったように思う。次年度以降も復習問題やまとめ表の配布を継続したいと思う。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 金1

科目名 物理学演習

教員名 吉田 達貞

回答者数/履修者数 26/30

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>Q13: 4.4 (2020) → 4.8 (2021) → 4.7 (2022) → 4.7 (2023) 本演習科目を開講して2年目以降、満足度は比較的良好な状態を維持できております。自由記述コメントから、一人一人の受講生に対して補習や質疑応答における丁寧な対応を引き続き心がけて参ります。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>Q1: 4.0 (2020) → 4.1 (2021) → 4.2 (2022) → 4.7 (2023) Q2: 4.3 (2020) → 4.5 (2021) → 4.1 (2022) → 4.3 (2023) 受講生からの要望に応じて、本年度は授業内で扱った全ての演習問題をCAI上に登録し、自学習ツールとして供しました。次年度以降もポートフォリオを通じて随時要望を吸い上げ、可能な範囲で対応して参ります。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>Q3: 4.5 (2020) → 4.9 (2021) → 4.6 (2022) → 4.8 (2023) Q4: 4.5 (2020) → 4.8 (2021) → 4.8 (2022) → 4.8 (2023) Q5: 4.2 (2020) → 4.7 (2021) → 4.4 (2022) → 4.5 (2023) 概ね問題ないと思われまので、これまで講じてきた改善策を継続して参ります。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>Q6: 4.6 (2020) → 4.8 (2021) → 4.7 (2022) → 4.8 (2023) Q7: 4.7 (2020) → 4.9 (2021) → 4.7 (2022) → 4.7 (2023) Q8: 4.7 (2020) → 5.0 (2021) → 4.8 (2022) → 4.8 (2023) Q9: 4.7 (2020) → 4.9 (2021) → 4.7 (2022) → 4.8 (2023) Q10: 4.7 (2020) → 4.8 (2021) → 4.7 (2022) → 4.7 (2023) Q11: 4.5 (2020) → 4.7 (2021) → 4.6 (2022) → 4.7 (2023) 概ね問題ないと思われま。授業中に学生を指名して解答させる、良い質問をした場合には褒める等により主体的な授業参加の環境作りを意識して参ります。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>Q12: 4.2 (2020) → 4.5 (2021) → 4.2 (2022) → 4.4 (2023) Q12の理解度が全体平均の評価と同程度であり、改善が必要な項目と認識しております。取り扱う演習問題数の増加や難化を希望する成績上位者と、高校時に物理未選択の成績不振者との間の乖離を調節することが難しく感じております。今年度は本科目を開講して以来初めて受講者全員の単位取得が実現しましたが、授業への出席や課題の提出等の基本事項は授業内容以前に私生活面での問題による外的影響も大きいと思われま。小クラス制の利点を活かし、成績不振者との個別面談・指導、試験前の補習等を継続することで、成績不振者へのフォローアップをまずは優先して参りたいと思ひます。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 木5

科目名 総合実習
 教員名 中島 健輔
 回答者数/履修者数 110/111

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>概ね、高評価であった。以前と比べても低下することはなく評価は向上しているものと思われる。今後も同様に高評価が得られるよう実施していきたい。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>OSCE合格に向けて、安心させないようある程度危機感を持たせて実習に望ませた。油断して不合格になる学生がでないよう、しっかりと指導した。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>OSCE合格に向けて無駄のない実習を心掛けた。合格への知識を十分教えられたことが全員合格につながったものと思われる。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>実習期間中にOSCE合格できるだけの練習をしっかりとさせることが出来た。次年度も継続していきたい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>以前、随時試験の順番の決め方が不公平というアンケート結果があったので、それを改善した。今回の自由記述にてその点が評価されていた。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 月1

科目名 機器分析学

教員名 中村 沙織

回答者数/履修者数 88/106

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>満足度は4.1→4.3→4.2→4.3→4.1→4.1→4.4→4.5→4.6→4.5と推移している。今年度も評価を維持できて安心している。講義内容を振り返り、足りなかった点を補いつつさらに向上させていきたい。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>講義の内容構成や配布プリントを毎年改善している。資料に加え要所で板書を用いて説明しているが、今年度は遠隔受講者がいたため、板書を少なめにし、直接スライドに書き込むよう心掛けた。穴埋め式にしているため、講義を聴きながら書き込むことで重要事項がどこかわかりやすく、また飽きさせにくくしている。 講義ごとにrespon等で質問や感想を募っているが、今年度はコメントが少なかった。また、復習用の問題を配布しており、学ぶべき要点を示していることで復習の一助になっていると感じる。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>Q3～Q5は例年4.2前後で推移していたが、一昨年度から4.4～4.6を維持している。 今年度も2以下を回答した学生がほぼいなかったため、ある程度の講義の構成や講義内容に興味を持てるような例示がまとまってきたと感じる。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>Q6～Q11はここ数年4.5以上の評価を得ており、今年度も維持できている。 講義内容が多いため毎年早口を指摘されるが、今回は遠隔対応であることを意識して講義を行った結果、早口を指摘されることはなかった。 さらに、重要事項は何度か繰り返して強調する等の工夫を行った。配布資料に指摘があったので、次年度はさらに見やすさを心掛けて改善させたい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>今年度も一部遠隔対応のため板書等PC画面内で行った。録画もするので学生にとっては見やすいのかもしれないが、講義室内の様子がわかりづらいので、少し方法を模索していきたいと感じた。配布資料も概ね好評であるが、一部かえって見づらいとの指摘もあるので、改善を検討したい。</p>

アクションプランシート

2023年度後期 月4

科目名 コンピュータ基礎演習ⅠB

教員名 福森 良

回答者数/履修者数 72/103

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>授業に対する満足度は4.8であり、良好な満足度が得られていると思う。引き続き高い満足度が維持できるように授業内容の見直しを行いたい。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>コンピューター演習ⅠBは演習型の講義となっている。自分自身で積極的に課題に取り組みアクティブラーニングをいかすことが出来ている。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3～Q5 スポーツ実習 Q2～Q5 教養セミナー Q2～Q3</p>	<p>授業の内容についても、良好な点数が得られていた。課題内容のアップデートを行い、内容もそのつど見直していきたい。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6～Q11 スポーツ実習 Q6～Q9 教養セミナー Q4～Q7</p>	<p>Q6-Q11についても、良好な点数が得られていた。演習型の講義であり、周りとの相談も講義のために必要なファクターであるが、私語を減らすように改善したい。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>全体的に良好なアンケート結果であったと思う。課題内容のアップデートを含めてさらに改善していきたい</p>

アクションプランシート

2023年度後期 月その他

科目名 専門演習Ⅰ
 教員名 大神 正次
 回答者数/履修者数 102/111

項目見出し	コメント
<p>(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策</p> <p>▽該当質問 一般 Q13 スポーツ実習 Q10 教養セミナー Q10</p>	<p>満足度は4.5ptで全体平均とほぼ同程度の数値であった。前年度(R4総合演習Ⅰ; 4.2pt)と比較すると、+0.3pt改善された。専門演習Ⅰはオムニバス形式の演習であり、かつ前期に実施していない内容の範囲であったため、忘れていた内容が多く良い復習の機会になったようである。自由記述回答を見ると演習時間90分に対して、問題量がやや多すぎたようであったため、次年度以降は問題量や時間配分を調整したい。</p>
<p>(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法</p>	<p>1-2年次で学習する基礎科目であり、暗記すべき事項も多いため、今回の演習がCBT対策の良い復習の機会になったようである。問題をプリント配布し、解答解説は演習後manabaでPDFファイルにて配布した。事前に解答解説を配布してしまうと、安心してしまい演習中の説明を聞かない学生が少なからず出てしまうため、演習後に配布するようにしている。自由記述回答のコメントには「分かりやすかった」等の肯定的なものも多く、今後も現在の資料を基により改良を重ねていきたい。</p>
<p>(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q3~Q5 スポーツ実習 Q2~Q5 教養セミナー Q2~Q3</p>	<p>時間配分を改善して欲しいとのコメントがあり、演習で用いる問題数や解説する時間を調整したい。今回は通常2回分の演習内容を1回に詰め込み、かつ本授業アンケートを実施するために10分ほど時間が短くなってしまったことも一因であると思われる。配布資料だけでなく、manabaやRespon、CAIなどを活用して演習時間外での予習復習を促すような指導を心掛けたい。</p>
<p>(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策</p> <p>▽該当質問 一般 Q6~Q11 スポーツ実習 Q6~Q9 教養セミナー Q4~Q7</p>	<p>すべて4.5pt以上の高評価であり、前年度よりも改善された。今後も引き続き、より分かりやすい説明や資料作成を心掛ける。</p>
<p>(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感</p>	<p>理解度および満足度ともに全体平均とほぼ同程度であり、前年度より+0.3ptほど改善されたことは良かった。総合演習はオムニバス科目で、内容も学年も異なるため経年比較は困難であるが、昨年度(R4)後期はmanabaの小テスト(ドリル機能)を用いてみたところ、一部の学生にとっては「問題が多すぎた」ことなどが理解度や満足度が低下することとなった。今回は一昨年度と同様の方法に戻し、評価も改善された。これに懲りず、manaba等で学生からのコメントや要望を確認しながら常に新しい手法を試みて、学生の満足度と理解度をともに高めるような方法を模索していきたい。</p>